プロファイル管理 2311

プロファイル管理は、Citrix Virtual Appsサーバー、Citrix Virtual Desktops™で作成された仮想デスクトップ、および物理デスクトップ向けのプロファイルソリューションとして使用されます。プロファイルを管理する各コンピューターにプロファイル管理をインストールします。

Active Directoryグループポリシーオブジェクトを使用すると、Citrix®ユーザープロファイルの動作を制御できます。多くの設定を調整できますが、一般的には、これらのトピックで説明されているように、一部のみ設定すれば十分です。

展開に適した適切なポリシー選択セットを選ぶ最善の方法は、構成を決定する記事の質問に答えることです。

プロファイル管理の利用権はEULAに記載されています。

これらのトピックで使用されている用語については、用語集を参照してください。

新機能

修正された問題

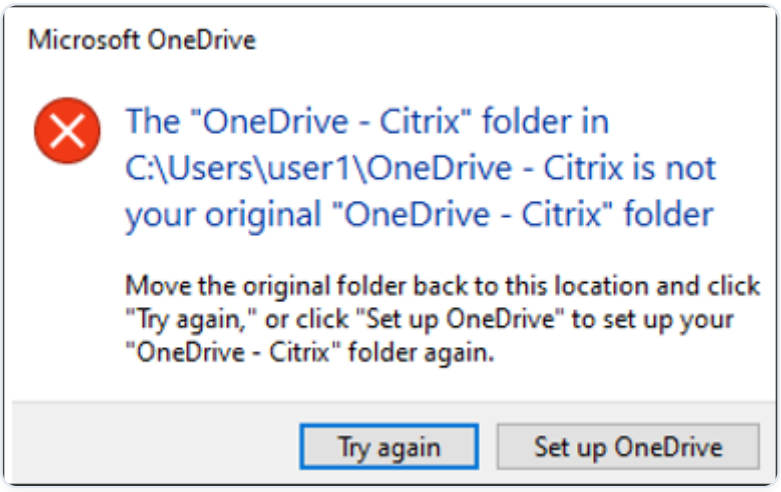
Profile Management 2311 には、Profile Management 2305 LTSR と比較して、以下の修正された問題が含まれています。

- **ログオン除外チェック**ポリシーが期待どおりに機能しない場合があります。
- ユーザーセッションの読み込み中に、ログオン時間が長くなることがあります。
- DFS名前空間パスをCitrix Profile Managementストアパスとして使用すると、プロファイルコンテナがVDAにアタッチできない場合があります。その結果、ユーザープロファイルが利用できなくなります。
- **プロファイルストリーミング**ポリシーが有効になっている場合、ユーザー ストアからのプロファイルファイルへのアクセスまたは取得が、次のエラーメッセージで失敗する場合があります。`The file can’t be accessed by the system.`
- **フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする**ポリシーを有効にし、**プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ**ポリシーを使用してユーザープロファイルへの相対パスを構成した後、これらの相対パス下のファイルが正常なログオン後に期待どおりに機能しない場合があります。
- VDAをバージョン1912 LTSR CU8にアップグレードした後、ユーザープロファイルがストアからロードできない場合があります。代わりに、ユーザーにはローカルプロファイルが提供されます。
- VDAでupmjit.sysに致命的な例外が発生し、ブルースクリーンが表示される場合があります。

既知の問題

- 最新のWindows 11アップデートにより、Profile Managementがユーザーレベルの検索インデックスデータベースファイルの作成に失敗します。この問題は、Outlookコンテナの適切な機能に影響を与えています。
- フルプロファイルコンテナまたはOneDriveコンテナが有効になっている場合、ユーザーがマシンにログオンすると次のメッセージが表示されます。
    - ユーザーはコンテナが有効になる前からOneDriveフォルダーを使用しており、

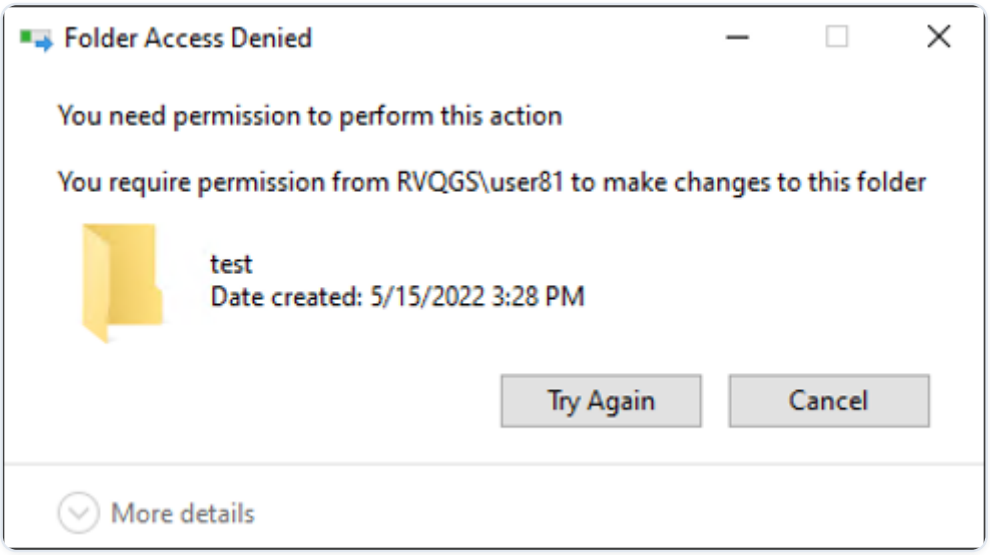
- コンテナが有効になった後、ユーザーがマシンにログオンするのはこれが初めてです。



この問題を解決するには、**再試行**をクリックします。その後、OneDriveフォルダーはコンテナに正常に移行されます。

- ユーザーがフォルダーをゴミ箱に移動すると、次の状況で「フォルダーアクセス拒否」というメッセージが表示されます。

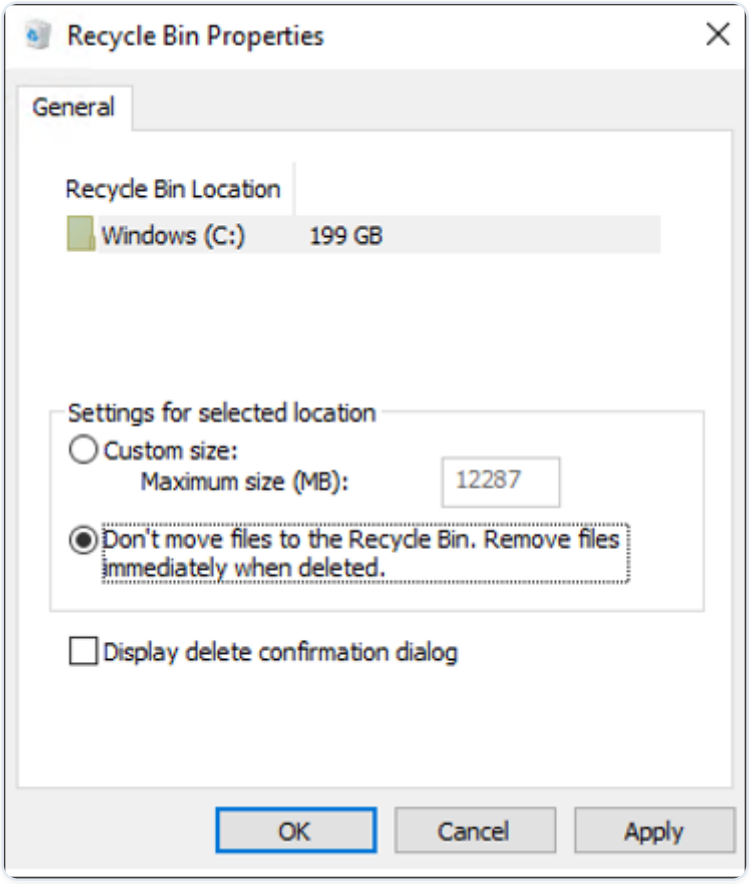
  - 部分プロファイルコンテナまたはOneDriveコンテナが有効になっている場合、ユーザーはいずれかのコンテナからフォルダーを削除しようとします。
  - フルプロファイルコンテナが有効になっている場合、ユーザーはユーザープロファイルフォルダーにはないがプロファイルと同じディスク上にあるフォルダーを削除しようとします。



この問題を回避するには、代わりに完全削除を実行します。

  - フォルダーを選択し、**Shift + Delete**を押して完全に削除します。

- **ごみ箱のプロパティ**を**ファイルをゴミ箱に移動しないで、削除と同時にファイルを消去する。**に設定します。



- スタートメニューの一部のセクションが読み込まれない場合があります。この問題を回避するには、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

サードパーティ通知

Profile Management の現在のリリースには、以下のドキュメントに定義されている条件に基づいてライセンス供与されたサードパーティ製ソフトウェアが含まれている場合があります。

Profile Management サードパーティ通知

クイックスタートガイド

この記事では、Profile Management のインストールと構成に関するクイックリファレンスを提供します。

前提条件

すべてのシステム要件が満たされていることを確認します。詳細については、「システム要件」を参照してください。

Profile Management のインストール

Profile Management は、Virtual Delivery Agent (VDA) のインストールに含まれています。VDA の場合、Profile Management をインストールまたはアップグレードするには、VDA ソフトウェアをインストールまたはアップグレードするだけです。

Profile Management の展開は、.msi ファイルと、.adm または .admx ファイルのいずれかをインストールすることで構成されます。ファイルをインストールするには、「インストールとセットアップ」の手順に従ってください。

> **注：**
>
> 潜在的な競合を避けるため、Citrix Profile Management プロセス (`%ProgramFiles%\Citrix\User Profile Manager\UserProfileManager.exe`) をウイルス対策ソフトウェアの除外リストに追加してください。詳細については、「Citrix Antivirus Best Practices」を参照してください。

Profile Management をどこで一元的に構成するかを決定する

Profile Management を一元的に構成する方法は3つあります。以下からいずれか1つを選択してください。

- Active Directory で GPO を使用する
- Citrix Studio でポリシーを使用する

- ワークスペース エンバイロメント マネジメント™ (WEM) を使用する

  Active Directory で GPO を使用して Profile Management を構成する手順については、Knowledge Center の記事「CTX222893」を参照してください。

  Citrix Studioでポリシーを使用してProfile Managementを構成する手順については、Knowledge Centerの記事CTX222893を参照してください。

  WEMを使用してProfile Managementを構成する手順については、Knowledge Centerの記事CTX229258を参照してください。

Profile Managementを構成する

基本設定を構成する

1. ユーザー ストアを作成する

   ファイル共有の作成やフォルダー権限の設定など、安全なユーザー ストアを作成するための推奨事項は、Microsoftの記事Deploying Roaming User Profilesで入手できます。これらの最小限の推奨事項は、基本的な操作において高いレベルのセキュリティを確保します。

2. ユーザー ストアへのパスを指定する
3. Profile Managementを有効にする
4. 基本設定を確認する

   基本設定を確認するには、次の手順を実行します。

   a. Citrix Studioで、**Enable logging**、**Logon**、および**Logoff**ポリシーを**Enabled**に設定します。

   b. VDAにログオンし、`gpupdate /force`を管理者として実行します。

   c. VDAからログオフし、再度ログオンします。

   d. デフォルトのログファイルパス`C:\Windows\System32\Logfiles\UserProfileManager`に移動し、`pm.log`ファイルを開いてログオンイベントを探し、次のメッセージが存在することを確認します。

   ```
   Starting logon processing…

   Finished logon processing successfully in [s]:
   ```

Profile Managementの構成を計画する

1. Profile Managementの展開を計画するには(/ja-jp/profile-management/2311/plan.html)、環境とユーザーに適した構成を形成する一連のポリシー設定を決定します。User profilesの**自動構成**機能は、Citrix Virtual Apps and Desktopsの展開における意思決定の一部を簡素化します。

   展開に推奨されるアプローチを決定するには、環境に関する以下の基本的な質問に答えてください。

   - パイロットまたは本番(/ja-jp/profile-management/2311/plan/pilot-or-production.html)
   - プロファイルの移行または作成(/ja-jp/profile-management/2311/plan/new-or-existing.html)
   - 永続的またはプロビジョニング済み、専用または共有(/ja-jp/profile-management/2311/plan/upm-plan-decide-4a.html)
   - モバイルまたは静的(/ja-jp/profile-management/2311/plan/mobile-or-static.html)
   - 使用中のアプリケーション(/ja-jp/profile-management/2311/plan/applications-to-profile.html)

2. それに応じてProfile Managementを構成するには、以下を実行します。

   - ユーザープロファイルをストリームする。詳細については、ユーザープロファイルのストリーミングを参照してください。
   - アクティブライトバックを有効にする。詳細については、アクティブライトバックの構成を参照してください。
   - 強制プロファイルを指定する。詳細については、テンプレートまたは強制プロファイルの指定を参照してください。
   - 除外を構成する。詳細については、項目の包含と除外を参照してください。
   - フォルダーリダイレクトを構成する。詳細については、フォルダーリダイレクトの構成を参照してください。
   - アプリケーションを構成する。詳細については、ネイティブOutlook検索エクスペリエンスの有効化を参照してください。

3. Profile Managementの設定を確認します。

   a. この記事で前述したように、基本設定を確認します。

   b. `pm_configure.log` ファイルでポリシー設定を確認します。次のメッセージが存在することを確認します。

```
Configuration value read from Policy: LoggingEnabled=

Configuration value read from INI file: CEIPEnabled=

Configuration value PSAlwaysCache set neither in policy nor in INI
file. Defaulting to:
```

トラブルシューティング

詳細については、トラブルシューティングを参照してください。

Profile Management の仕組み

Profile Management は、同じユーザーによる同時ドメインログオンがプロファイルに複雑さと一貫性の問題を引き起こす環境において、ユーザープロファイルの欠点を解決します。たとえば、ユーザーがローミングプロファイルに基づいて2つの異なる仮想リソースへのセッションを開始した場合、最後に終了したセッションのプロファイルが、最初のセッションのプロファイルを上書きします。「last write wins」として知られるこの問題は、ユーザーが最初のセッションで行ったパーソナライズ設定をすべて破棄します。

各リソースサイロに個別のプロファイルを使用することで、この問題に対処できます。しかし、このアプローチでは、管理オーバーヘッドとストレージ容量の要件が増加します。もう1つの欠点は、ユーザーがアクセスするリソースサイロによって異なる設定を経験することです。

Profile Management は、簡単かつ信頼性の高い方法でプロファイルを最適化します。中間段階およびログオフ時に、レジストリの変更とプロファイル内のファイルおよびフォルダーは、各ユーザーのユーザーストアに保存されます。一般的ですが、ファイルが存在する場合、タイムスタンプが古い場合は上書きされます。

ログオン時に、ユーザーのレジストリエントリとファイルはユーザーストアからコピーされます。ローカルにキャッシュされたプロファイルが存在する場合、2つのセットは同期されます。その結果、すべてのアプリケーションとサイロのすべての設定がセッション中に利用可能になります。また、各サイロに個別のユーザープロファイルを維持する必要もなくなります。Citrix® ストリーミングユーザープロファイルは、ログオン時間をさらに向上させることができます。

Profile Management は、ネットワーク障害を経験するモバイルユーザー（オフラインプロファイル機能が構成されている場合）および異なるオペレーティングシステムからリソースにアクセスするユーザー（クロスプラットフォーム設定機能が構成されている場合）のアプリケーション設定を保護するのに役立ちます。

注：Profile Management は、ローカルアカウントではなくドメインユーザーログオンを処理します。

ネットワークベースのプロファイルが使用されている場合は、組織で Profile Management の採用を検討してください。強制プロファイルやローミングプロファイルなどの他のソリューションを実装し、Microsoft Windows の標準的な知識でそれらを維持することもできるかもしれません。ただし、展開が制限されている場合（たとえば、ユーザーのカスタマイズが制限されているため強

制プロファイルが適切なコールセンターなど）を除き、Profile Management が推奨される場合があります。

Citrix は、ユーザー固有のデータがプロファイルとは別に保存されるように、フォルダーリダイレクトを使用することを推奨します。

ホームフォルダーとテンプレートのパスは、ネットワークの場所のみで構成する必要があります。

プロファイルについて

プロファイルの割り当て

Windowsでユーザーにプロファイルを割り当てるには、どのような方法がありますか?

この記事は、Citrix Profile Managementではなく、Microsoft Windowsにおけるプロファイルの割り当てについて説明しています。

ユーザーにプロファイルを割り当てるには、いくつかの方法があります。

- Active Directory (AD) のユーザーアカウントプロパティを使用する
- グループポリシー (GP) を使用する
- 上記の方法を使用して、Remote Desktop Services (旧称 Terminal Services) セッションに固有のプロファイルを割り当てる

これらの方法の一部は、特定のオペレーティングシステムでのみ利用可能です。

- **Remote Desktop Services**。Windows Server 2008 R2でRemote Desktop Servicesプロファイルを割り当てるには、GPO設定「Set path for Remote Desktop Services Roaming User Profile」を使用します。これは、「Computer Configuration\\Administrative Templates\\Windows Component\\Remote Desktop Services\\Remote Desktop Session Host\\Profiles」にあります。以前のマルチセッションオペレーティングシステムでは、「Computer Configuration\\Administrative Templates\\Windows Components\\Terminal Services」にある設定「Set path for TS Roaming Profiles」を使用します。

  個々のユーザーのプロファイルを構成するには、ADのユーザーアカウントプロパティページで個々のアカウントに「Set path for TS Roaming Profiles」を設定することもできます。ただし、通常はGPでこの割り当てを行う方がはるかに優れています。

  ターミナルサーバーで設定「Use mandatory profiles」を使用して、強制プロファイルの使用を強制できます。

- **Windows 7、Windows 8、およびWindows Server**：ユーザーアカウントプロパティページを使用して、個々のアカウントに移動プロファイルを設定します。また、Windows Server 2008 ADおよびWindows 7デバイスの場合、GPO設定「Set roaming profile path for all users logging on to this computer」を使用できます。これは、「Computer\\Administrative Templates\\System\\User Profiles」にあります。Windows 8またはWindows Server 2012コンピューターにログオンするユーザーの場合、Windows Server 2012のActive Directoryを使用してユーザーのホームフォルダーを設定することもできます。

複数の方法が使用されている場合、ドメインユーザーにプロファイルを配信するための優先順位は何ですか?

Profile Managementがユーザーのプロファイルを管理するために使用される場合、他のどのプロファイル割り当て方法よりも優先されます。Profile Managementによってプロファイルデータが管理されていないユーザーには、複数の方法を使用してプロファイルが割り当てられる可能性があります。実際に使用されるプロファイルは、次の優先順位に基づいています。

1. Citrixユーザープロファイル（つまり、Profile Managementによって作成されたプロファイル）
2. GPOによって割り当てられたリモートデスクトップサービスプロファイル
3. ユーザープロパティによって割り当てられたリモートデスクトップサービスプロファイル
4. GPOによって割り当てられたローミングプロファイル (Windows Server 2008 AD および Windows 7 のみ)
5. ユーザープロパティによって割り当てられたローミングプロファイル

Profile Management のアーキテクチャ

この記事では、ユーザー ストアとクロスプラットフォーム設定ストアのフォルダー構造について説明します。ユーザー ストアは Citrix® ユーザー プロファイルの集中管理場所です。クロスプラットフォーム設定ストアは別の場所です。

Profile Management ストアに関する重要な情報

ユーザー ストアとクロスプラットフォーム設定ストアの構造は、情報提供とローカライズおよびトラブルシューティングの支援を目的としてここに記載されています。プロファイル データに関する問題を最小限に抑え、セキュリティを維持するために設計された、以下の重要な推奨事項に従ってください。

- どちらのストアの構造も変更しないでください。
- ストアのいかなる部分にもファイルやフォルダーを直接書き込まないでください。ユーザー ストアは、この点でリダイレクトされたフォルダーとは異なります。

- ユーザー ストアをリダイレクトされたフォルダーとは別に保管してください。たとえば、`\\server1\profiles\%username%` と `\\server1\folders\%username%` のように、同じファイル サーバーまたは DFS 名前空間の異なる共有に保管できます。この手法により、バージョン 1 とバージョン 2 のプロファイルを一緒にサポートしたり、両方のプロファイル バージョンで共有されるリダイレクトされたフォルダーの単一セットをサポートしたりすることがはるかに容易になります。
- ユーザーはユーザー ストアを見る必要がないため、ドライブ文字を割り当てないでください。
- ユーザー ストアにクォータを課さないでください。プロファイル サイズを制限する場合は、クォータを使用するのではなく、項目を除外することを検討してください。

ユーザー ストアのフォルダー構造

ユーザー ストアは、デフォルトでユーザーのホーム ディレクトリにある **WINDOWS** フォルダーになります。これはパイロット インストールを簡素化しますが、本番システムでは、ユーザー ストアをネットワーク共有、または（最高の拡張性のために）DFS 名前空間として構成してください。エンタープライズ対応のユーザー ストアのサポートされる構成については、「Profile Management を使用した高可用性と災害復旧」で説明されています。

安全なユーザー ストアを作成するための推奨事項は、Microsoft TechNet Web サイトの「移動ユーザー プロファイル用のファイル共有を作成する」という記事で入手できます。これらの最小限の推奨事項は、基本的な操作に対して高レベルのセキュリティを保証します。また、ユーザー ストアへのアクセスを構成する際には、Citrix ユーザー プロファイルを変更または削除するために必要な Administrators グループを含めてください。

注： Windows 7 および Windows 2008 R2 クライアント デバイスでは、Windows 2012 R2 ファイル サーバーで共有を作成する際に、**Encrypt data access** チェック ボックスを選択しないでください。

ルート レベルのユーザー ストアのフォルダー構造を次の表に示します。

フォルダ	注
	ユーザー ストア内のプロファイルのルート。
`\UPM_Profile`	このフォルダーには、プロファイルからのファイルとフォルダーが含まれています。
`\UPM_Drive_C`	このフォルダーには、プロファイル外から含まれる項目（この場合はCドライブから）が含まれています。このフォルダーは、Profile Management 4.x以前からのアップグレード時

フォルダ	注
	に存在します。Profile Management 5.0では、プロファイル外の項目の管理はサポートされていません。
`\Pending`	このフォルダーには、ロックファイル、保留中のファイル、およびストリーミング機能が使用されている場合はスタンプファイルが含まれています。

いくつかの例をこの表に示します。

フォルダー名の例	注
`\UPM_Profile\Data`	ユーザープロファイル内の**Data**フォルダーの同期されたコンテンツ。
`\UPM_Profile\AppData_upm_var`	ユーザープロファイル内の非ローカライズされたApplication Dataフォルダーの同期されたコンテンツ。このフォルダーは、Profile Management 4.x以前からのアップグレード時に存在します。Profile Management 5.0では、バージョン1プロファイル（Application Dataはその一例）の管理はサポートされていません。

保留領域

ユーザー ストアには保留領域が含まれています。この領域は、ストリーミングされたユーザー プロファイルとアクティブなライトバック機能によって使用される保持領域です。ユーザーが最後のセッションからログオフすると、すべてのファイルが保留領域からユーザー ストアに同期されます。新しいセッションは、ユーザー ストアと保留領域の両方からファイルをダウンロードするため、ユーザーは常に最新のプロファイルを体験できます。

サーバーが応答しなくなった場合、保留領域内のファイルをユーザー ストアに解放するタイムアウトを設定できます（ストリーミングされたユーザー プロファイル機能の一部として構成されている場合）。

複数のプラットフォームを持つユーザー ストアのフォルダー構造

クロスプラットフォーム設定機能を使用する場合、複数のプラットフォームが関係します。各プラットフォームのプロファイルを分離するために、プラットフォーム固有のフォルダーを定義する必要があります。通常、これは「ユーザー ストアへのパス」ポリシーでProfile Management変数を使用して行います（たとえば、パスで`%USERNAME%\!CTX_OSNAME!!CTX_OSBITNESS!`を使用します）。

クロスプラットフォーム設定ストアは、クロスプラットフォーム設定機能が構成された後、サポートされているアプリケーションの設定を保持します。構成中にストアの名前と場所を指定します（「クロスプラットフォーム設定ストアへのパス」ポリシーを使用）。このストアは、オペレーティングシステム間でローミングするユーザー設定のサブセットを保持します。

たとえば、Windows XPとWindows 7の間で設定をローミングしたい場合があります。プラットフォーム固有のフォルダーには、Windows XPとWindows 7に固有のユーザー設定が含まれます。クロスプラットフォーム設定ストアには、これらのオペレーティングシステム間でローミングする設定のサブセットが含まれます。ログオン時に、このサブセットはプラットフォーム固有のフォルダーにコピーされ、その一部として残ります。ログオフ時に、サブセットへの変更が抽出され、クロスプラットフォーム設定ストアに戻されます。

各プラットフォーム固有のフォルダーには、標準のサブフォルダー（例：UPM_Profile）が含まれています。詳細については、「ユーザー ストアのフォルダー構造」を参照してください。さらに、UPM_CPS_Metadata サブフォルダーも存在します。このシステムによって作成されたフォルダーには、オペレーティングシステム間で共有される一時的な設定が含まれています。

ユーザー ストアと AD フォレスト

Citrix ユーザープロファイルは、フォレストをまたいで管理することはできません。同じフォレスト内のドメインをまたいで管理することは可能で、これにより、同じログオン名を持つ複数のユーザーがフォレスト内の同じリソースにアクセスできます。これには、ユーザー ストアへのパスにある `%USERDOMAIN%` および `%USERNAME%` 変数を使用してプロファイルを一意に識別することが含まれます。

ただし、この場合、ユーザー ストアへのパスを設定する際に、同じログオン名を区別するために変数を使用する必要があります。これを行うには、ドメイン名変数をパスに追加します。また、ユーザー ストアのアクセス許可を設定し、Active Directory のユニバーサル グループを使用して Profile Management の処理済みグループ設定を有効にする必要があります。

%ProfVer% のような手動で定義されたシステム変数を使用して、オペレーティングシステムのバージョンを設定できます。または、Profile Management 変数を使用して、オペレーティングシステム名、ビット数、またはプロファイルバージョンを設定することもできます。AD フォレスト

内のユーザー ストア パスの例については、「ユーザー ストアへのパスを指定する」を参照してください。

ユーザー ストアのローカライズ

次の表は、プロファイルデータがユーザー ストアに移動されるとき、およびユーザー ストアから移動されるときに、Profile Management がフォルダーをローカライズおよび非ローカライズする方法の概要を示しています。フォルダー名のみがローカライズおよび非ローカライズされます。たとえば、スタートメニューのエントリやレジストリ設定は、Profile Management によって正しい言語に翻訳されません。

この情報は、Profile Management 4.x 以前からアップグレードする場合にのみ関連します。この場合、バージョン 1 のプロファイルが存在する可能性があります。Profile Management 5.0 では、バージョン 1 のプロファイルの管理はサポートされていません。

バージョン 1 英語フォルダー	ユーザー ストア フォルダー	ユーザープロファイルに対する相対フルパス
アクセシビリティ	Accessibility_upm_var	`\\Start Menu\Programs\Accessories`
アクセサリ	Accessories_upm_var	`\\Start Menu\Programs`
管理ツール	AdminTools_upm_var	`\\Start Menu\Programs`
アプリケーションデータ	AppData_upm_var	`\Local Settings`
クッキー	Cookies_upm_var	
デスクトップ	Desktop_upm_var	
エンターテイメント	Entertainment_upm_var	`\\Start Menu\Programs\Accessories`
お気に入り	Favorites_upm_var	
履歴	History_upm_var	`\Local Settings`
リンク	Links_upm_var	`\Favorites`
ローカル設定	LocalSettings_upm_var	

バージョン 1 英語フォルダー	ユーザー ストア フォルダー	ユーザープロファイルに対する相対フルパス
マイドキュメント	MyDocuments_upm_var	
マイミュージック	MyMusic_upm_var	`\My Documents`
マイピクチャ	MyPictures_upm_var	`\My Documents`
マイビデオ	MyVideos_upm_var	`\My Documents`
NetHood	NetHood_upm_var	
PrintHood	PrintHood_upm_var	
プログラム	Programs_upm_var	`\Start Menu`
最近	Recent_upm_vars	
スタートメニュー	StartMenu_upm_var	
テンプレート	テンプレート_upm_var	
インターネット一時ファイル	インターネット一時ファイル_upm_var	`\Local Settings`
送る	送る_upm_var	
スタートアップ	スタートアップ_upm_var	`\\Start Menu\Programs`
システムツール	システムツール_upm_var	`\\Start Menu\Programs\Accessories`

プロファイル管理のユースケース

Citrix Profile Management は、アプリケーションがユーザーにどのように配信されるか、またはどこに格納されているかに関わらず、さまざまなシナリオでユーザーのプロファイルを管理するために実装できます。以下にこれらのシナリオの例を示します。

- Citrix Virtual Apps™ と公開アプリケーション
- Citrix Virtual Apps と公開デスクトップ

- Citrix Virtual Apps と分離環境にストリーミングされたアプリケーション
- Citrix Virtual Desktops™ にストリーミングされたアプリケーション
- Citrix Virtual Desktops にインストールされたアプリケーション
- 物理デスクトップにストリーミングされたアプリケーション
- 物理デスクトップにローカルにインストールされたアプリケーション

これらのシナリオの中で、Citrix は以下を最も一般的なユースケースと見なしています。

- **複数セッション** - ユーザーは複数の Citrix Virtual Apps サーバーサイロにアクセスするため、複数のセッションを開いています。ただし、サーバー上でのアプリケーション分離とストリーミングは、サーバーサイロの代替手段であることに注意してください。このシナリオについては、このトピックで詳しく説明します。
- **「最後の書き込みが優先される」と移動プロファイルの整合性の問題** - 移動プロファイルへの最後の書き込みにより、すべての設定が保存されます。したがって、複数のセッションが開いていて一時的な変更が行われた場合、移動プロファイルは正しいデータを保持しない可能性があります。さらに、ネットワーク、ストレージの問題、またはその他の問題により、設定がプロファイルに正しく書き込まれない可能性があります。このシナリオについては、このトピックで詳しく説明します。
- **大規模なプロファイルとログオン速度** - プロファイルの肥大化により、ユーザープロファイルが扱いにくくなり、ストレージと管理の問題が発生する可能性があります。通常、ログオン時に Windows はユーザーのプロファイル全体をネットワーク経由でローカルユーザーデバイスにコピーします。肥大化したプロファイルの場合、この動作によりユーザーのログオン時間が長くなる可能性があります。

複数セッション

特に大規模な環境では、ユーザーが、同じファーム内または複数のファーム内の異なる Citrix Virtual Apps サーバーに格納されている異なるアプリケーションにアクセスするために、複数のセッションを開く必要がある場合があります。可能な場合は、アプリケーション分離またはストリーミングを検討して、同じ Citrix Virtual Apps サーバーにアプリケーションを格納し、ユーザーが単一のサーバーからすべてのアプリケーションにアクセスできるようにすることで、単一のセッションで済むようにします。ただし、事業部門が特定のサーバーを制御している場合や、アプリケーションをストリーミングできない場合は、これが不可能な場合があります。

ユーザーが様々なCitrix仮想アプリサーバーからアプリケーションにアクセスする必要があると判断された場合、プロファイルへの影響を特定する必要があります。

次の図は、複数のセッションが存在する場合にアプリケーション設定が失われる可能性がある例を示しています。

図(/en-us/profile-management/2311/media/upm-multiple-sessions-1.png)

例えば、MaryはApp A、App B、App Cにアクセスしたいと考えており、それぞれServer 1、Server 8、Server 12にルーティングされます。各アプリケーションにログオンすると、Maryのターミナルサービスローミングプロファイルが各サーバーにロードされ、各セッションのフォルダーがリダイレクトされます。MaryがServer1のApp Aにログオンしているときに、MaryはSetting1を変更し、そのセッションからログオフします。その後、Maryは他の2つのアプリケーションでの作業を完了し、ログオフします。

ログオフ時に、MaryがServer 1のセッション内で行った変更は上書きされます。これは、最後に閉じられたセッションの設定が保持され、一時的な変更は保持されないためです。翌日、MaryがApp Aにログオンすると、彼女が行った変更が表示されないため、不満を感じます。

Profile Managementは、一般的にこの状況の発生を防ぐことができます。Profile Managementは、セッション中に変更された特定のプロファイル設定のみを書き戻し、その他の変更されていない設定はそのまま保持されます。したがって、発生する可能性のある唯一の競合は、Maryが別のセッション内でSetting1を変更した場合です。ただし、このシナリオでProfile Managementが使用されている場合、ユーザーは最新の変更が保持されることを期待するでしょう。

「最後の書き込みが優先される」問題とローミングプロファイルの整合性の問題

このシナリオは、このトピックの最初のシナリオと似ています。「最後の書き込みが優先される」問題は様々な形で現れる可能性があり、アクセスするデバイスの数が増えるにつれてユーザーの不満が高まる可能性があります。

ローミングプロファイルは、リダイレクトされたフォルダーを除き、すべてのプロファイルデータを保持するため、ユーザープロファイルは大きくなる可能性があります。これにより、プロファイルをダウンロードする必要があるためログオン時間が増加するだけでなく、特にネットワークの問題がある場合、ログオフの書き込みフェーズ中に不整合の可能性が高まります。

Profile Managementを使用すると、特定のデータをユーザープロファイルから除外できるため、ユーザープロファイルを最小限のサイズに保つことができます。プロファイルには差分のみが書き込まれるため、ログオフの書き込みフェーズでは処理するデータが少なくなり、高速化されます。Profile Managementは、一時データにプロファイルを使用するが、アプリケーション終了時にクリーンアップしないアプリケーションにとって有益です。

複数のリソースへのアクセス

ユーザーが複数のリソースにアクセスするにつれて、プロファイルはより複雑になります。プロファイルがネットワークに保存されている場合、Microsoft Windowsはレジストリを使用してユーザー設定を保存します。プロファイルはログオン時にネットワークからローカルデバイスにコピーされ、ログオフ時にネットワークにコピーし直されます。日常的に、ユーザーは複数のコンピューターにアクセスし、デスクトップとラップトップを切り替え、Citrix Virtual Apps and Desktops™ または Citrix DaaS (旧 Citrix Virtual Apps and Desktops service) で作成された仮想リソースにアクセスします。

この図は、単一のCitrix®ユーザープロファイルが、複数のリソースにログオンするユーザーにどのように追従するかを示しています。

次のグラフィックは、複数のCitrixリソースにログオンするユーザーと、コンピューターからコンピューターへと追従するCitrixユーザープロファイルを示しています。(/en-us/profile-management/2311/media/upm-access-multiple-resources.png)

例えば、ユーザーはローカルの物理デスクトップを持ち、そこからCitrix Virtual Appsで公開されたアプリケーションにアクセスします。また、Citrix Virtual Desktopsで作成された仮想デスクトップにもアクセスします。設定が適切に構成されていない限り、ユーザーの設定はこれらすべてのリソースで統一されません。

さらに、共有リソースにアクセスする場合、ローミングプロファイルの動作は「最後の書き込みが優先される」ことを意味します。例えば、管理者がローミングプロファイルを有効にし、ユーザーがローカルデスクトップの背景色を変更したとします。その後、ユーザーはCitrix仮想デスクトップにログオンし、ローカルデスクトップからログオフし、仮想デスクトップからログオフします。ローカルデスクトップと仮想デスクトップの両方が同時に開いており、最後のログオフは仮想デスクトップからでした。したがって、仮想デスクトップセッションからの設定がプロファイルに最後に書き込まれたため、背景色の変更は失われます。

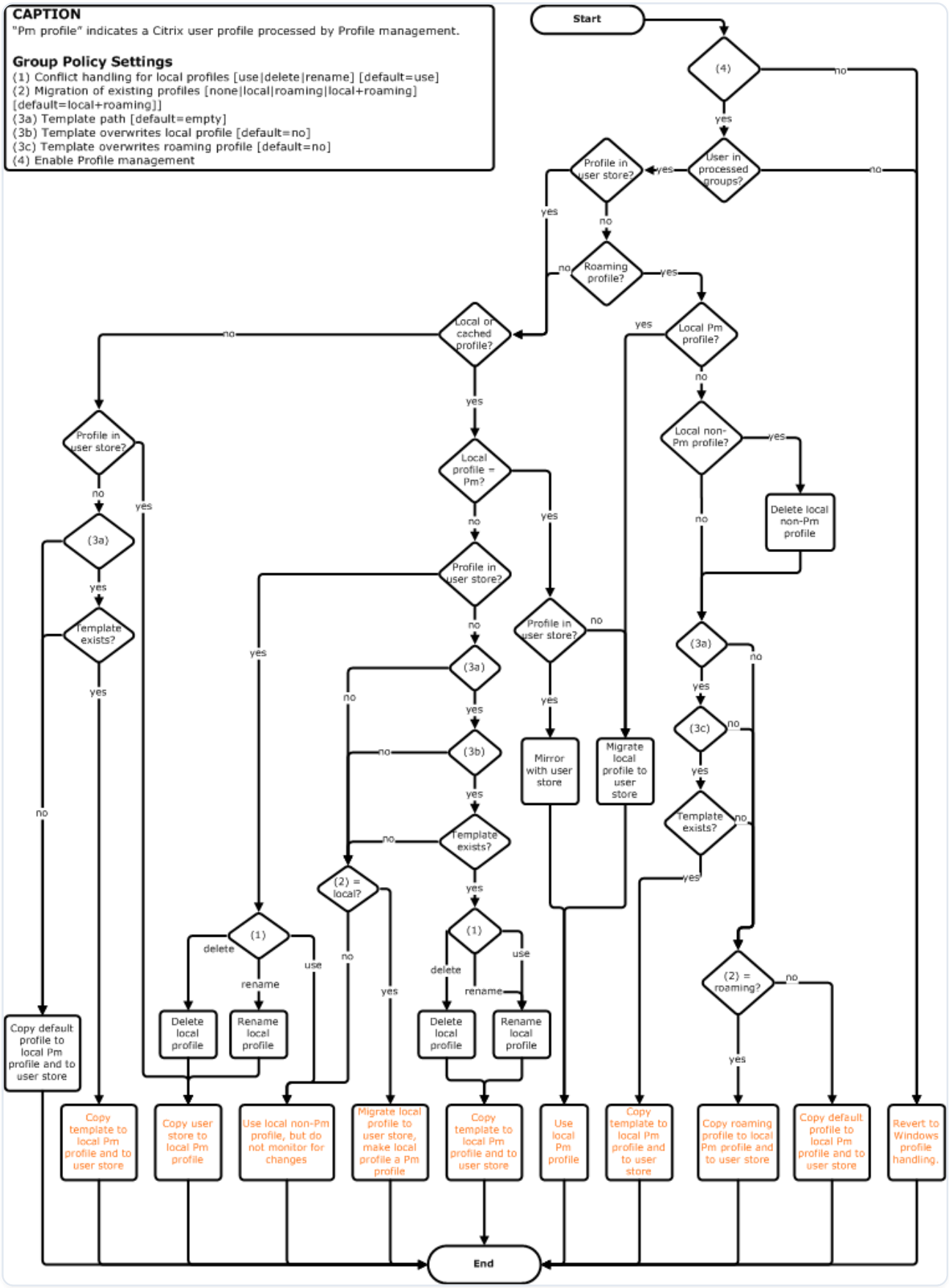
ログオン図

この図は、ユーザープロファイルの移行戦略の詳細を検討するのに役立ちます。また、パフォーマンスの以下の側面についても説明します。

- プロファイルを移行すると、2つのネットワークコピーが発生し、ログオンプロセスが遅くなる可能性があります。たとえば、**デフォルトプロファイルをローカルPmプロファイルとユーザーストアにコピー**する操作には、次の2つのコピーが含まれます。1つはローミングプロファイルストアからローカルコンピューターへの完全なプロファイルコピー、もう1つはローカルコンピューターからユーザーストアへの完全なプロファイルコピーです。

- キャッシュされたプロファイルが使用される場合、ネットワークを介したプロファイルデータのコピーは行われません。

図を下から上に読みます。下部のボックスで目的の操作（たとえば、**デフォルトプロファイルをローカルPmプロファイルとユーザーストアにコピー**）を確認します。その後、必要な移行設定を特定するためにパスをたどります。

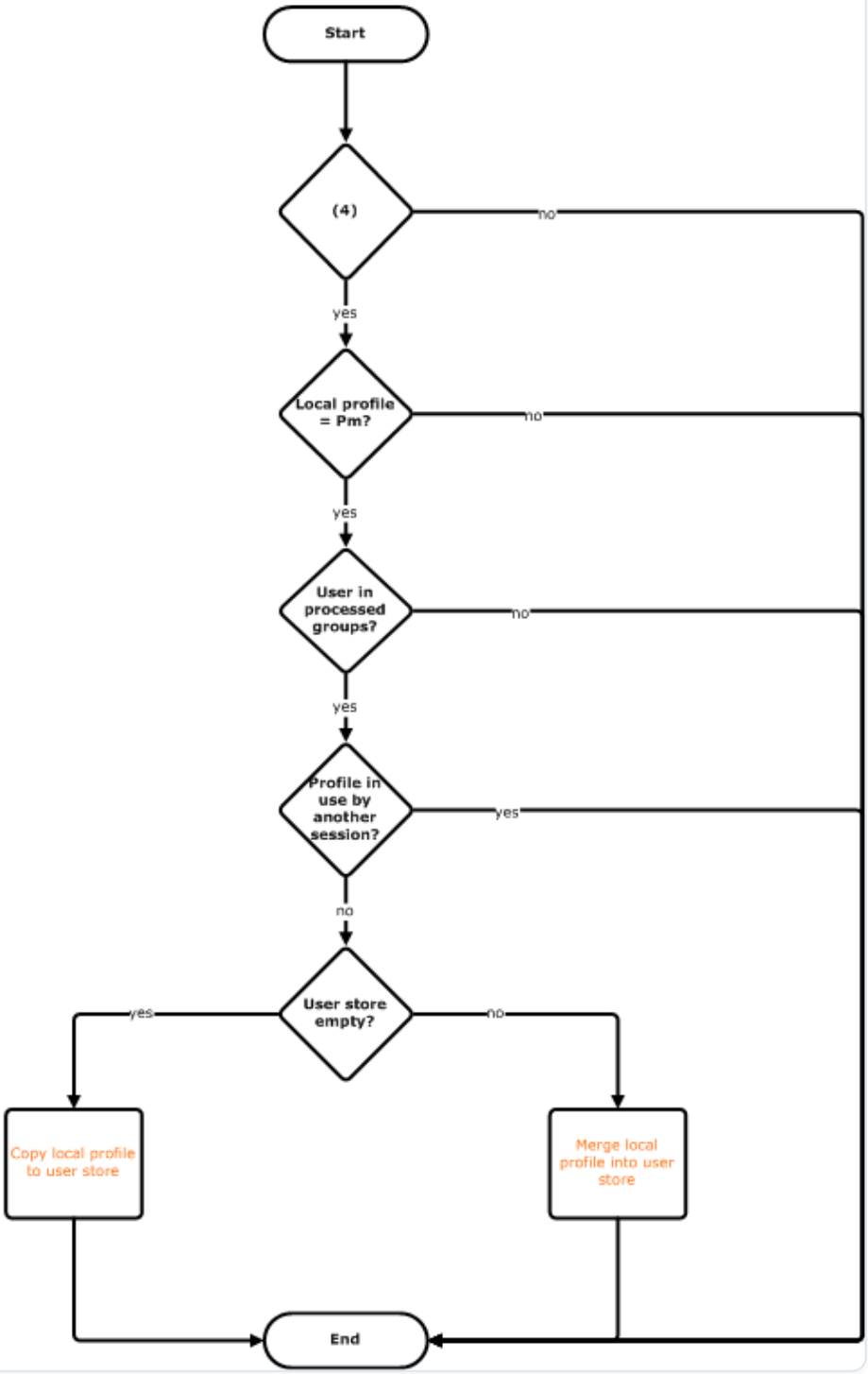

CAPTION
"Pm profile" indicates a Citrix user profile processed by Profile management.
Group Policy Settings
(1) Conflict handling for local profiles [use|delete|rename] [default=use]
(2) Migration of existing profiles [none|local|roaming|local+roaming] [default=local+roaming]]
(3a) Template path [default=empty]
(3b) Template overwrites local profile [default=no]
(3c) Template overwrites roaming profile [default=no]
(4) Enable Profile management
Start
(4)
User in processed groups?
Profile in user store?
Roaming profile?
Local or cached profile?
Local Pm profile?
Local non-Pm profile?
Delete local non-Pm profile
Local profile = Pm?
Profile in user store?
(3a)
Template exists?
(3b)
(2) = local?
(1)
delete
rename
use
Delete local profile
Rename local profile
Mirror with user store
Migrate local profile to user store
(3c)
(2) = roaming?
Copy default profile to local Pm profile and to user store
Copy template to local Pm profile and to user store
Copy user store to local Pm profile
Use local non-Pm profile, but do not monitor for changes
Migrate local profile to user store, make local profile a Pm profile
Use local Pm profile
Copy roaming profile to local Pm profile and to user store
Revert to Windows profile handling.
End

ログオフ図

この図は、ログオフ時にプロファイルデータをコピーまたはマージするために使用されるロジックを説明しています。

CAPTION
"Pm" indicates a Citrix user profile processed by Profile management.

Group Policy Settings
(1) Conflict handling for local profiles [use|delete|rename] [default=use]
(2) Migration of existing profiles [none|local|roaming|local+roaming] [default=local+roaming]]
(3a) Template path [default=empty]
(3b) Template overwrites local profile [default=no]
(3c) Template overwrites roaming profile [default=no]
(4) Enable Profile management



展開計画

構成を決定する

Profile Management を構成するには、環境に関する次の基本的な質問に答えることをお勧めします。

1. パイロットまたは本番
2. プロファイルの移行または作成
3. 永続的またはプロビジョニング済み、および専用または共有
4. モバイルまたは静的
5. 使用中のアプリケーション

回答に基づいて、展開用に Profile Management を構成します。その他のすべてのポリシーはデフォルトのままにすることができます。

次のステップ

- インストールとセットアップ
- トラブルシューティング

ヒント

Profile Management の設定を確認および展開する際は、次のヒントを参照してください。

UPMConfigCheck ツールを使用して設定を確認する

UPMConfigCheck は、稼働中の Profile Management 展開を検査し、最適に構成されているかどうかを判断する PowerShell スクリプトです。詳細については、Knowledge Center の記事 CTX132805 を参照してください。

コンピューターをOUにグループ化する

質問への回答が異なるコンピューターセットで同じである場合は、それらをActive Directory組織単位 (OU) にグループ化することを検討してください。また、そのOUにアタッチされた単一のグ

ループポリシーオブジェクト (GPO) を使用して、Profile Managementを構成することも検討してください。

これらの質問への回答が異なる場合は、コンピューターを個別のOUにグループ化することを検討してください。

あるいは、ドメインがWMIフィルタリングをサポートしている場合は、すべてのコンピューターを同じOUにグループ化し、WMIフィルタリングを使用して適切に構成されたGPOを選択できます。

パイロットまたは本番

パイロット展開の目的は、ソリューションを迅速かつ確実に実証できるようにすることです。重要な目標は、パイロットにおけるコンポーネントの数を減らすことかもしれません。Profile Managementの場合、2つのコンポーネントはユーザー ストアと、プロファイルが処理されるユーザーの選択です。

ポリシー: ユーザー ストアへのパス

Citrix®ユーザープロファイル用のユーザー ストアのセットアップは、Windowsローミングプロファイル用のプロファイル ストアのセットアップとまったく同じです。

パイロット展開の場合、これらの考慮事項は無視できることがよくあります。ユーザー ストアへのパス ポリシーのデフォルト値は、ユーザーのホームディレクトリにある **Windows** フォルダーです。これは、単一のオペレーティングシステム（したがって、単一のプロファイルバージョン）のみが展開されている限り、単一プラットフォームのパイロットでうまく機能します。プロファイルバージョンについては、「プロファイルについて」を参照してください。このオプションは、ユーザーのホームディレクトリに十分なストレージがあり、ファイルサーバーのクォータが適用されていないことを前提としています。Citrixは、プロファイルでのファイルサーバークォータの使用を推奨していません。その理由については、「複数のファイルサーバーでCitrixユーザープロファイルを共有する」で説明しています。

本番展開の場合、セキュリティ、負荷分散、高可用性、および災害復旧を慎重に考慮する必要があります。ユーザー ストアの作成と構成については、以下のトピックの推奨事項に従ってください。

- Profile Managementのアーキテクチャ
- ユーザー ストアを作成する
- ユーザー ストアへのパスを指定する
- Profile Managementでの高可用性と災害復旧

ポリシー: 処理されるグループ、除外されるグループ

本番展開の複雑さにより、Profile Managementの展開をすべてのユーザーに同時にリリースするのではなく、段階的に行う必要がある場合があります。展開が進行中の間、異なるリソースに接続すると異なるプロファイルエクスペリエンスが得られることをユーザーに伝えることができます。

パフォーマンス上の理由から、Profile Managementは組み込みのライセンスチェックではなくEULAによってライセンスされています。ライセンスの割り当ては、ユーザーをActive Directory（AD）ユーザーグループに割り当てるか、適切な既存のADグループを使用することで管理できます。

パイロット展開では、Profile Managementの使用は、単一の代表的なADグループを使用できない、複数の部門からの少数のユーザーグループへの招待によって制限されます。この場合、処理されるグループと除外されるグループのポリシーは未構成のままにします。Profile Managementはグループメンバーシップのチェックを行わず、すべてのユーザーが処理されます。

これらのポリシーの詳細については、「処理されるグループのプロファイルを定義する」を参照してください。

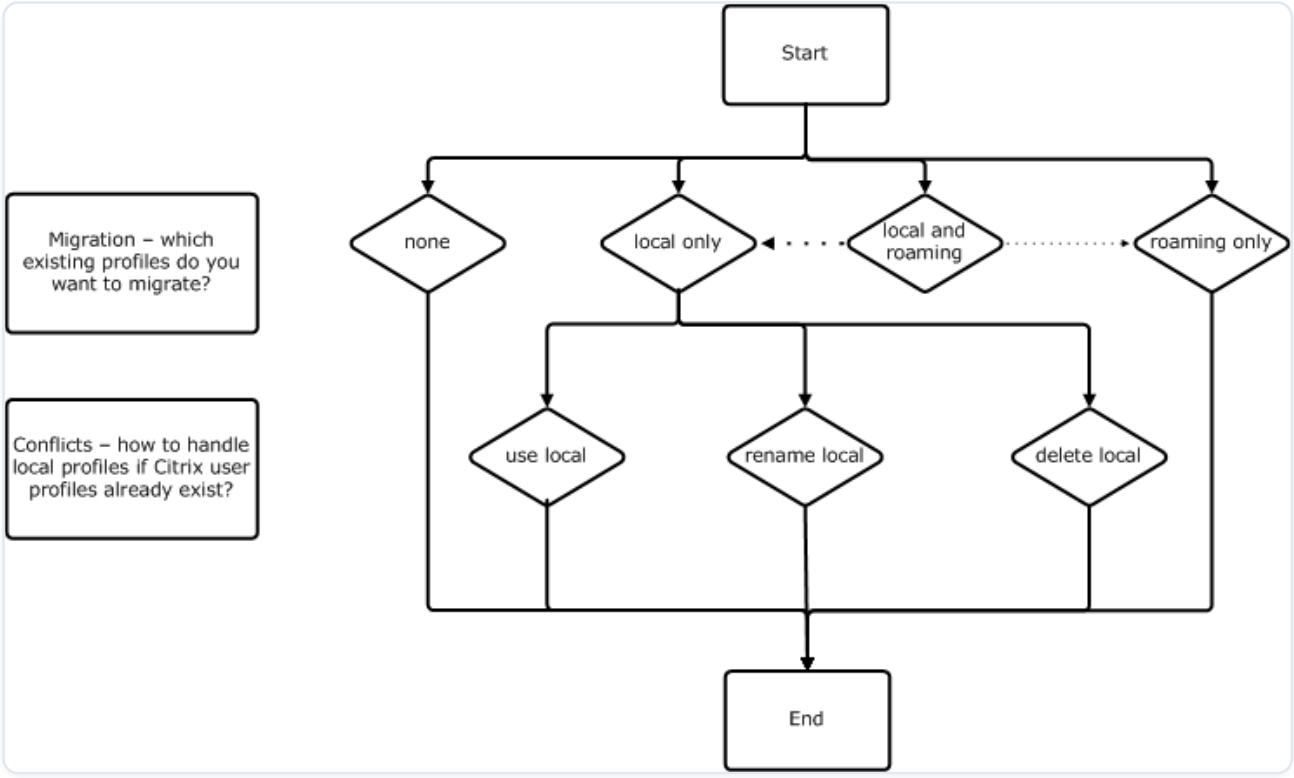
重要: いずれの場合も、Profile Management によって処理されるユーザー数が、関連する EULA で設定された制限を超えないようにしてください。

プロファイルを移行または作成する

Profile Managementの展開を利用して、組織のプロファイルを更新できます。最初は小規模なカスタマイズされたプロファイルを使用し、それへの追加を厳密に制御します。あるいは、既存のプロファイルをProfile Management環境に移行し、長年にわたって蓄積されたパーソナライズを保持する必要があるかもしれません。

既存のプロファイルを移行することを決定した場合は、「既存のプロファイルの移行」および「ローカルプロファイルの競合処理」ポリシーを構成します。

次の図は、この質問に対する回答に基づいてこれらのポリシーを構成する方法を示しています。



ポリシー: テンプレートプロファイル

まったく新しいプロファイルセットを作成する場合は、「テンプレートプロファイル」ポリシーを使用して、この目的のためのテンプレートを作成することを検討してください。詳しくは、「テンプレートまたは必須プロファイルを指定する」を参照してください。テンプレートを作成しない場合、Profile ManagementはユーザーにデフォルトのWindowsプロファイルを提供します。テンプレートが不要な場合は、このポリシーを無効のままにします。

テンプレートプロファイルポリシーは、**ユーザーストアへのパス**ポリシーに似ています。このポリシーは、ユーザーがProfile Managementによって管理されているコンピューターに初めてログオンしたときに、ユーザープロファイルを作成するための基礎として使用できるプロファイルの場所を指定します。

オプションで、テンプレートをすべてのログオンに対するCitrix®必須プロファイルとして使用できます。計画の一環として、ユーザーがアクセスするアプリケーションの特定などのタスクを実行する必要があります。それに応じて、プロファイル内のレジストリの状態、ショートカット、デスクトップ設定を構成する必要があります。プロファイルフォルダーのアクセス許可を設定し、ユーザーのログオンスクリプトを変更する必要があります。

> **注:**

> Citrix virtual desktops™展開で必須プロファイルを選択する場合は、Profile Management の.admまたは.admxファイルではなく、Citrix Studioを使用することをお勧めします。

永続的かプロビジョニング済みか、専用か共有か

プロファイルを作成するマシンの種類は、構成の決定に影響します。主な要因は、マシンが永続的かプロビジョニング済みか、および複数のユーザーで共有されるか、1人のユーザー専用であるかです。

永続システムには何らかの種類のローカルストレージがあり、その内容はシステムがオフになっても永続することが期待されます。永続システムでは、ローカルディスクの模倣を提供するためにSANなどのストレージテクノロジーを採用する場合があります。対照的に、プロビジョニング済みシステムは、ベースディスクと何らかの種類のIDディスクから「オンザフライ」で作成されます。ローカルストレージは通常、RAMディスクまたはネットワークディスクによって模倣され、後者は高速リンクを備えたSANによって提供されることがよくあります。プロビジョニングテクノロジーは一般的にProvisioning ServicesまたはMachine Creation Services™（あるいはサードパーティ製の同等品）です。プロビジョニング済みシステムが永続的なローカルストレージを持つ場合もあり、これはPersonal vDiskによって提供されることがあります。これらは永続的として分類されます。

これら2つの要素を組み合わせると、次のマシンタイプが定義されます。

- **永続的かつ専用** - 例としては、Machine Creation Services（Citrix Virtual Desktops™内）で作成された静的割り当てとPersonal vDiskを持つシングルセッションOSマシン、物理ワークステーションおよびラップトップで作成されたPersonal vDiskを持つデスクトップがあります。
- **永続的かつ共有** - 例としては、Machine Creation Services（Citrix Virtual Desktops内）で作成されたマルチセッションOSマシン、およびCitrix Virtual Apps™サーバーがあります。
- **プロビジョニング済みかつ専用** - 例としては、Provisioning Services（Citrix Virtual Desktops内）で作成された、静的割り当てを持つがPersonal vDiskを持たないシングルセッションOSマシンがあります。
- **プロビジョニング済みかつ共有** - 例としては、Provisioning Services（Citrix Virtual Desktops内）で作成されたランダム割り当てを持つマルチセッションOSマシン、Citrix Virtual Apps サーバーで作成されたPersonal vDiskを持たないデスクトップがあります。

以下のProfile Managementポリシー設定は、異なるマシンタイプに対する推奨ガイドラインです。これらは通常うまく機能しますが、展開の要件に応じて逸脱することもできます。

注：Citrix Virtual Desktops展開では、ログオフ時のローカルキャッシュプロファイルの削除、プロファイルストリーミング、および常時キャッシュは、自動構成機能によって適用されます。

ポリシー	永続的かつ専用	永続的かつ共有	プロビジョニング済みかつ専用	プロビジョニング済みかつ共有
ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する	無効	有効	無効 (注 5)	有効
プロファイルストリーミング	無効	有効	有効	有効
常にキャッシュ	有効 (注 1)	無効 (注 2)	無効 (注 6)	無効
アクティブライトバック	無効	無効 (注 3)	有効	有効
ローカル管理者ログオンの処理	有効	無効 (注 4)	有効	有効 (注 7)

注

1. このマシンタイプではプロファイルストリーミングが無効になっているため、 設定は常に無視されます。
2. を無効にします。ただし、このポリシーを有効にし、ファイルサイズ制限 (MB単位) を定義することで、ログオン後できるだけ早く大きなファイルをプロファイルにロードできます。このサイズ以上のファイルは、できるだけ早くローカルにキャッシュされます。
3. Citrix Virtual Appsサーバー間をローミングするユーザーのプロファイルの変更を保存する場合を除き、 を無効にします。この場合は、このポリシーを有効にします。
4. ホスト型共有デスクトップの場合を除き、 を無効にします。この場合は、このポリシーを有効にします。
5. ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除しないようにします。これにより、ローカルにキャッシュされたプロファイルが保持されます。マシンは個々のユーザーに割り当てられているため、プロファイルがキャッシュされているとログオンが速くなります。
6. 常にキャッシュする機能を無効にします。ただし、このポリシーを有効にし、ファイルサイズ制限（MB単位）を定義することで、ログオン後できるだけ早く大きなファイルがプロファイルにロードされるようにすることができます。このサイズ以上のファイルは、できるだけ早くローカルにキャッシュされます。

7. Citrix Virtual Appsサーバー間をローミングするユーザーのプロファイルを除き、ローカル管理者のログオンを処理する機能を有効にします。この場合、このポリシーを無効にします。

モバイルまたは静的

マシンはActive Directoryドメインに永続的に接続されていますか？ラップトップや同様のモバイルデバイスは、おそらく接続されていません。同様に、一部の展開では、永続的なローカルストレージを持つ固定マシンがあるかもしれませんが、それらのマシンは長期間データセンターから分離されています。たとえば、遠隔地の支店が衛星通信によって本社とリンクされている場合などです。別の例としては、インフラストラクチャが復元中で、電力や通信が断続的である災害復旧があります。

通常、Profile Managementは、ネットワークが利用できない間にユーザーがログオフしない限り、短時間のネットワーク障害（24時間未満）に耐性があります。このような状況では、ログオンプロセスを大幅に高速化するいくつかの方法でProfile Managementを最適化できます。これが静的ケースです。

長期間の切断が予想される場合や、企業ネットワークから切断されている間にユーザーがコンピューターをログオフまたはシャットダウンできる必要がある場合、Profile Managementを最適化することはできません。ユーザーが再接続すると、ユーザーストアからプロファイル全体がフェッチされるため、ログオンが遅くなります。これがモバイルケースです。

モバイルケース

長期間の切断（およびActive Directoryドメインへの断続的な接続のみ）の場合、オフラインプロファイルサポートポリシーを有効にします。このアプローチは、サポートされていない最適化を制御する以下のポリシーの効果を自動的に無効にします。これらのポリシーはグループポリシーでは無効になっていないように見えるかもしれませんが、効果はありません。

- プロファイルストリーミング
- 常にキャッシュ

注: オフラインプロファイルサポートが有効に なっている場合、 **アクティブライトバック**は尊重されますが、コンピューターがネットワークに接続されている場合にのみ機能します。

静的ケース

ポリシー: オフラインプロファイルサポート

短期間の切断の場合、オフラインプロファイルサポートポリシーを無効にします。これにより、以下のいずれかのポリシーを設定できます。

ポリシー: ストリーミングユーザープロファイルグループ

ストリーミングユーザープロファイルグループポリシーを「未構成」に設定します。このポリシーを有効にしても、プロファイルストリーミングも有効になっている場合にのみ効果があります。ストリーミングユーザープロファイルグループは、ストリーミングプロファイルの利用を特定のActive Directoryユーザーグループに制限するために使用されます。Profile Managementの古いバージョンから移行する際の一部のシナリオで役立ちます。このポリシーの設定方法については、「ユーザープロファイルのストリーム」を参照してください。

このポリシーに適用される高可用性と災害復旧に関する情報については、「シナリオ4 - 移動するユーザー」を参照してください。

ポリシー: 保留中のエリアロックファイルのタイムアウト

保留中のエリアロックファイルのタイムアウトポリシーを「未構成」に設定して、デフォルトの操作（保留中のエリアロックの1日間のタイムアウト）を適用します。これが唯一サポートされている値であるため、このポリシーを調整しないでください。

ポリシー: アクティブなライトバック

このポリシーの詳細については、永続的またはプロビジョニング済み、専用または共有を参照してください。

使用中のアプリケーション

デプロイで現在使用されているアプリケーションは、Profile Management の構成方法に影響します。ただし、他の構成決定とは異なり、単純な「はい」または「いいえ」の推奨事項はありません。決定は、アプリケーションが永続的なカスタマイズをどこに保存するか (レジストリまたはファイルシステム) によって異なります。

アプリケーションが設定とユーザーのカスタマイズをどこに保存するかを特定するために、ユーザーのアプリケーションを徹底的に分析し、理解してください。Process Monitor などのツールを使用して、アプリケーションバイナリを監視します。Google も別の情報源です。Process Monitor の詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sysinternals/downloads/procmon>`を参照してください。

アプリケーションの動作を理解したら、インクルージョンを使用して処理されるファイルと設定を定義します。除外を使用して、処理されないものを定義します。デフォルトでは、`AppData\Local`内のファイルを除き、プロファイル内のすべてが処理されます。デプロイに次のいずれかのアプリケーションが含まれている場合は、`AppData\Local`のサブフォルダーを明示的に含める必要がある場合があります。

- DropBox

- グーグル クローム
- Visual Studio のワンクリック発行で作成されたアプリケーション

シンプルなアプリケーション

シンプルなアプリケーションとは、適切に動作するアプリケーションのことです。これらは、HKCU レジストリハイブにパーソナライズ設定を保存し、プロファイル内にパーソナライズファイルを保存します。シンプルなアプリケーションには基本的な同期が必要であり、そのためには次の方法で項目を含めたり除外したりする必要があります。

- これらのポリシーにおける相対パス (%USERPROFILE%に対する相対パス):
  - 同期するディレクトリ
  - 同期するファイル
  - 除外リスト - ディレクトリ
  - 除外リスト - ファイル
  - ミラーリングするフォルダー

  注: %USERPROFILE% は Profile Management によって暗黙的に指定されます。これらのポリシーに明示的に追加しないでください。
- これらのポリシーにおけるレジストリ相対パス (HKCU ルートに対する相対パス):
  - 除外リスト
  - 包含リスト

項目のインクルードと除外の手順については、「項目のインクルードと除外」を参照してください。

レガシーアプリケーション

レガシーアプリケーションは適切に動作しません。パーソナライズファイルをプロファイル外のカスタムフォルダーに保存します。推奨される解決策は、レガシーアプリケーションで Profile Management を使用するのではなく、Citrix Virtual Desktops の Personal vDisk 機能を使用することです。

複雑なアプリケーション

複雑なアプリケーションには特別な処理が必要です。アプリケーションのファイルは相互参照する可能性があり、相互に関連するグループとして扱われる必要があります。Profile Management

は、複雑なアプリケーションに関連する2つの動作、つまりCookie管理とフォルダーミラーリングをサポートしています。

Internet ExplorerでのCookie管理は、以下の両方のポリシーが常に指定される基本同期の特殊なケースです。

- ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する
- ミラーリングするフォルダー

フォルダーミラーリング、Cookie管理、およびこれらのポリシーの設定方法の詳細については、「トランザクションフォルダーの管理」を参照してください。

クロスプラットフォームアプリケーション

クロスプラットフォームアプリケーションとは、複数のプラットフォームでホストされる可能性のあるアプリケーションです。Internet ExplorerおよびMicrosoft Officeの特定のバージョンでは、Profile Managementはプラットフォーム間でのパーソナライズ設定の共有をサポートしています。これらの設定は、レジストリまたはプロファイル内のファイルとして保存されます。

クロスプラットフォームアプリケーションの推奨ポリシー設定については、「クロスプラットフォーム設定 - ケーススタディ」に記載されています。

他のアプリケーションの設定をプラットフォーム間で共有したい場合は、SepagoのProfile Migratorを使用することをお勧めします。

JavaおよびWebアプリケーション

Javaアプリケーションはプロファイルに多くの小さなファイルを残す可能性があり、これによりプロファイルの読み込み時間が大幅に増加する可能性があります。したがって、`AppData\Roaming\Sun\Java`を除外することを検討してください。

ポリシーの概要

次の表は、さまざまな種類のアプリケーションに対してProfile Managementを構成するために使用するポリシーをまとめたものです。表では次の用語が使用されています。

- **相対パス**。ローカルボリューム上の相対パスで、%USERPROFILE%に対する相対パスです（%USERPROFILE%は指定してはいけません）。例: `AppData\Local\Microsoft\Office\Access.qat`、`AppData\Roaming\Adobe\`。
- **絶対パス**。ローカルボリューム上の絶対パスです。例: `C:\BadApp*.txt`、`C:\BadApp\Database\info.db`。

- **レジストリ相対パス**。HKCUハイブ内のパスを指します。例: `Software\Policies`、`Software\Adobe`。
- **フラグ**。パス情報が不要な処理を有効または無効にするためにフラグを使用します。例: 有効、無効。

ポリシー	ポリシータイプ (レジストリ、フォルダー、またはファイル)	ワイルドカードのサポート?	アプリケーションタイプ - シンプル	アプリケーションタイプ - レガシー	アプリケーションタイプ - 複雑
同期するディレクトリ	フォルダ	はい	相対	絶対値	
同期するファイル	ファイル	はい	相対	絶対値	
除外リスト - ディレクトリ	フォルダ	はい	相対	絶対値	
除外リスト - ファイル	ファイル	はい	相対	絶対値	
包含リスト	レジストリ		レジストリ相対		
除外リスト	レジストリ		レジストリ相対		
ミラーリングするフォルダー	フォルダ			絶対値	相対
ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する					フラグ

ファイル名とフォルダー名におけるワイルドカード処理

ファイルやフォルダー（レジストリエントリではなく）を参照するポリシーは、ワイルドカードをサポートしています。詳細については、ワイルドカードの使用を参照してください。

包含および除外ルール

Profile Managementは、ユーザープロファイル内のファイル、フォルダー、およびレジストリキーをユーザープロファイルから含めたり除外したりするためのルールを使用します。これらのルールにより、合理的で直感的な動作が実現されます。すべてのアイテムはデフォルトで含まれます。そこから、最上位の例外を除外として構成し、次に最上位の例外に対するより深い例外を包含として構成するといったことができます。アイテムの包含と除外に関する手順を含むルールの詳細については、アイテムの包含と除外を参照してください。

プロファイル内の非英語フォルダー名

バージョン1プロファイルを使用する非英語システムの場合、包含および除外リストで相対パスを現地語で指定します。たとえば、ドイツ語システムでは、**Documents**ではなく**Dokumenten**を使用します。複数のロケールをサポートしている場合は、各言語で包含または除外するアイテムをそれぞれ追加します。

次のステップ

1. 構成の決定に記載されているすべての質問に回答します。
2. 回答に基づいて、展開用にProfile Managementを構成します。その他のすべてのポリシーはデフォルトのままにすることができます。
3. ローカルGPOでProfile Managementをテストするで説明されているように、設定をテストおよび確認し、Profile Managementを有効にします。

複数のプラットフォームの計画

複数のプラットフォーム上のユーザープロファイルが課題となるのはなぜですか?

ユーザーが複数のコンピューティングデバイスにアクセスすることは一般的です。あらゆる種類のローミングプロファイルにおける課題は、これらのデバイス上のシステム間の違いから生じます。たとえば、デスクトップにローカルファイルへのショートカットを作成し、別のデバイスに移動したときにそのファイルが存在しない場合、デスクトップには壊れたショートカットが残ります。

シングルセッションオペレーティングシステム（OS）とマルチセッションOSの間でローミングする場合にも同様の問題が発生します。一部の設定（電源設定やビデオ設定など）は、サーバーでは適用できない場合があります。さらに、各デバイスにアプリケーションが同様にインストールされていない場合、ローミング時に他の問題が発生する可能性があります。

一部のパーソナライズ設定（マイ ドキュメント、お気に入り、OSやアプリケーションのバージョンに依存しないその他のファイルなど）は、他の設定よりも管理がはるかに簡単です。しかし、ドキュメントの種類が1つのシステムでのみサポートされている場合、これらの設定でさえローミングが困難になることがあります。たとえば、あるシステムにはMicrosoft Projectがインストールされているが、別のデバイスではそのファイルの種類が認識されない、といった場合です。同じアプリケーションが2つのシステムに存在しても、一方のシステムでは異なるアドオンがインストールされており、ドキュメントがそれを期待している場合、この状況はさらに悪化します。

アプリケーションのインストール方法を変更すると、どのように問題が発生しますか?

プラットフォームが同じようにインストールされていても、各プラットフォームでアプリケーションが異なる構成になっている場合、アプリケーションの起動時にエラーが発生する可能性があります。たとえば、あるプラットフォームのExcelではマクロやアドオンがアクティブになるが、別のプラットフォームではアクティブにならない、といった場合です。

スタートメニュー

スタートメニューにはリンク（LNKファイルおよびLNK2ファイル）が含まれています。メニューのユーザー固有の部分はプロファイルに保存され、ユーザーはその部分を変更できます。カスタムリンク（実行可能ファイルやドキュメントへのリンク）を追加することは一般的です。さらに、言語固有のリンクは、同じアプリケーションに対して複数のスタートメニューエントリを生成します。また、ドキュメントを指すリンクは、他のコンピューターでは無効になる可能性があります。その理由は、ドキュメントへのパスが別のシステムに対する相対パスであるか、アクセスできないネットワークパスであるためです。

デフォルトでは、実行可能ファイルを指すリンクはコンピューターに依存することが多いため、Profile Managementはスタートメニューフォルダーの内容を保存しません。ただし、システムが類似している状況では、Profile Managementの構成にスタートメニューを含めることで、ユーザーがデスクトップ間をローミングする際の整合性が向上します。または、フォルダーリダイレクトを使用してスタートメニューを処理することもできます。

注： 最も無害に見える変更からでも、予測できない副作用が生じることがよくあります。たとえば、Sepagoブログの `<https://helgeklein.com/blog/2009/09/citrix-user-profile-manager-upm-and-the-broken-rootdrive/>` にある記事を参照してください。

常にプラットフォーム間でスタートメニューの動作をテストし、検証してください。

クイック起動ツールバー

クイック起動ツールバーにはリンクが含まれており、ユーザーが構成できます。デフォルトでは、**クイック起動**ツールバーはProfile Managementによって保存されます。環境によっては、リンクがコンピューターに依存する可能性があるため、**クイック起動**ツールバーの保存が望ましくない場合があります。

プロファイルからツールバーを除外するには、フォルダー除外リストに次のエントリを追加します。`AppData\Roaming\Microsoft\Internet Explorer\Quick Launch`。

作成するプロファイルの種類?

重要: 構造の違いがあるため、複数のプラットフォームを含む環境では、各ユーザーに対して個別のバージョン1とバージョン2のプロファイルを作成することをお勧めします。Windows VistaとWindows 7のプロファイル名前空間の違いにより、これらのプラットフォーム間でプロファイルを共有することは困難です。また、Windows XPとWindows Server 2003の間でも障害が発生する可能性があります。バージョン1とバージョン2のプロファイルの詳細は、以下を参照してください。 プロファイルについて

ここでの複数プラットフォームの定義には、複数のオペレーティングシステム（異なるビット数を含む）だけでなく、同じオペレーティングシステム上で実行される複数のアプリケーションバージョンも含まれます。以下の例は、この推奨事項の理由を示しています。

- 32ビットシステムには、オペレーティングシステムに32ビットオペレーティングシステムに固有の場所でアプリケーションを起動するよう指示するレジストリキーが含まれている場合があります。これらのキーが64ビットシステム上のCitrix®ユーザープロファイルによって使用される場合、そのシステムにはその場所が存在せず、アプリケーションの起動に失敗する可能性があります。
- Microsoft Office 2003、Office 2007、およびOffice 2010は、一部のWord設定を異なるレジストリキーに保存します。これらのアプリケーションが同じオペレーティングシステム上で実行される場合でも、Wordアプリケーションの3つの異なるバージョンに対して個別のプロファイルを作成する必要があります。

プロファイルの相互運用性を確保するために、CitrixユーザープロファイルでMicrosoftフォルダーリダイレクトを使用することをお勧めします。Windows VistaまたはWindows 7がWindows XPと共存する必要がある環境では、これはさらに重要です。

ヒント: 組織のデータ管理ポリシーによっては、Active Directoryから削除されたユーザーアカウントのプロファイルをユーザー ストアおよびクロスプラットフォーム設定ストアから削除することが推奨されます。

複数のファイルサーバーでCitrix®ユーザープロファイルを共有する

Profile Managementの最もシンプルな実装は、ユーザーストアが1つの地理的場所にいるすべてのユーザーをカバーする1つのファイルサーバー上にあるものです。このトピックでは、複数のファイルサーバーを含む、より分散された環境について説明します。高度に分散された環境については、Profile Managementによる高可用性と災害復旧を参照してください。

注：ユーザーストアのサーバー側ファイルクォータを無効にしてください。クォータがいっぱいになるとデータ損失が発生し、プロファイルをリセットする必要があるためです。プロファイルに保持される個人データ（例：ドキュメント、音楽、画像）の量を制限するには、サーバー側ファイルクォータが有効になっている別のボリュームへのフォルダーリダイレクトを使用する方が良いです。

ユーザーストアは複数のファイルサーバーに配置でき、これは多くのプロファイルをネットワーク全体で共有する必要がある大規模な展開において利点があります。Profile Managementは、ユーザーストアを単一の設定 **ユーザーストアへのパス** で定義するため、この設定に属性を追加することで複数のファイルサーバーを定義します。Active Directoryのユーザー スキーマで定義されている任意のLDAP属性を使用できます。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/win32/adschema/attributes-all?redirectedfrom=MSDN>`を参照してください。

ユーザーが異なる都市にある学校にいると仮定し、これを表すために#l#属性（場所を表す小文字のL）が構成されているとします。ロンドン、パリ、マドリードに拠点があります。ユーザーストアへのパスを次のように構成します。

```
\&num;l#.userstore.myschools.net\profile&num;sAMAccountName#\%ProfileVer%\
```

パリの場合、これは次のように展開されます。

```
\\Paris.userstore.myschools.net\profile\JohnSmith\v1\
```

次に、利用可能なサーバー間で都市を分割します。例えば、DNSでParis.userstore.myschools.netをServer1を指すように設定します。

この方法で属性を使用する前に、そのすべての値を確認してください。それらは、サーバー名の一部として使用できる文字のみを含んでいる必要があります。例えば、#l#の値にはスペースが含まれていたり、長すぎたりする場合があります。

#l#属性を使用できない場合、ADユーザー スキーマで、同様のパーティショニングを実現する#company#や#department#などの他の属性を調べてください。

カスタム属性を作成することもできます。Active Directory Explorer（`Sysinternals`ツール）を使用して、特定のドメインでどの属性が定義されているかを確認します。Active Directory Explorerは`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sysinternals/downloads/adexplorer>`で入手できます。

注：プロファイルやサーバーを区別するために、%homeshare%などのユーザー環境変数を使用しないでください。Profile Managementはシステム環境変数を認識しますが、ユーザー環境変数は認識しません。ただし、関連するActive Directoryプロパティ`#homeDirectory#`を使用できます。したがって、ユーザーのHOMEディレクトリと同じ共有にプロファイルを保存したい場合は、ユーザーストアへのパスを`#homeDirectory#\profiles`として設定します。

ユーザーストアへのパスでの変数の使用については、以下のトピックで説明されています。

- ユーザーストアへのパスを指定する
- OU内およびOU間のプロファイルを管理する
- Profile Managementによる高可用性と災害復旧

OU内およびOU間でプロファイルを管理する

OU内

組織単位 (OU) 内でプロファイル管理がプロファイルを管理する方法を制御できます。Windows Server 2008 環境では、Windows Management Instrumentation (WMI) フィルタリングを使用して、.adm または .admx ファイルを OU 内のコンピューターのサブセットに制限します。WMI フィルタリングは、Service Pack 1 (SP1 を含む GPMC) を含むグループポリシー管理コンソールの機能です。

WMI フィルタリングの詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/previous-versions/windows/it-pro/windows-server-2003/cc779036(v=ws.10)>` および `<https://docs.microsoft.com/ja-jp/previous-versions/windows/it-pro/windows-server-2003/cc758471(v=ws.10)>` を参照してください。

SP1 を含む GPMC の詳細については、`<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=21895>` を参照してください。

次のメソッドを使用すると、単一の OU で単一のグループポリシーオブジェクト (GPO) を使用して、異なる OS を持つコンピューターを管理できます。各メソッドは、ユーザー ストアへのパスを定義するための異なるアプローチです。

- ハードコードされた文字列
- プロファイル管理変数
- システム環境変数

ハードコードされた文字列は、1 種類のコンピューターのみを含む場所を指定します。これにより、それらのコンピューターからのプロファイルをプロファイル管理によって一意に識別できます。たとえば、Windows 7 コンピューターのみを含む OU がある場合、**ユーザー ストアへのパス**に `\server\profiles$\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\Windows7` を指定できます。この例では、Windows7 フォルダーがハードコードされています。ハードコードされた文字列は、プロファイル管理サービスを実行するコンピューターでのセットアップを必要としません。

プロファイル管理変数は、コンピューターを一意に識別するために柔軟に組み合わせることができ、セットアップが不要であるため、推奨される方法です。たとえば、異なるビット数のオペレーティングシステムで実行されている Windows 7 および Windows 8 プロファイルを含む OU がある場合、**ユーザー ストアへのパス**に `\server\profiles$\%USERNAME%.%USERDOMAIN%!CTX_OSNAME!!CTX_OSBITNESS!` を指定できます。この例では、2 つのプロファイル管理変数は、Win7x86 (Windows 7 32 ビットオペレーティングシステムで実行されているプロファイルを含む) および Win8x64 (Windows 8 64 ビットオペレーティングシステムで実行されているプロファイルを含む) フォルダーに解決される可能性があります。プロファイル管理変数の詳細については、「プロファイル管理ポリシー」を参照してください。

システム環境変数には、いくつかの構成が必要です。これらは、プロファイル管理サービスを実行する各コンピューターで設定する必要があります。プロファイル管理変数が適切でない場合は、次のようにシステム環境変数をユーザー ストアへのパスに組み込むことを検討してください。

各コンピューターで、%ProfVer% というシステム環境変数を設定します。(ユーザー環境変数はサポートされていません。) 次に、ユーザー ストアへのパスを次のように設定します。

```
`\\upmserver\upmshare\%username%.%userdomain%\%ProfVer%`
```

たとえば、Windows 7 32 ビットコンピューターの場合は %ProfVer% の値を Win7 に、Windows 7 64 ビットコンピューターの場合は Win7x64 に設定します。Windows Server 2008 32 ビットおよび 64 ビットコンピューターの場合は、それぞれ 2k8 および 2k8x64 を使用します。これらの値

を多くのコンピューターで手動で設定するのは時間がかかりますが、Provisioning Services を使用する場合は、ベースイメージに変数を追加するだけで済みます。

ヒント: Windows Server 2008 R2 および Windows Server 2012 では、グループポリシーを使用して環境変数の作成と適用を高速化できます。グループポリシー管理エディターで、 **コンピューターの構成** > **基本設定** > **Windows の設定** > **環境** をクリックし、次に **操作** > **新規** > **環境変数** をクリックします。

OU間

Profile Management が OU 間でプロファイルを管理する方法を制御できます。OU の階層と GPO の継承に応じて、複数の OU に適用される Profile Management ポリシーの共通セットを 1 つの GPO に分離できます。たとえば、**ユーザー ストアへのパス**と**Profile Management を有効にする**は、すべての OU に適用する必要があります。そのため、それらを専用の GPO に個別に保存し、そこでこれらのポリシーのみを有効にすることができます（他のすべての GPO では未構成のままにします）。

専用の GPO を使用して、継承されたポリシーを上書きすることもできます。GPO の継承に関する情報については、Microsoft の Web サイトを参照してください。

Profile Managementにおけるドメインとフォレストのサポート

Profile Managementは、Windows Server 2008およびWindows Server 2012のドメインおよびフォレストの機能レベルをサポートしています。古いオペレーティングシステムはサポートされていません。

システム環境変数を使用すると、複数のドメインにおけるユーザー名の曖昧さを解消できます。詳細については、「OU内およびOU間でのプロファイルの管理」を参照してください。

Profile Managementによる高可用性とディザスターリカバリ

前提条件として、ユーザーストアの構造と作成方法をよく理解してください。詳しくは、「Profile Managementのアーキテクチャ」および「ユーザーストアの作成」を参照してください。

これらのトピックでは、Citrix Profile Managementに適用される高可用性とディザスターリカバリのサポートされているシナリオについて説明します。シナリオを関連する基盤となるMicrosoftテクノロジーに関連付け、サポートされている内容を特定します。

- シナリオ1：地理的に隣接するユーザーストアとフェールオーバークラスターの基本的なセットアップ

- シナリオ2：複数のフォルダーターゲットとレプリケーション
- シナリオ3：ディザスターリカバリ
- シナリオ4：移動ユーザー
- シナリオ5：ユーザーストアの負荷分散

Profile Managementは、信頼性の高い環境で動作することを前提としています。この信頼性は、主にActive Directory（AD）とネットワークユーザーストア（NUS）の可用性に適用されます。どちらかが利用できない場合、Profile Managementはプロファイルを提供できず、Windowsに責任を委ねます。Windowsは通常、デフォルトのプロファイルを提供します。

移動プロファイルとの比較

ディザスターリカバリおよび高可用性のシナリオでは、Citrix Profile ManagementはMicrosoft移動プロファイルに影響を与えるのと同じ問題の影響を受ける可能性があります。特に明記されていない限り、Profile Managementはこのような問題を解決しません。

特に、次の点に注意してください。

- Profile Managementのサポートは、移動プロファイルもサポートされているシナリオに限定されます。
- オフラインファイルのキャッシュオプションは、移動ユーザープロファイル共有で無効にする必要があります。同じ制限がProfile Management共有にも適用されます。
- 移動プロファイルはDFS共有からロードされません。同じ制限がProfile Management共有にも適用されます。詳しくは、`<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/2533009>`を参照してください。

シナリオ 1 - 地理的に隣接するユーザー ストアとフェールオーバー クラスターの基本設定

「ユーザーには、常に地理的に隣接した、優先されるネットワークユーザー ストア (NUS) をプロファイルに使用してほしい。」この場合、オプション 1 と 2 が適用されます。

「NUS をフェールオーバー クラスター上に配置して、高可用性を実現したい。」この場合、オプション 2 が適用されます。

次の図は、このシナリオを示しています。北米 (NA) のユーザーは、ブリスベンの NUS ではなく、ニューヨークの NUS を使用したいと考えています。目的は、遅延を減らし、オーストラリアまたはニュージーランド (ANZ) への大陸間リンクを介して送信されるトラフィックを最小限に抑えることです。

図(/en-us/profile-management/2311/media/upm-ha-dr-scenario1-1.png)

オプション 1 – DFS 名前空間

参考資料

Microsoft DFS 名前空間テクノロジーの概要については、「DFS 名前空間の概要」を参照してください。

このオプションの実装

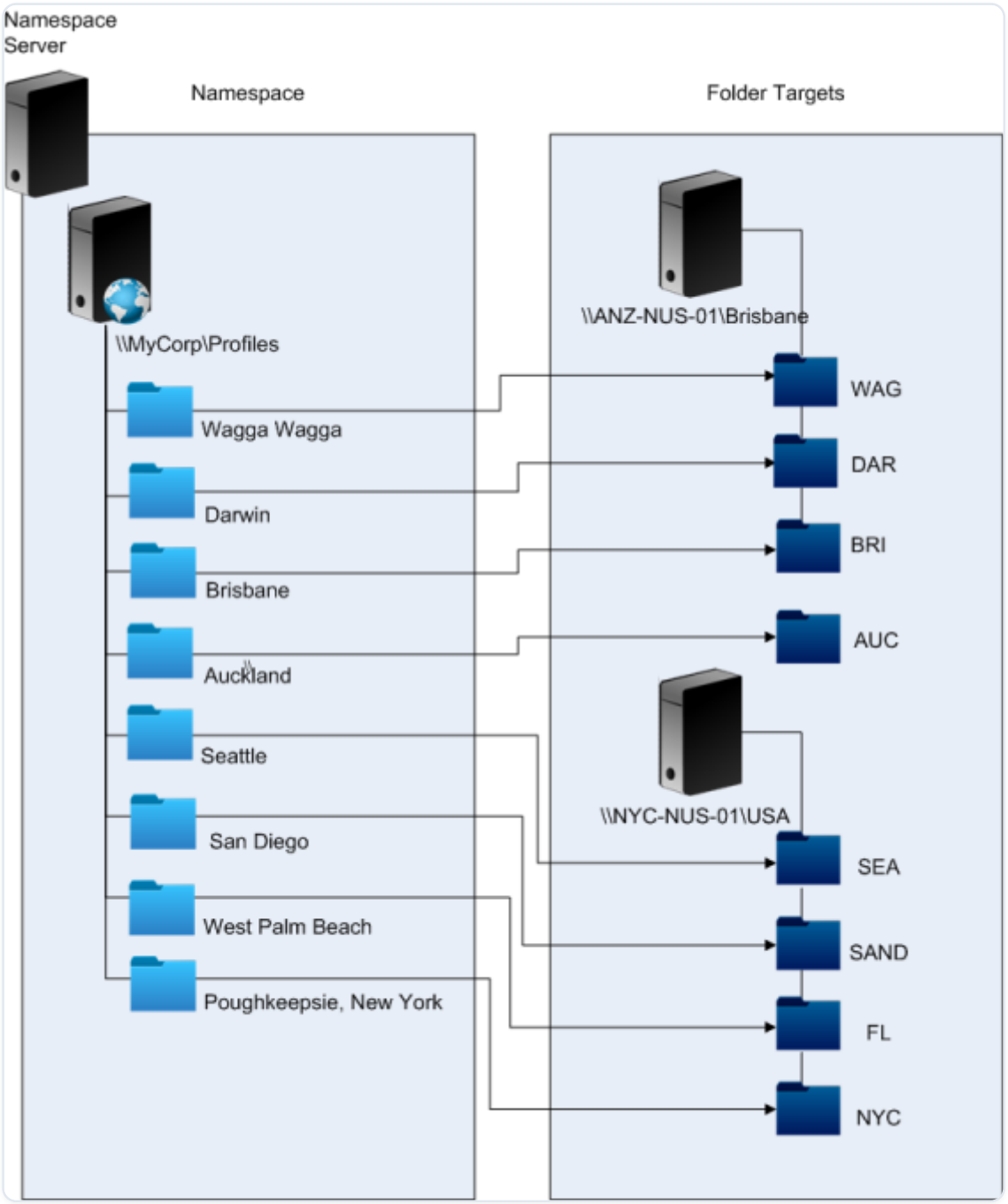
DFS 名前空間は、ブログ記事で提示された問題の一部を解決できます。

`\\MyCorp\Profiles` と呼ばれる NUS の名前空間を設定しましょう。これは名前空間ルートです。ニューヨークとブリスベン (およびその他のサイト) に名前空間サーバーを設定します。各名前空間サーバーには、各 Active Directory の場所に相当するフォルダーがあり、それらはニューヨークまたはブリスベンのサーバー上のターゲットを持っています。

Active Directory (ユーザー レコードの一部) には、次の場所が構成されている場合があります。

AD ロケーション属性 (#L#)	地理的ロケーション
ワガワガ	ANZ
ダーウィン	ANZ
ブリスベン	ANZ
オークランド	ANZ
シアトル	該当なし
サンディエゴ	該当なし
ウェストパームビーチ	該当なし
ポキプシー、ニューヨーク	該当なし

次の図は、DFS 名前空間を使用してこれを設定する1つの方法を示しています。



設定が完了したら、ユーザー ストアへのパス設定を次のように構成します。

`\\MyCorp\Profiles#l#`

8つのサイトに属するユーザーのプロファイルは、シナリオで必要とされる地理的制約を満たすように、わずか2つのサーバーに分散されます。

代替案

名前空間ターゲットを順序付けし、次のように順序付けルールを使用できます。DFS 名前空間が使用するターゲットを解決するときに、ローカルサイトのターゲットのみが選択されるように指

定できます。これは、特定のユーザーについて、すべてのデスクトップとサーバーが同じサイトに属することが保証されている限り機能します。

たとえば、通常ポキプシーを拠点とするユーザーがワガワガを訪れた場合、この手法は失敗します。そのユーザーのラップトッププロファイルはブリスベンから取得されるかもしれませんが、公開されたアプリケーションで使用されるプロファイルはニューヨークから取得されるかもしれません。

推奨される手法であるAD属性を使用すると、ユーザーが開始するすべてのセッションで同じDFS名前空間の選択が行われるようになります。その理由は、#I# がマシンの構成ではなく、ユーザーのAD構成から派生するためです。

オプション2 - フェールオーバークラスタリングを使用したDFS名前空間

参考資料

- 2ノードファイルサーバーフェールオーバークラスターの構成に関するステップバイステップガイドについては、2ノードクラスターファイルサーバーの展開を参照してください。
- 名前空間の種類の選択に関する情報については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/storage/dfs-namespaces/choose-a-namespace-type>`を参照してください。

このオプションの実装

フェールオーバークラスタリングを追加すると、基本的な高可用性を提供できます。

このオプションの重要な点は、ファイルサーバーをフェールオーバークラスターに変換し、フォルダーターゲットが単一のサーバーではなくフェールオーバークラスターでホストされるようにすることです。

名前空間サーバー自体に高可用性が必要な場合は、スタンドアロンの名前空間を選択する必要があります。ドメインベースの名前空間は、名前空間サーバーとしてのフェールオーバークラスターの使用をサポートしていません。フォルダーターゲットは、名前空間サーバーの種類に関係なく、フェールオーバークラスターでホストされる場合があります。

重要: フェールオーバークラスター内のサーバーが失敗した場合、ファイルロックの状態が保持されない可能性があります。Profile Managementは、プロファイル処理中の特定の時点でNUS上のファイルロックを取得します。重要な時点でのフェールオーバーがプロファイルの破損につながる可能性があります。

シナリオ 2 - 複数のフォルダーターゲットとレプリケーション

「ローカルのNUSが利用できない場合、ユーザーが企業ネットワーク上の別のバックアップ場所からプロファイルデータを取得できるようにしたい。変更を行った場合、その変更は、優先NUSが再び利用可能になったときに、そのNUSに戻される必要がある。」

このシナリオにおける基本的な要件は、ネットワーク上のプロファイルの代替場所を提供することです。ユースケースには、ネットワークインフラストラクチャの部分的な障害や、フェールオーバークラスターなどのフォルダーターゲットの完全な利用不能が含まれます。

検討する必要があるオプションは、複数のフォルダーターゲットの使用とDFSレプリケーションの使用です。

オプション 1 - 複数のフォルダーターゲットへのリフェラル

背景情報

DFS名前空間のチューニングに関する情報については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/storage/dfs-namespaces/tuning-dfs-namespaces>`を参照してください。

このオプションについて

リフェラルとは、ユーザーデバイスによって順番に試行されるターゲットの順序付きリストです。これは、ソフトウェアライブラリのようにターゲットが読み取り専用であるシナリオ向けに設計されています。ターゲット間に連携がないため、この手法をプロファイルで使用すると、同期できない複数のプロファイルが作成される可能性があります。

ただし、リフェラル内のターゲットに対して、順序付け方法とターゲット優先度の両方を定義することは可能です。適切な順序付け方法を選択すると、すべてのユーザーセッションによって一貫したターゲットが選択されるように見えます。しかし実際には、ユーザーのすべてのデバイスが同じサイト内にある場合でも、サイト内ルーティングの問題により、異なるセッションによって異なるターゲットが選択される可能性があります。デバイスがリフェラルをキャッシュすると、この問題はさらに複雑になる可能性があります。

重要: このオプションはProfile Managementの展開には適しておらず、サポートされていません。ただし、ファイルレプリケーションは、単一セッションのみが保証され、 アクティブライトバックが無効になっている一部の特殊な展開で使用されてきました。これらの特殊なケースに関する情報については、Citrix Consultingにお問い合わせください。

オプション 2 - 分散ファイルシステムレプリケーション

背景情報

- 分散ファイルシステムレプリケーション (DFSR) の概要については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/storage/dfs-replication/dfsr-overview>`を参照してください。
- レプリケートされたユーザープロファイルデータに関するサポートステートメントについては、`<https://techcommunity.microsoft.com/t5/ask-the-directory-services-team/microsoft-8217-s-support-statement-around-replicated-user/ba-p/398230>`を参照してください。
- DFSRが分散ファイルロックをサポートしない理由を理解するには、`<https://blogs.technet.com/b/askds/archive/2009/02/20/understanding-the-lack-of-distributed-file-locking-in-dfsr.aspx>`を参照してください。

このオプションの実装

DFSレプリケーションは、帯域幅が制限されたネットワーク接続を介したフォルダー同期を提供します。このオプションは、単一の名前空間フォルダー定義が参照する複数のフォルダーターゲットを同期するため、オプション1の問題を解決するように見えます。実際、フォルダーがフォルダー定義のターゲットとして追加されると、それらはレプリケーショングループに属するものとして指定できます。

考慮すべきレプリケーションには2つの形式があります。

- 一方向レプリケーション（アクティブ/パッシブレプリケーションとも呼ばれる）は、重要なデータを安全なリポジトリにバックアップするために設計されています。このレプリケーションは、たとえば災害復旧サイトの維持に適しています。パッシブターゲットがリフェラルのために無効にされ、災害復旧計画がアクティブ化されたときにのみ呼び出される限り、プロファイル管理で機能させることができます。
- 双方向レプリケーション（アクティブ/アクティブレプリケーションとも呼ばれる）は、グローバル共有データへのローカルの読み取り/書き込みアクセスを提供することを目的としています。ここでは、瞬時レプリケーションは必ずしも要件ではありません。共有データは頻繁には変更されない可能性があります。 重要: アクティブ/アクティブDFSRはサポートされていません。

スケジュールは、データがレプリケートされる頻度を定義します。頻繁なスケジュールはCPUと帯域幅の両方でより集中的ですが、瞬時更新を保証するものではありません。

プロファイル管理は、その操作のさまざまな時点で、(共有)ユーザー ストアへの更新を調整するために、NUSで特定のファイルをロックする必要があります。通常、これらの更新はセッションの開始時と終了時、およびアクティブライトバックが有効になっている場合はセッションの途中で行われます。DFSレプリケーションは分散ファイルロックをサポートしていないため、プロファイル管理はNUSとして1つのターゲットしか選択できません。この設定により、双方向レプリケーション（アクティブ/アクティブレプリケーション）の価値は事実上なくなり、したがってプロファイル管理には適しておらず、サポートされていません。一方向レプリケーション（アクティブ/パッシブレプリケーション）は、災害復旧システムの一部としてのみプロファイル管理に適しています。その他の用途はサポートされていません。

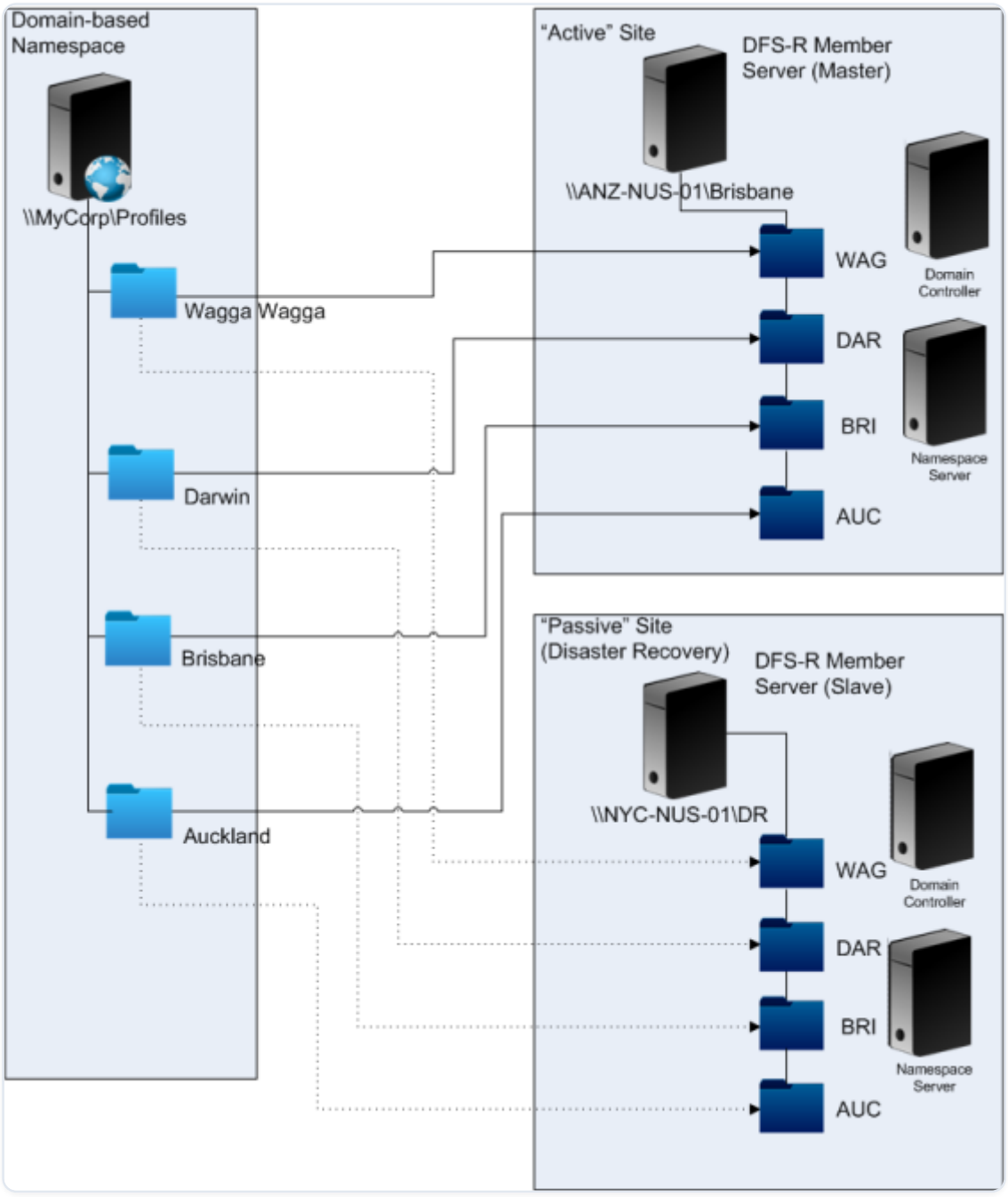
シナリオ 3 - ディザスターリカバリ

「Citrix®ユーザープロファイルを処理するために、完全なディザスターリカバリサイトをどのように設定すればよいですか？」

Profile Managementは、ディザスターリカバリ（DR）に必要な主要機能をサポートしています。

- **DFS名前空間**。このシナリオでは、ドメインベースの名前空間サーバーが推奨されます。これにより、DRサイトが独自の名前空間サーバーを持つことができるためです。（スタンドアロンの名前空間サーバーはレプリケートできませんが、フェールオーバークラスターでホストできます。）
- **複数のフォルダーターゲットとDFSレプリケーション**。各NUSに対して、少なくとも2つのターゲットを提供しますが、通常運用では1つのみを有効にします。無効になっているターゲット（DRサイトにある）が最新の状態に保たれるように、一方向のDFSレプリケーションを設定します。
- **個々のフォルダーターゲットをホストするためのフェールオーバークラスター**。オプション。DRサイトではリソースの無駄になる可能性があります。

この図では、ドメインベースの名前空間がNUSを管理しています。（シナリオ1の図には意図的に名前空間が含まれていませんでした。）DRサイトを含む各サイトに名前空間サーバーを含めることができます。すべてのサーバーは、名前空間の同じビューをサポートします。



DR計画がアクティブ化されると、DRサイトのNUSはマスターNUSからレプリケートされた変更で最新の状態になります。ただし、名前空間サーバーはまだ名前空間の誤ったビューを反映しているため、その構成を更新する必要があります。各フォルダーについて、マスターサイトのフォルダーターゲットを無効にし、DRサイトのフォルダーターゲットを有効にする必要があります。

ADの更新が伝播された後、名前空間サーバーはDRフォルダーターゲットを正しく特定し、DRサイトはProfile Managementによって使用できるようになります。

注記: 「Path to user store」設定は、実際のサーバーではなく名前空間フォルダーを参照するため、Profile Managementの構成を更新する必要はありません。

実際には、DRサイトは通常プロファイルには使用されないため、一方向または双方向のレプリケーションが可能です。災害が終了すると、DRサイトからマスターサイトへの接続により、災害中にNUSに加えられた変更がマスターサイトにレプリケートされます。

シナリオ 4 - 移動ユーザー

「私のスタッフが異なるオフィス間を移動する際、彼らの優先NUSを変更したい。そうすれば、地理的に近いNUSを使い続けることができます。」

このシナリオの難しさは、ユーザーのログオンセッションが複数の場所から集約される可能性があることです。彼らは通常、デスクトップセッションをあるサイトから別のサイトへとローミングします。しかし、彼らのアプリケーションの多くは、ユーザーのデスクトップの現在の場所を認識しないバックエンドサーバーでホストされています。

さらに、ユーザーは、おそらく自宅の場所でホストされている切断されたセッションに再接続する可能性があります。もし何らかの理由でセッションがユーザーの新しい場所にあるNUSに切り替わることを強制された場合、パフォーマンスが低下します。

ホットデスクを利用する出張者にとって、**プロファイルストリーミング**と**常にキャッシュ**の設定を使用することが最良の選択肢です。固定マシンを使用する場合でも、Citrix®ストリーミングユーザープロファイルを使用して迅速にログオンできます。常にキャッシュを有効にすると、プロファイルの残りの部分がバックグラウンドで読み込まれます。

シナリオ 5 - ユーザー ストアの負荷分散

「地理的に隣接する複数のネットワークユーザー ストア (NUS) 間で、ユーザーの負荷分散を行いたい。」

背景情報

Microsoft DFS 名前空間テクノロジーの概要については、DFS 名前空間の概要を参照してください。

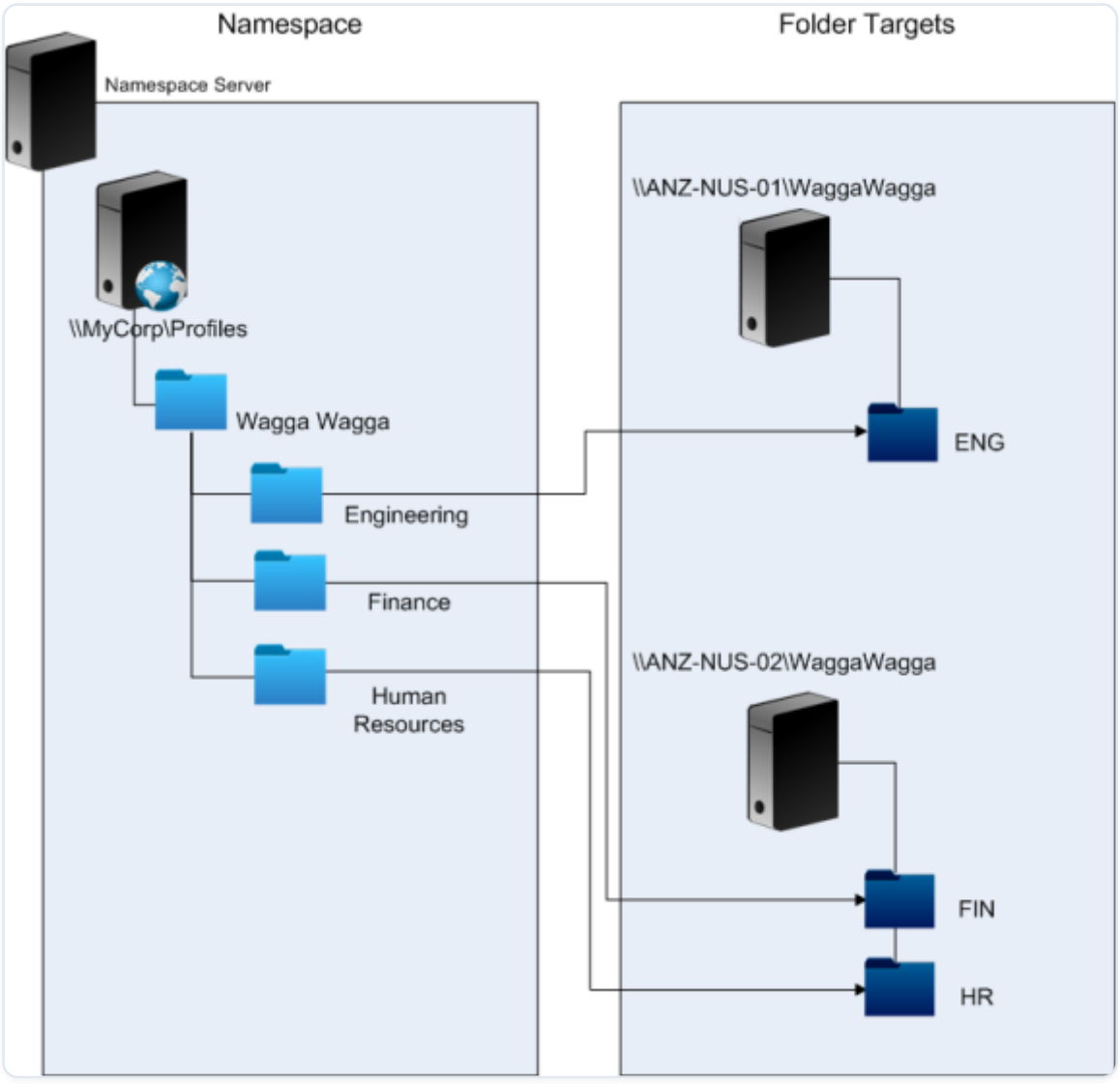
シナリオ 1 とは異なり、このシナリオでは、複数のNUSを必要とするほど大規模な単一サイトがあります。DFS 名前空間を使用することで、シナリオ 1 のソリューションを改善できます。

シナリオ 1 (オプション 1) では、DFS 名前空間を使用して、複数のサイトを同じサーバー上の異なるフォルダーにマッピングしました。同様の手法を使用して、名前空間のサブフォルダーを異なるサーバー上のフォルダーにマッピングできます。

理想的には、ユーザーアカウントを同様のサイズのチャンクに分割するAD属性（例：#department#）が必要です。シナリオ 1 と同様に、#department# は常に定義され、正しいフォルダー名が含まれていることが保証されている必要があります。

シナリオ 1 と同様に、NUS 用の名前空間を `\\MyCorp\Profiles` と設定します。

この図は、名前空間の設定方法を示しています。



セットアップが完了したら、ユーザー ストアへのパス設定を次のように構成します:

`\\MyCorp\Profiles#l##department#`

この構成により、Wagga Wagga のユーザーは、両方ともローカルである 2 つの NUS サーバーに分散されます。

プロファイル管理によるフォルダーリダイレクトの計画

プロファイル管理はフォルダーリダイレクトをサポートしており、その使用が推奨されます。

Active Directory (AD) を使用すると、Application DataやDocumentsなどのフォルダーをネットワーク上の場所に保存（リダイレクト）できます。フォルダーの内容はリダイレクトされた場所に保存され、ユーザープロファイルには含まれないため、プロファイルのサイズが削減されます。ADのバージョンによっては、リダイレクトできるフォルダーとできないフォルダーがあります。さらに、フォルダーリダイレクトを構成することで、強制プロファイルを使用しているユーザーが、プロファイルの使用を制限しながらも、一部の設定、ファイル、その他のデータを保存できるようになります。

一般的なガイドラインとして、ネットワーク帯域幅が許す限り、セッション内で定期的にアクセスされないすべてのユーザーデータに対してフォルダーリダイレクトを有効にすることをお勧めします。

リダイレクト可能なすべてのフォルダーがADでアクセスできるわけではありません。特定のオペレーティングシステムでリダイレクトできるフォルダーは、`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\User Shell Folders`の下のレジストリにあります。

フォルダーリダイレクトに関する重要な情報

フォルダーリダイレクトをプロファイル管理で使用する際の以下の重要な点に注意してください。

- XenDesktop 7では、Citrix Virtual Desktops™ポリシーを使用して、Studioでリダイレクトするフォルダーを指定します。詳細については、Citrix Virtual Desktopsのドキュメントを参照してください。
- フォルダーリダイレクトを正常に構成するには、バージョン1とバージョン2のプロファイル間のフォルダー構造の違いに注意してください。
- フォルダーリダイレクトを使用する際のセキュリティに関する詳細な考慮事項については、SecureおよびMicrosoft TechNet WebサイトのFolder Redirection Overviewの記事を参照してください。
- ユーザーストアは、リダイレクトされたフォルダーに使用される共有とは異なるものとして扱ってください。
- リダイレクトされたフォルダーを除外リストに追加しないでください。

このビデオをご覧ください詳細はこちら**:**

サードパーティのディレクトリ、認証、およびファイルサービス

この記事では、Microsoft が提供するサービス以外のディレクトリ、認証、およびファイルサービスに対するサポートについて説明します。

ディレクトリサービス

重要: Active Directory (AD) は、Profile Management の運用に不可欠です。その他のディレクトリサービスはサポートされていません。これらのサービスには以下が含まれます。

- ノベル eDirectory。
- Windows 2000 Server またはそれ以前のオペレーティングシステム (OS)。Windows 2000 Server は AD をサポートしていますが、必要なレベルではありません。詳細については、「Profile Management でのドメインとフォレストのサポート」を参照してください。Microsoft Windows NT 4.0 は AD より前のものです。
- Samba 4 またはそれ以前。

認証サービス

その他の認証サービスは、ドメイン内で AD と共存できますが、Profile Management ではサポートされていません。その理由は、Profile Management Service と同様に、これらのサービスが winlogon.exe と相互作用し、ユーザーログオンプロセスに問題を引き起こす可能性があるためです。たとえば、Novell の認証サービスは、ユーザーがプリンターやファイル共有などの Novell リソースにアクセスすることを許可しますが、サポートされていません。

ファイルサービス

サードパーティのファイルサービスは、ユーザーストアおよびフォルダーリダイレクト (使用されている Windows オペレーティングシステムでサポートされている場合) に使用できます。ファイルサーバーは、Server Message Block (SMB) または Common Internet File System (CIFS) タイプである必要があり、NTFS ファイルシステムをサポートしている必要があります。これらの理由から、以下がサポートされています。

- ウィンドウズ サーバー 2003 以降
- サンバ 3

重要: Novell ディレクトリに対する認証が必要なため、Novell ファイルサービスはサポートされていません。

複数のプラットフォームでのプロファイルと Profile Management の移行に関するよくある質問

このセクションでは、複数の Windows オペレーティングシステム環境、または単一のオペレーティングシステムの複数のバージョンやビット数でのプロファイルの使用に関する質問と回答を掲載しています。

プロファイルとの互換性の問題を確実に回避するにはどうすればよいですか?

異種環境をサポートする必要性と、ユーザーとそのデバイスを追跡するためのパーソナライズ設定の必要性のバランスを取ります。通常、これら2つのニーズのバランスは、管理者とIT部門のみが決定できます。ユーザープロファイルを次のように調整することで、異なるシステムを管理します。プロファイルがローミングする場合、問題は適切に処理されるか、必要に応じて設定は完全に無視され、まったく追跡されないようにする必要があります。これは、多くのサードパーティ製ソフトウェアソリューションの基礎となります。

トラブルシューティングを最小限に抑えるには、同じデバイス設定（インストールされているアプリケーション、OSバージョンなど）間でプロファイルをローミングするようにしてください。しかし、現代の多くのシナリオでは、これは容易に達成できず、不完全なユーザーエクスペリエンスにつながります。たとえば、ユーザーが複数のオペレーティングシステムを使用しているからといって、お気に入りやマイドキュメントを複製する必要はありません。この場合、管理者はフォルダーリダイレクトを使用することで、ユーザーエクスペリエンスを向上させることができます。このMicrosoft機能の使用は、他のシナリオでも推奨されます。

異なるシステム間でプロファイルを共有できますか?

Citrixでは、プラットフォームごとに1つのベースプロファイルを使用することをお勧めします。これは、オペレーティングシステムごとに1つのプロファイルを使用することと必ずしも同じではありません。この推奨事項の詳細については、「複数のプラットフォームの計画」を参照してください。これにより、互いに機能しない可能性のある設定や、特定のOSに適用されない設定の数が最小限に抑えられます。たとえば、デスクトップの電源設定は、サーバーシナリオやリモートデスクトップサービス（旧ターミナルサービス）が関係するシナリオには適用されません。

プロファイルの数を簡素化および削減しようとし、それらが複数のOSで使用されるようになると、設定の競合のリスクが高まります。システムが同じでない場合、この問題はさらに複雑になります。たとえば、Microsoft Officeのアドインがすべてのデバイスに存在するとは限りません。幸いなことに、特定のデバイスに適用されないこのような設定は、多くの場合無視されます。無視されない場合にサポートの問題が発生します。アドインが存在しない場合、Microsoft Excelは起動に失敗します。

Profile Management は、複数のバージョンまたはプラットフォーム間で設定をどのように有効にしますか?

Citrix®は、複数のベースプロファイル間で共通設定をローミングする機能を提供します。Citrixは、Microsoft Office、Internet Explorer、壁紙などの設定のローミングを可能にします。これらの種類のシナリオをサポートする機能は、アプリケーションがプラットフォーム間の設定のローミングをサポートする程度によって制限されます。次の質問のリンクでは、Microsoftの立場とベストプラクティスについて説明しています。

Microsoftは、プラットフォームとバージョン間でローミングプロファイルをどのようにサポートしていますか?

関連情報については、「ローミングユーザープロファイルの展開」を参照してください。

Office 2007のツールバー設定については、「クイックアクセスツールバーのカスタマイズ」を参照してください。

標準のMicrosoft Windowsプロファイルソリューションが技術的、カスタム、またはビジネス要件を完全に満たさない場合、Profile Management は実行可能なソリューションとなります。

x86プラットフォームとx64プラットフォーム間でプロファイルを共有することは可能ですか?

Windows x86とx64間で1つのプロファイルを共有することは一般的に可能ですが、いくつかの問題が発生する可能性があります。

理由はいくつかあります。例えば、使用ごとのファイル関連付けが `HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Classes` に保存されることがその1つです。非管理者がFirefoxをデフォルトブラウザとして設定した場合、32ビットシステムには以下が保存されます。

`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Classes\FirefoxHTML\shell\open\command` -\> " `C:\Program Files\Mozilla Firefox\firefox.exe` " -requestPending -osint -url "%1"

このパスを含むプロファイルがWindows x64で使用された場合、OSは64ビット版のFirefoxを探しますが、これは存在しません。代わりに、32ビット版が `C:\Program Files (x86)\Mozilla Firefox` にインストールされている可能性があります。これにより、ブラウザが起動しないという結果になります。

逆の場合も同様です。x64プラットフォームで設定されたパスがx86プラットフォームで使用される場合です。

複数のプラットフォームで1つのプロファイルがどのように動作するかをテストしたいのですが、どこから始めればよいですか?

複数のプラットフォームで1つのプロファイルを使用する実験には、テストと検証が重要です。推奨されるアプローチは、プラットフォームごとに1つのプロファイルを持つことです。単一のプロファイルが複数のプラットフォームでどのように動作するかを調べたい場合は、以下の情報が役立つかもしれません。

まず、次の質問に答えることで、何が問題を引き起こす可能性があるかを特定します。このトピックの残りの質問を、問題への対処法や追跡のアイデアとして活用してください。

プラットフォーム間で機能する項目：

- マイドキュメントとお気に入り
- 設定情報（デフォルトを含む）を完全にプロファイル内に保存するアプリケーション

機能しない可能性のある項目：

- ハードコードされたデータ、パスデータなどを保存するアプリケーション
- x64またはx86プラットフォームに固有の設定
- すべてのシステムに存在しないExcelアドインなど、同一ではないアプリケーションのインストール。これらのインストールは、アプリケーションによって異なるあらゆる種類のエラー状態を引き起こす可能性があります

ユーザーがログオンするコンピューターに基づいてプロファイルを割り当てることができますか?

はい。Profile Managementは、ローカルデスクトップ、Citrix Virtual Apps、またはCitrix Virtual Desktops™、あるいはこれらの任意の組み合わせに基づいてプロファイルを適用できます。

適切なProfile Management設定が有効になっている場合、Remote Desktop Services (旧Terminal Services) プロファイルは、ユーザーがターミナルサーバーまたはCitrix Virtual Appsセッションを持っている場合にのみ使用されます。この設定は、ユーザーがRemote Desktop Servicesセッションを介してログオンするときに、既存のプロファイル (Citrixユーザープロファイルを除く) をすべて上書きします。

Windows 7では、GPOコンピューター設定を使用して、ユーザーがログオンするコンピューターに基づいてプロファイルを割り当てることができます。繰り返しになりますが、これはGPに基づいているため、プロファイルの割り当てはGPOが適用されるOUに依存します。

コンピューターに基づくプロファイルの割り当てが望ましいのはなぜですか?

個別のユーザーエクスペリエンスが必要な場合、ユーザーがログオンするコンピューターにプロファイルを割り当てることは有用です。たとえば、管理者は、Remote Desktop Services (旧Terminal Server) セッションで使用されるプロファイルを、デスクトップで使用されるプロファイルとは別に保持することを決定する場合があります。

Profile ManagementはWindowsユーザープロファイルをCitrixユーザープロファイルに移行しますか?

Profile Managementを構成して、ユーザーがログオンするときに既存のローミングプロファイルとローカルプロファイルを自動的に移行できます。また、テンプレートプロファイルまたはデフォルトのWindowsプロファイルを新しいCitrixユーザープロファイルのベースとして使用することもできます。

Profile Managementの移行の計画と設定については、プロファイルの移行または作成を参照してください。ソフトウェアがWindowsユーザープロファイルをCitrixユーザープロファイルに移行する方法の詳細については、ログオン図を参照してください。

どのプロファイルをCitrixユーザープロファイルに移行できますか?

Profile Managementは、Windowsローカルプロファイルと Windowsローミングプロファイルを移行できます。必須プロファイル (.manファイル) はProfile Managementによって無視されますが、Citrixユーザープロファイルのテンプレートとして使用できます。Profile Managementが正しく機能するように、すべてのユーザーへの必須プロファイルの割り当てを無効にしてください。

既存のWindows必須プロファイルをテンプレートとして使用するには、テンプレートまたは必須プロファイルの指定を参照してください。

テンプレートプロファイルを使用するにはどうすればよいですか?

Profile Managementでは、新しいCitrixユーザープロファイル作成のベースとして使用されるテンプレートプロファイルを指定できます。通常、初めてプロファイルを割り当てられたユーザーは、ログオンするWindowsデバイスのデフォルトユーザープロファイルを受け取ります。これは許容されるかもしれませんが、異なるデバイスのデフォルトユーザープロファイルにばらつきがあると、ユーザーのために作成されるベースプロファイルに違いが生じることを意味します。したがって、テンプレートプロファイル機能をグローバルなデフォルトユーザープロファイルと見なすことができます。

ユーザーがプロファイルデータに変更を加えるのを防ぎたい場合は、テンプレートプロファイルをCitrix必須プロファイルとして識別することもできます。

詳細については、「テンプレートまたは必須プロファイルの指定」(/ja-jp/profile-management/2311/configure/template.html)を参照してください。

インストールとセットアップ

インストールパッケージをダウンロードする

開始する前に、有効なCitrix®アカウントを持っていることを確認してください。

ダウンロードを完了するには、次の手順に従ってください。

1. Citrix Virtual Apps and Desktopsダウンロードページにアクセスします。
2. ダウンロードしたいバージョン（例：2206）を見つけて展開し、**「制限付きダウンロードにアクセスするためにサインイン」**をクリックします。
3. Citrixアカウントの資格情報でサインインします。
4. **「Citrix Virtual Apps and Desktops™ 7 `<Version_Number>` > 製品ソフトウェア > Citrix Virtual Apps and Desktops 7 `<Version_Number>`, All Editions」**を選択します。
5. **「製品ISOに含まれるが個別にパッケージ化されているコンポーネント」**ノードを展開し、**「Profile Management」**サブノードで**「ファイルのダウンロード」**をクリックします。
6. 表示される**「ダウンロード契約」**ダイアログボックスで、ダウンロードを開始するために契約に同意します。

   ダウンロードが完了すると、`ProfileMgmt_<version_number>.zip`ファイル（例：ProfileMgmt_2206.zip）がダウンロードフォルダーに表示されます。

ダウンロードに含まれるファイル

ダウンロードしたパッケージを解凍します。パッケージに含まれるファイルについては、次の表を参照してください。

ファイル名	説明	場所
x86.msi	32ビットシステム用インストーラー	
x64.msi	64ビットシステム用インストーラー	

ファイル名	説明	場所
CitrixBase.adml および CitrixBase.admx	プロファイル管理ポリシー階層用ADMXテンプレートファイル	`\Group Policy Templates\CitrixBase`
ctxprofile.adml および ctxprofile.admx	プロファイル管理ポリシー設定用ADMXテンプレートファイル	`\Group Policy Templates\<language>` (例: `\Group Policy Templates\en`)

Profile Management のインストール

Profile Management は、VDA インストーラーのオプションコンポーネントです。VDA と一緒に、または個別にインストールできます。この記事では、Profile Management 独自のインストーラーを使用して Profile Management をインストールする方法について説明します。

VDA と一緒に Profile Management をインストールする方法の詳細については、Citrix Virtual Apps and Desktops ドキュメントの VDA のインストール を参照してください。

概要

ユーザープロファイルを管理する各コンピューターに Profile Management をインストールする必要があります。通常、配布ツール、イメージングソリューション、またはストリーミングテクノロジーを使用して、コンピューター上で MSI インストーラーを実行します。任意のコンピューターに直接インストールすることもできます。サイレントインストールがサポートされています。

一般的なインストール手順は次のとおりです。

1. MSI インストーラーを実行する。
2. Group Policy を使用して Profile Management を構成するには、ADMX テンプレートファイルを Group Policy に追加します。

> **注:**
>
> すべてのユーザーコンピューターに同じバージョンの Profile Management をインストールすることをお勧めします。また、同じバージョンの ADMX テンプレートファイルを Group Policy に追加してください。このアプローチにより、異なるユーザープロファイルストア構

> 造（異なるバージョンからのもの）が存在する場合に発生する可能性のあるプロファイルデータの破損を防ぐことができます。

MSI インストーラーを実行する

この手順では、Profile Management を単一のコンピューターにインストールします。

1. 管理者としてコンピューターにログオンします。
2. インストールパッケージ のルートフォルダーにある MSI インストーラーを実行します。インストールウィザードが表示されます。
3. 画面の指示に従ってインストールを完了します。
4. コンピューターを再起動します。

DLL やその他のファイルに加えて、インストーラーはインストール場所にこれらのファイルを作成します（デフォルトでは `C:\Program Files\Citrix\User Profile Manager`）。

ファイル名	説明
UPMPolicyDefaults_all.ini	Profile Management .iniファイル
UserProfileManager.exe	Profile Managementによって管理されるコンピューター上で機能を実行するWindowsサービス

コマンドラインからMSIインストーラーを実行する

コマンドラインからMSIインストーラーを実行すると、ユーザーの操作なしでインストールを完了できます。

コマンドラインインストールでは、以下のインストールオプションも提供されます。

- `/norestart`オプションを使用して再起動を抑制します。

  オペレーティングシステムによっては、コンピューターが再起動するまでProfile Managementが機能しない場合があります。たとえば、Windows 7ワークステーションを再起動する必要はありません。
- 必要に応じて`INSTALLDIR`を指定します。
- Profile Managementの.iniファイルのインストールを防止するには、`INSTALLPOLICYINIFILES`を`no`に設定します。

以前のバージョンで.iniファイルを使用しており、その以前の設定をこのバージョンで使用したい場合は、インストール後に各設定をGroup Policy Editorの対応するProfile Managementポリシーに手動で転送してください。

- アップグレードには`OVERWRITEINIFILES=yes`オプションを使用します。詳細については、「Profile Managementのアップグレード」を参照してください。

次の例では、ユーザーインターフェイスを表示せず、再起動なしでProfile Managementをインストールします。UACが有効になっている場合は、昇格された特権で`msiexec`コマンドを実行します。たとえば、管理者として実行しているコマンドプロンプトから実行します。

```
msiexec /i <path to the MSI file> /quiet [/norestart]
[INSTALLDIR=<installation directory>]   [OVERWRITEINIFILES=yes]
[INSTALLPOLICYINIFILES=no]
```

Profile Managementのアンインストール

この手順では、単一のコンピューターからProfile Managementをアンインストールします。開始する前に、コンピューターの管理者であることを確認してください。

1. データ損失を避けるため、すべてのユーザーがログオフしていることを確認してください。
2. プログラムと機能のインストール済みプログラムの一覧から、**Profile Management**を選択し、**アンインストール**をクリックします。
3. **はい**をクリックします。
4. コンピューターを再起動します。

Profile Managementは、サイレントモードでアンインストールすることもできます。

ADMXテンプレートファイルをグループポリシーに追加する

グループポリシーを使用してProfile Managementを構成する方法に応じて、ADMXテンプレートファイルを*ドメインコントローラー*または*コンピューター*に追加します。

- OU内のコンピューターに対してProfile Managementを一元的に構成するには、ADMXテンプレートファイルをすべてのドメインコントローラーに追加します。
- 各コンピューターに対してProfile Managementを個別に構成するには、ADMXテンプレートファイルをそのコンピューターに追加します。

インストールパッケージから以下のファイルをコピーし、ドメインコントローラーまたはコンピューター上の場所に貼り付けます。詳細な手順については、次の表を参照してください。

ファイル名	元 (インストールパッケージ)	先 (ドメインコントローラーまたはコンピューター)
CitrixBase.adml	`\Group Policy Templates\CitrixBase`	`C:\Windows\PolicyDefinitions\<language>` (例: `C:\Windows\PolicyDefinitions\en-US`)
CitrixBase.admx	`\Group Policy Templates\CitrixBase`	`C:\Windows\PolicyDefinitions`
ctxprofile.adml	`\Group Policy Templates\<language>` (例: `\Group Policy Templates\en`)	`C:\Windows\PolicyDefinitions\<language>` (例: `C:\Windows\PolicyDefinitions\en-US`)
ctxprofile.admx	`\Group Policy Templates\<language>` (例: `\Group Policy Templates\en`)	`C:\Windows\PolicyDefinitions`

ADMX テンプレートファイルの詳細については、Microsoft のこちらの記事を参照してください。

GPO を使用して Profile Management ポリシーを構成する

ADMX ファイルをドメインコントローラーに追加したら、以下の手順に従って Profile Management ポリシーを表示および構成します。

1. ドメインコントローラーで、**Active Directory ユーザーとコンピューター**を開きます。Profile Management がインストールされているコンピューターを含む OU を特定します。
2. **グループポリシーの管理**を開き、OU を右クリックして、**このドメインに GPO を作成し、ここにリンクする**を選択し、GPO を作成します。

> **注:**

> GPO にセキュリティフィルターを適用する場合は、認証済みユーザーグループまたはコンピューターグループのいずれかを使用してください。個々のユーザーのみを含むセキュリティグループは使用しないでください。

3. **グループポリシーオブジェクト**から、新しく作成した GPO を右クリックし、**編集**を選択します。グループポリシー管理エディターウィンドウが表示されます。
4. **コンピューターの構成 > 管理用テンプレート... > Citrix コンポーネント > Profile Management**を選択します。すべての Profile Management ポリシーが表示されます。
5. 必要に応じて Profile Management を構成します。

ローカルGPOでプロファイル管理をテストする

プロファイル管理を本番環境に展開する前に、テスト環境をセットアップすることをお勧めします。ドメイングループポリシーオブジェクト（GPO）に設定を転送するための完全にサポートされた簡単な方法は、マシンへのローカルインストールに基づいています。

一般的なワークフローは次のとおりです。

1. マシンにプロファイル管理をインストールします。
2. (/ja-jp/profile-management/2311/plan/configuration.html)に記載されている質問への回答に基づいて、ローカルGPOでプロファイル管理ポリシーを構成します。
3. プロファイル管理を有効にする(/ja-jp/profile-management/2311/configure/enable.html)。
4. ログオンおよびログオフの動作をテストします。
5. 満足のいく結果が得られるまで、ローカルGPO設定を調整します。

概要

マシンが本番OUのメンバーである場合、ローカルGPOを使用してプロファイル管理を安全にテストできます。ローカルGPOポリシーは、OUおよびドメインのポリシーが利用できない場合に有効になります。ローカルGPOを使用する場合は、他の場所（たとえば、ドメインやサイトなど）でプロファイル管理GPOが使用されていないことを確認してください。

ドメインGPOを使用してグループポリシーを構成できない場合、ローカルGPOを長期的なソリューションとして使用できます。ただし、この方法では、次のような複雑さが環境に導入されます。

- 各マシンには、プロファイル管理ADMXファイルがインストールされている必要があります。

- ドメインユーザーは、複数のマシンにアクセスする際に設定を維持できない可能性があります。

> **重要:**

> ローカルGPOを長期的なエンタープライズソリューションとして使用することはお勧めしません。

ユーザーエクスペリエンスをテストする

プロファイルソリューションを実装する際は、ユーザーがさまざまなマシンからリソースにアクセスするときのユーザーエクスペリエンスの相違を最小限に抑える必要があります。

ユーザーのレジストリとファイルは、物理マシン、プロファイル構成、およびオペレーティングシステムによって異なる場合があります。そのため、ユーザーがローミングするマシンのシステムインストール間の違いに対処するようにProfile Managementを構成する必要があります。

そのためには、本番環境を模倣した方法で、ユーザーのリソースへのアクセスを確認します。これらのリソースには、次のものが含まれる場合があります。

- ローカルにインストールされたアプリケーションを持つマシン
- ストリーミングされたアプリケーションまたはローカルにインストールされたアプリケーションを含む仮想デスクトップ
- 仮想アプリサーバーで公開またはストリーミングされた仮想アプリ
- ターミナルサービスクライアント

オペレーティングシステムのバリエーションをテストする

ユーザーは異なるオペレーティングシステムからアプリケーションにアクセスする場合があります。それらの間のバリエーションにより、単一のユーザープロファイル内で競合する設定が作成される可能性があります。

詳細については、「プロファイルバージョン」を参照してください。

ユーザー ストアを作成する

この記事では、組織に最適な方法でユーザー ストアを作成するのに役立ちます。ここにある情報を確認するだけでなく、ユーザー ストアへのパスを可能な限り効率的に構成するようにしてくだ

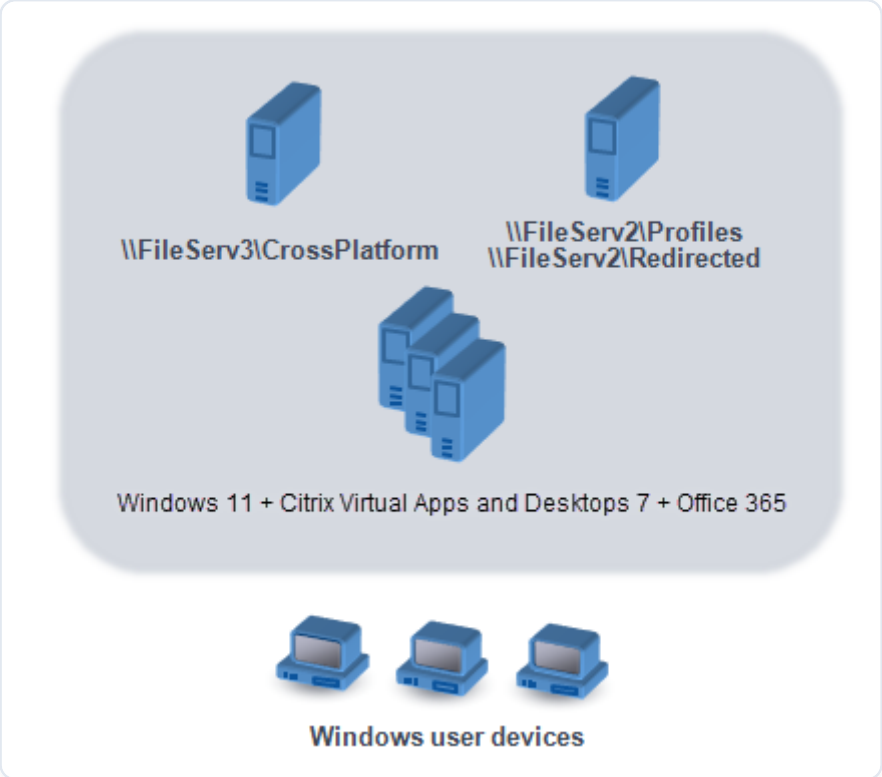
さい。たとえば、変数を適切に使用してパスを構成します。この件に関するアドバイスと例については、「ユーザー ストアへのパスを指定する」を参照してください。

ユーザー ストアは、Citrix® ユーザー プロファイルを保存するための中央のネットワーク ロケーションです。

任意のサーバー メッセージ ブロック (SMB) または共通インターネット ファイル システム (CIFS) ファイル共有をユーザー ストアとして使用できます。ベスト プラクティスは、以下を確実にすることです。

- 共有が、Citrix ユーザー プロファイルで使用されるアカウントからアクセス可能であること。
- 共有が、プロファイル データを保存するのに十分な大きさであること。
- 共有が、ディスクまたはネットワーク障害の場合に堅牢であること。

この図は、リダイレクトされたフォルダー アイテムのストレージ、クロスプラットフォーム設定ストア (別のファイル サーバー上)、および Microsoft Office を実行する Windows 11 仮想デスクトップ (Citrix Virtual Desktops™ で公開) と関連するユーザー ストアの例を示しています。仮想デスクトップにアクセスするユーザー デバイスも参考として示されています。



安全なユーザー ストアの作成に関する推奨事項は、Microsoft TechNet Web サイトの「移動ユーザー プロファイル用のファイル共有を作成する」という記事で入手できます。これらの最小限の推奨事項は、基本的な操作に対して高いレベルのセキュリティを保証します。また、ユーザー ス

トアへのアクセスを構成する際には、Citrix ユーザー プロファイルを変更または削除するために必要な Administrators グループを含めてください。

展開に複数のプラットフォームが含まれる場合は、「複数のプラットフォームの計画」でバージョン 1 およびバージョン 2 のプロファイル タイプに関する情報を確認してください。ユーザー ストアの構造については、「Profile Management のアーキテクチャ」を参照してください。

注： アプリケーションがユーザー プロファイル内のファイルのアクセス制御リスト (ACL) を変更しても、Profile Management はそれらの変更をユーザー ストアにレプリケートしません。この動作は、Windows 移動プロファイルと一貫しています。

このビデオで詳細を確認する**:**



アップグレードと移行

プロファイル管理のアップグレード

この記事では、Active Directory を使用して Profile Management の展開をアップグレードする方法について説明します。

重要: このアップグレードプロセスにおける手順の順序に従うことが重要です。新しい .adm または .admx ファイルをグループポリシーに追加した後にのみ、すべてのコンピューターでソフトウェアをアップグレードしてください。事前にアップグレードすると、ログファイルが2つの場所に保存される可能性があります。一方は古いバージョンのログファイルを含み、もう一方は新しいバージョンのファイルを含みます。この考慮事項は、特に Citrix virtual desktops™ の展開に影響します。

また、スケジュールされたメンテナンス期間中にアップグレードすることも重要です。または、Active Directory のレプリケーションによって変更が展開全体に伝播できるときにアップグレードしてください。通常、アップグレードには最大24時間かかる場合があります。

アップグレードプロセスには以下が含まれます。

1. グループポリシーオブジェクト (GPO) を作成し、新しい .adm または .admx ファイルを新しい GPO に追加する

   \- または -

   この記事の後半で説明するように、既存の .adm または .admx ファイルをアップグレードする。
2. この記事の後半で説明するように、すべてのコンピューターで .msi ファイルをアップグレードする。
3. GPO を適用する。

既存の .adm ファイルをアップグレードするには

以前のバージョンの Profile Management .adm ファイルがグループポリシーに存在する場合、以下の手順を使用してアップグレードできます。アップグレードすると、以前のバージョンのすべてのポリシー設定が保持されます。

1. ドメインコントローラーで、次のいずれかを実行します。

   - 既存の .adm ファイルをインポートします。このファイルは、ダウンロードパッケージ内の GPO_Templates フォルダーにあります。
   - ダウンロードパッケージ内の GPO_Templates フォルダーから .admx ファイルを `C:\Windows\PolicyDefinitions` フォルダーにコピーし、.adml ファイルを `C:\Windows\PolicyDefinitions\<localized` フォルダーにコピーします\>。たとえば、英語のオペレーティングシステムでは、\<localized folder\> は en-US です。

2. Profile Management を構成するために使用するコンピューターで、グループポリシーオブジェクトエディターを開きます。
3. グループポリシーオブジェクトエディターで、**管理用テンプレート**を右クリックし、**テンプレートの追加と削除**を選択します。
4. 既存バージョンの Profile Management .adm ファイル（例: ctxprofile5.4.1）を選択し、**削除**をクリックしてから**閉じる**をクリックします。Administrative Templates\\Citrix フォルダーが削除されます。
5. **管理用テンプレート**を右クリックし、もう一度**テンプレートの追加と削除**を選択します。
6. **追加**をクリックし、新しいバージョンの .adm または .admx ファイルの場所（例: ctxprofile5.5.0）を参照して選択し、**閉じる**をクリックします。新しいファイルがインポートされますが、以前の設定は保持されます。

.msi ファイルをアップグレードするには

すべてのユーザーデバイスに同じバージョンの Profile Management をインストールし、その同じバージョンの .adm または .admx ファイルをすべてのドメインコントローラーの各グループポリシーオブジェクトに追加することをお勧めします。これにより、異なるユーザープロファイルストア構造（異なるバージョンからのもの）が存在する場合に発生する可能性のあるプロファイルデータの破損を防ぐことができます。

新しい設定を有効にする前に、すべてのコンピューターを最新バージョンの Profile Management にアップグレードすることをお勧めします。使用しているバージョンで設定が新しいかどうかを確認するには、「Profile Management ポリシー」を参照してください。

1. アップグレードするコンピューターからすべてのユーザーがログオフしていることを確認します。
2. 各コンピューターで .msi ファイルを実行して、既存のバージョンに新しいバージョンの Profile Management をインストールします。詳しくは、「インストールとセットアップ」を参照してください。

.ini ファイルをアップグレードするには

以前のバージョンの Profile Management で .ini ファイルを編集し、新しいバージョンにアップグレードします。ソフトウェアはファイルが編集されたことを検出し、デフォルトでは上書きしません。既存の .ini ファイル設定を保持し、新しいバージョンの新しい設定を使用するには、次のいずれかを実行する必要があります。

- 新しいバージョンの .ini ファイルから新しい設定を、既存の編集済み .ini ファイルに手動で追加します。
- 既存の編集済みバージョンの .ini ファイルのコピーを保存します。アップグレード中にファイルを強制的に上書きするには、OVERWRITEINIFILES=yes コマンドラインオプションを使用します。保存した設定をアップグレードされた .ini ファイルに追加します。例:

  ```
  msiexec /i <path to the MSI file\> /quiet [INSTALLDIR=<installation directory>] [OVERWRITEINIFILES=yes] [INSTALLPOLICYINIFILES=no]
  ```

注

HDX™ を介して Profile Management ポリシーを構成するには、次の手順を実行する必要があります。

- Delivery Controller をアップグレードします。これは、HDX が XenApp および XenDesktop のレイアウト `image-full\x64\Citrix Desktop Delivery Controller` にある UserProfileManager_PowerShellSnapIn.msi ファイルから Profile Management ポリシー設定を読み取るためです。
- Profile Management の最新バージョンを入手するために、VDA をアップグレードします。

その他のリソース

- Profile Management ポリシー
- インストールとセットアップ

構成

構成の優先順位

プロファイル管理は、グループポリシーと.iniファイルを使用して構成できます。構成設定は次のように適用されます。

1. グループポリシーで定義された設定が優先されます。ポリシー設定が**未構成**に設定されている場合にのみ、.iniファイルが照会されます。

   注： 組織単位内のサイトおよびドメインにグループポリシーオブジェクトを選択的に適用する場合、さらに優先順位が適用されます。「グループポリシー：フィルタリングとアクセス許可」を参照してください。ドメインおよびOUグループポリシーは、ローカルポリシーよりも優先されます。
2. 設定がポリシーによって定義されていない場合、プロファイル管理は.iniファイルから設定を読み取ろうとします。
3. 設定がグループポリシーまたは.iniファイルで構成されていない場合、デフォルト設定が使用されます。

グループポリシーと.iniファイルで同じ設定を異なる方法で構成したい場合があります。たとえば、グループポリシー設定でデフォルトのログ記録をアクティブにする一方で、トラブルシューティングに使用するコンピューターで.iniファイルを使用して詳細なログ記録をアクティブにする場合などです。

プロファイル管理の.iniファイルについて

デフォルト構成

プロファイル管理には、.iniファイルに保存されたデフォルト構成が付属しています。このファイルは、プロファイル管理サービスが認識できるようにインストールフォルダーにある必要があります。デフォルト構成は、ほとんどの環境に適しています。すべてのグループのすべてのユーザーのプロファイルを処理します。

Windows XPまたはWindows Server 2003で実行されている非英語のProfile Management展開がある場合、UPMPolicyDefaults_all.iniを使用して、.iniファイルの適切な言語バージョンを作成する必要があります。このファイルのコピーを言語に合わせて名前を変更し（たとえば、スペイン語の

場合はUPMPolicyDefaults_all_es.ini）、フォルダー名をローカライズします。これらのファイル名を使用します。

- フランス語のオペレーティングシステムの場合、UPMPolicyDefaults_all_fr.ini
- ドイツ語のオペレーティングシステムの場合、UPMPolicyDefaults_all_de.ini
- スペイン語のオペレーティングシステムの場合、UPMPolicyDefaults_all_es.ini
- 日本語のオペレーティングシステムの場合、UPMPolicyDefaults_all_ja.ini
- 簡体字中国語オペレーティングシステムの場合、UPMPolicyDefaults_all_zh-CN.ini

.iniファイルを変更する

.iniファイルにエントリを追加する場合は、変数と値が正しい形式であることを確認してください。

フラグ（オン/オフインジケータ）は次の形式である必要があります。

```
<variable>=<value>
```

1の値は設定を有効にし、その他の値または値がない場合は無効にします。例えば、次のエントリは`ServiceActive`設定を有効にします。

```
ServiceActive=1
```

次のいずれかのエントリは、設定を無効にします。

```
ServiceActive=ON

ServiceActive=OFF

ServiceActive=TRUE

ServiceActive=FALSE

ServiceActive=
```

リストエントリは次の形式である必要があります。

```
<value>=
```

次のエントリは、同期するMicrosoft Officeファイルを指定します。

```
[SyncFileList]

AppData\Local\Microsoft\Office\*.OfficeUI
```

グループポリシー設定の変更は、ターゲットコンピューターで手動または自動のポリシー更新が行われたときに適用されます。.iniファイルへの変更は、推奨されるコマンド **gpupdate /force** を発行したときに適用されます。または、ターゲットコンピューターでProfile Management Serviceを再起動したときに変更が適用されます。

プロファイル管理を有効にする

デフォルトでは、展開を容易にするため、プロファイル管理はログオンまたはログオフを処理しません。他のすべてのセットアップタスクを実行し、Citrix®ユーザープロファイルが環境でどのように機能するかをテストした後でのみ、プロファイル管理を有効にしてください。

グループポリシーを使用してプロファイル管理を有効にするには、次の手順に従います。

1. **グループポリシー管理エディター**を開きます。
2. **コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > プロファイル管理**の下で、**プロファイル管理を有効にする**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。

UPMPolicyDefaults_all.iniファイルを使用してプロファイル管理を有効にすることもできます。そのためには、次の手順に従います。

1. プロファイル管理がインストールされているマシンで、`C:\Program Files\Citrix\User Profile Manager\UPMPolicyDefaults_all.ini` に移動します。
2. UPMPolicyDefaults_all.iniをメモ帳で開きます。
3. 構成を編集して、特定の要件を反映させます。

この設定がグループポリシーで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がグループポリシーまたは.iniファイルのいずれでも構成されていない場合、プロファイル管理はWindowsユーザープロファイルを一切処理しません。

次の方法でプロファイル管理を有効にすることもできます。

- Citrix Studio。Citrix Studioを使用してプロファイル管理を有効にする手順については、Knowledge Centerの記事CTX222893を参照してください。
- Workspace Environment Management (WEM)。WEMを使用してプロファイル管理を有効にする手順については、Knowledge Centerの記事CTX229258を参照してください。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているとおりに、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

このビデオを見て、詳細はこちら:



ユーザー ストアへのパスを指定する

ユーザー ストアへのパスを指定する前に、 プロファイル管理アーキテクチャを参照し、展開に関連する場合は、次の影響を理解してください。

- 多言語プロファイルの保存
- 含める項目と除外する項目の組み合わせ

1. Profile Managementで、「ユーザー ストアへのパス」ポリシーをダブルクリックします。
2. 「有効」を選択し、ユーザー設定（レジストリの変更と同期されたファイル）が保存されるディレクトリ（ユーザー ストア）へのパスを入力します。

パスは次のいずれかです。

- **相対パス**。このパスはホームディレクトリに対する相対パスである必要があります。ホームディレクトリは通常、Active Directory (AD) のユーザーの #homeDirectory# 属性として構成されます。
- **UNCパス**。このパスは通常、サーバー共有またはDFS名前空間を指定します。
- **無効または未構成**。この場合、`\#homeDirectory#\Windows`の値が想定されます。

この設定には、次の種類の変数を使用できます。

- パーセント記号で囲まれたシステム環境変数（例: %ProfVer%）。システム環境変数は通常、追加のセットアップが必要です。詳しくは、(/ja-jp/profile-management/2311/plan/administer.html)を参照してください。
- ハッシュで囲まれたADユーザーオブジェクトの属性（例: #sAMAccountName#）。

- Profile Management変数。詳しくは、(/ja-jp/profile-management/2311/policies/settings.html)を参照してください。

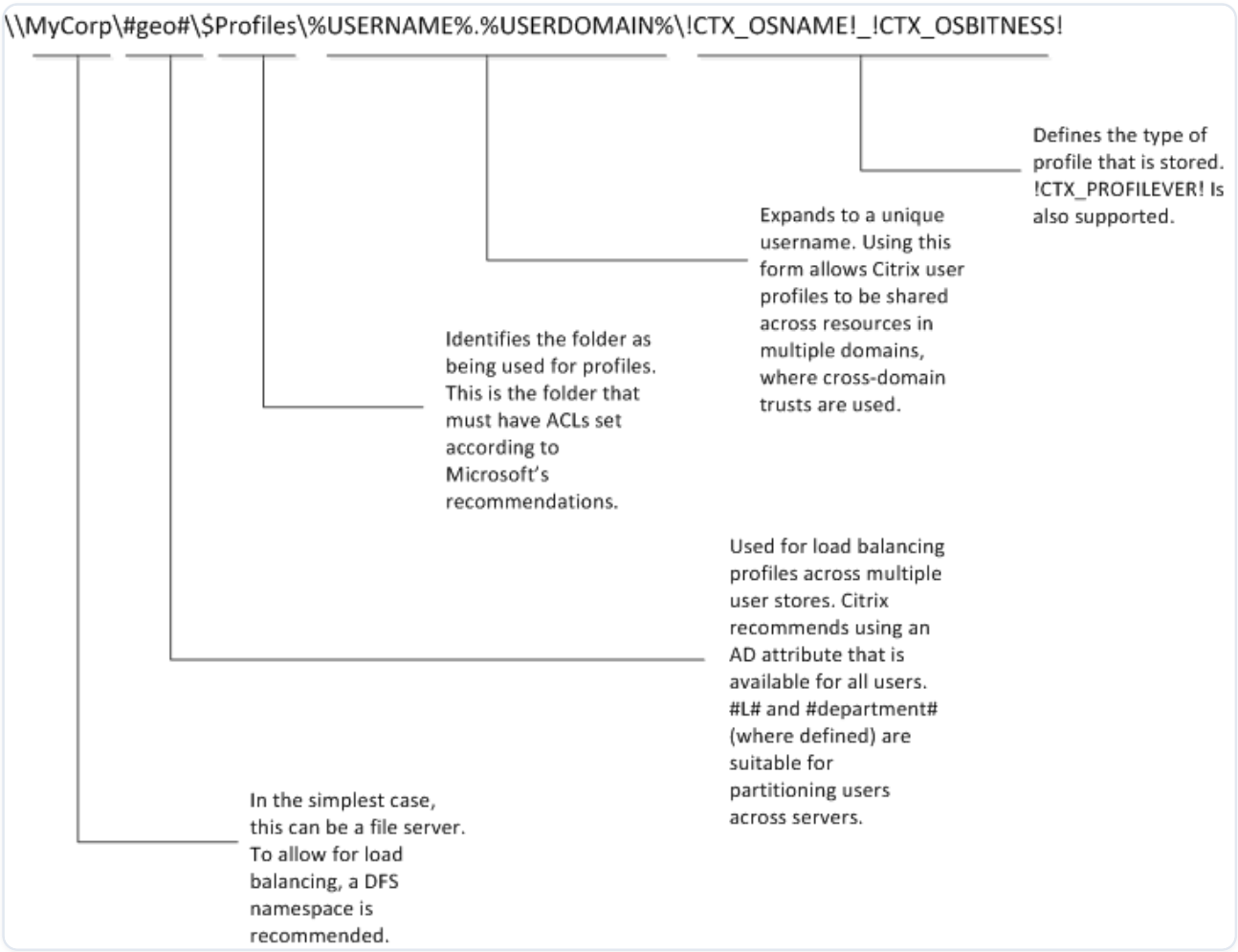
`%username%` と `%userdomain%` を除き、ユーザー環境変数は使用できません。場所やユーザーなどの組織変数を定義するために、カスタムAD属性を作成することもできます。属性では大文字と小文字が区別されます。

例:

- `\\server\share#sAMAccountName#` は、ユーザー設定をUNCパス `\\server\share\JohnSmith` に保存します（現在のユーザーの #sAMAccountName# がJohnSmithに解決される場合）。
- `\\server\profiles$\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\!CTX_OSNAME!!CTX_OSBITNESS!` は `\\server\profiles$\JohnSmith.Finance\Win8x64` に展開される場合があります。

重要: どの属性または変数を使用する場合でも、この設定がNTUSER.DATを含むフォルダーの1つ上のフォルダーに展開されることを確認してください。たとえば、このファイルが `\\server\profiles$\JohnSmith.Finance\Win8x64\UPM_Profile` に含まれている場合、ユーザー ストアへのパスを `\\server\profiles$\JohnSmith.Finance\Win8x64` に設定します（`\UPM_Profile` サブフォルダーではありません）。

この図は、AD属性、環境変数、およびProfile Management変数を組み込んだ、ユーザー ストアへの一般的なパスのコンポーネントを示しています。



ユーザー ストアへのパスを指定する際に変数を使用する方法について詳しくは、次のトピックを参照してください。

- 複数のファイルサーバーでCitrixユーザープロファイルを共有する
- OU内およびOU間でプロファイルを管理する
- Profile Managementによる高可用性と災害復旧

ユーザーストアへのパスが無効になっている場合、ユーザー設定はホームディレクトリのWindowsサブディレクトリに保存されます。

ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの設定が使用されます。ここで、または.iniファイルでこの設定が構成されていない場合、ホームドライブ上のWindowsディレクトリが使用されます。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているとおりに、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

項目を含める/除外する

この記事では、Profile Management がユーザープロファイルから項目を含めたり除外したりするために使用するプロセスについて説明します。ユーザーのログオンおよびログオフエクスペリエンスを向上させるために、デフォルトの包含リストまたは除外リストを変更することを決定した場合は、このプロセスを理解していることを確認してください。この変更が必要かどうかを判断するには、「使用中のアプリケーション」を参照してください。

たとえば、Microsoft Word は高度にカスタマイズ可能で頻繁に使用されるアプリケーションであり、アクセス方法に関わらずローミングユーザーに同じエクスペリエンスを提供する必要があるため、含めることができます。逆に、一部のグループではめったに使用されないエンタープライズアプリケーションは、ログオンおよびログオフのたびにプロファイルデータをダウンロードする必要がないため、除外することができます。

デフォルトでは、ローカルプロファイル内のすべてのファイルとフォルダーはユーザーストアと同期されます。同期したくないファイルやフォルダーは、除外リストに追加することで指定できます。フォルダーを除外した場合でも、同期したいサブフォルダーは包含リストに追加することで指定できます。

含めることができる項目と除外できる項目は次のとおりです。

- プロファイル内に含まれるファイルとフォルダー。
- 個人設定を保存するHKCUハイブ内のレジストリエントリ。HKLMハイブ内のエントリは、デフォルトでは処理されず、そのように構成することもできません。

項目を含める/除外する前に

ユーザープロファイルの内容を調整する前に、組み込みのWindowsパフォーマンス監視（Perfmon）カウンターのセットを使用することを検討してください。これらはプロファイルの動作に関する洞察を提供します。利用可能なカウンターには、プロファイルサイズとローカルコンピューターでCitrix®ユーザープロファイルを作成するのにかかる時間の測定値が含まれます。

プロファイルをローカルにキャッシュするかどうか（Profile Managementを実行するコンピューター上）を決定する必要がある場合があります。この決定に影響する要因には、展開内のCitrix製品、ローカルコンピューター上の利用可能なスペース、および展開内のユーザー数があります。

ファイルとフォルダー

含まれるフォルダー名と除外されるフォルダー名はすべて言語固有です。ただし、ユーザーストア内のフォルダー名は、オペレーティングシステムの言語に依存しない形式です。

オペレーティングシステムによってローカルとして扱われるディスク上のファイルまたはフォルダーを同期できます。ネットワークマップドライブ上のファイルまたはフォルダーを同期することはできません。

レジストリ

既存のユーザーの場合、HKCUハイブ全体がユーザーストアにコピーされます。新規ユーザーの場合、Microsoftローカル、ローミング、デフォルト、またはテンプレートプロファイルのハイブがコピーされます。ユーザーストアに変更が加えられると、包含が追加され、除外がハイブから削除されます。

不要なキーを含むテンプレートプロファイルがある場合は、SepagoのProfile Nurseなどのツールを使用して、ユーザー ストアからそれらを削除します。

除外について

除外はログオン時ではなくログオフ時に処理されます。これらはユーザー ストアからデータを削除するのではなく、新しいデータが書き込まれるのを防ぎます。

デフォルトの除外を除いて、通常、Profile Managementを初めて展開するときに項目を除外する必要はありません。その後、アプリケーションのパフォーマンスを追跡し、ユーザーからフィードバックを収集するにつれて、複数のアプリケーションの設定が競合する場合や、不要な設定を収集した結果、ユーザーのNTUSER.DATファイルが大きくなった場合に、項目を除外する必要があるかもしれません。

リダイレクトされたフォルダーを除外として追加しないでください。

重要: Citrixでは、`AppData\LocalLow`フォルダーを同期から除外することを推奨しています。デフォルト構成では、除外リストにすでに`AppData\LocalLow`が含まれています。さらに、`AppData\Local`フォルダーから部分的なコンテンツを除外することも選択できます。`AppData\LocalLow`または`AppData\Local`を除外しない場合、大量のデータがネットワーク経由で転送され、ユーザーはログオン遅延を経験する可能性があります。これらのフォルダーは、標準のWindowsローミングプロファイルでは同期されません。

含めるルールと除外するルール

Profile Managementがファイル、フォルダー、およびレジストリキーを含めたり除外したりする際に、以下のルールが使用されます。

1. すべての項目はデフォルトで含まれます

2. 同じパスが含める項目と除外する項目の両方として構成されている場合、含める項目が優先されます
3. 同じフォルダー内では、含める項目が除外する項目よりも優先されます
4. フォルダー階層の上位にある除外する項目よりも、含める項目が優先されます
5. フォルダー階層の上位にある含める項目よりも、除外する項目が優先されます

これらのルールにより、合理的で直感的な動作が実現されます。すべての項目はデフォルトで含まれます。この出発点から、最上位の例外を除外として構成し、次に最上位の例外に対するより深い例外を含める項目として構成するといったことができます。

デフォルトの包含と除外

> **注:**
>
> デフォルトの包含と除外は、ファイルベースのプロファイルソリューションにのみ適用されます。

> このトピックでは、Profile Managementが処理に含めるデフォルト項目と、処理から除外するデフォルト項目について説明します。展開内のアプリケーションによっては、追加の（デフォルト以外の）項目が必要になる場合があります。含める、または除外する追加項目を決定するには、「使用中のアプリケーション」を参照してください。

重要：.iniファイルではなくグループポリシーを使用する場合（または、.iniファイルでのテストが成功した後でグループポリシー展開を展開する場合）、インストールされている.iniファイルとは異なり、.admまたは.admxファイルではデフォルトで項目が包含または除外されません。デフォルト項目は手動でファイルに追加する必要があります。これらの項目は、このトピックの表に示されています。以下に注意してください。

- .iniファイルと.admまたは.admxファイルの設定名をマッピングし、Profile Management変数（例：\!ctx_internetcache\!）がどのように展開されるかを理解するには、Profile Managementポリシーを使用します
- .iniファイルから包含と除外を貼り付ける際は、各項目の末尾にある = (等号) を削除してください
- 包含と除外に先頭のバックスラッシュを追加しないでください

レジストリ包含リスト

デフォルト値
<空>

レジストリ除外リスト

デフォルト値
`Software\Microsoft\AppV\Client\Integration=`
`Software\Microsoft\AppV\Client\Publishing=`
`Software\Microsoft\Speech_OneCore=`

注: Microsoft App-V を使用している場合、この除外は正しくなく、 プロファイル管理とApp-Vに記載されているように、異なる除外が必要です。

フォルダー包含リスト

デフォルト値
<空>

プロファイル内のすべてのフォルダーはデフォルトで含まれます。

フォルダー除外リスト

この表のフォルダーは同期から除外されます。

デフォルト値
!ctx_internetcache!=
`\\!ctx_localappdata!\Google\Chrome\User Data\Default\Cache=`
`\\!ctx_localappdata!\Google\Chrome\User Data\Default\Cached Theme Images=`
`\\!ctx_localappdata!\Google\Chrome\User Data\Default\JumpListIcons=`
`\\!ctx_localappdata!\Google\Chrome\User Data\Default\JumpListIconsOld=`

デフォルト値
`\\!ctx_localappdata!\GroupPolicy=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\AppV=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Messenger=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Office\15.0\Lync\Tracing=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\OneNote=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Outlook=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Terminal Server Client=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\UEV=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows Live=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows Live Contacts=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows\Application Shortcuts=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows\Burn=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows\CD Burning=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows\Notifications=`
`\\!ctx_localappdata!\Packages=`
`\\!ctx_localappdata!\Sun=`
`\\!ctx_localappdata!\Windows Live=`
`\\!ctx_localsettings!\Temp=`
`\\!ctx_roamingappdata!\Microsoft\AppV\Client\Catalog=`
`\\!ctx_roamingappdata!\Sun\Java\Deployment\cache=`
`\\!ctx_roamingappdata!\Sun\Java\Deployment\log=`

デフォルト値
`\\!ctx_roamingappdata!\Sun\Java\Deployment\tmp=`
$Recycle.Bin=
`AppData\LocalLow=`
トレース=

ファイルの包含リスト

デフォルト値
空

プロファイル内のすべてのファイルは、デフォルトで含まれます。

ファイルの除外リスト

デフォルト値
空

プロファイル内のファイルは、デフォルトでは除外されません。

項目を含める/除外する

前提条件として、包含と除外の仕組みを理解していることを確認してください。詳細については、「項目を含める/除外する」を参照してください。デフォルトで含まれる項目と除外される項目については、「デフォルトの包含と除外」を参照してください。

項目を含めたり除外したりする際に、複数のエントリを区切るにはEnterキーを使用します。

アイテムを除外するには

1. **Profile Management** \> **Registry** の下で、**Exclusion list** ポリシーをクリックします。
2. **Enabled** を選択します。
3. **Show** をクリックし、ログオフ時にProfile Managementで同期したくない `HKCU` ハイブ内のレジストリキーを追加します。例: `Software\Policies`。

4. **Profile Management** \> **File system** の下で、**Exclusion list - directories** ポリシーをダブルクリックします。
5. **Enabled** を選択します。
6. **Show** をクリックし、Profile Managementで同期したくないフォルダーを追加します。

   次の点に注意してください。

   - ユーザープロファイル (%USERPROFILE%) に対する相対パスを使用してフォルダーを指定し、パスの先頭のバックスラッシュは省略します。
   - プロファイルの場所を特定するには変数 `%USERPROFILE%` を使用しますが、このポリシーに変数自体を入力しないでください。
   - Profile Management 2112以降、フォルダー名でのワイルドカードはサポートされていますが、再帰的には適用されません。

     例:

     - `Desktop`。`Desktop` フォルダーを同期しません。
     - `MyApp\tmp`。`%USERPROFILE%\MyApp\tmp` フォルダーを同期しません。
7. **Profile Management** \> **ファイルシステム** の下で、**除外リスト - ファイル** ポリシーをダブルクリックします。
8. **有効** を選択します。
9. **表示** をクリックし、Profile Management で同期したくないファイルをすべて追加します。

   次の点に注意してください。

   - ユーザープロファイル (%USERPROFILE%) に対する相対パスでファイル名を指定します。このポリシーでは、変数 (%USERPROFILE%) を入力しないでください。
   - ファイル名でのワイルドカードはサポートされており、再帰的に適用されます。Profile Management 7.15 以降では、垂直バー (`|`) を使用して、ポリシーを現在のフォルダーのみに制限できます。
   - Profile Management 2112 以降、フォルダー名でのワイルドカードはサポートされていますが、再帰的には適用されません。

     例:

     - `Desktop\Desktop.ini`。`Desktop` フォルダー内の `Desktop.ini` を無視します。
     - `AppData*.tmp`。`AppData` フォルダーとそのサブフォルダー内の `.tmp` 拡張子を持つすべてのファイルを無視します。

- `AppData*.tmp|`。`AppData` フォルダー内のみの `.tmp` 拡張子を持つすべてのファイルを無視します。
- `Downloads*\a.txt`。`Downloads` フォルダーの直下のサブフォルダー内の `a.txt` を無視します。

除外リスト が無効になっている場合、レジストリキーは除外されません。この設定がここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、レジストリキーは除外されません。

「**除外リスト - ディレクトリ**」が無効になっている場合、フォルダーは除外されません。この設定がここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、フォルダーは除外されません。

「**除外リスト - ファイル**」が無効になっている場合、ファイルは除外されません。この設定がここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、ファイルは除外されません。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` に記載されているとおりに、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

アイテムを含めるには

> **ヒント:**
>
> 特定のトップレベルフォルダーを含めることができます。共同作業環境では、この手順には、重要なフォルダーを他の管理者に通知できるという利点があります。

1. **Profile Management** \> **レジストリ** の下で、**包含リスト** ポリシーをダブルクリックします。
2. **有効** を選択します。
3. **表示** をクリックし、Profile Management がログオフ時に処理するようにする、`HKEY\_CURRENT\_USER` ハイブ内のプロファイル関連のレジストリキーを追加します。例: `Software\Adobe`。
4. **Profile Management** \> **ファイルシステム** \> **同期** の下で、**同期するディレクトリ** ポリシーをダブルクリックします。
5. **有効** を選択します。

6. **表示** をクリックし、除外されたフォルダー内にあるが、Profile Management で同期させたいフォルダーを追加します。例: `Desktop\exclude\include` は、フォルダー `Desktop\exclude` が同期されない場合でも、`include` サブフォルダーが同期されるようにします。

   次の点に注意してください。

   - ユーザープロファイルに対する相対パスを使用してフォルダーを指定します。
   - Profile Management 2112 以降、フォルダー名でのワイルドカードがサポートされていますが、再帰的には適用されません。

7. **Profile Management** \> **ファイルシステム** \> **同期**で、**同期するファイル**ポリシーをダブルクリックします。
8. **有効**を選択します。
9. **表示**をクリックし、除外されたフォルダー内にあるが、Profile Managementで同期したいファイルを追加します。

   次の点に注意してください。

   - ユーザープロファイルに対する相対パスでファイルを指定します。
   - ファイル名でのワイルドカードはサポートされており、再帰的に適用されます。ただし、ワイルドカードをネストすることはできません。Profile Management 7.15以降では、垂直バー (`|`) を使用して、ポリシーを現在のフォルダーのみに制限し、サブフォルダーに適用されないようにすることができます。
   - Profile Management 2112以降では、フォルダー名でのワイルドカードはサポートされていますが、再帰的には適用されません。

     例：

     - `AppData\Local\Microsoft\Office\Access.qat`。デフォルト構成で除外されているフォルダー内のファイルを指定します。
     - `AppData\Local\MyApp*.cfg`。`AppData\Local\MyApp`フォルダーとそのサブフォルダー内の`.cfg`拡張子を持つすべてのファイルを指定します。
     - `Downloads*\a.txt`。`Downloads`フォルダーの直下のサブフォルダー内の`a.txt`を指定します。

   - Profile Managementは、インストールされているシステムとユーザーストアの間で、各ユーザーのプロファイル全体を同期します。このリストにファイルを追加して、ユーザープロファイルにファイルを含める必要はありません。

ここで**インクルージョンリスト**が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、HKEY_CURRENT_USERハイブ全体が処理されます。

ここで**同期するディレクトリ**が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ユーザープロファイル内の除外されていないフォルダーのみが同期されます。この設定を無効にすると、有効にして空のリストを構成した場合と同じ効果があります。

ここで**同期するファイル**が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ユーザープロファイル内の除外されていないファイルのみが同期されます。この設定を無効にすると、有効にして空のリストを構成した場合と同じ効果があります。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` に記載されているとおり、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

ワイルドカードを使用する

ファイルやフォルダーを参照するポリシーでは、疑問符 (`?`) やアスタリスク (`*`) などのDOS形式のワイルドカード文字を使用できます。例としては、ファイルの包含/除外リストやフォルダーの包含/除外リストがあります。疑問符 (`?`) は単一の文字に一致します。アスタリスク (`*`) はゼロ個以上の文字に一致します。

Profile Management 7.15以降では、垂直バー (`|`) を使用して、ポリシーを現在のフォルダーのみに制限できます。

次の点に注意してください。

- ファイル名内のワイルドカードは再帰的に機能しますが、フォルダー名内のワイルドカードは機能しません。ワイルドカードを使用する場合は、有効なパスを指定してください。
- ワイルドカードをサポートするポリシーは、環境変数やActive Directory属性の使用など、他の種類の変数をサポートしません。レジストリエントリを参照するポリシーではワイルドカードを使用できません。

例

ワイルドカード `<path name>\h*.txt` は house.txt、h.txt、house.txt.txt に一致しますが、ah.txt には一致しません。

ワイルドカード `<path name>\a?c.txt` は abc.txt に一致しますが、ac.txt には一致しません。

ワイルドカード `<path name>\a?c*d.txt` は abcd.txt および abccd.txt に一致しますが、acd.txt には一致しません。

プロファイルルートフォルダーでのポリシーの構成:

- `*.txt` は、ルートフォルダーとそのサブフォルダー内の拡張子 .txt を持つすべてのファイルを指定します。
- `*h.txt` は、ルートフォルダーとそのサブフォルダー内でこのワイルドカードに一致するすべてのファイルを指定します。
- `h*.txt` は、ルートフォルダーとそのサブフォルダー内でこのワイルドカードに一致するすべてのファイルを指定します。
- `a?c.txt` は、ルートフォルダーとそのサブフォルダー内でこのワイルドカードに一致するすべてのファイルを指定します。
- `*.txt|` は、ルートフォルダー内の .txt 拡張子を持つすべてのファイルを指定します。

プロファイル以外のルートフォルダーでのポリシーの構成:

- `AppData*.txt` は、AppData フォルダーとそのサブフォルダー内でこのワイルドカードに一致するすべてのファイルを指定します。
- `AppData*h.txt` は、AppData フォルダーとそのサブフォルダー内でこのワイルドカードに一致するすべてのファイルを指定します。

ログオン除外チェックを有効にする

「**ログオン除外チェックを有効にする**」機能は、ユーザーがログオンしたときに、ユーザー ストア内のプロファイルに除外されたファイルとフォルダーが含まれている場合に、Profile Managementが何をするかを制御します。既定では、この機能は無効になっています。

除外されたファイルとフォルダーとは、それぞれ**除外リスト - ファイル**および**除外リスト - ディレクトリ**ポリシーに追加するファイルとフォルダーを指します。ユーザーがログオフすると、Profile Managementは除外されたファイルとフォルダーをユーザー ストアに同期しません。ただし、除外リストに追加する前に、除外されたファイルとフォルダーがユーザー ストアに存在する場合があります。**ログオン除外チェックを有効にする**ポリシーを使用すると、ユーザーがログオンしたときに、Profile Managementにそれらのファイルとフォルダーを無視させるか、ユーザー ストアから削除させることができます。

この機能を使用するには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。

2. **コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > ファイルシステム**で、**ログオン除外チェック**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。
4. ドロップダウンメニューからオプションを選択します。既定では、**除外されたファイルまたはフォルダーを削除する**が選択されています。
5. **OK**をクリックします。

この機能には、次の3つのオプションがあります。

- **除外されたファイルまたはフォルダーを削除する**。ユーザーがログオンしたときに、ユーザーストアから除外されたファイルとフォルダーを削除します。
- **除外されたファイルまたはフォルダーを無視する**。ユーザーがログオンしたときに、ユーザーストアから除外されたファイルとフォルダーを無視します。
- **除外されたファイルまたはフォルダーを同期する**。ユーザーがログオンしたときに、ユーザーストアからローカルプロファイルに除外されたファイルとフォルダーを同期します。

> **警告:**
>
> **除外されたファイルまたはフォルダーを削除する**を選択すると、Profile Managementはユーザー ストアから除外されたファイルとフォルダーを完全に削除します。除外されたファイルとフォルダーを再度含めても、ログオン時にProfile Managementはキャッシュされたローカルプロファイルからそれらを削除します。

> 変更を有効にするには、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。ログオフして、再度ログオンします。詳しくは、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` を参照してください。

.ini ファイルを使用してログオン除外チェックを有効にするには、次の手順を実行します。

1. Profile Management の .ini ファイルを開きます。
2. セクションに EnableLogonExclusionCheck アイテムを追加します。
3. EnableLogonExclusionCheck アイテムの値を次のように設定します。
    - ユーザーストアから除外リストで指定された除外ファイルとフォルダーを無視するには、値を 1 に設定します。例: EnableLogonExclusionCheck=1。

- ユーザーストアから除外リストで指定された除外ファイルとフォルダーを削除するには、値を 2 に設定します。例: EnableLogonExclusionCheck=2。
- チェックを無効にするには、値を 0 に設定します。例: EnableLogonExclusionCheck=0。

4. Profile Management の .ini ファイルを保存して閉じます。
5. `gpupdate /force` コマンドを実行して、変更を有効にします。

構成の優先順位:

1. この設定がグループポリシーオブジェクト (GPO) で構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。
2. この設定が GPO と .ini ファイルのどちらでも構成されていない場合、ポリシーは無効になります。

ユーザープロファイルのストリーミング

デフォルトでは、Citrix Profile Management は、ユーザーがログオンするときに、ユーザープロファイル全体をユーザー ストアからローカル コンピューターにフェッチします。ユーザープロファイル内の大きなファイルは、ログオンの遅延を引き起こす可能性があります。ユーザーのログオン エクスペリエンスを向上させるには、プロファイル ストリーミング機能を有効にできます。

この機能を有効にすると、Profile Management は、ログオン後にアクセスされた場合にのみプロファイル ファイルとフォルダーをフェッチします。

> **注:**
>
> ユーザープロファイルには、ファイル、フォルダー、およびレジストリ エントリが含まれます。この機能はファイルとフォルダーに適用されますが、レジストリ エントリには適用されません。レジストリ エントリは常にユーザーログオン時にフェッチされます。

プロファイル ストリーミング機能を有効にする

次のポリシーを使用して、プロファイル ストリーミング機能を有効にします。

- **プロファイル ストリーミング。** このポリシーを有効にすると、ユーザーがアクセスしたときにプロファイル *ファイル* がローカル コンピューターにフェッチされます。

- **フォルダーのプロファイル ストリーミングを有効にする。** このポリシーを有効にすると、ユーザーがアクセスしたときにプロファイル *フォルダー* がローカル コンピューターにフェッチされます。

ポリシーを有効にするには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > ストリーミングされたユーザープロファイル** にアクセスします。
3. **プロファイル ストリーミング** をダブルクリックします。**有効** を選択し、**OK** をクリックします。
4. **フォルダーのプロファイル ストリーミングを有効にする** をダブルクリックします。**有効** を選択し、**OK** をクリックします。

プロファイル ストリーミングの機能強化を有効にする

プロファイル ストリーミング機能を有効にした後、必要に応じてさまざまな機能強化を適用できます。

例1: ユーザーから、大きなプロファイルファイルの読み込みが遅いという報告がありました。この場合、**常にキャッシュ**ポリシーを有効にし、大きなファイルの最小サイズを指定します。Profile Managementは、そのサイズより大きいファイルをユーザーログオン*中に*ローカルプロファイルにキャッシュします。

例2: 組織内で、ユーザーが特定のプロファイルフォルダーに頻繁にアクセスします。そのため、プロファイルストリーミングが有効になっている場合でも、ユーザーログオン時にそれらのフォルダーをローカルプロファイルにフェッチしたいと考えています。この目標を達成するには、**プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ**ポリシーを有効にし、プロファイルストリーミングからフォルダーを除外します。

必要に応じて、機能強化を有効にします。詳細な手順は次のとおりです。

1. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > ストリーミングユーザープロファイル**にアクセスします。
2. 大きなファイルの読み込み時間を短縮するには、Profile Managementがログオン*中に*大きなファイルをローカルプロファイルにキャッシュするように有効にします。詳細な手順は次のとおりです。

    a. **常にキャッシュ**をダブルクリックします。

    b. 「**Enabled**」を選択します。

c. キャッシュするプロファイルファイルのサイズの下限 (MB) を設定します。プロファイル全体をキャッシュするには、制限をゼロに設定します。

注:

- 制限を超えるファイルは、Profile Managementがユーザーログオン*中に*バックエンド処理スレッドを開始するとすぐに、ローカルプロファイルにキャッシュされます。
- 制限を下回るファイルは、ユーザーがアクセスしたときにローカルプロファイルにフェッチされます。

d. **OK**をクリックします。

3. ドメイン内の特定のユーザーグループにのみプロファイルストリーミングを適用するには、次の手順に従います。

a. **ストリーミングユーザープロファイルグループ**をダブルクリックします。

b. 「**Enabled**」を選択します。

c. ユーザーグループのリストを入力します。エントリを区切るには、`Enter`を押します。

d. **OK**をクリックします。

注: デフォルトでは、このポリシーは無効になっており、プロファイルストリーミングはドメイン内のすべてのユーザーグループに適用されます。

4. プロファイルストリーミングから特定のプロファイルフォルダーとファイルを除外するには、次の手順に従います。

a. **プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ**ポリシーをダブルクリックします。

b. 「**Enabled**」を選択します。

c. 「**表示**」をクリックします。

d. Profile Managementでストリーミングしたくないフォルダーを追加します。詳しくは、この記事の後半にあるプロファイルストリーミングの除外を有効にするを参照してください。

5. 同じユーザーの同時セッションで最適なログオンエクスペリエンスを確保するには、次の手順に従います。

a. 「**保留領域のプロファイルストリーミングを有効にする**」をダブルクリックします。

b. 「**Enabled**」を選択します。

c. 「**OK**」をクリックします。 詳しくは、この記事の後半にある保留領域のプロファイルストリーミングを参照してください。

変更を有効にするには、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。詳しくは、`<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb490983.aspx>`を参照してください。

構成の優先順位

「**ストリーミングユーザープロファイル**」の各ポリシーの構成の優先順位は次のとおりです。

- GPOまたは.iniファイルで**プロファイルストリーミング**が構成されていない場合、**プロファイルストリーミング**は無効になります。
- GPOで**常にキャッシュ**が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここまたは.iniファイルで構成されていない場合、無効になります。
- **ストリーミングユーザープロファイルグループ**が無効になっている場合、すべてのユーザーグループが処理されます。この設定がGPOで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がGPOまたは.iniファイルで構成されていない場合、すべてのユーザーが処理されます。
- GPOまたは.iniファイルで**フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする**が構成されていない場合、フォルダーのプロファイルストリーミングは無効になります。
- GPOまたは.iniファイルで**プロファイルストリーミングの除外を有効にする**が構成されていない場合、すべてのフォルダーがストリーミングされます。
- GPOまたは.iniファイルで**保留領域のプロファイルストリーミングを有効にする**が構成されていない場合、保留領域のプロファイルストリーミングは無効になります。

プロファイルストリーミング除外を有効にする

プロファイルストリーミングの除外が有効になっている場合、Profile Managementは除外リスト内のフォルダーをストリーミングしません。ユーザーがログオンすると、除外リスト内のすべてのフォルダーとファイルがユーザーストアからローカルコンピューターにすぐにフェッチされます。

プロファイルストリーミングの除外を有効にするには、次の手順に従います。

1. プロファイル管理で、**ストリーミングされたユーザープロファイル**をダブルクリックします。
2. **プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ**ポリシーをダブルクリックします。
3. 「**Enabled**」を選択します。
4. **表示**をクリックします。

5. Profile Managementでストリーミングしたくないフォルダーを追加します。フォルダー名は、絶対パスとして、またはユーザープロファイルに対する相対パス (`%USERPROFILE%`) として指定できます。その変数を使用してプロファイルの場所を特定しますが、このポリシーに変数自体を入力しないでください。パスの先頭のバックスラッシュは省略してください。

例:

- デスクトップ。デスクトップフォルダーは、ユーザーログオン時にフェッチされます。
- `MyApp\tmp` 。 `%USERPROFILE%\MyApp\tmp` フォルダーは、ユーザーログオン時にフェッチされます。

この設定がここで構成されていない場合、.iniファイル内の次のフォルダーはデフォルトで除外されます。

- `AppData\Local\Microsoft\Credentials`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\Credentials`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\Crypto`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\Protect`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\SystemCertificates`

注:

- このポリシーは、プロファイルストリーミングが有効になっている場合にのみ適用されます。
- このポリシーは、ワイルドカード `*` および `?` をサポートしていません。
- エントリを区切るには、 `Enter` と入力します。
- プロファイルストリーミング除外リストを手動で編集する場合は、ログオンがハングするのを避けるために、前述のデフォルトで除外されているフォルダーを追加する必要があります。

保留領域のプロファイルストリーミング

Profile Managementは、保留領域を使用して、同じユーザーの同時セッションで変更されたプロファイルファイルとフォルダーを一時的に保存します。デフォルトでは、この領域はプロファイルストリーミング機能の例外です。この機能が有効になっている場合でも、ユーザーがログオンすると、この領域のファイルとフォルダーはローカルプロファイルにフェッチされます。

同じユーザーの同時セッションで最適なログオンエクスペリエンスを確保するには、プロファイルストリーミング機能の強化として、**保留領域のプロファイルストリーミングを有効にする**機能を有効にします。このポリシーを有効にすると、Profile Managementは、ユーザーがログオン時で

はなく、アクセス時に保留領域のファイルとフォルダーをローカルプロファイルにフェッチします。その領域に大きなファイルがある場合、ユーザーのログオン時間が大幅に短縮されます。

ユーザーストアのレプリケート

ユーザーストアのレプリケートポリシーを使用すると、ユーザーのログオンおよびログオフごとにユーザーストアを複数のパスにレプリケートできます。これにより、プロファイルの冗長性が提供され、ユーザープロファイルの可用性が高まります。

注：

- この機能は、ファイルベースとコンテナベースの両方のプロファイルソリューションに適用されます。
- レプリケートされたプロファイルコンテナは、ユーザーログオンのプロファイル冗長性を提供しますが、セッション内フェールオーバーには対応していません。
- このポリシーを有効にすると、システムI/Oが増加し、ログオフが長くなる可能性があります。

仕組み

ユーザーストアへのパスポリシーを使用して構成されたユーザーストアに加えて、**ユーザーストアのレプリケート**ポリシーを使用してさらにユーザーストアを構成できます。環境に複数のユーザーストアが展開および構成されている場合、Profile Managementは次のように動作します。

- ユーザーの*ログオン*中に、Profile Managementはユーザーの最新プロファイルを持つユーザーストアを選択します。複数のユーザーストアに最新プロファイルがある場合、デフォルトでは、Profile Managementは最初に構成されたストア（構成順で最も早いもの）を選択します。Profile Managementが最適なアクセスパフォーマンスを持つストアを選択するように有効にすることもできます。詳しくは、「ユーザーストアの選択方法を変更する」を参照してください。
- ユーザーの*ログオフ*中、Profile Management はローカル プロファイルをすべてのユーザー ストアに書き戻します。

レプリケートされたユーザーストアを構成する

プロファイルの冗長性を提供するには、**ユーザーストアへのパス**ポリシーを使用して構成されたユーザーストアに加えて、追加のユーザーストアを設定します。グループポリシーを使用してレプリケートされたユーザーストアを構成するには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Citrixコンポーネント > Profile Management > 詳細設定**にアクセスし、**ユーザーストアのレプリケート**ポリシーをダブルクリックします。
3. ポリシーを**有効**に設定します。
4. 「**ユーザー ストアをレプリケートするパス**」の横にある「**表示**」をクリックします。
5. 「**値**」フィールドに、レプリケートされたユーザー ストアのパスを入力します。他のレプリケートされたユーザー ストアについても、この手順を繰り返します。

   ユーザープロファイルの一部でプロファイルコンテナが有効になっている場合、コンテナベースのプロファイルとファイルベースのプロファイルを異なる場所にレプリケートできます。そのためには、パスをこの形式で入力します: `<path to the replicated file-based profiles>|<path to the replicated container-based profiles>`。例: `\\path_a|\\path_b` は、Profile Managementがファイルベースのプロファイルを `\\path_a` に、コンテナベースのプロファイルを `\\path_b` にレプリケートすることを示します。
6. **OK** をクリックし、もう一度 **OK** をクリックします。

> 「**注：**」:

> セッション中に変更されたファイルとフォルダーをユーザー ストアに同期するには、アクティブライトバックを有効にするポリシーを有効にします。

ユーザー ストアの選択方法を変更する

既定では、複数のユーザー ストアが利用可能な場合、Profile Managementは最新のプロファイルを持つストアを選択します。複数のオプションがある場合は、最も早く構成されたストアを選択します。必要に応じて、Profile Managementが最適なアクセスパフォーマンスを持つストアを選択するように有効にできます。詳細な手順は次のとおりです。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Citrix Components > Profile Management > 詳細設定**にアクセスし、「**ユーザー ストアの選択方法**」ポリシーをダブルクリックします。

3. ポリシーを「**有効**」に設定します。
4. 「**選択方法**」フィールドで、「**アクセスパフォーマンス**」を選択します。構成順序に基づく選択に戻すには、「**構成順序**」を選択します。
    - **構成順序。** Profile Managementは、最初に構成されたストア（構成順序で最も早いもの）を選択します。
    - **アクセスパフォーマンス。** Profile Managementは、最適なアクセスパフォーマンスを持つストアを選択します。
5. 「**OK**」をクリックします。

構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、**構成順序**が使用されます。

> **ヒント:**
>
> ユーザーログオン時のストア選択イベントをトレースするには、マシンで**Windows イベントビューアー**を開き、**Windows ログ > アプリケーション**に移動して、ID **5**の**Citrix Profile Management イベント**のフィルターを適用します。

プロファイルコンテナをセットアップする

> **重要:**
>
> この機能はWindows 7では動作しません。

> ユーザープロファイル内の大きなフォルダーは、ユーザーログオンの遅延を引き起こす可能性があります。ログオンエクスペリエンスを向上させるために、Profile ManagementはVHDXベースのプロファイルソリューションであるプロファイルコンテナを提供します。このソリューションにより、選択したプロファイルフォルダーをVHDXプロファイルディスクに保存できます。ユーザーがログオンすると、VHDXプロファイルディスクがマウントされ、プロファイルフォルダーがすぐに利用可能になります。

プロファイルコンテナを使用すると、次のいずれかの目標を達成できます。

- コンテナベースのプロファイルソリューションをセットアップする: ユーザープロファイル全体をプロファイルコンテナに保存します。
- ファイルベースのプロファイルソリューションのユーザーエクスペリエンスを最適化する: ユーザープロファイルの一部をプロファイルコンテナに保存します。

ワークフロー

プロファイルコンテナを展開するための一般的なワークフローは次のとおりです。

1. (オプション) プロファイルコンテナのストレージ容量とパスをカスタマイズする。
2. ニーズに合わせてプロファイルコンテナを有効にする方法:

   - ユーザープロファイルの一部にプロファイルコンテナを有効にする（ファイルベースのプロファイル最適化ソリューション）
   - ユーザープロファイル全体にプロファイルコンテナを有効にする（コンテナベースのプロファイルソリューション）

   > **注:**
   >
   > コンテナベースのプロファイルソリューションが有効になっている場合、以下のユーザープロファイル（存在する場合）は、初回使用時に自動的にコンテナに移行されます。
   >
   > - ローカルWindowsユーザープロファイル
   > - Citrix®ファイルベースプロファイルソリューションからのユーザープロファイル

3. プロファイルコンテナの肥大化を防ぐには、フォルダーとファイルを除外する。
4. 展開でマルチセッションシナリオが一般的な場合は、必要に応じてプロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする。
5. プロファイルデータが拡張するにつれてプロファイルコンテナが動的にサイズを拡大できるようにするには、プロファイルコンテナのVHD自動拡張を有効にして構成する。
6. ユーザープロファイル内の同一ファイルによって生じるストレージコストを削減するには、ファイル重複排除ポリシーを有効にして構成できます。

   a. プロファイルコンテナから重複排除するファイルを指定する。

   b. (オプション) 重複排除から除外するファイルを指定する。

c. (オプション) プロファイルコンテナから重複排除するファイルの最小サイズを指定する。

7. (オプション) ADユーザーにプロファイルコンテナへの読み取りアクセスを許可する。
8. ユーザープロファイル全体に対してプロファイルコンテナを有効にしている場合（コンテナベースのプロファイルソリューション）、必要に応じて以下のいずれかのポリシーを有効にできます。

   - 高レベルのプロファイル可用性を保証するためにプロファイル冗長性を提供するには、ユーザーストアのレプリケートを有効にします。
   - ローカルコンピューターにユーザープロファイルをキャッシュするには、プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする。
   - プロファイルコンテナへのアクセスを一度に1つのみ許可するには、プロファイルコンテナへの排他的アクセスを有効にする。

     > **注:**
     >
     > プロファイルコンテナーで**プロファイルコンテナーへの排他的アクセスを有効にする**設定が有効になっている場合、**プロファイルコンテナーのマルチセッションライトバックを有効にする**設定は自動的に無効になります。

   - ログオン時にプロファイルコンテナーが利用できない場合にユーザーをログオフするかどうかを指定する。

考慮事項

コンテナーベースのプロファイルソリューションが有効になっている場合、次の考慮事項に注意してください。

- ファイルベースのプロファイルソリューションは自動的に無効になり、以下のポリシーは適用されなくなります。
  - プロファイルストリーミング

    例外：プロファイルストリーミングは、*プロファイルコンテナーのローカルキャッシュを有効にする*ポリシーが有効になっている場合にのみ、プロファイルコンテナーに適用されます。詳細については、「プロファイルコンテナーのローカルキャッシュを有効にする」を参照してください。
  - ファイルシステム

- アクティブライトバック
- ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する

コンテナーベースのプロファイルソリューションに適用されるポリシーを表示するには、「ファイルベースおよびコンテナーベースのソリューションのポリシー」を参照してください。

- Outlook の検索インデックスローミング機能との下位互換性を維持するため、Profile Management は、以下のファイルをそれぞれ保存するために使用される2つの VHDX ディスクを保持します。
  - Outlook 検索インデックスデータベース
  - オフライン Outlook データファイル (`.ost`)

（オプション）プロファイルコンテナーのストレージ容量とパスをカスタマイズする

デフォルトでは、プロファイルコンテナはユーザー ストアに保存され、デフォルトのストレージ容量は50 GBです。

たとえば、ユーザー ストアのパスを次のように構成します。 `\\myprofileserver\profiles$\%username%.%domain%\!ctx_osname!.!ctx_osbitness!`。

プロファイルコンテナは次の場所に保存されます。 `\\myprofileserver\profiles$\%username%.%domain%\!ctx_osname!.!ctx_osbitness!\ProfileContainer\!ctx_osname!`。

プロファイルコンテナのネットワーク上の場所を指定し、デフォルトのストレージ容量を変更できます。詳しくは、「VHDファイルのストレージ容量とパスを指定する」を参照してください。

ユーザープロファイルの一部に対してプロファイルコンテナを有効にする

ユーザー ストアでのログオン時間を短縮するには、プロファイルコンテナ機能を有効にし、サイズの大きいプロファイルフォルダーをプロファイルコンテナに追加します。

> **注：**

> プロファイルコンテナに追加したフォルダーは、ユーザー ストアにも存在します。プロファイルコンテナ機能を有効にすると、Profile Managementはプロファイルコンテナとユーザー ストアの間でフォルダーを同期します。

> プロファイルコンテナ機能を有効にしてから無効にしたとします。一貫性のあるユーザープロファイルを確保するために、Profile Managementはユーザー ストアプロファイルをプロファイルコンテナと同期します。この同期は、ユーザーログオン時に行われます。除外リストにあるフォルダーはユーザー ストアにコピーされません。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **［コンピューターの構成］>［ポリシー］>［管理用テンプレート：ポリシー定義（ADMXファイル）］>［Citrix Components］>［Profile Management］>［Profile container settings］**の順に移動し、**［Profile container］** ポリシーをダブルクリックします。
3. **［有効］** を選択します。
4. **［表示］** をクリックし、ユーザープロファイルへの相対パスの形式でフォルダーを追加します。サイズの大きいキャッシュファイルを含むフォルダーを追加することをお勧めします。たとえば、Citrix Filesコンテンツキャッシュフォルダーをリストに追加します。`AppData\Local\Citrix\Citrix Files\PartCache`。

コンテナベースのプロファイルソリューションを有効にする

コンテナベースのプロファイルソリューションを有効にするには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix Components > Profile Management > プロファイルコンテナー設定**で、**プロファイルコンテナー**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。
4. **表示**をクリックし、プロファイルコンテナーリストにアスタリスク (`*`) を追加します。
5. **OK**をクリックします。

(オプション) フォルダーとファイルを含める/除外する

プロファイルコンテナーが肥大化するのを防ぐため、フォルダーやファイルをプロファイルコンテナーから除外できます。必要に応じて、親フォルダーが除外されている場合でも、フォルダーやファイルを含めることができます。

プロファイルコンテナーからフォルダーを除外する

> **重要:**

> ユーザープロファイル全体に対してプロファイルコンテナーを有効にした場合でも、フォルダーリダイレクト設定は有効です。リダイレクトするフォルダーを**プロファイルコンテナーから除外するフォルダー**リストに入れないでください。そうしないと、フォルダーリダイレクトが機能しません。

1. **Profile Management > プロファイルコンテナー設定**で、**プロファイルコンテナーから除外するフォルダー**ポリシーをダブルクリックします。
2. **有効**を選択します。
3. **表示**をクリックし、ユーザープロファイルへの相対パスの形式で除外するフォルダーを入力します。

   フォルダー名でのワイルドカードはサポートされていますが、再帰的には適用されません。例:

   - `Desktop` は `Desktop` フォルダーを示します。
   - `Downloads*` は `Downloads` フォルダーのすべての直下サブフォルダーを示します。

> **注:**
>
> ユーザープロファイル全体に対してプロファイルコンテナーを有効にする場合（*コンテナーベースのプロファイルソリューション*）、`appdata\local\temp` フォルダーはプロファイルコンテナーから自動的に除外されます。

> 構成の優先順位:

1. 設定が無効になっている場合、フォルダーは除外されません。
2. ここで設定が構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。
3. ここで、または .ini ファイルのいずれでも設定が構成されていない場合、フォルダーは除外されません。

プロファイルコンテナーにフォルダーを含める

除外されたフォルダーのサブフォルダーをプロファイルコンテナーに含めるには、次の手順に従います。

1. **プロファイル管理 > プロファイルコンテナー設定**で、**プロファイルコンテナーに含めるフォルダー**ポリシーをダブルクリックします。

2. **有効**を選択します。
3. **表示**をクリックし、ユーザープロファイルへの相対パスの形式で含めるフォルダーを入力します。

次の点に注意してください。

- このリストのフォルダーは、除外されたフォルダーのサブフォルダーである必要があります。そうでない場合、この設定は機能しません。
- フォルダー名でのワイルドカードはサポートされていますが、再帰的には適用されません。
- ポリシーを有効にし、空のリストを設定することは、設定を無効にすることと同じ効果があります。

構成の優先順位:

1. ここで設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. ここでも.iniファイルでも設定が構成されていない場合、除外リストにないフォルダーはプロファイルコンテナーに含まれます。

プロファイルコンテナーにファイルを含める

プロファイルコンテナーからフォルダーを除外した後、そのフォルダー内のファイルをプロファイルコンテナーに含めることができます。詳細な手順は次のとおりです。

1. **プロファイル管理 > プロファイルコンテナー設定**で、**プロファイルコンテナーに含めるファイル**ポリシーをダブルクリックします。
2. **有効**を選択します。
3. **表示**をクリックし、ユーザープロファイルへの相対パスの形式で含めるファイルを入力します。

次の点に注意してください。

- このリストのファイルは、除外されたフォルダー内にある必要があります。そうでない場合、この設定は機能しません。
- ファイル名内のワイルドカードは再帰的に適用されます。ポリシーを現在のフォルダーのみに制限するには、縦棒 (`|`) を使用します。
- Profile Management 2112以降、フォルダー名でのワイルドカードはサポートされていますが、再帰的には適用されません。

例:

- `Desktop\Desktop.ini` は `Desktop\Desktop.ini` ファイルを示します。
- `AppData*.tmp` は、`AppData` フォルダーとそのサブフォルダー内の `.tmp` 拡張子を持つすべてのファイルを示します。
- `AppData*.tmp|` は、`AppData` フォルダー内のみの `.tmp` 拡張子を持つすべてのファイルを示します。
- `Downloads*\a.txt` は、`Downloads` フォルダーの直下のサブフォルダー内の `a.txt` を示します。

ポリシーを有効にし、空のリストを設定することは、設定を無効にすることと同じ効果があります。

設定の優先順位:

1. ここで設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. ここでも.iniファイルでも設定が構成されていない場合、除外リストにないファイルはプロファイルコンテナに含まれます。

プロファイルコンテナからファイルを除外する

Profile Management 2112以降、プロファイルコンテナからファイルを除外できます。詳細な手順は次のとおりです。

1. **Profile Management > プロファイルコンテナ設定**で、**プロファイルコンテナから除外するファイル**ポリシーをダブルクリックします。
2. **有効**を選択します。
3. **表示**をクリックし、ユーザープロファイルへの相対パスの形式で除外するファイルを入力します。

次の点に注意してください。

- ファイル名内のワイルドカードは再帰的に適用されます。ポリシーを現在のフォルダーのみに制限するには、垂直バー (`|`) を使用します。
- Profile Management 2112以降、フォルダー名内のワイルドカードはサポートされていますが、再帰的には適用されません。

設定の優先順位:

1. 設定が無効になっている場合、ファイルは除外されません。
2. ここで設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここでも.iniファイルでも設定が構成されていない場合、ファイルは除外されません。

(オプション) VHD自動拡張を有効にして構成する

ユーザープロファイルは通常、時間とともに増加します。ストレージ管理を簡素化するために、プロファイルコンテナのVHD自動拡張機能を有効にします。この機能を有効にすると、コンテナの使用率が90%に達したときに、自動的に10 GB拡張され、最大容量は80 GBになります。必要に応じて、これらのデフォルト設定を特定のニーズに合わせてカスタマイズできます。

> **ヒント:**
>
> VHD自動拡張設定をより詳細に制御するには、ユーザーレベルのポリシー設定を使用できます。組織は標準的な自動拡張設定を持つことができますが、特定のユーザーに対しては、より大きな最大容量などの固有の設定を提供することもできます。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. 次の手順でVHD自動拡張を有効にします。
    a. **コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix Components > Profile Management > プロファイルコンテナ設定**に移動します。
    b. **プロファイルコンテナのVHD自動拡張を有効にする**ポリシーをダブルクリックします。
    c. **有効**を選択します。
    d. **OK**をクリックします。
3. プロファイルコンテナが自動拡張をトリガーするデフォルトのストレージ使用率を変更するには、次の手順に従います。
    a. **コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix Components > Profile Management > 詳細設定**に移動します。
    b. **プロファイルコンテナの自動拡張しきい値**ポリシーをダブルクリックします。
    c. **有効**を選択します。
    d. **自動拡張しきい値 (%)** フィールドに、必要に応じてパーセンテージを入力します。
    e. **OK**をクリックします。
4. プロファイルコンテナが自動的に拡張するストレージ容量を変更するには、次の手順に従います。
    a. **コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > 詳細設定**に移動します。

b. **プロファイルコンテナの自動拡張増分**ポリシーをダブルクリックします。

c. **有効**を選択します。

d. **自動拡張増分 (GB)** フィールドに、必要に応じて数値を入力します。デフォルトは 10 (GB) です。

e. **OK**をクリックします。

5. プロファイルコンテナが自動的に拡張できる最大ストレージ容量を変更するには、次の手順に従います。

a. **コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > 詳細設定**に移動します。

b. **プロファイルコンテナの自動拡張制限**ポリシーをダブルクリックします。

c. **有効**を選択します。

d. **自動拡張制限 (GB)** フィールドに、必要に応じて数値を入力します。デフォルトは 80 (GB) です。

e. **OK**をクリックします。

(オプション) プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする

プロファイル管理は、デフォルトでプロファイルコンテナへの同時アクセスをサポートしています。ただし、すべての同時セッションの中で、読み取り/書き込み権限を持ち、プロファイルの変更をコンテナにマージできるのは1つのセッションのみです。

Profile Management が同時アクセスを処理する方法は次のとおりです。

- セッションログオン時:

  読み取り/書き込みセッションが存在するかどうかを確認します。存在する場合、現在のセッションは読み取り専用になります。それ以外の場合は、読み取り/書き込みセッションになります。

- セッションログオフ時:

  a. プロファイルコンテナをマウント解除します。

  b. 現在のセッションが読み取り専用の場合、プロファイルの変更を破棄します。

  c. 他の同時セッションがない場合、読み取り/書き込みセッションのプロファイル変更をプロファイルコンテナにマージします。

マルチセッションライトバックを有効にするには、プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にするポリシーを使用します。

(オプション) プロファイルコンテナへの排他的アクセスを有効にする

デフォルトでは、プロファイルコンテナは同時アクセスを許可します。必要に応じて、**プロファイルコンテナ設定 > VHDコンテナへの排他的アクセスを有効にする** を介して、プロファイルコンテナへの同時アクセスを無効にできます。その結果、プロファイルコンテナは一度に1つのアクセスのみを許可します。

注:

- この設定は、ユーザープロファイル全体に対して有効になっているプロファイルコンテナにのみ適用されます。
- この設定がプロファイルコンテナに対して有効になっている場合、**プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする** 設定は自動的に無効になります。

詳細については、VHDコンテナへの排他的アクセスを有効にするを参照してください。

(オプション) プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする

プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする 機能は、プロファイルコンテナがユーザープロファイル全体に対して有効になっている場合にのみ有効になります。**プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする** ポリシーを有効にすると、ユーザーログオン時に、プロファイルコンテナ内のユーザープロファイルがユーザーのローカルユーザープロファイルにキャッシュされます。

重要:

OneDriveなど、コンテナベースのプロファイルソリューションでのみ動作するアプリケーションは、このポリシーが有効になっている場合、正しく動作しない可能性があります。OneDriveが正しく機能するようにするには、このポリシーを無効にするか、OneDriveコンテナポリシーを有効にしてください。

デフォルトでは、ユーザーログオン時にユーザープロファイル全体がキャッシュされます。ユーザーログオン時間を短縮するには、**プロファイルストリーミング**ポリシーを有効にでき

ます。その結果、ユーザープロファイル内のプロファイルフォルダーは、ログオン後にオンデマンドでキャッシュされます。

(オプション) ログオン時にプロファイルコンテナが利用できない場合にユーザーをログオフするかどうかを指定します

デフォルトでは、ユーザーログオン時にプロファイルコンテナが利用できない場合、ユーザーは一時プロファイルを使用してログオンします。しかし、この動作はセッション中に加えられた変更のデータ損失につながります。代わりに、このような場合にユーザーを強制的にログオフさせるには、**ログオン時にプロファイルコンテナが利用できない場合にユーザーをログオフする**ポリシーを有効にできます。このポリシーが有効になっている場合、ユーザーは「**プロファイルを設定できません: プロファイルコンテナが利用できません。OKをクリックするとログオフされ、このセッション中に行われた変更はすべて失われます。**」というエラーメッセージを受け取ります。このメッセージで**OK**をクリックすると、すぐにログオフされます。必要に応じて、このポリシーを有効にする際にエラーメッセージをカスタマイズすることもできます。

GPOを使用してこのポリシーを有効にするには、次の手順に従います。

1. **プロファイル管理 > プロファイルコンテナ設定**で、**ログオン時にプロファイルコンテナが利用できない場合にユーザーをログオフする**ポリシーをダブルクリックします。
2. **有効**を選択します。
3. **エラーメッセージ**フィールドに、ログオン時にプロファイルコンテナが利用できない場合にユーザーに表示されるメッセージを入力します。空のままにすると、デフォルトのメッセージが表示されます。
4. **OK**をクリックします。

注:

Studioを使用してプロファイル管理ポリシーを構成する場合、**無効**アクションを実行してもこのポリシーを無効にすることはできません。代わりに、無効にするには、ポリシーを編集してその値を**無効**に変更し、ポリシーのチェックボックスをオフにします。

構成の優先順位:

1. ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. ここでも.iniファイルでもこのポリシーが構成されていない場合、設定は無効になります。

(任意) ADユーザーにプロファイルコンテナへの読み取りアクセスを許可する

適用対象: ファイルベースおよびコンテナベースの両方のプロファイルソリューション。

デフォルトでは、プロファイルコンテナはその所有者のみがアクセスできます。ADドメイン内の他のユーザーにアクセスを拡張するには、**プロファイルコンテナにアクセスするユーザーとグループ**ポリシーを有効にできます。Profile Managementは、このポリシーで指定されたユーザーおよびユーザーグループに**読み取りと実行**のアクセス許可を付与します。

詳細な手順は次のとおりです。

1. **Profile Management > プロファイルコンテナ設定**で、**プロファイルコンテナにアクセスするユーザーとグループ**ポリシーをダブルクリックします。
2. **有効**を選択します。
3. **プロファイルコンテナにアクセスするユーザーとグループ**フィールドで、**表示**をクリックし、コンテナへの `Read and Execute` アクセス許可を付与するADユーザーとグループを追加します。ADユーザーまたはグループを識別するには、`domain name\user or group name` 形式またはセキュリティ識別子（SID）を使用します。
4. **OK**をクリックし、もう一度**OK**をクリックします。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの設定が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、プロファイルコンテナはその所有者のみがアクセスできます。

プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする

> **ヒント:**
>
> FSLogix Profile Containerの詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/fslogix/configure-profile-container-tutorial>` を参照してください。Citrix Profile Managementプロファイルコンテナの詳細については、Citrix Profile Managementプロファイルコンテナを参照してください。

概要

FSLogix Profile Container や Citrix Profile Management プロファイルコンテナなどの VHD ベースのプロファイルソリューションは、マルチセッションシナリオでの変更の保存をサポートしていません。1つのセッションのみが（読み取り/書き込みモードで）変更を書き込むことができます。他のセッション（読み取り専用モード）での変更は破棄されます。

しかし、マルチセッションシナリオはCitrix仮想アプリのユースケースで一般的です。これらのユースケースを容易にするために、**プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする**ポリシーを提供しています。このポリシーにより、FSLogix Profile ContainerとCitrix Profile Managementプロファイルコンテナの両方でマルチセッションライトバックを有効にできます。同じユーザーが異なるマシンで複数のセッションを起動した場合、Profile Managementは各セッションで行われた変更をユーザーのプロファイルコンテナに同期して保存します。

ユーザーログオン中、ユーザーのプロファイルコンテナディスクがマウントされ、I/O要求はマウントされたディスクにリダイレクトされます。その後、Profile Managementはユーザーストアからローカルプロファイルに変更を同期します。

ユーザーログオフプロセス中、Profile Managementはセッションで使用されているFSLogix Profile Containerモードによって動作が異なります。

- 読み取り専用モードが使用されている場合、Profile Managementは変更をユーザーストアに書き戻します。
- 読み取り/書き込みモードが使用されている場合、Profile Managementはユーザーストアからの変更をローカルプロファイルに適用します。その後、変更はユーザーのプロファイルコンテナにマージされます。

> **注:**

> FSLogix Profile Containerが使用されている場合、マルチセッションライトバック機能はプロファイルストリーミングと互換性がありません。

> 以下のイベントが変更と見なされます。

- 作成
- 変更
- 削除
- 名前の変更

ライトバック戦略

Profile Management は、変更を適用するために「後勝ち」戦略を使用します。

- ファイル/フォルダーの作成と変更の場合、ファイル/フォルダーの最終書き込み時刻を比較して変更をライトバックします。
- ファイル/フォルダーの削除と名前の変更の場合、変更に関連付けられたタイムスタンプを比較して変更をライトバックします。Profile Management は、変更が発生したときにタイムスタンプをログに記録します。

プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする

マルチセッションライトバック機能を使用するには、**プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする**ポリシーを**有効**に設定します。このポリシーは、デフォルトで**無効**に設定されています。

- FSLogix Profile Container の機能を使用するには、次の手順を実行します。
  - FSLogix プロファイル コンテナ
    - FSLogix Profile Container がインストールされ、有効になっていることを確認します。
    - プロファイルの種類が**読み取り/書き込みプロファイルを試行し、読み取り専用にフォールバックする**に設定されていることを確認します。
  - Citrix プロファイル管理
    - **Profile Management を有効にする**ポリシーを有効に設定します。
    - **ユーザーストアへのパス**ポリシーを有効なパスに設定します。
    - (オプション)「**処理対象グループ**」および「**除外グループ**」ポリシーを設定します。処理するユーザーグループがFSLogixプロファイルコンテナ内のグループと一致していることを確認します。
    - 「**プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする**」ポリシーを「**有効**」に設定します。このポリシーはGPOまたはCitrix Studioで設定できます。手順については、この記事の後半を参照してください。
- Citrix Profile Managementプロファイルコンテナのマルチセッションライトバック機能を使用するには、次の手順を実行します。
  - 「**プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする**」ポリシーを「**有効**」に設定します。
  - Citrix Profile Managementプロファイルコンテナ機能を有効にする。

「**プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする**」ポリシーを有効にするには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. 「**コンピューターの構成**」>「**管理用テンプレート**」>「**Citrixコンポーネント**」>「**Profile Management**」>「**詳細設定**」で、「**プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする**」ポリシーをダブルクリックします。
3. 「**有効**」を選択し、「**OK**」をクリックします。

変更を有効にするには、Profile Managementがインストールされているマシンでコマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。すべてのセッションからログオフし、再度ログオンします。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`を参照してください。

アプリケーションへのアクセスを制御する

アプリケーションアクセス制御機能を使用すると、ルールを使用してアプリケーションへのアクセスを制御できます。この機能により、アプリケーションとイメージの管理を効率化できます。たとえば、異なる部門に同一のマシンを提供しながら、それぞれの固有のアプリケーション要件を満たし、イメージの数を減らすことができます。

この記事では、アプリケーションアクセス制御を有効にし、制御ルールを構成するプロセスについて説明します。また、この機能を使用して仮想環境でのイメージ管理を簡素化する例も示します。

> **注:**
>
> この機能は、Active Directory (AD) 環境と非ドメイン参加 (NDJ) 環境の両方に適用されます。

概要

アプリケーションアクセス制御機能を使用すると、非表示ルールを構成することで、ユーザー、マシン、プロセスからアプリケーションを非表示にできます。

非表示ルールは次の2つの部分で構成されます。

- **非表示にするオブジェクト。** アプリケーションに対して非表示にするファイル、フォルダー、およびレジストリエントリ。

たとえば、アプリケーションを非表示にするには、ファイル、フォルダー、レジストリエントリなど、そのアプリケーションに関連付けられているすべてのオブジェクトを指定する必要があります。

- **割り当て。** アプリケーションを非表示にする対象のユーザー、マシン、およびプロセス。

割り当ての種類

非表示ルールにおける割り当ては、プロセス、ユーザー、マシンの3つのカテゴリに分類されます。具体的な割り当ての種類は次のとおりです。

カテゴリ	種類
プロセス	該当なし
ユーザー	• ADおよびAzure Active Directory (AAD) ユーザー • ADおよびAADユーザーグループ
マシン	• AD、AAD、およびNDJマシン • ADマシンのグループ (組織単位 (OU) にグループ化されているもの) • NDJマシンのグループ (マシンカタログにグループ化されているもの)

注:

- アプリのアクセス制御のコンテキストでは、OUはマシン専用のコンテナとして使用され、ユーザー用ではありません。そのため、OU割り当てでは、OU内のマシンからのみアプリが非表示になり、OU内のユーザーからは非表示になりません。

- NDJマシンは、Citrix®が作成し、電源管理するマシンに限定されます。

隠蔽ルールに複数の割り当てが構成されている場合、以下の考慮事項に注意してください。

- これらの割り当てが同じカテゴリ（例：*ユーザー*Aと*ユーザー* グループ B）である場合、アプリケーションはそれらの割り当てで指定されたすべてのオブジェクト（ユーザー Aとユーザー グループ Bのすべてのユーザー）から隠蔽されます。
- これらの割り当てが異なるカテゴリ（例：*ユーザー*Aと マシン X）である場合、アプリケーションはそれらのすべての割り当てで指定された条件が満たされたとき（ユーザー Aがマシン Xにサインインしたとき）に隠蔽されます。
- これらの割り当てが *プロセス* カテゴリである場合、アプリケーションはそれらの割り当てで指定されたすべてのプロセスから隠蔽されます。

注:

ルールに割り当てが構成されていない場合、ルールで指定されたアプリケーションは隠蔽されます。

ワークフロー

アプリケーションアクセス制御機能を使用すると、Profile Managementは、提供されたルールに基づいて、ユーザー、マシン、およびプロセスからアプリケーションを隠蔽できます。大まかに言えば、アプリケーションアクセス制御を実装するワークフローは次のとおりです。

1. 隠蔽ルールを作成および生成します。使用できるツールは2つあります。
    - GUIベースのツール – WEM Tool Hub > アプリケーションアクセス制御用ルールジェネレーター
    - PowerShellツール – Profile Managementインストールパッケージに含まれています。詳細については、「Rule Generator を使用してルールを作成、管理、展開する」を参照してください。
2. GPOを使用して、環境内のマシンに隠蔽ルールを適用します。詳細については、「GPO を使用してアプリケーションアクセス制御を有効にする」を参照してください。

Rule Generator を使用してルールを作成、管理、展開する

このセクションでは、PowerShellベースのRule Generatorを使用してルールを作成、管理、展開する方法について説明します。

開始する前に、ツールを実行するマシンが次の要件を満たしていることを確認してください。

- Windows 10または11、あるいはWindows Server 2016、2019、または2022で動作します。
- (AD環境のみ) ユーザーとマシンと同じドメインにあります。

一般的な手順は次のとおりです。

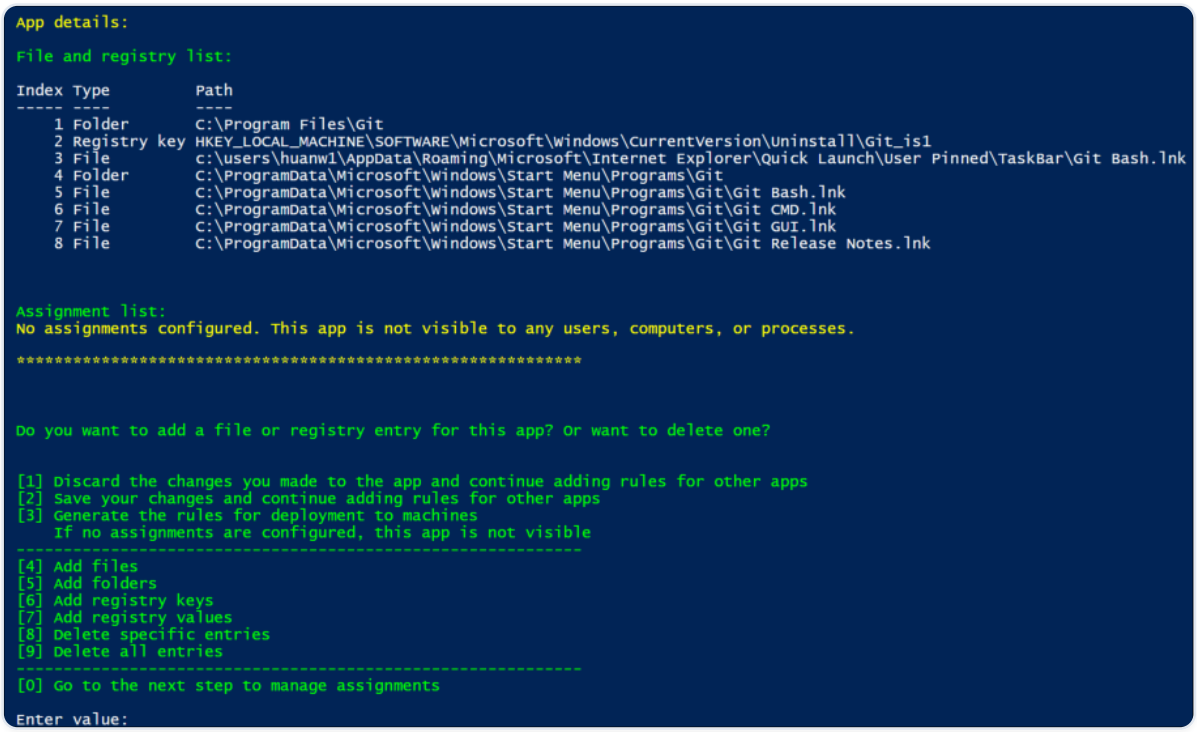
1. **Windows PowerShell** を管理者として実行します。
2. Profile Managementインストールパッケージ内の **\tool** フォルダーにアクセスし、**CPM_App_Access_Control_Config.ps1** を実行します。
3. 画面の指示に従って、非表示ルールを作成、管理、および生成します。

    a. マシンにインストールされている各アプリケーションとその状態を表示します。

    - **未構成**。アプリケーションに対してルールは構成されていません。
    - **構成済み**。アプリケーションに対して1つ以上のルールが構成されていますが、それらのいずれもマシンには適用されていません。
    - **構成済みで適用済み**。アプリケーションに対して1つ以上のルールが構成されており、少なくとも1つのルールがマシンに適用されています。

```
List of apps to manage:
Index Status           Name
----- ------           ----
    1 Not configured   Adobe Acrobat (64-bit)
    2 Not configured   AppUp.IntelGraphicsExperience
    3 Not configured   AppUp.ThunderboltControlCenter
    4 Not configured   Citrix Secure Access
    5 Not configured   Citrix Workspace 2303
    6 Not configured   DolbyLaboratories.DolbyAccess
    7 Not configured   ELANMicroelectronicsCorpo.ELANTrackPointforThinkpa
    8 Not configured   Git
    9 Not configured   Google Chrome
```

    b. アプリケーションリストから、非表示にしたいアプリケーションをインデックスを入力して選択します。そのアプリケーションに関連付けられているすべてのファイル、フォルダー、およびレジストリエントリが表示されます。



c. 選択したアプリケーションの追加のファイル、フォルダー、またはレジストリエントリを非表示にするには、対応するアクションタイプを選択し、その名前とパスを入力してオブジェクトを追加します。さらに追加するには、この手順を繰り返します。

   考慮事項:

   - パス内のシステム環境変数 (%windir% など) はサポートされますが、ユーザー環境変数 (%appdata% など) はサポートされません。
   - ワイルドカード `*` と `?` はファイルとフォルダーでサポートされます。文字列に複数のアスタリスク ('*') がある場合、2つのアスタリスク間の文字は無視されます。たとえば、文字列 `c:\users\Finance*Manangement*` では、文字 `*Management*` は単一のアスタリスク (*) として扱われます。

> **注:**
>
> 特定のファイル、フォルダー、およびレジストリエントリに関連付けることで、アプリケーションを手動で定義することもできます。

d. ルールの割り当てを構成します。詳細には、割り当ての種類を指定し、その後、アプリケーションを非表示にする特定のオブジェクトを入力します。詳細については、次の表を参照してください。

割り当てを選択(/en-us/profile-management/2311/media/app-access-control-tool-add-assignment.png)

注:

ルールに割り当てを構成しない場合、ルールで指定されたアプリは非表示になります。

割り当てタイプ	説明
ADユーザー、ユーザーグループ、またはOU	ADドメイン名を縦棒 (|) で区切って入力します。
ADマシン	DNSホスト名を縦棒 (|) で区切って入力します。
NDJマシンカタログ	カタログ名を縦棒 (|) で区切って入力します。例: `Machine_catalog_name1|Machine_catalog_name2`
NDJマシン	WEM WebコンソールでAAD/NDJオブジェクトセレクターを使用してマシン名を収集し、それらの名前を縦棒 (|) で区切って入力します。例: `Machine_name1|Machine_name2`。すべてのドメインに参加していないマシンを追加するには、**NDJ***と入力します。
	NDJマシン名では、ワイルドカード `*` と `?` がサポートされています。
	注: 文字列に複数のアスタリスク (`*`) がある場合、2つのアスタリスク間の文字は無視されます。たとえば、文字列 `ResearchDep*Virtual*TeamMachine*` では、文字 `*Virtual*` は単一のアスタリスク (`*`) として扱われます。

割り当てタイプ	説明
Azure ADユーザー	WEM WebコンソールでAAD/NDJオブジェクトセレクターを使用してユーザーのSIDと名前を収集し、それらを次の形式で入力します: `sid1\name1|sid2\name2` 。例: `/azuread/989c2938-6527-4133-bab1-f3860dd15098\Tester1|/azuread/82bdde32-d5d9-4d64-b0ff-9876d4488d05\Tester2`
Azure ADグループ	WEM WebコンソールでAAD/NDJオブジェクトセレクターを使用してグループのSIDと名前を収集し、それらを次の形式で入力します: `sid1\name1|sid2\name2` 。例: `/azuread/989c2938-6527-4133-bab1-f3860dd15098\TestGroup1|/azuread/82bdde32-d5d9-4d64-b0ff-9876d4488d05\TestGroup2`

4. ステップ3を繰り返して、他のアプリケーションの非表示ルールを作成します。
5. 画面の指示に従って、設定したルールの生データを生成し、その後、将来使用するために.txtファイルに保存します。
6. ルールが期待どおりに機能するかどうかをテストするには、画面の指示に従って、それらをこのマシンまたはマシンのグループに展開します。

> **注:**
>
> このツールを使用して本番環境にルールを展開することはお勧めしません。

GPO を使用してアプリのアクセス制御を有効にする

非表示ルールを作成および生成した後、GPOを使用して環境内のマシンに適用できます。

GPOを使用して制御ルールをマシンに適用するには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。

2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix Components > Profile Management > アプリのアクセス制御**にアクセスします。
3. **アプリのアクセス制御**をダブルクリックします。
4. 表示されるポリシーウィンドウで、**有効**を選択します。
5. 生成されたルールを保存した.txtファイルを開き、内容をコピーして、**アプリのアクセス制御ルール**フィールドに貼り付けます。
6. **OK**をクリックします。

この機能の構成の優先順位は次のとおりです。

1. この設定がGPO、Studio、またはWEMを使用していない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がどこにも構成されていない場合、この機能は無効になります。

例

このセクションでは、イメージのアプリのアクセス制御を実装するための例を説明します。

要件

この例の要件は次のとおりです。

- 単一のイメージを使用して、営業、人事、エンジニアリング部門の仮想マシンを作成します。
- 以下のアプリケーションへのアクセスを制御します。
  - Microsoft Excel: 人事部門のユーザーには非表示。
  - Visual Studio Code: 営業部門または人事部門のユーザーには非表示。

ソリューション

インストールされているアプリケーションへのアクセスを制御するために、Profile Management をインストールします。

テンプレートマシンのインストール

イメージをキャプチャするためのテンプレートマシンをインストールします。手順は次のとおりです。

1. 新しいマシンを、ユーザーおよびマシンと同じ AD ドメインに参加させます。
2. マシンに以下のソフトウェアをインストールします。

- 必要に応じて、Windows 10 または 11、または Windows Server 2016、2019、または 2022
- Profile Management バージョン 2303 以降
- 必要なすべてのアプリケーション

非表示ルールを作成および生成する

1. テンプレートマシンで、ルールジェネレーターツールを使用して非表示ルールを作成および生成します。
   - ルール1：人事部のユーザーからMicrosoft Excelを非表示にする（アプリケーション：Microsoft Excel; 割り当て：HRユーザーグループ）
   - ルール2：営業部または人事部のユーザーからVisual Studio Codeを非表示にする（アプリケーション：Visual Studio Code; 割り当て：営業ユーザーグループおよびHRユーザーグループ）
2. 2つのルールの生データを生成し、.txtファイルに保存します。

ツールの使用方法の詳細については、「ルールジェネレーターを使用してルールを作成、生成、展開する」を参照してください。

これで、テンプレートマシンからイメージをキャプチャできます。

GPO を使用してアプリのアクセス制御を有効にする

仮想マシンが作成されたら、GPOを使用してアプリのアクセス制御を一元的に有効にし、生成されたルールをマシンに適用します。詳細については、「GPOを使用してアプリのアクセス制御を有効にする」を参照してください。

ユーザーレベルのポリシー設定を有効にして構成する

既定では、ほとんどのProfile Managementポリシーはマシンレベルで機能します。これらのポリシー設定をコンテナ（サイト、ドメイン、またはOU）に適用すると、誰がログオンしても、そのコンテナ内のマシンに適用されます。

「*ユーザーレベルのポリシー設定*」機能が有効になっている場合、それらのマシンレベルのポリシーはユーザーレベルで機能し、ユーザーまたはグループ固有の設定を構成できます。これらの設定をコンテナに適用すると、指定されたユーザーまたは指定されたグループのユーザーがそのコンテナ内のマシンにログオンした場合にのみ適用されます。

設定の競合が発生した場合、Profile Managementは次の優先順位で処理します。

1. ユーザー固有の設定
2. ユーザーグループ固有の設定
3. マシンレベルの設定

構成手順

ユーザーレベルのポリシー設定を有効にして構成するには、次の手順に従います。

1. ユーザーレベルのポリシー設定を有効にする
2. ユーザーまたはグループのポリシー設定を構成する
3. （オプション）ユーザーグループの優先順位を指定する。

ユーザーレベルのポリシー設定を有効にする

To apply user-level Profile Management settings, you must first enable the *user-level policy settings* feature. You can accomplish this goal using various tools such as Group Policy Object (GPO), Workspace Environment Management™ (WEM), or Web Studio.

GPOを使用してこの機能を有効にするには、次の手順に従います。

1. GPOを作成し、サイト、ドメイン、OUなどのターゲットマシンを保持するコンテナにリンクします。
2. GPO のグループポリシー管理エディターを開きます。
3. **ポリシー \> 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) \> Citrix コンポーネント \> Profile Management \> 詳細設定** にアクセスします。
4. **ユーザーレベルのポリシー設定を有効にする** ポリシーをダブルクリックします。
5. 表示されるポリシーウィンドウで、**有効** を選択し、**OK** をクリックします。

構成の優先順位は次のとおりです。

1. ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、無効になります。

ユーザーとグループのポリシー設定を構成する

このセクションでは、ユーザーまたはグループ固有のポリシー設定を構成する方法について説明します。

たとえば、組織には経理、営業、マーケティングなどのグループがあります。経理グループは独自のユーザーストアを使用し、他のグループはユーザーストアを共有します。この要件を満たすには、経理グループにユーザーレベルの **ユーザーストアへのパス** ポリシーを構成し、組織にマシンレベルの **ユーザーストアへのパス** 設定を構成します。

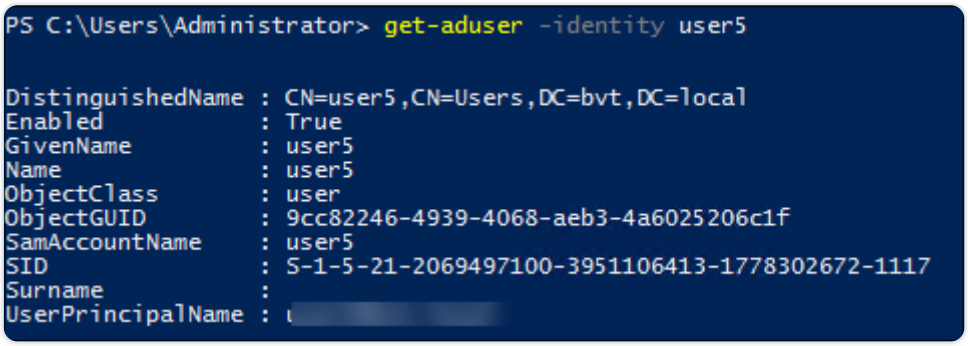
ユーザーまたはグループ固有のポリシー設定を構成するには、次の手順に従います。

1. ユーザーとグループのセキュリティ識別子 (SID) を取得する
2. ユーザーまたはグループ固有のポリシー設定を構成する

ユーザーとグループのセキュリティ識別子 (SID) を取得する

ユーザーまたはグループのユーザー固有の Profile Management 設定を構成する前に、まずドメイン名に基づいてその SID を取得します。詳細な手順は次のとおりです。

1. ドメインコントローラーにログオンします。
2. 「**Windows PowerShell**」を管理者として実行します。
3. PowerShellコマンドラインから、必要に応じて次のいずれかのコマンドを実行します。
   - ユーザーのSIDを取得するには、`Get-ADUser -Identity <ADUser>`と入力します。例: `Get-ADUser -Identity user5`
   - グループのSIDを取得するには、`Get-ADGroup -Identity <ADGroup>`と入力します。例: `Get-ADGroup -Identity HR_Group`
4. 返された結果からSIDをコピーします（例: 次の結果の `S-1-5-21-2069497100-3951106413-1778302672-1117`）。



ユーザーまたはグループ固有のポリシー設定を構成する

ユーザーレベルのポリシー設定は、以下を使用して構成できます。

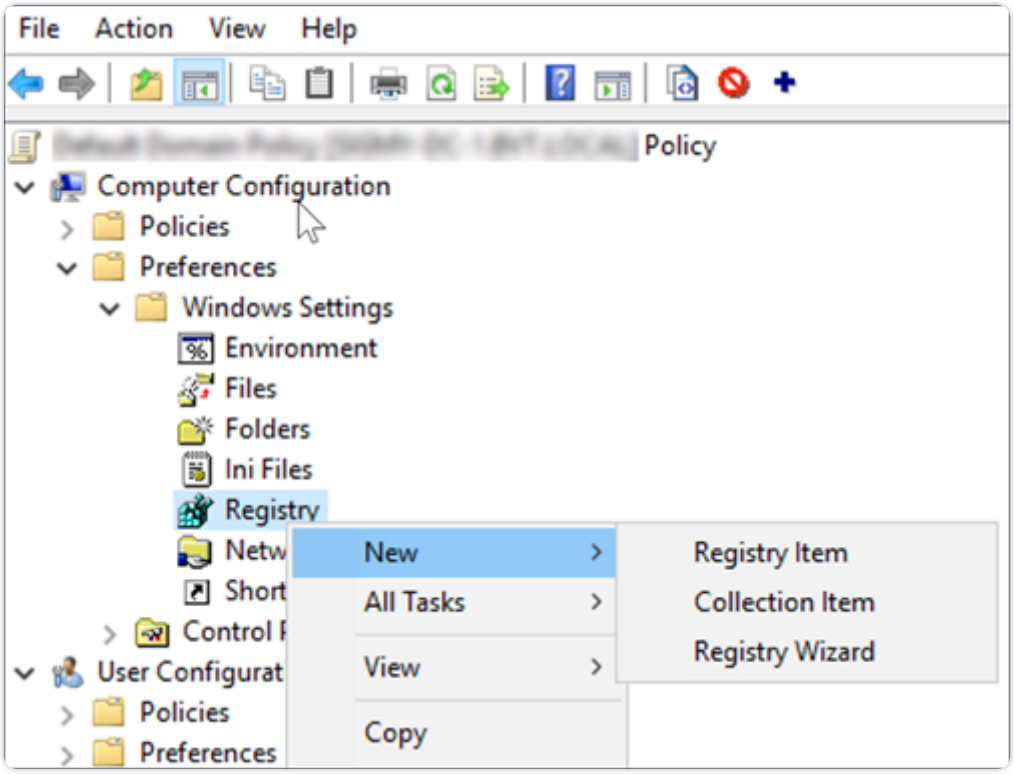
- グループポリシー設定 (GPP)
- WEM Webコンソール

GPPを使用して設定を構成する

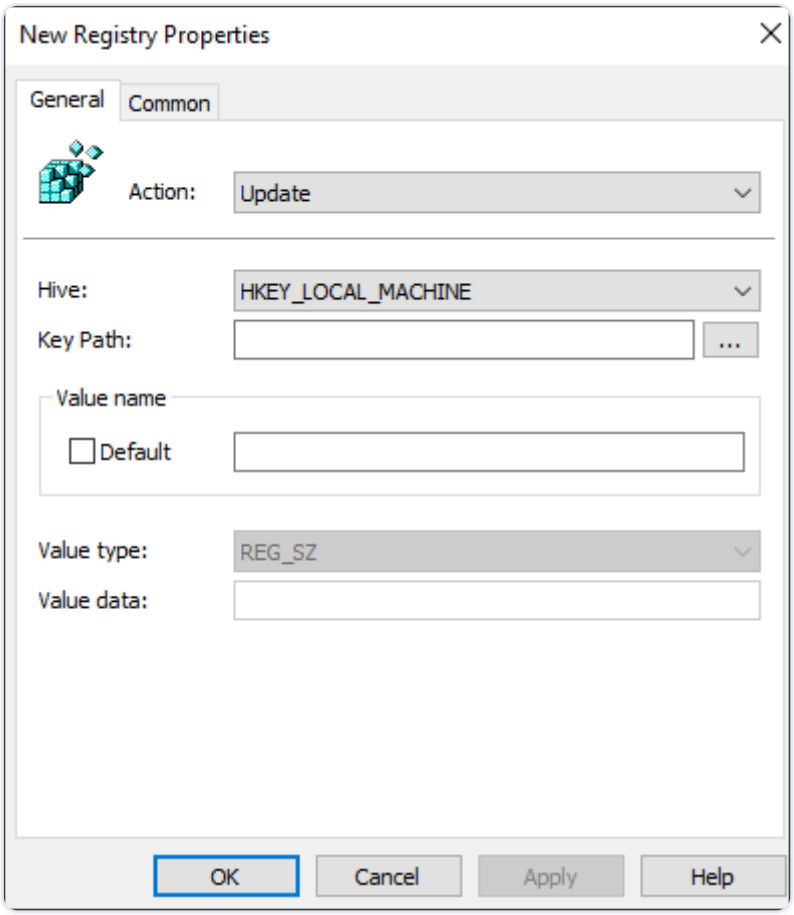
GPPを使用してユーザーレベルのポリシー設定を構成できます。グループポリシーの一部として、GPP設定はGPOを介してドメイン参加済みコンピューターに自動的に配布されます。

ユーザーまたはグループのポリシー設定を構成するには、次の手順に従います。

1. ターゲットGPOのグループポリシー管理エディターを開きます。



2. 「**コンピューターの構成 \> 基本設定 \> Windows の設定 \> レジストリ**」に移動し、「**新規 \> レジストリ項目**」を右クリックします。「**新しいレジストリのプロパティ**」ウィンドウが表示されます。

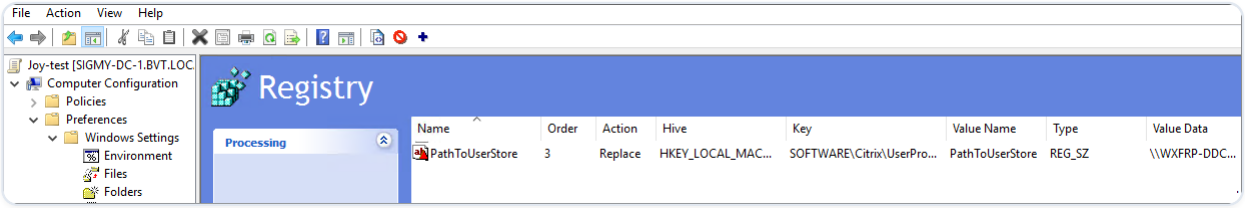


3. 「**全般**」タブで、次の表で説明するように、ユーザーまたはグループ固有のポリシーを構成します。この表では、ユーザーの *Path to user store* ポリシー (SID: `S-1-5-21-259756655-2069503554-2063751945-1108`) を設定する構成例も参照できます。

フィールド	説明	例
アクション	既定値のままにします。	更新
ハイブ	既定値のままにします。	HKEY_LOCAL_MACHINE
キーパス	ユーザーまたはグループ固有のポリシーのレジストリ キーパスを入力します。まず、GPP プロパティ設定 表でポリシー名を検索してキーパスを取得します。次に、キーパス内の `<SID>` を実際の SID に置き換えます。	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\S-1-5-21-259756655-2069503554-2063751945-1108`
値の名前	ポリシーのレジストリ値の名前を入力します。ポリ	ユーザー ストアへのパス

フィールド	説明	例
	シーの値の名前を見つけるには、GPP プロパティ設定表でポリシー名を検索します。	
値のタイプ	ポリシーのレジストリ値の型 (REG_SZ または REG_DWORD) を選択します。ポリシーの値の型を見つけるには、GPP プロパティ設定 表でポリシー名を検索します。	REG_SZ
値のデータ	ポリシーのレジストリ値のデータ (設定値) を入力します。値のデータはポリシーによって異なります。詳細については、GPP プロパティ設定 表を参照してください。	`\\WXFRP-DDC-1\UPM1\#sAMAccountName#\!CTX_OSNAME!!CTX_OSBITNESS!`!

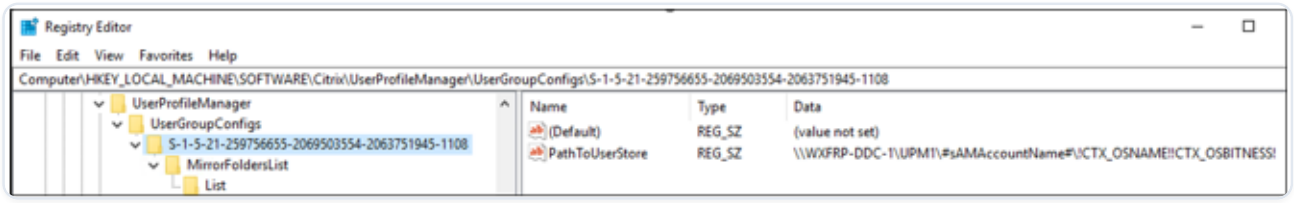
4. 「**共通**」タブをクリックし、「**適用されなくなったときにこの項目を削除する**」を選択します。メッセージボックスが表示されます。
5. 「**OK**」をクリックして確認します。「**全般**」タブの「**アクション**」オプションが「**置換**」に変わります。
6. 「**OK**」または「**適用**」をクリックします。変更はドメインコントローラーに保存されます。構成結果（例: *ユーザー ストアへのパス* ポリシー）が表示されます。



7. このGPOに対してさらにユーザーまたはグループ固有のポリシー設定を構成するには、それぞれについて手順2〜6を繰り返します。例セクションの構成例を参照してください。

これらのポリシー設定をコンピューターに手動で同期するには、コンピューターで `groupupdate/force` コマンドを実行します。ユーザーレベルのポリシー設定を有効にするには、コンピューターからログオフして再度ログオンします。

次のスクリーンショットに示すように、ユーザーレベルのポリシー設定は次のレジストリキーに表示されます: `HKLM\SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`。



WEM Web Console を使用して設定を構成する

WEM Web Console を使用してユーザーレベルのポリシー設定を構成できます。詳細については、Workspace Environment Management Service ドキュメントのGPO の作成を参照してください。

例

このセクションでは、ユーザーレベルのポリシー設定を構成するためのいくつかの例を示します。

Profile Management を有効にする

GPP設定を使用して、ユーザーまたはグループの**プロファイル管理を有効にする**ポリシーを構成します。

フィールド	値
キーパス	SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\S-1-5-21-259756655-2069503554-2063751945-1108
値の名前	ServiceActive
値のタイプ	REG_DWORD
値のデータ	1

レジストリ内の場所:

プロファイル管理を有効にした場合のレジストリの結果(/en-us/profile-management/2311/media/registry_key_service_activate.png)

ミラーリングするフォルダー

> **注:**

ファイルとフォルダーのリストを含むユーザー固有のポリシーを構成するには、複数のGPPレジストリアイテムを構成する必要があります。

ユーザーまたはグループの**ミラーするフォルダー**ポリシーを構成するには、次の手順に従います。

1. これらのGPP設定を使用してポリシーを有効にします。

フィールド	値
キーパス	SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\S-1-5-21-259756655-2069503554-2063751945-1108\MirrorFoldersList
値の名前	有効
値のタイプ	REG_DWORD
値のデータ	00000001

   レジストリ内の場所:

   ミラーするフォルダー1のレジストリの結果(/en-us/profile-management/2311/media/registry_key_folder_mirror_enable.png)

2. これらのGPP設定を使用して、ミラーするフォルダー（例：AppData\Local\Packages）を追加します。

フィールド	値
キーパス	SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\S-1-5-21-259756655-2069503554-2063751945-1108\MirrorFoldersList\List
値の名前	AppData\Local\Packages
値のタイプ	REG_SZ
値のデータ	AppData\Local\Packages

   注:

> **値の名前**フィールドと**値のデータ**フィールドの両方に、ミラーリングするフォルダーを入力します。

> レジストリ内の場所:

ミラーリングするフォルダーのレジストリでの結果 2(/en-us/profile-management/2311/media/registry_key_folder_mirror_list.png)

3. このポリシーにフォルダーを追加するには、手順2を繰り返します。

(オプション) ユーザーグループの優先順位を指定する

ユーザーが競合するポリシー設定を持つ複数のグループに属している場合は、それらのグループの優先順位を指定します。

設定の競合が発生した場合、最も優先度の高いグループのポリシー設定が優先されます。優先順位が指定されていない場合、アルファベット順で最も早いSIDを持つグループが優先されます。

GPOを使用して優先順位を構成するには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー \> 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) \> Citrix コンポーネント \> Profile Management \> 詳細設定**にアクセスします。
3. 「**ユーザーグループの優先順位を設定**」ポリシーをダブルクリックします。ポリシーウィンドウが表示されます。
4. 「**Enabled**」を選択します。
5. 「**ユーザーグループの優先順位**」フィールドに、グループのセキュリティ識別子 (SID) またはドメイン名を優先順位の降順で入力し、セミコロン (`;`) で区切ります。

   例:

   `ctxxa.local\groupb;S-1-5-21-674278408-26188528-2146851469-1174;ctxxa.local\groupc;`
6. **OK**をクリックします。

構成の優先順位は次のとおりです。

1. ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、優先順位は指定されません。

GPPプロパティ設定

この表は、ユーザーレベルのProfile ManagementポリシーのGPPプロパティ設定を示しています。

注:

この表には6つの列が含まれています。一部の列はビューポートを超えて表示される場合があります。非表示の列を表示するには、下にスクロールして水平スクロールバーを使用してください。

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
Profile Management を有効にする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	ServiceActive	0:無効; 1:有効;	
処理されるグループ	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\ProcessedGroups`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\Proc`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
	essedGroups\List				
除外されるグループ	SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\ExcludedGroups	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\ExcludedGroups\List	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	
ローカル管理者によるログオンの処理	SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>	REG_DWORD	ProcessAdmins	0:無効; 1:有効;	
ユーザーストアへのパス	SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>	REG_SZ	PathToUserStore	絶対パス、またはホームディレクトリに対する相対パス。	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
ユーザーストアの移行	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_SZ	MigrateUserStore	以前使用していたユーザー保存パス。	
アクティブライトバック	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	PSMidSessionWriteBack	0:無効; 1:有効;	
アクティブライトバックレジストリ	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	PSMidSessionWriteBackReg	0:無効; 1:有効;	
セッションロックおよび切断時のアクティブライトバック	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	PSMidSessionWriteBackSessionLock	0:無効; 1:有効;	
オフラインプロファイルのサポート	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	OfflineSupport	0:無効; 1:有効;	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	DeleteCachedProfilesOnLogoff	0:無効; 1:有効;	
キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延	Software\Policies\Citrix\UserProfileManager<SID>	REG_DWORD	ProfileDeleteDelay	遅延 (秒単位)。	
既存プロファイルの移行	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	MigrateWindowsProfilesToUserStoreEnabled	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	MigrateWindowsProfilesToUserStore	1:ローカルとローミング; 2:ローカル; 3:ローミング; 4:なし;	
既存のアプリケーションプロファイルの自動移行	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	ApplicationProfilesAutoMigrationEnabled	0:無効; 1:有効;	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
ローカルプロファイルの競合処理	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	LocalProfileConflictHandling	1:ローカルプロファイルを使用; 2:ローカルプロファイルを削除; 3:ローカルプロファイルの名前を変更;	
テンプレートプロファイル	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_SZ	TemplateProfilePath	テンプレートプロファイルへのパス。	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	TemplateProfileOverridesLocalProfile	0:無効; 1:有効;	テンプレートプロファイルがローカルプロファイルを上書きする
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	TemplateProfileOverridesRoamingProfile	0:無効; 1:有効;	テンプレートプロファイルが移動プロファイルを上書きする

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	TemplateProfileIsMandatory	0:無効; 1:有効;	すべてのログオンでCitrix必須プロファイルとして使用されるテンプレートプロファイル
ロックされたファイルへのアクセス時の再試行回数	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	LoadRetries	再試行回数。	
自動構成を無効にする	Software\Policies\Citrix\UserProfileManager<SID>	REG_DWORD	DisableDynamicConfig	0:無効; 1:有効;	
問題が発生した場合にユーザーをログオフする	Software\Policies\Citrix\UserProfileManager<SID>	REG_DWORD	LogoffRatherThanTempProfile	0:無効; 1:有効;	
カスタマーエクスペリエンス向上プログラム	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	CEIP有効	0:無効; 1:有効;	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
Outlook の検索インデックスローミングを有効にする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	OutlookSearchRoamingEnabled	0:無効; 1:有効;	
Outlook 検索インデックスデータベース - バックアップと復元	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	OutlookEdbBackupEnabled	0:無効; 1:有効;	
Outlook検索データローミングの同時セッションサポートを有効にする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	OutlookSearchRoamingConcurrentSessionEnabled	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	OutlookOstVhdxMaxNum	Outlook OST ファイルを保存するための VHDX ディスクの最大数。	
プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	FSLogixProfileContainerSupport	0:無効; 1:有効;	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
ユーザーストアをレプリケートする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\MultipleRemoteStoreReplication`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\MultipleRemoteStoreReplication\List`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	
ユーザーストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	CredBasedAccessEnabled	0:無効; 1:有効;	
VHDX ファイルのストレージ パスをカスタマイズする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_SZ	PathToVhdStore	VHDXファイルを保存するパス。	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
セッションで VHDX ディスクを自動的に再アタッチする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	EnableVolumeReattach	0:無効; 1:有効;	
ログオン時のユーザーグループポリシーの非同期処理を有効にする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	SyncGpoStateEnabled	0:無効; 1:有効;	
OneDrive コンテナを有効にする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\OneDriveContainer`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\OneDriveContainer\List`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	
VHDディスクの圧縮をトリガーす	`SOFTWARE\Citrix\UserProfil`	REG_DWORD	CompactVHDFreePortion	空き容量比率 (%)。	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
る空き領域の比率	`eManager\UserGroupConfigs\<SID>`				
VHDディスクの圧縮をトリガーするログオフ回数	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	CompactVHDIterations	ログオフ回数。	
VHDディスク圧縮のデフラグを無効にする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	CompactVHDnDefrag	0:無効; 1:有効;	
プロファイルコンテナ	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\ProfileContainer`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\Prof`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
	`ileContainer\List`				
プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	ProfileContainerLocalCache	0:無効; 1:有効;	
プロファイルコンテナから除外するフォルダー	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\ProfileContainerExclusionListDir`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\ProfileContainerExclusionListDir\List`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
プロファイルコンテナに含めるフォルダー	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\ProfileContainerInclusionListDir`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\ProfileContainerInclusionListDir\List`	REG_SZ	リスト項目	項目	
プロファイルコンテナから除外するファイル	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\ProfileContainerExclusionListFile`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfil`	REG_SZ	項目	項目	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
	`eManager\UserGroupConfigs\<SID>\ProfileContainerExclusionListFile\List`				
プロファイルコンテナに含めるファイル	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\ProfileContainerInclusionListFile`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\ProfileContainerInclusionListFile\List`	REG_SZ	項目	項目	
VHDディスクの圧縮を有効にする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroup`	REG_DWORD	EnableVHDCompact	0:無効; 1:有効;	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
	`Configs\<SID>`				
除外リスト	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\ExclusionListRegistry`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\ExclusionListRegistry\List`	REG_SZ	項目	項目	
包含リスト	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\InclusionListRegistry`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\InclusionListRegistry\List`	REG_SZ	項目	項目	
NTUSER.DATのバックアップ	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	LastKnownGoodRegistry	0:無効; 1:有効;	
除外リスト - ファイル	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\SyncExclusionListFiles`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\SyncExclusion`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
	`ListFiles\List`				
除外リスト - ディレクトリ	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\SyncExclusionListDir`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\SyncExclusionListDir\List`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	
ログオン除外チェック	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	LogonExclusionCheck	0:除外されたファイルまたはフォルダーを同期する; 1:除外されたファイルまたはフォルダーを無視する; 2:除外されたファイルまたはフォルダーを削除する;	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
大容量ファイルの処理 - シンボリックリンクとして作成されるファイル	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\LargeFileHandlingList`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\LargeFileHandlingList\List`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	
同期するディレクトリ	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\SyncDirList`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\Sync`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
	`DirList\List`				
同期するファイル	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\SyncFileList`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\SyncFileList\List`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	
ミラーリングするフォルダー	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\MirrorFoldersList`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\Mirr`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
	`orFolder sList\Lis t`				
フォルダーのミラーリングを高速化する	`SOFTWARE \Citrix\U serProfil eManager\ UserGroup Configs\< SID>`	REG_DWO RD	Accelerate FolderMirro ring	0:無効; 1:有効;	
プロファイルストリーミング	`SOFTWARE \Citrix\U serProfil eManager\ UserGroup Configs\< SID>`	REG_DWO RD	PS有効	0:無効; 1:有効;	
ペンディングエリアのプロファイルストリーミングを有効にする	`SOFTWARE \Citrix\U serProfil eManager\ UserGroup Configs\< SID>`	REG_DWO RD	PSForPend ingAreaEn abled	0:無効; 1:有効;	
常にキャッシュ	`SOFTWARE \Citrix\U serProfil eManager\ UserGroup Configs\< SID>`	REG_DWO RD	PSAlways Cache	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE \Citrix\U serProfil eManager\`	REG_DWO RD	PSAlways CacheSize	このサイズ以上のファイルをキャッシュ	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
	`UserGroupConfigs\<SID>`			する (MB単位)。	
保留中のエリアロックファイルのタイムアウト (日数)	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	PSPendingLockTimeout	保留中のエリアロックファイルのタイムアウト (日数)。	
ストリーミングされたユーザープロファイルグループ	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\PSUserGroupsList`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\PSUserGroupsList\List`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	
プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\Stre`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
	`amingExclusionList`				
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\StreamingExclusionList\List`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	
クロスプラットフォーム設定を有効にする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	CP有効	0:無効; 1:有効;	
クロスプラットフォーム設定ユーザーグループ	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\CPUserGroupList`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\CPUserGroupList\List`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	
クロスプラットフォーム定義へのパス	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_SZ	CPSchemaPath	クロスプラットフォーム定義へのパス。	
クロスプラットフォーム設定ストアへのパス	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_SZ	シーピーパス	クロスプラットフォーム設定ストアへのパス。	
クロスプラットフォーム設定の作成元	Software\Policies\Citrix\UserProfileManager<SID>	REG_DWORD	CPMigrationFromBaseProfileToCPStore	0:無効; 1:有効;	
Citrix Virtual Appsの最適化を有効にする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	XenAppOptimizationEnabled	0:無効; 1:有効;	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
Citrix Virtual Apps最適化定義へのパス	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_SZ	XenAppOptimizationDefinitionPath	Citrix Virtual Apps最適化定義へのパス。	
重複排除のために共有ストアに含めるファイル	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\SharedStoreFileInclusionList`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\SharedStoreFileInclusionList\List`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	
共有ストアから除外するファイル	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\SharedStoreFi`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
	`leExclusionList`				
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\SharedStoreFileExclusionList\List`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	
プロファイルコンテナのVHD自動拡張を有効にする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
プロファイルコンテナの自動拡張しきい値	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	AutoExtendThreshold	自動拡張しきい値(パーセント)	
プロファイルコンテナの自動拡張増分	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	AutoExtendSize	自動拡張増分 (GB単位)	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
プロファイルコンテナの自動拡張制限	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	AutoExtendLimit	自動拡張制限 (GB単位)	
VHD コンテナーのデフォルト容量	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	VhdCapacity	デフォルト容量 (GB単位)	
VHDコンテナへの排他的アクセスを有効にする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	DisableConcurrentAccessToProfileContainer	0:無効; 1:有効;	プロファイルコンテナ
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	DisableConcurrentAccessToOneDriveContainer	0:無効; 1:有効;	OneDriveコンテナ
UWPアプリのローミング	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	EnableUwpAppsRoaming	0:無効; 1:有効;	

Azure AD参加済みおよびドメイン非参加のVDAマシンに対するサポートを有効にする

Citrix Profile Managementは、顧客が管理するAzureサブスクリプション内のAzure AD参加済みおよびドメイン非参加のVDAマシンに対して、プロファイル管理を提供できるようになりました。

前提条件

- プロファイル管理 2203以降
- VDAバージョン2203以降
- プロファイルストレージサーバーの資格情報を保存するためにWorkspace Environment Management (WEM)を使用している場合、WEMエージェントバージョン2109.2.0.1以降

Profile Managementを有効にする

Azure AD参加済みまたはドメイン非参加のVDAマシンでProfile Managementを有効にするには、次の設定を完了します。

1. **Profile Management**で、**Profile managementを有効にする**ポリシーを**有効**に設定します。
2. **ユーザーストアへのパス**ポリシーを、VDAからアクセス可能な有効なパスに設定します。たとえば、ファイルサーバーまたはAzure Files共有に存在するユーザーストアはアクセス可能です。
3. **プロファイルコンテナ**ポリシーを**有効**に設定し、プロファイルコンテナリストにアスタリスク (*) を追加します。詳細については、「ユーザープロファイル全体に対してプロファイルコンテナを有効にする」を参照してください。
4. **ユーザーストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする**ポリシーを**有効**に設定します。次に、Profile Managementがユーザーストアにアクセスできるように、プロファイルストレージサーバーの資格情報をWEMまたはWindows資格情報マネージャーに保存します。詳細については、「ユーザーストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする」を参照してください。

ユーザー ストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする

デフォルトでは、Citrix Profile Management は現在のユーザーを偽装してユーザー ストアにアクセスします。この動作では、現在のユーザーがユーザー ストアに直接アクセスする権限を持っている必要があります。対照的に、**ユーザー ストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする**ポリシーを使用すると、Profile Management はストア自身の資格情報を使用してユーザー ストアにアクセスできます。

このポリシーにより、ユーザー ストアの展開とアクセスにおいて、より柔軟性が得られます。たとえば、このポリシーを使用すると、現在のユーザーがアクセス権を持たないファイル共有 (Azure Files など) にユーザー ストアを展開できます。または、ユーザー ストアへのアクセス時に Profile Management が現在のユーザーを偽装しないようにしたい場合に、このポリシーを有効にすることもできます。

注：

Profile Management は 2 種類のプロファイル ソリューションを提供しており、ユーザー ストアは両方のストレージ場所として機能できます。

- ファイルベースのソリューション。ユーザー プロファイルは、ログオン時にリモート ユーザー ストアからローカル コンピューターにフェッチされ、ログオフ時に書き戻されます。
- コンテナベースのソリューション。ユーザー プロファイルは VHDX ファイル (プロファイル コンテナとして知られています) に保存されます。これらの VHDX ファイルは、ログオン時にアタッチされ、ログオフ時にデタッチされます。

このポリシーは、ファイルベースとコンテナベースの両方のソリューションで利用できます。Profile Management バージョン 2212 より前のバージョンでは、このポリシーはコンテナベースのソリューションでのみ利用できます。

安全なユーザー ストアの作成について詳しくは、Microsoft TechNet Web サイトの「ローミング ユーザー プロファイル用のファイル共有を作成する」を参照してください。

Profile Management がストア自身の資格情報を使用してユーザー ストアにアクセスできるようにするには、次の両方のアクションを実行する必要があります。

- Profile Management が実行されている各マシンで、**ユーザー ストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする**ポリシーを有効にします。
- ストアの資格情報をそれらのマシンに追加します。

その目標を達成するには、次のいずれかの方法を使用できます: Workspace Environment Management™ (WEM) サービス および GPO。

> **注：**
>
> コンテナベースのソリューションが有効になっている場合、ユーザー ストアの NTFS アクセス許可は保持されます。

WEMサービスを使用して資格情報ベースのアクセスを有効にする

WEMを使用すると、Profile Managementが実行される各マシンで同じ資格情報を入力する必要がなくなります。WEMサービスコンソールでポリシーを有効にし、ユーザープロファイルストアの資格情報を一度だけ入力します。その後、WEMサービスはこれらの設定を各マシンに適用します。

詳細な手順は次のとおりです。

1. 管理コンソールで、**ポリシーとプロファイル > Citrix Profile Management設定 > ユーザープロファイルストアの資格情報**に移動します。
2. **ユーザープロファイルストアの資格情報**タブで、**ユーザープロファイルストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする**チェックボックスをオンにします。

   WEMでユーザープロファイルストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にするチェックボックスを選択する様子(/en-us/profile-management/2311/media/selecting-the-enable-credential-based-access-to-user-store-check-box-in-wem.png)
3. **追加**をクリックします。**新しい資格情報**ダイアログボックスが表示されます。

   WEMの新しい資格情報ダイアログボックス(/en-us/profile-management/2311/media/the-new-credential-dialog-box-in-wem.png)
4. プロファイルストレージサーバーのFQDNまたはIPアドレスと、その資格情報を入力します。
5. **OK**をクリックします。

GPOを使用して資格情報ベースのアクセスを有効にする

GPOを使用してポリシーを有効にする場合、Profile Managementが実行される各マシンで資格情報を手動で追加する必要があります。

ポリシーを有効にする

詳細な手順は次のとおりです。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。

2. 「**ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > 詳細設定**」にアクセスし、「**ユーザー ストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする**」をダブルクリックします。
3. 「**有効**」を選択します。
4. 「**OK**」をクリックします。

資格情報をWindows資格情報マネージャーに追加する

Profile Managementは、ユーザー ストアにアクセスするために、マシンに保存されている資格情報を使用します。Profile Managementが実行されている各マシンで、ユーザー ストアの資格情報を**Windows資格情報マネージャー**に追加します。詳細な手順は次のとおりです。

1. Sysinternals Web サイトから **PsExec** をダウンロードし、ファイルを `C:\PSTools` に解凍します。
2. **スタート**メニューから**コマンドプロンプト**を右クリックし、**管理者として実行**を選択します。コマンドシェルが起動します。
3. `C:\PSTools\PsExec -s -i cmd` コマンドを実行します。別のコマンドシェルが起動します。

> **注：**
>
> `-s` パラメーターは、ローカルシステムアカウントを使用してツールを実行していることを示します。その結果、資格情報を安全に保存できます。

4. 新しいコマンドシェルで`rundll32.exe keymgr.dll, KRShowKeyMgr`コマンドを実行します。「**保存されているユーザー名とパスワード**」ダイアログボックスが表示されます。
5. 「**保存されているユーザー名とパスワード**」ダイアログボックスで、「**追加**」をクリックします。
6. プロファイルストレージサーバーのFQDNまたはIPアドレスとその資格情報を入力し、デフォルトの資格情報タイプはそのままにして、「**OK**」をクリックします。

大容量ファイル処理を有効にする

プロファイル内に存在する大容量ファイルは、ログオンまたはログオフが遅くなる一般的な原因です。Citrix®は、大容量ファイルをユーザー ストアにリダイレクトするオプションを提供しま

す。このオプションにより、ネットワーク経由でこれらのファイルを同期する必要がなくなります。

グループポリシーで大容量ファイル処理を有効にするには、次の手順を実行します。

1. **Profile Management**の下にある**File system**フォルダーを開きます。
2. **Large File Handling - Files to be created as symbolic links**ポリシーをダブルクリックします。
3. 処理するファイルを指定します。

UPMPolicyDefaults_all.iniファイルで大容量ファイル処理を有効にするには、次の手順を実行します。

1. .iniファイルに**\[LargeFileHandlingList\]**セクションを追加します。
2. そのセクションの下で処理するファイルを指定します。

ファイルを参照するポリシーでは、ワイルドカードを使用できます。例：`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Outlook*.ost`

これらのファイルがCitrix Profile Managementの除外リストに追加されていないことを確認してください。

> **注**
>
> 一部のアプリケーションでは、ファイルの同時アクセスが許可されていません。Citrixでは、大容量ファイル処理ポリシーを定義する際に、アプリケーションの動作を考慮することをお勧めします。

> Citrixは、Microsoftセキュリティ更新プログラムMS15-090を適用することをお勧めします。一般的なセキュリティ対策として、Microsoft Windowsシステムを常に最新の状態に保つようにしてください。

ファイル重複排除を有効にする

ユーザー ストア内のさまざまなユーザー プロファイルに、同じファイルが存在する可能性があります。ユーザー ストアにファイルの重複インスタンスが保存されていると、ストレージ コストが増加します。

ファイル重複排除ポリシーにより、Profile Management はユーザー ストアから重複ファイルを削除し、それらの1つのインスタンスを中央の場所（*共有ストア*と呼ばれる）に保存できます。これにより、ユーザー ストアでのファイルの重複が回避され、ストレージ コストが削減されます。重複排除は、ユーザー ストアと各レプリケートされたユーザー ストアに適用されます。

ファイル重複排除を有効にし、共有ストアに含めるファイルを指定するには、次のポリシーを構成します。

1. **ファイル重複排除 > 重複排除のために共有ストアに含めるファイル**
2. (オプション) **ファイル重複排除 > 共有ストアから除外するファイル**
3. (オプション) **ファイル重複排除 > プロファイルコンテナから重複排除するファイルの最小サイズ**

> **注:**
>
> 2311以降、ファイル重複排除ポリシーはプロファイルコンテナにも適用されます。最適なユーザーログオンエクスペリエンスを確保するために、Profile Management はプロファイルコンテナから最大10個のファイルを重複排除します（ただし、**重複排除のために共有ストアに含めるファイル** ポリシーで10個を超えるファイルを定義できます）。重複排除は、リストされたファイルが更新または作成され、指定されたサイズを超え、かつ重複排除されたファイルが10個未満である場合に発生します。

ファイル重複排除ポリシーを構成すると、Profile Management はユーザー ストアと同じパスに共有ストアを作成します。例:

- ユーザー ストアへのパス: `\\server\profiles$\%USERDOMAIN%\%USERNAME%\!CTX_OSNAME!!CTX_OSBITNESS!`!
- 共有ストアへのパス: `\\server\profiles$\%USERDOMAIN%\SharedFilesStore`

重複排除のために共有ストアにファイルを含める

ユーザー ストアに重複ファイルが存在する場合、ファイル重複排除を有効にし、重複排除のために共有ストアに含めるファイルを指定します。

> **重要:**

> 共有ストアに重複排除されたすべてのファイルはすべてのドメインユーザーが読み取れるため、個人データや機密データの重複排除は推奨しません。

> 詳細な手順は次のとおりです。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > ファイルの重複排除**にアクセスします。
3. **重複排除のために共有ストアに含めるファイル**をダブルクリックします。
4. **有効**を選択します。
5. **共有ストアに含めるファイルのリスト**フィールドで、**表示**をクリックします。
6. ユーザープロファイルに対する相対パスでファイル名を入力します。

   ワイルドカードは、以下の考慮事項とともにサポートされています。

   - ファイル名のワイルドカードは再帰的に適用されます。現在のフォルダーのみに制限するには、縦棒 (`|`) を使用します。
   - フォルダー名のワイルドカードは再帰的に適用されません。

   例:

   - `Downloads\profilemgt_x64.msi` — Downloadsフォルダー内のprofilemgt_x64.msiファイル
   - `*.cfg` — ユーザープロファイルフォルダーとそのサブフォルダー内の.cfg拡張子を持つファイル
   - `Music*` — Musicフォルダーとそのサブフォルダー内のファイル
   - `Downloads*.iso` — Downloadsフォルダーとそのサブフォルダーにある.iso拡張子のファイル
   - `Downloads*.iso|` — Downloadsフォルダーのみにある.iso拡張子のファイル
   - `AppData\Local\Microsoft\OneDrive**.dll` — AppData\Local\Microsoft\OneDriveフォルダーの直下のサブフォルダーにある.dll拡張子のファイル
7. **OK**をクリックし、もう一度**OK**をクリックします。

構成の優先順位

1. この設定が無効になっている場合、共有ストアは無効になります。
2. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、共有ストアは無効になります。

共有ストアからファイルを除外する

ワイルドカード文字を使用すると、ファイルのグループを一度にすべて共有ストアに含めることができます。グループから一部のファイルを除外するには、**共有ストアから除外するファイル**ポリシーを次のように有効にして構成します。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMXファイル) > Citrix Components > Profile Management > ファイルの重複排除**にアクセスします。
3. **共有ストアから除外するファイル**をダブルクリックします。
4. **有効**を選択します。
5. **共有ストアから除外するファイルのリスト**フィールドで、**表示**をクリックします。
6. ユーザープロファイルに対する相対パスでファイル名を入力します。

   ワイルドカードは、以下の考慮事項とともにサポートされています。

   - ファイル名内のワイルドカードは再帰的に適用されます。現在のフォルダーのみに制限するには、縦棒 (`|`) を使用します。
   - フォルダー名内のワイルドカードは再帰的に適用されません。

   例:

   - `Downloads\profilemgt_x64.msi` — Downloadsフォルダー内のprofilemgt_x64.msiファイル
   - `*.tmp` — ユーザープロファイルフォルダーとそのサブフォルダー内の.tmp拡張子を持つファイル
   - `AppData*.tmp` — AppDataフォルダーとそのサブフォルダー内の.tmp拡張子を持つファイル
   - `AppData*.tmp|` — AppDataフォルダー内のみの.tmp拡張子を持つファイル
   - `Downloads*\a.txt` — Downloadsフォルダーの直下のサブフォルダー内のa.txtファイル

7. **OK** をクリックし、もう一度 **OK** をクリックします。

構成の優先順位

1. この設定が無効になっている場合、ファイルは除外されません。
2. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ファイルは除外されません。

プロファイルコンテナから重複排除するファイルの最小サイズを指定します

プロファイルコンテナが有効になっている場合、プロファイルコンテナから重複排除するファイルの最小サイズを指定できます。デフォルトでは、Profile Management は、ファイルが 256 MB を超える場合にのみ、プロファイルコンテナからファイルを重複排除します。必要に応じて、次の手順でこのしきい値サイズを増やすことができます。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > ファイルの重複排除**にアクセスします。
3. **プロファイルコンテナから重複排除するファイルの最小サイズ**をダブルクリックします。
4. **有効**を選択します。
5. **最小サイズ (メガバイト)** フィールドに、必要に応じて 256 より大きい値を入力します。
6. **OK**をクリックします。

構成の優先順位

1. この設定がここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、値は 256 です。

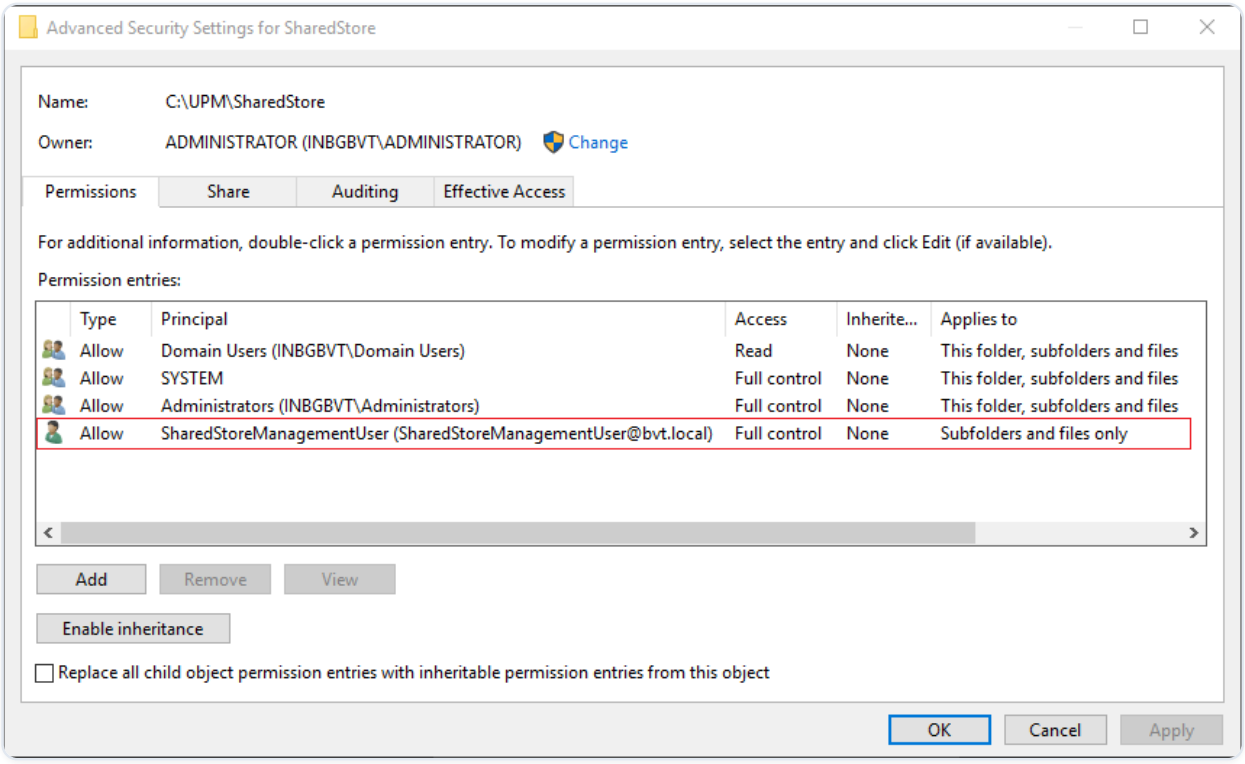
共有ストアのセキュリティ設定を構成する

共有ストアが存在しない場合、Profile Management は次のアクセス許可設定で自動的に共有ストアを作成します。

- ドメインコンピューター: フルコントロールアクセス
- ドメインユーザー: 読み取りアクセス

デフォルト設定ではドメインコンピューターにフルコントロールアクセス権が付与されるため、セキュリティを向上させるために共有ストアを手動で作成し、資格情報ベースのアクセスを実装することをお勧めします。そのためには、次の手順に従ってください。

1. 「**ユーザー ストアへのパス**」設定の`%USERNAME%`パラメーターと同じディレクトリレベルに共有ストアフォルダーを作成します。たとえば、「**ユーザー ストアへのパス**」設定が`\\SERVER\UPM_USER_STORE\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\!CTX_OSNAME!!CTX_OSBITNESS!`の場合、共有ストアフォルダーは`\\SERVER\UPM_USER_STORE\SharedStore`である必要があります。
2. 共有ストアに次のアクセス許可を付与します。この図に示すように、ユーザー`SharedStoreManagementUser`は共有ストアへのアクセスに使用される資格情報です。



3. 各VDAで、共有ストアにアクセスするために`SharedStoreManagementUser`ユーザーアカウントのWindows資格情報を追加します。この目的のために、Windows資格情報マネージャーまたはWorkspace Environment Managementを使用できます。詳細については、「ユーザー ストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする」に記載されている手順を参照してください。

ネイティブのOutlook検索エクスペリエンスを有効にする

Outlookの検索インデックスローミングを有効にする機能は、ネイティブのOutlook検索エクスペリエンスを提供します。この機能により、オフラインOutlookデータファイル (.ost) とユーザー固有の検索データベースが、ユーザープロファイルとともにローミングされます。

前提条件

この機能は、次の要件を満たすマシンで利用できます。

- オペレーティングシステム:

  - Microsoft Windows 10 バージョン 1709 以降
  - Windows Server 2016 以降のバージョン

- Microsoft Outlook 2019、2016、または2103、あるいはMicrosoft Office 365

この機能が有効になるには、マシンでMicrosoft Windows Search Serviceが有効になっていることを確認してください。デフォルトでは、Windowsデスクトップでは有効になっており、Windowsサーバーでは無効になっています。Windowsサーバーでサービスを有効にする方法の詳細については、このMicrosoftの記事を参照してください。以下のバージョンがテストされ、サポートされています。

- 7.0.20348.380, 7.0.20348.138,7.0.20344.1
- 7.0.21286.1000, 7.0.21343.1000
- 7.0.17134.376, 7.0.17134.285, 7.0.17134.228, 7.0.17134.1
- 7.0.16299.402, 7.0.16299.248, 7.0.16299.15
- 7.0.15063.413
- 7.0.14393.2457, 7.0.14393.2430, 7.0.14393.2368, 7.0.14393.2312, 7.0.14393.2273, 7.0.14393.2248, 7.0.14393.1884, 7.0.1493.1593
- 7.0.1393.2125, 7.0.1393.1884, 7.0.1393.1770
- 7.0.10240.17443
- 7.0.9600.18722

> **注:**
>
> この機能は、Microsoft Windows Search Service の将来のバージョンをサポートすることが期待されています。この機能が Microsoft Windows Search Service の特定の将来のバージョンをサポートしない場合は、Citrix テクニカルサポートにお問い合わせください。

仕組み

VHDX (Virtual Hard Disk) は、仮想マシンの仮想および論理ディスクストレージ領域を表すために使用されるディスクファイル形式です。Outlook の検索インデックスローミングを有効にする機能は、VHDX ファイルに依存して動作します。

この機能を使用する各ユーザーに対して VHDX ファイルが作成されます。VHDX ファイルは、ユーザー固有のプロファイルを、そのユーザーのプロファイル専用の個別の仮想ディスクに保存

します。Profile Management は、ログオン時に VHDX ファイルをマウントし、ログオフ時にアンマウントします。2 つの VHDX ファイルがあります。

- OutlookOST.vhdx ファイル。オフライン Outlook データファイル (`.ost`) を保存します
- OutlookSearchIndex.vhdx ファイル。OutlookOST.vhdx ファイルに保存されているオフラインフォルダーファイルの検索インデックスデータベースを保存します

> **注:**
>
> デフォルトでは、Profile Management はセッション中にデタッチされた VHDX ファイルを自動的に再アタッチします。詳細については、「セッションでデタッチされた VHDX ディスクを自動的に再アタッチする」を参照してください。

> Profile Management は、デフォルトで 30 GB の VHDX 容量を提供します。それに応じてストレージクォータを計画してください。VHDX の実際の使用量が以前に構成したクォータを超えると、VHDX ファイルはアンマウントされます。

キャッシュされた Exchange モードとオンラインモード間の自動切り替え

Profile Management は、Outlook コンテナが有効なマシンで中断のない Outlook サービスを提供します。

- ユーザーログオン時にOutlookコンテナが機能するためのすべての条件が満たされていることを検出すると、Profile ManagementはOutlookのキャッシュされたExchangeモードを自動的に有効にします。キャッシュされたExchangeモードが有効になっている場合、ユーザーはメールボックスデータのためにOutlookコンテナにリンクされます。これらの条件には以下が含まれます。
  - Outlookの検索インデックスローミングを有効にするポリシーが有効になっている。
  - Outlookコンテナがアタッチされている。
  - カスタマイズされたOSTパスが設定されていないか、Outlookコンテナのマウントパスである `appdata\local\microsoft\outlook` に設定されている。
- セッション中にコンテナがデタッチされたことを検出すると、Profile ManagementはOutlookをキャッシュされたExchangeモードからオンラインモードに切り替えます。ユーザーはメールボックスデータのためにExchange Serverにリンクされます。

- セッション中にコンテナが再アタッチされたことを検出すると、Profile ManagementはOutlookをキャッシュされたExchangeモードに戻します。

同時セッションのサポート

Outlook検索データローミングの同時セッションサポートを有効にする機能により、Profile Managementは同じユーザーの同時セッションでネイティブのOutlook検索エクスペリエンスを提供します。

この機能は、ユーザーの同時セッションごとにOutlook OSTファイルのコピーを割り当てます。デフォルトでは、Profile ManagementはOutlook OSTファイルを保存するために2つのVHDXディスク（ディスクごとに1ファイル）を提供します。ユーザーがさらにセッションを開始すると、追加のOutlook OSTファイルはローカルプロファイルに保存されます。

ストレージ容量に余裕がある場合は、VHDXディスクのデフォルト数を増やすことができます。たとえば、数を3に設定します。その結果、Profile Managementは最初の3つのセッションのOSTファイルをVHDXディスクに保存し、それ以降のセッションのOSTファイルはローカルプロファイルに保存します。

Outlook検索インデックスデータベースの自動バックアップと復元

Profile Managementは、検索インデックスデータベースの最後に確認された良好なコピーのバックアップを自動的に保存し、破損が発生した場合はそのコピーに復元できます。

この機能が有効になっている場合、Profile Managementは、データベースがログオン時に正常にマウントされるたびに、検索インデックスデータベースのバックアップを保存します。新しいバックアップが正常に保存された後、Profile Managementは以前に保存されたバックアップを削除します。Profile Managementは、そのバックアップを検索インデックスデータベースの良好なコピーとして扱います。検索インデックスデータベースのマウント試行が失敗した場合、Profile Managementは検索インデックスデータベースを最後に確認された良好なコピーに自動的に復元します。

重要:

- 検索インデックスデータベースが最初に作成され、ポリシーが有効になった後、Profile Managementは検索インデックスデータベースのバックアップを保存しません。
- Profile Management は、新しいバックアップが正常に保存された後、以前に保存されたバックアップを削除します。バックアップは、VHDX ファイルの利用可能なストレージ領域をより多く消費します。

機能を有効にする

ネイティブの Outlook 検索エクスペリエンスを提供するには、**Outlook の検索インデックスローミングを有効にする**機能を有効にし、必要に応じてその拡張機能を有効にします。詳細な手順は次のとおりです。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > 詳細設定**にアクセスします。
3. 次の手順で機能を有効にします。
    a. **Outlook の検索インデックスローミングを有効にする**ポリシーをダブルクリックします。
    b. **有効**を選択します。
    c. **OK**をクリックします。
4. 同じユーザーの同時セッションでこの機能をサポートするには、次の手順に従います。
    a. **Outlook 検索データローミングの同時セッションサポートを有効にする**ポリシーをダブルクリックします。
    b. **有効**を選択します。
    c. 利用可能なストレージ容量がある場合は、**Outlook OST ファイルを保存するための VHDX ディスクの最大数**フィールドで、デフォルトの VHDX ディスクの数を増やします。このフィールドの詳細については、「同時セッションのサポート」を参照してください。
    d. **OK**をクリックします。
5. この機能の高い安定性を提供するには、次の手順に従います。
    a. 「**Outlook 検索インデックスデータベースのバックアップと復元**」ポリシーをダブルクリックします。
    b. 「**有効**」を選択します。
    c. 「**OK**」をクリックします。
6. この機能の可用性を高めるには、次の手順に従います。
    a. 「**セッションで VHDX ディスクを自動的に再アタッチする**」ポリシーをダブルクリックします。
    b. 「**有効**」を選択します。
    c. 「**OK**」をクリックします。

変更を有効にするには、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行し、すべてのセッションからログオフしてから、再度ログオンします。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` を参照してください。

> 「**注:**」:

> この機能を Microsoft Windows 10 1809 以降、および Windows Server 2019 以降で動作させるには、`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows Search` の下に DWORD 値 `EnablePerUserCatalog = 0` を追加します。レジストリ設定を有効にするには、VDA を再起動します。

OneDriveコンテナを有効にする

OneDriveコンテナを使用すると、OneDriveフォルダーはユーザーとともにローミングできます。その結果、ユーザーはどのコンピューターからでも同じOneDriveフォルダーにアクセスできます。

OneDriveコンテナは、VHDXベースのフォルダーローミングソリューションです。Profile Managementは、ファイル共有上にユーザーごとにVHDXファイルを作成し、ユーザーのOneDriveフォルダーをVHDXファイルに保存します。VHDXファイルは、ユーザーがログオンするときにアタッチされ、ログオフするときにデタッチされます。

Profile Managementは、次の2つのプロファイルソリューションを提供し、OneDriveコンテナはその両方に適用されます。

- **ファイルベース**。ユーザープロファイルは、ログオン時にリモートユーザーストアからローカルコンピューターにフェッチされ、ログオフ時に書き戻されます。
- **コンテナベース**。ユーザープロファイルはVHDXファイル（プロファイルコンテナとして知られています）に保存されます。これらのVHDXファイルは、ログオン時に自動的にアタッチされ、ログオフ時にデタッチされます。

OneDriveコンテナを展開するための一般的なワークフローは次のとおりです。

1. （オプション）VHDXファイルの保存パスを指定する(#optional-specify-the-storage-path-for-the-vhdx-files)
2. OneDriveコンテナを有効にして構成する(#enable-and-configure-the-onedrive-container)

注：

- Citrix Profile Management 2206以降、コンテナベースのソリューションを使用している場合、OneDriveフォルダーはデフォルトでユーザーとともにローミングします。ただし、別のコンテナを使用してOneDriveフォルダーをローミングしたい場合は、OneDriveコンテナを有効にすることもできます。
- Citrix Profile Management 2311以降、OneDriveコンテナは次の同期機能をサポートしています。
  - マルチセッションランタイム同期。ユーザーが1つのセッションでOneDriveファイルに加えた変更は、すべての同時セッションで即座に表示されるようになりました。
  - シングルサインオン（SSO）同期。ユーザーは、その後のログオン時にOneDriveの資格情報を再入力する必要がありません。

（オプション）VHDXファイルの保存パスを指定する

デフォルトでは、OneDriveコンテナ用のVHDXファイルは、ユーザーストアと同じストレージサーバーに保存されます。

例えば、ユーザーストアのパスを次のように構成します。

`\\myprofileserver\profiles$\%username%.%domain%\!ctx_osname!.!ctx_osbitness!`!

OneDriveコンテナのVHDXファイルは、次に保存されます。

`\\myprofileserver\profiles$\%username%.%domain%\!ctx_osname!.!ctx_osbitness!\OneDrive`

必要に応じて、OneDriveフォルダーのVHDXディスクを保存する別のファイル共有を指定できます。詳細については、「VHDXファイルのストレージパスを指定する」を参照してください。

OneDriveコンテナを有効にして構成する

OneDriveコンテナポリシーを有効にし、VHDXファイルに保存するOneDriveフォルダーを指定します。詳細な手順は次のとおりです。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMXファイル) > Citrix Components > Profile Management > 詳細設定**にアクセスし、**OneDriveコンテナを有効にする**をダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。
4. **OneDriveフォルダーのリスト**フィールドで、**表示**をクリックします。
5. ユーザープロファイルに対する相対パスの形式でOneDriveフォルダーを入力し、**OK**をクリックします。

   たとえば、OneDriveフォルダーの絶対パスが`%userprofile%\OneDrive - Citrix`の場合、`OneDrive - Citrix`をリストに追加します。

   > **注：**
   >
   > 相対パスには、`!CTX_OSNAME!`や`!CTX_OSBITNESS!`などの変数を含めることはできません。

6. **OK**をクリックします。

UWPアプリローミングを有効にする (プレビュー)

UWPアプリのローミングを有効にするポリシーを使用すると、UWP (ユニバーサル Windows プラットフォーム) アプリをユーザーとローミングさせることができます。その結果、ユーザーは異なるデバイスから同じUWPアプリにアクセスできます。

> **注：**
>
> - このポリシーはWindows 10のみと互換性があり、他のWindowsバージョンまたはWindows Serverバージョンとは互換性がありません。
> - **ユーザーストアのレプリケーション**ポリシーは、UWPアプリのVHDXディスクレプリケーションをサポートしていません。

仕組み

UWPアプリのローミングを有効にするポリシーが有効になっている場合、Profile Managementは次のように動作します。

1. ユーザーがUWPアプリのインストールを開始すると、Profile Managementはインストールプロセスを監視します。
2. 環境でのアプリの初回インストールである場合、Profile Managementは`{User_Store_File_Share_Path}\AppStore\`フォルダーにVHDXディスクを作成し (*UWPアプリコンテナ* と呼ばれる)、そのディスクにアプリ (個人設定を除く) を保存します。同じアプリのその後のインストールでは、Profile Managementは追加のVHDXディスクを作成しません。したがって、各UWPアプリはUWPアプリコンテナ内に単一のVHDXディスクを持ちます。
3. ユーザーがマシンにログオンすると、ユーザーがインストールしたUWPアプリのVHDXディスクがアタッチされます。ユーザーがログオフすると、それらのディスクはデタッチされます。

> **重要：**
>
> - UWPアプリのローミングは、ポリシーが有効になった後にユーザーごとのパッケージを使用してインストールされたUWPアプリにのみ適用されます。言い換えれば、アプリがインストールされた後にポリシーが有効になった場合、そのアプリは、ユーザーごとのパッケージを使用して再インストールされるまでローミングの恩恵を受けません。
> - すべてのユーザーがUWP VHDXディスクを共有します。

GPOを使用してUWPアプリのローミングポリシーを有効にする

詳細な手順は次のとおりです。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > 詳細設定**にアクセスします。
3. **UWP アプリのローミング**ポリシーをダブルクリックします。
4. 表示されるポリシーウィンドウで、**［有効］を選択し、［OK］**をクリックします。
5. UWP ローミングのログオンおよびログオフエクスペリエンスを向上させるには、次のように**フォルダーミラーリングの高速化**ポリシーを有効にします。

a. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > ファイルシステム > 同期**にアクセスします。
b. **フォルダーミラーリングの高速化**ポリシーをダブルクリックします。
c. 表示されるポリシーウィンドウで、**［有効］を選択し、［OK］**をクリックします。

構成の優先順位は次のとおりです。

- この設定がGPO、Studio、またはWorkspace Experience Management (WEM) を使用して構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
- この設定がどこにも構成されていない場合、この機能は無効になります。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

VHD設定を構成する

この記事では、VHDXベースの機能をカスタマイズおよび最適化する方法について説明します。

- VHDコンテナのストレージ容量とパスを指定する

  適用対象: プロファイルコンテナ、OneDriveコンテナ、フォルダミラーリングコンテナ、およびOutlook検索インデックスコンテナ。
- VHDディスク圧縮設定を有効にして構成する

  適用対象: プロファイルコンテナ、OneDriveコンテナ、およびフォルダミラーリングコンテナ
- VHDコンテナへの排他的アクセスを有効にする

  適用対象: プロファイルコンテナおよびOneDriveコンテナ
- セッションでのVHDXディスクの自動再アタッチを有効にする

  適用対象: プロファイルコンテナ、Outlook検索インデックスコンテナ、フォルダミラーリングコンテナ、およびOneDriveコンテナ。

これらのコンテナの詳細については、以下を参照してください。

- プロファイルコンテナ
- Outlook検索インデックスローミング (*Outlook検索インデックスコンテナ* と呼ばれる)
- フォルダミラーリングソリューションの高速化 (*フォルダミラーリングコンテナ* と呼ばれる)
- OneDriveコンテナ

VHDコンテナのストレージ容量とパスを指定する

デフォルトでは、各VHDXコンテナはユーザー ストアに50 GBのディスク容量で保存されます。必要に応じて、別のストレージパスを選択し、そのデフォルト容量を変更できます。

以下に、VHDXファイルのデフォルトおよびカスタムストレージパスを示します。

- プロファイルコンテナの設定
  - デフォルト: {USER_STORE_PATH}\ProfileContainer\\{OS_NAME_SHORT}\
  - カスタム: {VHDX_STORE_PATH}\ProfileContainer\\{OS_NAME_SHORT}\
- Outlook検索インデックスのローミング
  - デフォルト: {USER_STORE_PATH}\VHD\\{OS_NAME_SHORT}\
  - カスタム: {VHDX_STORE_PATH}\VHD\\{OS_NAME_SHORT}\
- フォルダーミラーリングの高速化
  - デフォルト: {USER_STORE_PATH}\MirrorFolders\
  - カスタム: {VHDX_STORE_PATH}\MirrorFolders\
- OneDriveコンテナを有効にする
  - デフォルト: {USER_STORE_PATH}\OneDrive\
  - カスタム: {VHDX_STORE_PATH}\OneDrive\

プロファイル管理は、現在のユーザーを偽装してVHDXファイルにアクセスするようになり、VHDXファイルのストレージパスへのドメインコンピューターに対する`full control`権限は付与されません。

ストレージパスを指定する

VHDXコンテナ用にネットワークストレージの場所を準備します。ユーザーに、そのストレージの場所への`Modify`権限以上を付与していることを確認してください。

VHDXコンテナのストレージパスを指定するには、次の手順に従います。

1. **グループポリシー管理エディター**を開きます。
2. **コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Citrix Components > Profile Management > 詳細設定**の下で、**VHDXファイルのストレージパスをカスタマイズ**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。

4. **VHDXファイルを保存するパス**フィールドに、ストレージの場所の完全なパスを入力します。例: `\\myservername\vhdx_store`。
5. **適用**をクリックし、次に**OK**をクリックします。

設定を有効にするには、次の操作を行います。

1. ユーザープロファイルを使用しているすべてのセッションからログオフします。
2. コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

   ポリシーが有効になるタイミングは、ユースケースによって異なります。

   - VHDXファイルのストレージパスを初めて指定する場合、ポリシーはユーザーがログオンした後に有効になります。
   - VHDXファイルのストレージパスを変更する場合、ポリシーはユーザーが初めてログオフした後に有効になります。

`gpupdate` コマンドの詳細については、Microsoft ドキュメント を参照してください。

この設定がここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、Profile Management は VHDX ファイルをユーザー ストアに保存します。

VHD コンテナーのデフォルトのストレージ容量を指定する

各VHDコンテナのデフォルトのストレージ容量は50 GBです。容量を変更するには、次の手順に従います。

1. **グループポリシー管理エディター**を開きます。
2. **コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Citrix コンポーネント > Profile Management > 詳細設定**で、**VHDコンテナのデフォルト容量 (GB)** ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。
4. **デフォルト容量 (GB)** フィールドに、必要に応じて新しい数値を入力します。
5. **OK**をクリックします。

VHD ディスク圧縮設定を有効にして構成する

VHDディスク圧縮は、空き領域を削除し、ファイル内のデータを結合することで、VHDファイルのサイズを削減するプロセスです。**VHDディスク圧縮を有効にする**ポリシーを使用すると、Profile ManagementでVHDディスク圧縮を有効にできます。Profile Managementによって作成されたVHD

ファイルは、特定の条件が満たされるとユーザーログオフ時に自動的に圧縮され、中央ストレージまたはクラウドストレージのスペースを節約します。

このセクションでは、VHD ディスク圧縮を有効にし、デフォルトの圧縮設定と動作を調整する方法について説明します。

概要

VHDXディスク圧縮は、Profile Managementの次のVHDXファイルに適用されます。

- プロファイルコンテナ
- OneDrive コンテナ
- フォルダーミラーリングコンテナ

「**VHDディスク圧縮を有効にする**」ポリシーが有効になっている場合、以下のいずれかの条件が満たされると、ユーザーのログオフ時にVHDXファイルが自動的に圧縮されます。

- VHDファイルの空き領域比率が指定された値（デフォルトでは20%）を超えている場合

  空き領域比率 = (現在のVHDファイルサイズ – 必要な最小VHDファイルサイズ*) ÷ 現在のVHDファイルサイズ

  * Microsoft Windowsオペレーティングシステムの`MSFT_Partition`クラスのGetSupportedSizeメソッドを使用して取得されます。詳細については、「VHDファイルの必要な最小サイズを取得する」を参照してください。
- 最後の圧縮以降のログオフ回数が指定された値（デフォルトでは5）に達した場合

> **注：**
>
> ユーザーがログオフすると、VHDディスクの圧縮プロセスはログオフプロセスと並行して実行されます。そのため、ディスク圧縮によってログオフ時間が長くなることはありません。ユーザーが再度ログオンしようとしたときにVHDディスク圧縮プロセスが完了していない場合、Profile Managementはログオン試行を阻止します。

必要に応じて、および利用可能なリソースに応じて、「**詳細設定**」にある以下のポリシーを使用して、これらのデフォルト設定を調整できます。

- VHDディスク圧縮をトリガーする空き領域比率
- VHDディスク圧縮をトリガーするログオフ回数

VHDディスク圧縮が有効になっている場合、VHDディスクファイルはまずWindows組み込みの`defrag`ツールを使用してデフラグされ、その後圧縮されます。VHDディスクのデフラグはより良い圧縮結果をもたらしますが、無効にするとシステムリソースを節約できます。必要に応じて、「**詳細設定**」にある以下のポリシーを使用してデフラグを無効にできます。

- VHDディスク圧縮のデフラグを無効にする

VHDディスク圧縮を有効にする

VHDディスク圧縮を有効にすると、プロファイルコンテナ、OneDriveコンテナ、およびフォルダミラーリングコンテナによって消費されるストレージスペースを節約できます。

GPOを使用してVHDディスク圧縮を有効にするには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > プロファイルコンテナ設定**にアクセスします。
3. **VHDディスク圧縮**ポリシーをダブルクリックします。
4. 表示されるポリシーウィンドウで、**有効**を選択し、**OK**をクリックします。

構成の優先順位は次のとおりです。

1. この設定がGPO、Studio、またはWorkspace Environment Management™ (WEM) を使用して構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がどこにも構成されていない場合、この機能は無効になります。

圧縮設定と動作を変更する

VHDディスク圧縮を有効にするとストレージスペースを節約できますが、システムI/Oとネットワーク帯域幅も消費します。圧縮プロセス中のシステムおよびネットワークリソースの使用状況を監視して、以下の設定を調整するかどうかを判断できます。

- VHDディスク圧縮をトリガーする空き領域比率
- VHDディスク圧縮をトリガーするログオフ回数
- VHDディスク圧縮のデフラグを無効にする

GPOを使用してデフォルトの圧縮設定と動作を変更するには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > 詳細設定**にアクセスします。

3. 圧縮をトリガーする空き領域の比率を変更するには、次の手順に従います。
    a. **VHD ディスク圧縮をトリガーする空き領域の比率**ポリシーをダブルクリックします。
    b. 表示されるポリシーウィンドウで、**有効**を選択し、必要に応じてパーセンテージを入力して、**OK**をクリックします。
4. 圧縮をトリガーするログオフ回数 (前回の圧縮以降) を変更するには、次の手順に従います。
    a. **VHD ディスク圧縮をトリガーするログオフ回数**ポリシーをダブルクリックします。
    b. 表示されるポリシーウィンドウで、**有効**を選択し、必要に応じて値を入力して、**OK**をクリックします。
5. VHD ディスク圧縮のデフラグを無効にするには、次の手順に従います。
    a. **VHD ディスク圧縮のデフラグを無効にする**ポリシーをダブルクリックします。
    b. 表示されるポリシーウィンドウで、**有効**を選択して、**OK**をクリックします。

構成の優先順位は次のとおりです。

- VHD ディスク圧縮をトリガーする空き領域の比率
    a. この設定がGPO、Studio、またはWEMを使用して構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
    b. この設定がどこにも構成されていない場合、デフォルト値の20 (%) が使用されます。
- VHDディスク圧縮をトリガーするログオフ回数
    a. この設定がGPO、Studio、またはWEMを使用して構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
    b. この設定がどこにも構成されていない場合、デフォルト値の5が使用されます。
- VHDディスク圧縮のデフラグを無効にする
    a. この設定がGPO、Studio、またはWEMを使用して構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
    b. この設定がどこにも構成されていない場合、デフラグはデフォルトで有効になります。

VHDファイルの必要な最小サイズを取得する

詳細な手順は次のとおりです。

1. VHDファイルがオペレーティングシステムにアタッチされていることを確認します。

2. このPowerShellコマンドを管理者として実行します。

   ```
   Get-WmiObject -Class MSFT_Partition -Namespace
   ROOT\Microsoft\Windows\Storage
   ```

   現在のデスクトップのすべてのパーティションが表示されます。

3. VHDファイルに対応するパーティションを見つけ、GetSupportedSizeメソッドを使用して必要な最小サイズ (`SizeMin`) を取得します。

VHDコンテナへの排他的アクセスを有効にする

> **注：**
>
> - この設定は、OneDriveコンテナと、ユーザープロファイル全体に対して有効になっているプロファイルコンテナに適用されます。
> - この設定がプロファイルコンテナに対して有効になっている場合、**プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする**設定は自動的に無効になります。

> デフォルトでは、VHDコンテナは同時アクセスを許可します。必要に応じて、プロファイルコンテナとOneDriveコンテナの同時アクセスを無効にできます。

詳細な手順は次のとおりです。

1. **グループポリシー管理エディター**を開きます。
2. **コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Citrix Components > Profile Management > プロファイルコンテナ設定**の下で、**VHDコンテナへの排他的アクセスを有効にする**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。
4. 排他的アクセスを有効にするコンテナを選択します。オプションには、**プロファイルコンテナ**と**OneDriveコンテナ**が含まれます。
5. **OK**をクリックします。

設定を有効にするには、次の操作を行います。

1. ユーザープロファイルを使用しているすべてのセッションからログオフします。
2. コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、設定は無効になります。

セッションでのVHDXディスクの自動再アタッチを有効にする

セッションでのVHDXディスクの自動再アタッチ機能により、Profile ManagementはVHDXベースのポリシーの高い安定性を確保します。

各VHDX関連ポリシーは、適切に機能するために該当するVHDXディスクに依存します。Profile Managementは、ログオン中にこれらのディスクをアタッチし、ログオフ中にデタッチします。ただし、これらのVHDXディスクはセッション中に誤ってデタッチされる可能性があり、ポリシーが適切に機能しなくなることがあります。VHDXディスクがデタッチされる可能性のある原因には、次のものがあります。

- ファイルサーバーで一時的なエラーが発生する
- ネットワーク接続が遅い

セッションでVHDXディスクを自動的に再アタッチするポリシーが有効になっている場合、Profile Managementは、前述のVHDXベースのポリシーで使用されているVHDXディスクを監視します。いずれかのディスクがデタッチされた場合、Profile Managementはディスクを自動的に再アタッチします。

ポリシーを有効にする

デフォルトでは、このポリシーは有効になっています。VHDXベースのポリシーの高い安定性を確保するために、デフォルト設定を維持することをお勧めします。

VHDXベースのポリシーでパフォーマンスの問題が発生した場合は、次の手順に従ってポリシー設定を確認してください。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **Citrix Components > Profile Management > Advanced settings**で、**セッションでVHDXディスクを自動的に再アタッチする**ポリシーをダブルクリックします。
3. 設定が**無効**になっている場合は、**有効**を選択し、**OK**をクリックします。

変更を有効にするには、Microsoftの記事に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

構成の優先順位：

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用され、デフォルトは**有効**です。

2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ポリシーはデフォルトで有効になります。

競合するプロファイルの解決

既存の展開にProfile Managementを追加すると、ローカルのWindowsユーザープロファイルとCitrix®ユーザープロファイル（ユーザーストア内）の間で競合が発生する可能性があります。このシナリオでは、ローカルのWindowsプロファイル内のデータがどのように管理されるかを決定する必要があります。

1. Profile Managementで、フォルダーを開きます。
2. **ローカルプロファイルの競合処理**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。
4. ドロップダウンリストから次のいずれかのオプションを選択します。

    - **ローカルプロファイルを使用**。Profile ManagementはローカルのWindowsユーザープロファイルを処理しますが、いかなる方法でも変更しません。
    - **ローカルプロファイルを削除**。Profile ManagementはローカルのWindowsユーザープロファイルを削除し、その後ユーザーストアからCitrixユーザープロファイルをインポートします。
    - **ローカルプロファイルの名前を変更**。Profile ManagementはローカルのWindowsユーザープロファイルの名前を変更し（バックアップ目的）、その後ユーザーストアからCitrixユーザープロファイルをインポートします。

ここでローカルプロファイルの競合処理が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、既存のローカルプロファイルが使用されます。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

テンプレートまたは強制プロファイルを指定する

デフォルトでは、新しいCitrix®ユーザープロファイルは、ユーザーが最初にログオンするコンピューター上のデフォルトのユーザープロファイルから作成されます。Profile Managementは、プロファイルを作成する際に、代わりに一元的に保存されたテンプレートを使用できます。このテ

ンプレートは、任意のネットワークファイル共有に存在する標準の移動プロファイル、ローカルプロファイル、または強制プロファイルにすることができます。

異なるデバイスのデフォルトユーザープロファイルに差異があると、ユーザー用に作成されるベースプロファイルにも違いが生じます。テンプレートプロファイルの選択は、グローバルデフォルトユーザープロファイルと見なすことができます。

前提条件:

- テンプレートプロファイルにユーザー固有のデータが含まれていないことを確認します
- ユーザーがテンプレートプロファイルへの読み取りアクセス権を持っていることを確認します
- 強制プロファイルをテンプレートプロファイルに変換するには、ファイルNTUSER.MANの名前をNTUSER.DATに変更します
- テンプレートプロファイル内のNTUSER.DATからSACLを削除します

既存のMicrosoftプロファイルをカスタマイズしてテンプレートプロファイルを作成する方法については、`<https://support.microsoft.com/kb/959753>`および`<https://support.microsoft.com/kb/973289>`を参照してください。

1. Profile Managementで、フォルダーを開きます。
2. **テンプレートプロファイル**ポリシーをダブルクリックします。
3. を選択します。
4. **テンプレートプロファイルへのパス**で、テンプレートまたは強制プロファイルとして使用するプロファイルの場所を入力します。このパスは、NTUSER.DATレジストリファイルと、テンプレートに必要なその他のフォルダーおよびファイルを含むフォルダーへの完全なパスです。

   重要: パスがNTUSER.DATのみで構成されている場合は、パスにファイル名を含めないでください。たとえば、ファイル`\\myservername\myprofiles\template\ntuser.dat`の場合、場所を`\\myservername\myprofiles\template`として設定します。

   絶対パスを使用します。これはUNCパスまたはローカルマシン上のパスのいずれかです。後者を使用すると、たとえば、Citrix Provisioning™ Servicesイメージにテンプレートプロファイルを永続的に指定できます。相対パスはサポートされていません。

   このポリシーは、Active Directory属性、システム環境変数、または`%USERNAME%`および`%USERDOMAIN%`変数の展開をサポートしていません。
5. オプションで、既存のWindowsユーザープロファイルを上書きするためのチェックボックスを選択します。ユーザーにCitrixユーザープロファイルがない場合でも、ローカルまたは移動Windowsユーザープロファイルが存在する場合、デフォルトではローカルプロファイルが使用

されます。そして、これが無効になっていない限り、このファイルはユーザーストアに移行されます。**テンプレートプロファイルがローカルプロファイルを上書きする**または**テンプレートプロファイルが移動プロファイルを上書きする**チェックボックスを有効にすることで、設定を変更できます。また、テンプレートをCitrix強制プロファイルとして識別します。Windows強制プロファイルと同様に、Citrix強制プロファイルには変更を保存できません。

ここで**テンプレートプロファイル**が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、テンプレートまたは強制プロファイルは使用されません。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

移行ポリシーを選択する

Profile Managementが有効になった後、ユーザーが初めてログオンするとき、そのユーザーのCitrix®ユーザープロファイルは存在しません。しかし、ログオン中に既存のWindowsユーザープロファイルを「オンザフライ」で移行できます。既存のどのプロファイル（ローミング、ローカル、またはその両方）をコピーして、その後のすべての処理で使用するかを決定します。

移行戦略の計画に関する詳細については、「プロファイルの移行または作成」を参照してください。さらに、既存のプロファイルを移行するためのシステム要件については、「システム要件」で確認してください。

1. Profile Managementの下にある「プロファイル処理」フォルダーを開きます。
2. 「既存プロファイルの移行」ポリシーをダブルクリックします。
3. 「有効」を選択します。
4. ドロップダウンリストから次のいずれかのオプションを選択します。

    - ローカル。ローカルプロファイルを移行する場合は、この設定を使用します。
    - ローカルおよびローミング。ローカルプロファイルとローミングプロファイル（以前はターミナルサービスプロファイルとして知られていたリモートデスクトップサービスプロファイルを含む）を移行する場合は、この設定を使用します。
    - ローミング。ローミングプロファイルまたはリモートデスクトップサービスプロファイルを移行する場合は、この設定を使用します。

ここで「既存プロファイルの移行」が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、既存のローカルプロファイルとローミングプロファイルが移行されます。この設定が無効になっている場合、プロファイルは移行されません。この設定が無効になっており、ユーザーストアにCitrixユーザープロファイルが存在しない場合、Profile Managementを使用しないセットアップと同様に、プロファイルを作成するための既存のWindowsメカニズムが使用されます。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

処理するグループのプロファイルを定義する

プロファイルが処理されるユーザーと、処理されないプロファイルを定義できます。コンピューターのローカルグループとドメイングループ（ローカル、グローバル、ユニバーサル）の両方を使用できます。ドメイングループは `<DOMAIN NAME>\<GROUP NAME>` の形式で指定します。ローカルグループは GROUP NAME の形式で指定します。

注： コンピューターのローカルグループは、新しく作成されたローカルグループである必要があり、メンバーはドメインユーザーである必要があります。

1. Profile Management で、**処理済みグループ**ポリシーをダブルクリックします。
2. 「**Enabled**」を選択します。
3. **表示**をクリックします。
4. Profile Management でプロファイルを処理するユーザーを含むグループを追加します。複数のエントリを区切るには、Enter キーを使用します。

   ここでこの設定が構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。ここでも .ini ファイルでもこの設定が構成されていない場合、除外グループポリシーを使用して除外しない限り、すべてのユーザーグループのメンバーが処理されます。
5. Profile Management で、除外グループポリシーをダブルクリックします。
6. 「**Enabled**」を選択します。
7. **表示**をクリックします。
8. Profile Management でプロファイルを処理しないユーザーを含むグループを追加します。複数のエントリを区切るには、Enter キーを使用します。

   ここでこの設定が構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。ここでも .ini ファイルでもこの設定が構成されていない場合、どのグループのメンバーも除外されません。

9. ローカル管理者のプロファイルを管理するには、Profile Management で、**ローカル管理者のログオンを処理する**ポリシーをダブルクリックし、**有効**をクリックします。

   重要： デフォルトでは、Profile Management は使用中のオペレーティングシステムを認識し、サーバーオペレーティングシステムではなくデスクトップオペレーティングシステム上のローカル管理者のアカウントを処理します。その理由は、ユーザーは通常デスクトップでのみローカル管理者グループのメンバーであり、サーバー環境での処理からローカル管理者を除外することはトラブルシューティングに役立つためです。したがって、デフォルトの動作を変更したい場合にのみ、このポリシーを有効にしてください。

   除外グループポリシーは、**ローカル管理者のログオンを処理する**ポリシーよりも優先されます。アカウントが両方のポリシーに表示されている場合、Profile Management はそれを処理しません。

   ここでこの設定が構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。ここでも .ini ファイルでもこの設定が構成されていない場合、ローカル管理者のプロファイルは処理されません。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` に記載されているように、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

ユーザー ストアの移行

Profile Management は、データを失うことなくユーザー ストアを移行するソリューションを提供します。この機能は、ユーザー ストアをよりスケーラブルなファイル サーバーに移行したい場合に役立ちます。

ユーザー ストアを移行するには、 ポリシーを ポリシーと組み合わせて使用します。 ポリシーを使用すると、ユーザー設定 (レジストリの変更と同期されたファイル) が以前に保存されていたフォルダーへのパス (以前使用していたユーザー ストアのパス) を指定できます。

パスは、絶対 UNC パスまたはホーム ディレクトリに対する相対パスにすることができます。どちらの場合も、次の種類の変数を使用できます。

- システム環境変数 (パーセント記号で囲む)
- Active Directory ユーザー オブジェクトの属性 (ハッシュ記号で囲む)

例:

- フォルダー `Windows\%ProfileVer%` は、ユーザー設定をユーザー ストアの `Windows\W2K3` というサブフォルダーに保存します (%ProfileVer% が W2K3 に解決されるシステム環境変数である場合)。
- `\\server\share#SAMAccountName#` は、ユーザー設定を UNC パス `\\server\share\<JohnSmith>` に保存します (`#SAMAccountName#` が現在のユーザーに対して JohnSmith に解決される場合)。

パスでは、`%username%` と `%userdomain%` を除くユーザー環境変数を使用できません。

この設定が無効になっている場合、ユーザー設定は現在のユーザー ストアに保存されます。

この設定がここで構成されていない場合、.ini ファイルの対応する設定が使用されます。

この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、ユーザー設定は現在のユーザー ストアに保存されます。

ポリシー設定の変更が有効になると、以前のユーザー ストアに保存されていたユーザー設定は、ポリシーで指定された現在のユーザー ストアに移行されます。

グループ ポリシーでユーザー ストアの移行を構成するには、次の手順を実行します。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management** の下で、**ユーザー ストアの移行**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。
4. **オプション**ペインで、以前使用したユーザー ストアのパスを入力します。
5. **OK**をクリックします。

変更を有効にするには、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。すべてのセッションからログオフし、再度ログオンします。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` を参照してください。

Citrix Studio で Profile Management ポリシーを構成することもできます。これを行うには、次の手順を実行します。

1. Citrix Studio の左ペインで、**ポリシー**をクリックします。
2. **ポリシーの作成**ウィンドウで、検索ボックスにポリシーを入力します。たとえば、「ユーザー ストアの移行」と入力します。
3. **選択**をクリックして、**ユーザー ストアの移行**ポリシーを開きます。

4. **有効**を選択し、以前使用したユーザー ストアのパスを入力します。
5. **OK**をクリックします。

証明書を保存する

セッション中に証明書ストアにインポートされた個人証明書を保存するには、この手順に従ってください。デフォルトでは、証明書は自動的に同期されます。

「**同期するディレクトリ**」設定にパス `Application Data\Microsoft\SystemCertificates\My` を追加します。オペレーティングシステムの言語によって、この場所のApplication Dataフォルダーが決まります。ポリシーを使用して多言語システムを構成する場合は、各言語の場所をリストに追加します。

例

英語システムでは、パスは `Application Data\Microsoft\SystemCertificates\My` です。ドイツ語システムでは、`Anwendungsdaten\Microsoft\SystemCertificates\My` です。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` に記載されているとおりに、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

フォルダーリダイレクトを構成する

フォルダーリダイレクトはMicrosoft Windowsの機能であり、Profile Managementと併用できます。

> **重要:**

> フォルダーリダイレクトは、Microsoft Active Directory (AD) GPOまたはCitrix®ポリシーのいずれか1つの方法のみを使用して構成してください。複数の方法を使用してフォルダーリダイレクトを構成すると、予期しない結果が生じる可能性があります。

> フォルダーリダイレクトを構成するには、次の手順を実行します。

1. 該当するユーザーを、Profile Managementが管理するOUに移動します。
2. GPOを作成し、編集用に開きます。

3. **ユーザーの構成 > 管理用テンプレート > Citrix Components > Profile Management > フォルダーリダイレクト**に移動し、リダイレクトするフォルダーを選択します。
4. `<folder name>`フォルダーのリダイレクトポリシーを有効にし、リダイレクトされたパスを入力します。リダイレクトされたフォルダーを除外として追加しないでください。パスにユーザー名やフォルダー名を追加しないでください。たとえば、**デスクトップ**フォルダーへのパスを`\\server\share\`として設定した場合、ユーザー環境のフォルダーは`\\server\share\<user name>\Desktop`としてリダイレクトされます。
5. 変更を有効にするには、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`を参照してください。

次のフォルダーをリダイレクトできます。

- AppData(ローミング)
- デスクトップ
- スタートメニュー
- ドキュメント
- 画像
- 音楽
- ビデオ
- お気に入り
- 連絡先
- ダウンロード
- リンク
- 検索
- 保存されたゲーム

フォルダーのリダイレクト時には、次の点に注意してください。

- 「**ドキュメント**」フォルダー。ユーザーのホームディレクトリにリダイレクトできます。
- 「**音楽**」、「**画像**」、および「**ビデオ**」フォルダー。これらは、「**ドキュメント**」フォルダーを基準としたフォルダーにリダイレクトできます。

フォルダーリダイレクトが機能することを確認する方法

フォルダーリダイレクトが機能することを確認するには、次の手順を実行します。

1. セッションで、リダイレクトしたフォルダーに移動し、フォルダーを右クリックして、**プロパティ**を選択します。
2. プロパティウィンドウで、**ショートカット**タブに移動し、**ターゲット**フィールドを確認します。フィールドにリダイレクトされたパスが表示されている場合、フォルダーリダイレクトは機能しています。そうでない場合、フォルダーリダイレクトは機能していません。

フォルダーリダイレクトログ

> **注:**
>
> Profile Managementは、フォルダーリダイレクトが失敗した場合にのみ、Windowsイベントログに情報を書き込みます。

> Profile ManagementはWindowsイベントログに情報を書き込みます。イベントはWindowsイベントビューアーの**アプリケーション**ペインで確認できます。この情報は、フォルダーリダイレクト機能の使用時に発生する問題のトラブルシューティングに役立ちます。

オフラインプロファイルの構成

Citrix®オフラインプロファイルは、ネットワークへのアクセスが断続的であるラップトップユーザーまたはモバイルデバイスユーザー向けに設計されています。この機能により、プロファイルは可能な限り早い機会にユーザー ストアと同期されます。ネットワーク接続が切断されても、再起動または休止状態になった後でも、プロファイルはラップトップまたはデバイス上でそのまま維持されます。モバイルユーザーが作業するにつれて、プロファイルはローカルで更新され、ネットワーク接続が再確立されると最終的にユーザー ストアと同期されます。

この機能は、ドメインに参加しているコンピューター（Citrix XenClient®を実行しているコンピューターを含む）でのみ機能します。ネットワーク接続が永続的である傾向があるサーバーやデスクトップコンピューターでの使用は意図されていません。

通常、オフラインプロファイルとストリームユーザープロファイルの両方を有効にすることはありません。このため、オフラインプロファイルが優先され、ストリームユーザープロファイルと「ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する」設定が無効になります。ユーザーが最初にログオンするときは、常にラップトップまたはモバイルデバイスに完全なプロファイルがあることを確認してください。

オフラインプロファイルは、次の方法で構成できます。

- **グループポリシーの使用**。このポリシーにより、機能の一元的な管理制御が可能になりますが、オフラインプロファイルを使用するラップトップまたはデバイスを含む個別のOUを作成する必要があります。
- **INIファイルの使用**。ラップトップやモバイルデバイス専用の特別なOUを作成したくない場合は、より簡単なオプションです。ただし、この機能の制御は個々のデバイス所有者に効果的に委ねられます。このオプションでは、各ラップトップまたはモバイルデバイスの1回限りの構成が必要です。

グループポリシーを使用してオフラインプロファイルサポートが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がグループポリシーまたは.iniファイルで構成されていない場合、オフラインプロファイルは無効になります。

グループポリシーの使用

1. Profile Managementによって管理されるすべてのコンピューターを含むOUを作成します。オフラインプロファイルを使用するラップトップとモバイルデバイス、Citrix virtual apps™サーバー、および仮想デスクトップを含めます。
2. ラップトップとモバイルデバイスのみを含む子OUを作成します。
3. グループポリシー管理で、サイト全体のポリシーを適用するベースラインのグループポリシーオブジェクト (GPO) を作成し、両方のOUにリンクします。
4. すべてのコンピューターに共通のプロファイル管理設定でベースラインGPOを構成します。
5. 2番目のオフラインGPOを作成し、子OUにリンクします。
6. オフラインGPOを次のように構成します。
    a. プロファイル管理で、オフラインプロファイルサポートをダブルクリックします。
    b. 有効を選択し、OKをクリックします。
    c. ラップトップおよびモバイルデバイスにのみ適用したいその他の設定を構成します。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているとおり、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

.iniファイルの使用

前提条件として、ベースラインGPOとオフラインGPOの両方で、オフラインプロファイルサポートが未構成（デフォルト）であることを確認してください。これらの設定が構成されている場合、.iniファイルの設定は上書きされます。

1. 各ラップトップまたはモバイルデバイスで、プロファイル管理インストーラーによって作成された.iniファイルを見つけます。.iniファイルを見つけるには、ダウンロードに含まれるファイルを参照してください。
2. この行のコメントを解除します（セミコロンを削除して）。

   ```
   ;OfflineSupport=
   ```

3. .iniファイルを保存します。

   変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているとおり、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

顧客体験向上プログラム (CEIP) を設定する

CEIP を設定するには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. 「**コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > プロファイル管理 > 詳細設定**」で、「**顧客体験向上プログラム**」をダブルクリックします。
3. 「**有効**」または「**無効**」を選択し、次に「**OK**」をクリックします。
4. 変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` に記載されているとおり、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

注:

- ヨーロッパ以外の地域のマシンでは、このポリシーが GPO で構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。このポリシーが GPO または .ini ファイルのいずれでも構成されていない場合、CEIP は有効になります。
- ヨーロッパ地域のマシンでは、このポリシーが GPO で構成されていない場合、.ini ファイルの値に関係なく CEIP は無効になります。

> CEIP の詳細については、Citrix 顧客体験向上プログラム (CEIP) について を参照してください。

クロスプラットフォーム設定の構成

クロスプラットフォーム設定でサポートされるオペレーティングシステムとアプリケーション

この記事では、このリリースのProfile Managementにおけるクロスプラットフォーム設定機能でサポートされるアプリケーションとオペレーティングシステム（OS）について説明します。

定義ファイルについて

定義ファイルには、選択されたWindowsアプリケーションの共通のパーソナライズ設定が含まれています。各ファイルとその中の定義により、ユーザーは複数のOS上で同じアプリケーションに接続でき、各プラットフォームで実質的に同じプロファイルが提示されます。たとえば、ユーザーがMicrosoft Officeの2つのインスタンスにアクセスする場合があります。1つはWindows 7仮想デスクトップにインストールされており、もう1つはWindows Server 2003上のCitrix Virtual Apps™で公開されています。どちらのインスタンスにアクセスしても、ユーザーのOfficeエクスペリエンスは一貫しています。

事前構成された定義ファイルは、クロスプラットフォーム設定機能の重要な側面です。サポートされている各アプリケーションには定義ファイルがあります。定義ファイルはXML形式です。

重要: すべてのOSにおけるアプリケーションの動作を徹底的に分析し、この機能の操作を完全に理解せずに定義ファイルを編集すると、ユーザープロファイルに予期しない変更が生じ、トラブルシューティングが困難になる可能性があります。このため、Citrix®は提供されている定義ファイルの編集や新しい定義ファイルの作成をサポートしていません。さらに、Windowsユーザープロファイルの性質上、一部のアプリケーション設定はOS間で複製できません。

さらに、この機能はレジストリおよびアプリケーション設定には適していますが、ファイルやフォルダー、またはフォルダーリダイレクトで通常使用されるオブジェクト（たとえば、ブラウザーのお気に入り、デスクトップ、スタートメニューの設定など）には適していないことに注意してください。

サポートされるオペレーティングシステム

サポートされているシングルセッションOS間、およびサポートされているマルチセッションOS間でプロファイルをローミングできます。

以下がサポートされています（該当する場合はx86およびx64バージョン）：

- **シングルセッションOS**。Windows XP、Windows 7、およびWindows Vista。
- **マルチセッションOS**。Windows Server 2003、Windows Server 2008、およびWindows Server 2008 R2。

サポートされるCitrix製品

クロスプラットフォーム設定機能は、以下のCitrix製品をサポートしています。

- Windows Server 2003以降用のXenApp® 5 フィーチャーパック
- XenDesktop® 4 以降

サポートされるアプリケーション

このリリースでは、以下の定義ファイルが利用可能です。XMLファイル名には、サポートされるアプリケーションとバージョンが示されています。

- **Internet Explorer 7 Plus.xml**。このファイルは、Internet Explorerのバージョン7、8、9の設定（お気に入りを除く）のクロスプラットフォームでのローミングをサポートします。お気に入りおよびフィードのローミングはサポートされていません。
- **Office 2007.xml** ファイル。
- **Office 2010.xml** ファイル。
- **Wallpaper.xml**。このファイルは、デスクトップの壁紙のクロスプラットフォームでのローミングをサポートします。テーマのクロスプラットフォームでのローミングはサポートされていません。

重要: 各アプリケーションの定義ファイルは、上記のサポートされるシナリオでのみ使用してください。たとえば、Internet Explorer 7 Plus.xmlは、そのブラウザの複数のバージョン間で設定をローミングします。しかし、Office 2007.xmlやOffice 2010.xmlを使用して、Officeのバージョン間で設定をローミングすることはできません。

クロスプラットフォーム設定 - ケーススタディ

計画を実行する

フェーズ1：新しいファイルサーバーを構成する

NewDomainにファイルサーバーをセットアップし、クロスプラットフォーム設定 (`\\FileServ3`) の管理と、 `2k12_Farm` のプロファイル (`\\FileServ2`) の保存に使用します。

このケースでは、プロファイル用とクロスプラットフォーム設定用に別々のファイルサーバーをセットアップすることを選択します。この方法は厳密には必須ではありませんが、クロスプラッ

トフォーム設定サーバーを利用可能にする簡単な方法です。プロファイルサーバーは、例えばDFS名前空間を使用するなど、異なる設計になっている可能性があり、その場合、実装に時間がかかることがあります。

どちらの場合も、共有フォルダー上の移動ユーザープロファイルに関するセキュリティ推奨事項に従ってサーバー共有を設定します。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/storage/folder-redirection/deploy-roaming-user-profiles>` を参照してください。

フェーズ2：2k8_FarmのコンピューターをProfile Management 5.0にアップグレードする

手順については、Profile Managementのアップグレード を参照してください。

フェーズ3：展開する定義ファイルを選択する

一部の構成ファイル（定義ファイルと呼ばれます）は、Microsoft Office、Internet Explorer、およびWindowsの壁紙用に提供されています。

重要：Citrix®の担当者から指示がない限り、これらのファイルを更新しないでください。

展開に関連する構成ファイルを選択し、これらのファイルのみを `\\FileServ3\CrossPlatform\Definitions` にコピーします。この例では、Office 2007.xmlのみをコピーします。

フェーズ4：2k8_FarmのコンピューターをProfile Management 5.0用に構成する

アップグレードが完了したら、クロスプラットフォーム設定機能を（部分的に）有効にするために、以下の構成変更を行います。この段階では、`\\FileServ3\CrossPlatform` のみが利用可能である必要があります。

ポリシー	値	注
ユーザーストアへのパス	`\\FileServ1\Profiles#sAMAccountName#\%ProfVer%`	変更なし。このパスはOldDomainユーザーのみが使用するため、NewDomainユーザーをサポートするために変更する必要はありません。
クロスプラットフォーム設定を有効にする	有効	
クロスプラットフォーム設定ユーザーグループ	無効	すべてのユーザーグループが処理されます。

ポリシー	値	注
クロスプラットフォーム定義へのパス	`\\FileServ3\CrossPlatform\Definitions`	このパスは定義ファイルが置かれている場所です。
クロスプラットフォーム設定ストアへのパス	`\\FileServ3\CrossPlatform\Store\%USERNAME%.%USERDOMAIN%`	クロスプラットフォーム設定ストアは両方のドメインのユーザーによって共有されるため、`%USERNAME%`と`%USERDOMAIN%`の両方をパスに指定する必要があります。
クロスプラットフォーム設定の作成元	有効	ユーザーがNewDomainリソースにアクセスする前に、OldDomainからのクロスプラットフォーム設定を使用してクロスプラットフォーム設定ストアが初期化されるようにします。

マシンのログオンスクリプトに変更は必要ありません。

フォルダーリダイレクトポリシーに変更は必要ありません。

OU `2k8_Farm`はこれで実行状態にできます。ユーザーがログオンすると、Profile Managementは定義ファイルOffice 2007.xmlで識別された設定をクロスプラットフォーム設定ストアにコピーします。

フェーズ5：2k12_Farm内のマシンを準備する

`2k8_Farm`でファイルサーバーがセットアップされたので、Citrix仮想デスクトップサイトを構築する時が来ました。Windows 7仮想デスクトップが実行されているときにProfile Management 5.0をインストールします。適切な構成を以下に示します。

ポリシー	値	注
ユーザーストアへのパス	`\\FileServ2\Profiles\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\%ProfVer%`	このファイル共有は両方のドメインのユーザーによって使用されるため、ドメイン情報を含めることも重要です。

ポリシー	値	注
アクティブライトバック	無効	
クロスプラットフォーム設定を有効にする	有効	
クロスプラットフォーム設定ユーザーグループ	無効	すべてのユーザーグループが処理されます。
クロスプラットフォーム定義へのパス	`\\FileServ3\CrossPlatform\Definitions`	このパスは定義ファイルが置かれている場所です。この設定は`2k8_Farm`の設定と一致する必要があります。
クロスプラットフォーム設定ストアへのパス	`\\FileServ3\CrossPlatform\Store\%USERNAME%.%USERDOMAIN%`	両方のドメインのユーザーがクロスプラットフォーム設定ストアを共有するため、`%USERNAME%`と`%USERDOMAIN%`の両方をパスに指定する必要があります。この設定は`2k8_Farm`の設定と一致する必要があります。
クロスプラットフォーム設定の作成元	無効	クロスプラットフォーム設定ストアでのプロファイルデータの初期設定にNewDomainからの設定が使用されるのを防ぎます。これにより、OldDomainからの設定が優先されるようになります。

システム環境変数%ProfVer%を設定するマシンのログオンスクリプトが、OU内のすべてのマシンで実行されます。

マシンタイプ	%PROFVER%	注
Windows 2012上のXenAppサーバー	Win2012x64	計画されている64ビットサーバーが利用可能になったときに必要です。詳細については、その他の考慮事項を参照してください。

マシンタイプ	%PROFVER%	注
Windows 7デスクトップ	Win7	Windows 7の32ビット版と64ビット版の両方が展開されている場合、それぞれに個別のプロファイルを持つことをお勧めします。そのため、%ProfVer%は各プラットフォームで異なるように構成する必要があります。

そのため、OldDomainユーザーのjohn.smithは、Windows 7デスクトップ用に`\\FileServ2\Profiles\john.smith.OldDomain\Win7`に、Citrix仮想アプリサーバー用に`\\FileServ2\Profiles\john.smith.OldDomain\Win2012x64`にプロファイルを持っています。

そして、NewDomainユーザーのwilliam.brownは、Windows 7デスクトップ用に`\\FileServ2\Profiles\william.brown .NewDomain\Win7`に、XenAppサーバー用に`\\FileServ2\Profiles\william.brown.NewDomain\Win2012x64`にプロファイルを持っています。

再度、グループポリシーを使用してフォルダーリダイレクトを設定します。ドメインはWindows Server 2012に基づいているため、フォルダーリダイレクトは **<Group Policy Object Name\>** \> **ユーザーの構成** \> **ポリシー** \> **Windows の設定** \> **フォルダーリダイレクト** から設定します。

ポリシー	値
お気に入り	`\\FileServ2\Redirected\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\Favorites`
マイドキュメント	`\\FileServ2\Redirected\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\Documents`

%USERDOMAIN%がフォルダーリダイレクトパスに追加されました。このポリシーはNewDomainユーザーにのみ適用されるため、この設定は必須ではありません。しかし、将来的にOldDomainユーザーを同じサーバーに移行することを決定した場合に役立つ可能性があります。今のところ、OldDomainユーザーはOldDomainからのフォルダーリダイレクトポリシーを引き続き使用し、フォルダーは`\\FileServ1`にリダイレクトされます。

フェーズ6：ライブテスト

テストは2つの段階で実行します。

1. NewDomainのユーザーのプロファイルデータが正しく動作することを確認します。これらのユーザーは、クロスプラットフォーム設定ストアにデータが設定されていません。クロスプラットフォーム設定を作成するためのポリシーソースが無効に設定されているため、プロファイルの変更はOldDomainに伝播しません。
2. OldDomainの数人のユーザーでテストします。彼らが最初にログオンすると、クロスプラットフォーム設定データがプロファイルにコピーされます。その後のログオンでは、いずれかのドメインからの変更がもう一方にコピーされます。OldDomainのユーザーがNewDomainにログオンし、プロファイルデータが存在しない場合（OldDomainがProfile Management 5.0にアップグレードされて以来、ユーザーがOldDomainでプロファイルを使用していないため）、クロスプラットフォーム設定ストアは更新されません。このトピックで説明されている構成では、ユーザーは設定がドメイン間でローミングする前にOldDomainにログオンする必要があります。これにより、ユーザー設定（おそらく長年にわたって作成されたもの）がNewDomainのデフォルト設定によって上書きされないようにします。

その他の考慮事項

このケーススタディで構成されているように、Profile ManagementはNewDomainの設定を使用してクロスプラットフォーム設定ストアを初期化しません。OldDomainの設定のみがストアの初期化に使用できます。これは、NewDomainに複数の種類のプロファイル（Windows 7 32ビットやWindows 7 64ビットなど）が含まれるまでは許容されます。あるいは、NewDomainのユーザーがOldDomainのリソースにアクセスする必要がある場合もあります。これらのケースでは、さらに多くの種類のマシンで「Source for creating cross-platform settings」ポリシーを適切に有効にする必要があります。

> **注意:**
>
> もし クロスプラットフォーム設定を作成するためのソースが誤って設定されている場合、新しいプロファイルが、多くの蓄積された大切な設定を持つ既存のプロファイルを上書きしてしまう可能性があります。そのため、このポリシーは一度に1つのプラットフォームタイプにのみ設定することをお勧めします。このプラットフォームは通常、ユーザーが最も保持したい設定が蓄積されている、より古い（成熟した）プラットフォームです。

> このケーススタディでは、いくつかの点を説明するために別々のドメインを使用しています。また、クロスプラットフォーム設定機能は、2つのOU間、あるいは単一のOU内の異なる種類のマシン間で設定のローミングを管理できます。この場合、異なるマシンタイプに対

して「Source for creating cross-platform settings」ポリシーを異なる方法で設定する必要があるかもしれません。この設定はいくつかの方法で実現できます。

- .iniファイル内の設定「CPMigrationsFromBaseProfileToCPStore」を使用して、各マシンタイプでポリシーを異なるように設定します。「Source for creating cross-platform settings」ポリシーは設定しないでください。
- Windows Management Instrumentation (WMI) フィルタリングを使用して、同じOU上の異なるGPOを管理します。OU内のすべてのマシンに適用されるGPOで共通設定を構成できます。ただし、「Source for creating cross-platform settings」ポリシーのみを追加のGPOに追加し、WMIクエリを使用してフィルタリングします。

アプリケーションプロファイラーを有効にする

この機能は、アプリケーションベースのプロファイル処理を定義します。この機能を有効にすると、定義ファイルで定義された設定のみが同期されます。

アプリケーションプロファイラーを有効にするには、次の手順を実行します。

1. **プロファイル管理**の下にある**Citrix Virtual Apps™最適化設定**フォルダーを開きます。
2. **Citrix Virtual Appsの最適化を有効にする**ポリシーを有効にします。
3. **Citrix Virtual Apps最適化定義へのパス**ポリシーを有効にします。
4. Citrix Virtual Apps最適化の定義ファイルが格納されているフォルダーを指定します。
5. `gpupdate /force`コマンドを実行して、ポリシーの展開を適用します。

注：

定義ファイルの作成については、「定義ファイルの作成」を参照してください。

ログオフ時には、定義ファイル内の設定のみが同期され、その他のすべての設定は破棄されます。セッションでユーザーのドキュメントを表示または更新する場合は、フォルダーリダイレクトを使用します。フォルダーリダイレクトの構成については、「フォルダーリダイレクトの構成」を参照してください。

ユーザーのログオフを強制する

デフォルトでは、問題が発生した場合（たとえば、ユーザーストアが利用できない場合）、ユーザーには一時プロファイルが与えられます。ただし、代わりにProfile Managementを構成して、エラーメッセージを表示し、ユーザーをログオフさせることもできます。エラーメッセージはトラブルシューティングに役立ちます。

1. **Profile Management**の下で、**Advanced settings**フォルダーを開きます。
2. **Log off user if a problem is encountered**ポリシーをダブルクリックします。
3. **Enabled**を選択します。

ファイルセキュリティ属性を同期する

Profile Management が、プロファイルがインストールされているシステムとユーザー ストアの間でユーザープロファイル内のファイルとフォルダーをコピーする際に、セキュリティ属性を同期できます。この機能は、セキュリティ属性間の不整合を防ぐことを目的としています。Windows 10 以降、および Windows Server 2016 で必要です。

この機能はデフォルトで有効になっています。無効にするには、次の手順を実行します。

1. **UPMPolicyDefaults_all.ini** ファイルの **General Settings** セクションに **SecurityPreserveEnabled=0** を追加します。
2. コマンドラインから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

Profile Management は、プロファイルの最終変更時刻に基づいてプロファイルの変更を同期します。変更がファイルのセキュリティ属性のみに対して行われた場合、Profile Management はファイルを同期しません。

ログオン時にユーザーグループポリシーの非同期処理を有効にする

Windowsは、ユーザーグループポリシーに同期モードと非同期モードの2つの処理モードを提供します。Windowsは、次のユーザーログオンの処理モードを決定するためにレジストリ値を使用します。レジストリ値が存在しない場合、同期モードが適用されます。

レジストリ値はマシンレベルの設定であり、ユーザーとともにローミングされません。したがって、ユーザーが次の場合、非同期モードは期待どおりに適用されません。

- 異なるマシンにログオンする。

- ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除するポリシーが有効になっている同じマシンにログオンする。

Citrix Profile Managementは、この問題を解決するために**ログオン時にユーザーグループポリシーの非同期処理を有効にする**ポリシーを提供します。このポリシーを有効にすると、Profile Managementはレジストリ値をユーザーとともにローミングします。その結果、ユーザーがログオンするたびに実際の処理モードが適用されます。

この機能は、WindowsおよびWindows Server OSの両方に適用されます。

前提条件

Windowsマシンで非同期モードを有効にするために、追加のアクションは必要ありません。ただし、Windows Serverマシンでこのモードを有効にするには、次の要件を満たしていることを確認してください。

- リモートデスクトップセッションホストの役割がインストールされていること。
- グループポリシーが次のように設定されていること。
  - **コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > システム > ログオン > コンピューターの起動とログオン時に常にネットワークを待つ**: 無効
  - **コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > システム > グループポリシー > リモートデスクトップサービス経由でログオンするときに非同期ユーザーグループポリシー処理を許可する**: 有効

ポリシーを有効にする

ポリシーを有効にするには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開き、「**ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management**」にアクセスします。
2. Profile Management で、「**詳細設定**」をクリックします。
3. 「**ログオン時のユーザーグループポリシーの非同期処理を有効にする**」ポリシーをダブルクリックします。
4. 「**有効**」を選択します。
5. 「**OK**」をクリックします。

変更を有効にするには、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。すべてのセッションからログオフし、再度ログオンします。詳細については、`<https://`

`docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` を参照してください。

構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されていない場合、.ini ファイルの対応する設定が使用されます。
2. この設定がここで構成されておらず、.ini ファイルでも構成されていない場合、ポリシーは無効になります。

ポリシー

プロファイル管理ポリシー

この記事では、.adm および .admx ファイル内のポリシーの重要な側面について説明します。

プロファイル管理変数

このバージョンのプロファイル管理では、グループポリシーと .ini ファイルの両方で次の変数が使用可能です。

ファイルとレジストリエントリを定義するポリシーの場合、次の変数は次のように展開されます。

変数	バージョン1プロファイルの展開	バージョン2プロファイルの展開
`!ctx_localsettings!`	`Local Settings\Application Data`	`AppData\Local`
`!ctx_roamingappdata!`	`Application Data`	`AppData\Roaming`
`!ctx_startmenu!`	`Start Menu`	`AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Start menu`
`!ctx_internetcache!`	`Local Settings\Temporary Internet Files`	`AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files`
`!ctx_localappdata!`	`Local Settings\Application Data`	`AppData\Local`

パスの構築に使用されるポリシーの場合、`!ctx_osbitness!` 変数はオペレーティングシステムに応じて x86 または x64 に展開されます。以下の変数も展開されます。

- `!ctx_osname!` は、オペレーティングシステムに応じて次のように短い名前に展開されます。

- `!ctx_profilever!` は、オペレーティングシステムに応じて次のようにプロファイルバージョンに展開されます。

Profile Management Service が起動すると、長い名前がログファイルに書き込まれます。

長い名前	短い名前	プロファイルバージョン
`Windows 11`	Win11	v6
`Windows 10 Redstone 6`	ウィンテンアールエスシックス	v6
`Windows 10 Redstone 5`	ウィンテンアールエスファイブ	v6
`Windows 10 Redstone 4`	ウィンテンアールエスフォー	v6
`Windows 10 Redstone 3`	ウィンテンアールエススリー	v6
`Windows 10 Redstone 2`	ウィンドウズ 10 RS2	v6
`Windows 10 Redstone 1`	ウィンドウズ 10 RS1	v6
`Windows 10`	Win10	v5
`Windows 8.1`	Win8.1	v4 または v2
`Windows 8`	Win8	v3 または v2
`Windows 7`	Win7	v2
`Windows Server 2022`	Win2022	v6
`Windows Server 2019`	Win2019	v6
`Windows Server 2016`	Win2016	v6
`Windows Server 2012 R2`	ウィン2012R2	v4 または v2
`Windows Server 2012`	Win2012	v3 または v2
`Windows Server 2008 R2`	Win2008	v2
`Windows Server 2008`	Win2008	v2

注記:

20H1以降のWindows 10の場合、長い名前はWindows10 \<postfix\>で、対応する短い名前はWin10_\<postfix\>です。\<postfix\>の値は、次の2つの特定のレジストリエントリから取得されます。

- エントリ: HKLM\Software\\Microsoft\\Windows NT\\CurrentVersion > 値の名前: DisplayVersion
- エントリ: HKLM\\Software\\Microsoft\\Windows NT\\CurrentVersion > 値の名前: ReleaseId

最初のレジストリエントリに値が含まれている場合、それが\<postfix\>として使用されます。それ以外の場合は、2番目のレジストリエントリの値が使用されます。

Windows 8、Windows 8.1、Windows Server 2012、およびWindows Server 2012R2の場合、実際のプロファイルバージョンは、`HLKM\System\CurrentControlset\Services\ProfSvc\Parameters`の下にある`UseProfilePathExtensionVersion`レジストリキーの設定によって変更される可能性があります。

- 1 に設定されている場合、プロファイルバージョンはオペレーティングシステムに応じて v3 または v4 になります。
- 設定されていないか、0 に設定されている場合、プロファイルバージョンは v2 になります。

バージョン別のポリシー

移行を支援するため、以下の表に、Profile Management の異なるバージョンで利用可能なポリシー、.adm (または .admx) ファイルおよび .ini ファイル内の各ポリシーの場所、および各ポリシーが設計されている機能 (またはすべての展開の基本構成の一部であるかどうか) を示します。

.adm または .admx ファイル内の場所は、`Citrix > Profile Management` を基準としています。

バージョン 2311 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
SelectBestPerfUS	\AdvancedSettings	SelectBestPerfUS	ユーザーストアの選択方法
SharedStoreProfileContainerFileSizeLimit	\FileDeduplication	SharedStoreProfileContainerFileSizeLimit	ファイルの重複排除
PreventLoginWhenProfileContainerMountFailed	\ProfileContainerSettings	PreventLoginWhenProfileContainerMountFailed	ログオン中にプロファイルコンテナが利用できない場合、ユーザーをログオフする
GroupsToAccessProfileContainer	\ProfileContainerSettings	GroupsToAccessProfileContainer	プロファイルコンテナにアクセスするユーザーとグループ

バージョン 2308 から利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
AutoExtend	\ProfileContainerSettings	AutoExtend	プロファイルコンテナのVHD自動拡張を有効にする
AutoExtendThreshold	\AdvancedSettings	AutoExtendThreshold	プロファイルコンテナの自動拡張しきい値
AutoExtendSize	\AdvancedSettings	AutoExtendSize	プロファイルコンテナの自動拡張増分
AutoExtendLimit	\AdvancedSettings	AutoExtendLimit	プロファイルコンテナの自動拡張制限
VhdCapacity	\AdvancedSettings	VhdCapacity	VHDコンテナの既定の容量

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
DisableConcurrentAccessToProfileContainer	\ProfileContainerSettings	DisableConcurrentAccessToProfileContainer	VHDコンテナへの排他的アクセスを有効にする
DisableConcurrentAccessToOneDriveContainer	\ProfileContainerSettings	DisableConcurrentAccessToOneDriveContainer	VHDコンテナへの排他的アクセスを有効にする
EnableUwpAppsRoaming	\AdvancedSettings	EnableUwpAppsRoaming	UWPアプリのローミング

バージョン2305から利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMX ファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMX ファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
UserGroupLevelConfigEnabled	\AdvancedSettings	UserGroupLevelConfigEnabled	ユーザーレベルのポリシー設定を有効にする
OrderedGroups	\AdvancedSettings	OrderedGroups	ユーザーグループの優先順位を設定する

バージョン2303以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMX ファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMX ファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
PSMidSessionWriteBackSessionLock	\BasicSettings	PSMidSessionWriteBackSessionLock	セッションロック時および切断時のアクティブなライトバックを有効にする
AppAccessControl	\AppAccessControl	AppAccessControl	アプリケーションアクセス制御を有効にする
EnableVHDDiskCompaction	\ProfileContainerSettings	EnableVHDDiskCompaction	VHDディスクの圧縮を有効にする

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
FreeRatio4Compaction	\AdvancedSettings	FreeRatio4Compaction	VHDディスクの圧縮をトリガーする空き領域の比率
Nログオフズ4コンパクション	\AdvancedSettings	Nログオフズ4コンパクション	VHDディスクの圧縮をトリガーするログオフ回数
Nデフラグ4コンパクション	\AdvancedSettings	Nデフラグ4コンパクション	VHDディスクの圧縮のためのデフラグを無効にする

バージョン2209以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
SharedStoreFileInclusionList	\ファイル重複排除	SharedStoreFileInclusionList	重複排除のために共有ストアに含めるファイル
SharedStoreFileExclusionList	\ファイル重複排除	SharedStoreFileExclusionList	共有ストアから除外するファイル

バージョン2206以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
SyncGpoStateEnabled	\AdvancedSettings	SyncGpoStateEnabled	ログオン時のユーザーグループポリシーの非同期処理を有効にする
OneDriveContainer	\AdvancedSettings	OneDriveContainer	ローミング OneDrive フォルダーを有効にする

.ADMまたは.ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
OutlookSearchRoamingConcurrentSessionEnabled	\AdvancedSettings	OutlookSearchRoamingConcurrentSessionEnabled	同時セッションでの Outlook 検索データローミングを有効にする
PSForPendingAreaEnabled	\ストリーミングされたユーザープロファイル	PSForPendingAreaEnabled	保留領域のプロファイルストリーミングを有効にする

バージョン2203から利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMX ファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMX ファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
EnableVolumeReattach	\AdvancedSettings	EnableVolumeReattach	セッション内でVHDXディスクを自動的に再アタッチする

バージョン2112から利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
ProfileContainerExclusionListFile	プロファイルコンテナ設定	ProfileContainerExclusionListFile	プロファイルコンテナからファイルを除外する
ProfileContainerInclusionListFile	プロファイルコンテナ設定	ProfileContainerInclusionListFile	プロファイルコンテナにファイルを含める
VhdStorePath	AdvancedSettings	PathToVhdStore	VHDX ファイルのネットワークストレージの場所を指定する

バージョン 2109 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
CredBasedAccessEnabled	AdvancedSettings	CredBasedAccessEnabled	ユーザー ストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする

バージョン 2106 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
AccelerateFolderMirroring	\FileSystemSettings\FSSynchronization	AccelerateFolderMirroring	フォルダーミラーリングの高速化
CredBasedAccessEnabled	AdvancedSettings	CredBasedAccessEnabled	ユーザー ストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする
MultiSiteReplication	AdvancedSettings	MultiSiteReplication	ユーザー ストアを複製する

バージョン 2103 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
PSForFoldersEnabled	\PsSettings	PSForFoldersEnabled	フォルダーのプロファイルストリーミング
ProfileContainerLocalCache	\ProfileContainerSettings	ProfileContainerLocalCache	プロファイルコンテナのローカルキャッシュ

バージョン2009以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
ProfileContainerExclusionListDir	\ProfileContainerSettings	ProfileContainerExclusionListDir	プロファイルコンテナ
ProfileContainerInclusionListDir	\ProfileContainerSettings	ProfileContainerInclusionListDir	プロファイルコンテナ

バージョン2003以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
FSLogixProfileContainerSupport	\AdvancedSettings	FSLogixProfileContainerSupport	**バージョン2103より前:** FSLogix Profile Containerのマルチセッションライトバックを有効にする **バージョン2103以降:** Profile Containersのマルチセッションライトバックを有効にする

バージョン1909以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
MigrateUserStore		MigrateUserStore	UserStoreの移行
OutlookEdbBackupEnabled	\AdvancedSettings	OutlookEdbBackupEnabled	Outlook検索インデックスデータベース - バックアップと復元
ApplicationProfilesAutoMigration	\AdvancedSettings	ApplicationProfilesAutoMigration	既存のアプリケーションプロファイルの自動移行

バージョン 1903 から利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
ProfileContainer	**バージョン 2009 より前:** \FileSystemSettings\FSSynchronization **バージョン 2009 以降:** \ProfileContainer	ProfileContainer	プロファイルコンテナ

バージョン 7.18 から利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
OutlookSearchRoamingEnabled	\AdvancedSettings	OutlookSearchRoamingEnabled	Outlook 検索ローミング

バージョン 7.16 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
XenAppOptimizationSettings	\XenAppOptimizationSettings	XenAppOptimizationSettings	Citrix Virtual Apps and Desktops アプリケーションの最適化
XenAppOptimizationDefinitionPath	\XenAppOptimizationSettings	XenAppOptimizationDefinitionPath	Citrix Virtual Apps and Desktops アプリケーション最適化
LargeFileHandlingList	\FileSystemSettings	LargeFileHandlingList	大容量ファイルの処理

バージョン 7.15 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
LogonExclusionCheck	\FileSystemSettings	LogonExclusionCheck	ログオン除外チェック

バージョン 5.8 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
StreamingExclusionList	\PsSettings	StreamingExclusionList	プロファイルストリーミング除外リスト

バージョン 5.6 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
`CEIPEnabled`	\AdvancedSettings	`CEIPEnabled`	CEIP
PSMidSessionWriteBackReg		PSMidSessionWriteBackReg	アクティブなライトバックレジストリ

バージョン5.5以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMX ファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMX ファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
デフォルトの除外リスト	\Registry	DefaultExclusionListRegistry	ベース
NTUSER.DAT	\Registry	LastKnownGoodRegistry	バックアップNTUSER.DAT
デフォルト除外リスト - ディレクトリ	\ファイルシステム	DefaultSyncExclusionListDir	ベース

バージョン 5.0〜5.4 で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
除外グループ		ExcludedGroups	除外グループ
自動構成を無効にする	\詳細設定	DisableDynamicConfig	自動構成

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
AppData (Roaming) フォルダーをリダイレクトする、`Desktop` フォルダーをリダイレクトする、...	\フォルダーリダイレクト (ユーザー構成内)	注: 該当なし	XenDesktopとの統合
キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延	\プロファイル処理	ProfileDeleteDelay	ベース

バージョン4.x以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMX ファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMX ファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
クロスプラットフォーム設定ユーザーグループ	\クロスプラットフォーム設定	CPUserGroupList	クロスプラットフォーム設定
クロスプラットフォーム設定を有効にする	\クロスプラットフォーム設定	`CPEnabled`	クロスプラットフォーム設定
クロスプラットフォーム設定の作成元	\クロスプラットフォーム設定	CPMigrationFromBaseProfileToCPStore	クロスプラットフォーム設定
クロスプラットフォーム定義へのパス	\クロスプラットフォーム設定	CPSchemaPath	クロスプラットフォーム設定
クロスプラットフォーム設定ストアへのパス	\クロスプラットフォーム設定	`CPPath`	クロスプラットフォーム設定
オフラインプロファイルのサポート	\クロスプラットフォーム設定	OfflineSupport	オフラインプロファイル

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
問題が発生した場合にユーザーをログオフする	\詳細設定	LogoffRatherThanTempProfile	トラブルシューティングの改善

バージョン3.x以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
アクティブライトバック		PSMidSessionWriteBack	アクティブプロファイルライトバック（バージョン4.0では「アクティブライトバック」に名称変更）
ミラーリングするフォルダー（バージョン3.1以降で利用可能）	\ファイルシステム\同期	MirrorFoldersList	フォルダーミラーリング
ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する (バージョン3.1以降で利用可能)	\詳細設定	ProcessCookieFiles	フォルダーミラーリング
リダイレクトされたフォルダーを削除する (バージョン3.2、3.2.2、および4.0で利用可能)	\詳細設定	DeleteRedirectedFolders	フォルダーリダイレクトのサポート
常にキャッシュする	\ストリーム配信されたユーザープロファイル	PSAlwaysCache	ストリーム配信されたユーザープロファイル
プロファイルストリーミング	\ストリーミングされたユーザープロファイル	`PSEnabled`	ストリーミングされたユーザープロファイル

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
保留中のエリアロックファイルのタイムアウト	\ストリーミングされたユーザープロファイル	PSPendingLockTimeout	ストリーミングされたユーザープロファイル
ストリーミングされたユーザープロファイルグループ	\ストリーミングされたユーザープロファイル	PSUserGroupsList	ストリーミングされたユーザープロファイル

バージョン2.xから利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
ユーザー ストアへのパス		PathToUserStore	ベース
処理されたグループ		ProcessedGroups	ベース
ローカル プロファイルの競合処理	\プロファイル処理	LocalProfileConflictHandling	ベース
既存プロファイルの移行	\プロファイル処理	MigrateWindowsProfilesToUserStore	ベース
テンプレートプロファイル	\プロファイル処理	テンプレートプロファイルパス、テンプレートプロファイルオーバーライドローミングプロファイル、テンプレートプロファイルオーバーライドローカルプロファイル	ベース
ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する	\プロファイル処理	DeleteCachedProfilesOnLogoff	ベース

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
MFTキャッシュファイルのディレクトリ(バージョン5.0で削除)	\詳細設定	`USNDBPath`	ベース
同期するディレクトリ	\File system\Synchronization	SyncDirList	ベース
除外リスト	\Registry	ExclusionListRegistry	ベース
同期するファイル	\File system\Synchronization	SyncFileList	ベース
含めるリスト	\Registry	InclusionListRegistry	ベース
除外リスト - ディレクトリ	\ファイルシステム	SyncExclusionListDir	ベース
除外リスト - ファイル	\ファイルシステム	SyncExclusionListFiles	ベース
ロックされたファイルへのアクセス時の再試行回数	\詳細設定	LoadRetries	ベース
ローカル管理者によるログオンを処理する		ProcessAdmin	ベース
プロファイル管理を有効にする		ServiceActive	ベース
ログ記録を有効にする	\ログ設定	LoggingEnabled	ログ記録
ログ設定	\ログ設定	LogLevel	ログ記録

.ADMまたは.ADMX ファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
ログファイルの最大サイズ	ログ設定	MaxLogSize	ログ記録
ログファイルへのパス (バージョン 2.1 以降で利用可能)	ログ設定	PathToLogFile	ログ記録

プロファイル管理ポリシーの説明とデフォルト

このトピックでは、プロファイル管理の.admファイルと.admxファイルにあるポリシーについて説明します。

ポリシーの詳細については、「プロファイル管理ポリシー」(/ja-jp/profile-management/2311/policies/settings.html)を参照してください。

.admファイルと.admxファイルのセクション

プロファイル管理ポリシーは、次のセクションにあります。

プロファイル管理

プロファイル管理\\フォルダーリダイレクト (ユーザー構成)

プロファイル管理\\プロファイル処理

プロファイル管理\\詳細設定

プロファイル管理\\ログ設定

プロファイル管理\\レジストリ

プロファイル管理\\ファイルシステム

プロファイル管理\\ファイルシステム\\同期

プロファイル管理\\ファイル重複排除

プロファイル管理\\ストリーム配信ユーザープロファイル

プロファイル管理\クロスプラットフォーム設定

グループポリシーオブジェクトエディターでは、ほとんどのポリシーが**コンピューターの構成 \> 管理用テンプレート \> クラシック管理用テンプレート \> Citrix**の下に表示されます。フォルダーリダイレクトポリシーは、**ユーザーの構成 \> 管理用テンプレート \> クラシック管理用テンプレート \> Citrix**の下に表示されます。

グループポリシーエディターでは、ポリシーが**ユーザーの構成**というラベルのセクションの下にある場合を除き、ポリシーは**コンピューターの構成**の下に表示されます。

プロファイル管理

プロファイル管理を有効にする

プロファイル管理を有効にできます。デフォルトでは、展開を容易にするため、プロファイル管理はログオンまたはログオフを処理しません。他のすべてのセットアップタスクを完了し、Citrix®ユーザープロファイルが環境でどのように動作するかをテストした後にのみ、プロファイル管理を有効にしてください。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、プロファイル管理はWindowsユーザープロファイルを一切処理しません。

処理されるグループ

プロファイルが処理されるユーザーを指定できます。次のユーザーグループを使用してユーザーを指定します。

- ドメイングループ（ローカル、グローバル、ユニバーサル）を`<DOMAIN NAME>\<GROUP NAME>`の形式で
- ローカルグループを`GROUP NAME`の形式で

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されている場合、プロファイル管理は、これらのユーザーグループのメンバーのみを処理します。このポリシーが無効になっている場合、プロファイル管理はすべてのユーザーを処理します。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、すべてのユーザーグループのメンバーが処理されます。

除外されたグループ

プロファイルが処理されないユーザーを指定できます。以下のユーザーグループを使用してユーザーを指定できます。

- `<DOMAIN NAME>\<GROUP NAME>`の形式のドメイングループ（ローカル、グローバル、ユニバーサル）
- `GROUP NAME`の形式のローカルグループ

構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されている場合、Profile Managementはそれらのユーザーグループのメンバーを除外します。
2. この設定が無効になっている場合、Profile Managementはどのユーザーも除外しません。
3. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
4. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、どのグループのメンバーも除外されません。

ローカル管理者のログオンを処理する

Profile Managementが`BUILTIN\Administrators`グループのメンバーのログオンを処理するかどうかを指定できます。このポリシーを有効にすることは、ほとんどのユーザーがローカル管理者であるCitrix仮想デスクトップ展開で推奨されます。

Citrix Virtual Apps環境は、マルチセッションオペレーティングシステムの典型的なユースケースです。このポリシーがマルチセッションオペレーティングシステムで無効になっているか、構成されていない場合、Profile Managementはドメインユーザーのログオンを処理しますが、ローカル管理者のログオンは処理しません。Citrix Virtual Desktops™環境は、シングルセッションオペレーティングシステムの典型的なユースケースです。シングルセッションオペレーティングシステムでは、Profile Managementはローカル管理者のログオンを処理します。

ローカル管理者権限を持つドメインユーザーは、通常、割り当てられた仮想デスクトップを持つCitrix Virtual Desktopsユーザーです。デスクトップでProfile Managementに問題が発生した場合、このポリシーにより、ユーザーはログオン処理をバイパスしてログオンし、問題をトラブルシューティングできます。

> **注記:**

> ドメインユーザーのログオンは、通常、製品ライセンスへの準拠を確実にするために、グループメンバーシップによって課される制限の対象となる場合があります。

> 構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、Profile Management はローカル管理者によるログオンを処理しません。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、管理者は処理されません。

ユーザー ストアへのパス

ユーザー ストアの保存パスを指定できます。ユーザー ストアは、ユーザープロファイル（レジストリの変更と同期されたファイル）が保存される中央のネットワークロケーションです。

パスは次のいずれかです。

- ホームディレクトリに対する相対パス。ホームディレクトリは通常、Active Directory のユーザーの `#homeDirectory#` 属性として構成されます。
- UNC パス。通常、サーバー共有または DFS 名前空間を指定します。
- 無効または未構成。この場合、パスは `#homeDirectory#\Windows` です。

パス設定では、次の種類の変数を使用できます。

- パーセント記号で囲まれたシステム環境変数（例: `%ProfVer%`）。システム環境変数は通常、追加の設定が必要です。
- ハッシュで囲まれた Active Directory ユーザーオブジェクトの属性（例: `#sAMAccountName#`）。
- Profile Management 変数。詳細については、Profile Management 変数製品ドキュメントを参照してください。

`%username%` と `%userdomain%` を除き、ユーザー環境変数は使用できません。場所やユーザーなどを完全に定義するカスタム属性を作成することもできます。属性では大文字と小文字が区別されます。

例:

- `\\server\share#sAMAccountName#` は、ユーザー設定を UNC パス `\\server\share\JohnSmith` に保存します（現在のユーザーの #sAMAccountName# が JohnSmith に解決される場合）。

- `\\server\profiles$\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\!CTX_OSNAME!!CTX_OSBITNESS!` は `\\server\profiles$\JohnSmith.DOMAINCONTROLLER1\Win8x64` に展開される場合があります。

重要: どの属性または変数を使用する場合でも、このポリシーが NTUSER.DAT を含むフォルダーより1レベル上のフォルダーに展開されることを確認してください。たとえば、このファイルが \\server\profiles$\JohnSmith.Finance\Win8x64\UPM_Profile に存在する場合、ユーザー ストアへのパスは \\server\profiles$\JohnSmith.Finance\Win8x64 に設定します（\UPM_Profile サブフォルダーではありません）。

ユーザー ストアへのパスを指定する際の変数の使用方法について詳しくは、以下のトピックを参照してください。

- 複数のファイルサーバーでCitrixユーザープロファイルを共有する
- OU内およびOU間でプロファイルを管理する
- Profile Managementによる高可用性とディザスターリカバリ

構成の優先順位:

1. が無効になっている場合、ユーザー設定はホームディレクトリのWindowsサブディレクトリに保存されます。このポリシーが無効になっている場合、ユーザー設定はホームディレクトリのWindowsサブディレクトリに保存されます。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ホームドライブのWindowsディレクトリが使用されます。

ユーザー ストアの移行

Profile Management が以前使用していたユーザー ストアのストレージ パス (以前指定した `path to user store` 設定) を指定できます。

この設定が構成されている場合、以前のユーザー ストアに保存されていたユーザー設定は、現在のユーザー ストアに移行されます。

パスは、絶対 UNC パスまたはホーム ディレクトリに対する相対パスにすることができます。

どちらの場合も、次の種類の変数を使用できます。

- パーセント記号で囲まれたシステム環境変数
- ハッシュ記号で囲まれた Active Directory ユーザー オブジェクトの属性

例:

- %ProfileVer% が W2K3 に解決されるシステム環境変数である場合、`Windows\%ProfileVer%` フォルダーはユーザー設定をユーザー ストアの `Windows\W2K3` というサブフォルダーに保存します。
- 現在のユーザーに対して `#SAMAccountName#` が JohnSmith に解決される場合、`\\server\share#SAMAccountName#` はユーザー設定を UNC パス `\\server\share\<JohnSmith>` に保存します。

構成の優先順位:

1. パスでは、`%username%` と `%userdomain%` を除くユーザー環境変数を使用できます。この設定が無効になっている場合、ユーザー設定は現在のユーザー ストアに保存されます。
2. この設定がここで構成されていない場合、.ini ファイルの対応する設定が使用されます。
3. この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、ユーザー設定は現在のユーザー ストアに保存されます。

アクティブライトバック

アクティブライトバック機能を有効にします。この機能を有効にすると、Profile Management は、セッション中にローカルコンピューターで変更されたファイルとフォルダーをユーザー ストアに同期します。

設定の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、無効になります。

アクティブライトバックレジストリ

Profile Managementを有効にして、セッション中にローカルコンピューターで変更されたレジストリエントリをユーザーストアに同期できるようにします。このポリシーは、**アクティブライトバック**ポリシーと併用してください。

設定の優先順位:

1. この設定をここで構成しない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定をここでも.iniファイルでも構成しない場合、アクティブライトバックレジストリは無効になります。

セッションロックおよび切断時のアクティブライトバック

このポリシーと**アクティブライトバック**ポリシーの両方が有効になっている場合、プロファイルファイルとフォルダーは、セッションがロックまたは切断されたときにのみ書き戻されます。

このポリシーと**アクティブライトバック**および**アクティブライトバックレジストリ**ポリシーの両方が有効になっている場合、レジストリエントリは、セッションがロックまたは切断されたときにのみ書き戻されます。

設定の優先順位:

- この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
- この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、このポリシーは無効になります。

オフラインプロファイルのサポート

オフラインプロファイル機能を有効にできます。この機能により、プロファイルは可能な限り早くユーザー ストアと同期されます。

この機能は、頻繁にローミングするラップトップまたはモバイルデバイスのユーザーを対象としています。ネットワーク接続が切断されても、再起動または休止状態の後でも、プロファイルはラップトップまたはデバイス上でそのまま維持されます。モバイルユーザーがセッションを開始すると、プロファイルはローカルで更新されます。Profile Managementは、ネットワーク接続が復元された後にのみ、プロファイルをユーザー ストアと同期します。

構成の優先順位:

- このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
- このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、オフラインプロファイルは無効になります。

プロファイル管理\詳細設定

ロックされたファイルへのアクセス時の再試行回数

ロックされたファイルへのアクセス時の再試行回数を指定できます。

このポリシーを有効にする必要はほとんどありません。

ログオフ中に、ロックされたファイルがある場合、Profile Managementは指定された回数だけファイルにアクセスし、ユーザー ストアにコピーし直そうとします。しかし、通常、Profile Managementはコピー操作を成功させるためにファイルを読み取るだけで（書き込みはせず）、

ロックされたファイルが存在する場合、Profile Managementはローカルプロファイルを削除せず、「古い」状態のままにします（適切なポリシーが有効になっている限り）。

このポリシーを有効にしないことをお勧めします。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、デフォルト値の5回の再試行が使用されます。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルト値が使用されます。

ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する

一部の展開では、`Index.dat`が参照しない余分なインターネットCookieが残されます。継続的なブラウジングの後、ファイルシステムに残された余分なCookieは、プロファイルの肥大化につながる可能性があります。このポリシーを使用すると、Profile Managementを有効にしてIndex.datの処理を強制し、余分なCookieを削除できます。このポリシーはログオフ時間を増加させるため、この問題が発生した場合にのみ有効にしてください。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、Index.datの処理は行われません。

自動構成を無効にする

Profile Managementは、Citrix仮想デスクトップ環境（たとえば、パーソナルvDiskの有無など）を検査し、それに応じてグループポリシーを構成します。未構成状態のProfile Managementポリシーのみが調整されるため、行ったカスタマイズはすべて保持されます。

このポリシーにより、展開を高速化し、最適化を簡素化できます。このポリシーを構成する必要はありません。ただし、次のいずれかの操作を行うときに自動構成を無効にできます。

- 以前のバージョンからの設定を保持するためにアップグレードする
- トラブルシューティング

自動構成は、実行時に環境に応じてデフォルトのポリシー設定を自動的に構成する動的な構成チェッカーと見なすことができます。これにより、設定を手動で構成する必要がなくなります。実行時環境には以下が含まれます。

- Windows オペレーティングシステム
- Windows OSのバージョン
- Citrix仮想デスクトップの有無
- パーソナルvDiskの有無

環境が変更された場合、自動構成は以下のポリシーを変更する可能性があります。

- アクティブライトバック
- 常にキャッシュ
- ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する
- キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延
- プロファイルストリーミング

異なるOSにおける上記のポリシーのデフォルトステータスについては、以下の表を参照してください。

	マルチセッションOS	シングルセッションOS
アクティブライトバック	有効	有効
常にキャッシュ	無効	有効
ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する	有効	Citrix仮想デスクトップが割り当てられているか、Citrix仮想デスクトップがインストールされていない場合は*無効*です。それ以外の場合は有効です。
キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延	0秒	ユーザーの変更が永続的でない場合は60秒。それ以外の場合は0秒。
プロファイルストリーミング	有効	有効
フォルダーのプロファイルストリーミング	有効	有効

ただし、自動構成が無効になっている場合、上記のすべてのポリシーは既定で**無効**になります。

Windows 10、Windows Server 2016、およびWindows Server 2019でスタートメニューのローミングが正しく機能するようにするには、次の手順に従います。

1. 自動構成を有効にするか、**自動構成を無効にする**ポリシーを**有効**に設定します。
2. 「Profile Management のベストプラクティス」の記事に記載されている構成手順を完了します。

構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここで構成されておらず、.iniファイルでも構成されていない場合、自動構成が有効になります。この場合、環境が変更されるとProfile Managementの設定も変更される可能性があります。

問題が発生した場合にユーザーをログオフする

問題が発生した場合にProfile Managementがユーザーをログオフするかどうかを指定できます。

このポリシーが無効になっているか、構成されていない場合、問題が発生するとProfile Managementはユーザーに一時プロファイルを提供します。たとえば、ユーザー ストアが利用できない場合などです。

構成の優先順位:

1. この設定が有効になっている場合、エラーメッセージが表示され、ユーザーはログオフされます。この設定により、問題のトラブルシューティングが簡素化されます。
2. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. この設定がここで構成されておらず、.iniファイルでも構成されていない場合、一時プロファイルが提供されます。

カスタマーエクスペリエンス向上プログラム

デフォルトでは、カスタマーエクスペリエンス向上プログラムが有効になっており、匿名の統計情報と使用状況データを送信することで、Citrix製品の品質とパフォーマンスの向上に役立てられています。

この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。

Outlookの検索インデックスローミングを有効にする

このポリシーを有効にすると、Profile Management はユーザープロファイルとともに Outlook 検索データを自動的にローミングすることで、ユーザーにネイティブの Outlook 検索エクスペリエン

スを提供します。このポリシーは、Outlook の検索インデックスを保存するために追加のストレージを必要とします。

このポリシーを有効にするには、ログオフしてから再度ログオンしてください。

Outlook 検索インデックスデータベース – バックアップと復元

Outlook の検索インデックスローミングを有効にするポリシーが有効になっている場合に、ログオン中に Profile Management が何を行うかを指定できます。

このポリシーが有効になっている場合、Profile Management は、データベースがログオン時に正常にマウントされるたびに、検索インデックスデータベースをバックアップします。Profile Management は、このバックアップを検索インデックスデータベースの正常なコピーとして扱います。データベースの破損により検索インデックスデータベースのマウントが失敗した場合、Profile Management は検索インデックスデータベースを最後に認識された正常なコピーに戻します。

> **注：**
>
> Profile Management は、新しいバックアップが正常に保存された後、以前に保存されたバックアップを削除します。バックアップは利用可能な VHDX ストレージを消費します。

Outlook 検索データローミングの同時セッションサポートを有効にする

同じユーザーの同時セッションで、Profile Management がネイティブの Outlook 検索エクスペリエンスを提供できるようにします。このポリシーは、Outlook の検索インデックスローミングポリシーと組み合わせて使用します。

このポリシーを有効にすると、各同時セッションは個別の Outlook OST ファイルを使用します。

デフォルトでは、Outlook OST ファイルの保存には2つの VHDX ディスクのみを使用できます（ディスクごとに1ファイル）。ユーザーがさらに多くのセッションを開始した場合、その Outlook OST ファイルはローカルユーザープロファイルに保存されます。Outlook OST ファイルを保存するための VHDX ディスクの最大数を指定できます。

プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする

マルチセッションシナリオでプロファイルコンテナのライトバックを有効にできます。

> **注：**

> Citrix Profile Management プロファイルコンテナは Citrix Profile Management 2103 以降で利用可能です。FSLogix Profile Container は Citrix Profile Management 2003 以降で利用可能です。

> ポリシーが有効になっている場合、すべてのセッションでの変更はプロファイルコンテナに書き戻されます。そうでない場合、最初のセッションのみがプロファイルコンテナで読み取り/書き込みモードであるため、最初のセッションでの変更のみが保存されます。

FSLogixプロファイルコンテナでこのポリシーを使用するには、次の前提条件が満たされていることを確認してください。

- FSLogixプロファイルコンテナ機能がインストールされ、有効になっていること。
- FSLogixでプロファイルタイプが**読み取り/書き込みプロファイルを試行し、読み取り専用にフォールバックする**に設定されていること。

ユーザーストアをレプリケートする

ログオンおよびログオフごとに、リモートユーザープロファイルストアを複数のパスにレプリケートできます。これにより、Profile Managementはユーザーログオンのプロファイル冗長性を提供できます。

このポリシーを有効にすると、システムI/Oが増加し、ログオフが長くなる可能性があります。

> **注：**
>
> - この機能は、ユーザーストアとフルプロファイルコンテナの両方で利用できます。
> - レプリケートされたプロファイルコンテナは、ユーザーログオンのプロファイル冗長性を提供しますが、セッション内フェールオーバーには対応していません。

ユーザーストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする

ユーザーストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にできます。

デフォルトでは、Citrix Profile Managementは現在のユーザーを偽装してユーザーストアにアクセスします。そのため、現在のユーザーがユーザーストアにアクセスする権限を持っている必要があります。状況によっては、現在のユーザーがアクセス権を持たないストレージリポジトリ（例：Azure Files）にユーザーストアを配置したい場合があります。そのような場合は、このポリシーを

有効にして、Profile Managementがストレージリポジトリの資格情報を使用してユーザーストアにアクセスできるようにします。

Profile Managementが資格情報を使用してユーザーストアにアクセスできるようにするには、Workspace Environment Management™ (WEM) またはWindows資格情報マネージャーに資格情報を保存します。Profile Managementを実行している各マシンで同じ資格情報を構成する必要をなくすために、Workspace Environment Managementを使用することをお勧めします。Windows資格情報マネージャーを使用する場合は、ローカルシステムアカウントを使用して資格情報を安全に保存してください。

> **注：**
>
> このポリシーは、ファイルベースとVHDXベースの両方のユーザー ストアで利用できます。Profile Managementバージョン2212より前のバージョンでは、このポリシーはVHDXベースのユーザー ストアでのみ利用できます。

構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルトで無効になります。

VHDXファイルのストレージパスを指定する

Profile Managementで使用されるVHDXファイルを保存するためのストレージパスを指定できます。

Citrix Profile Managementは、次のVHDXベースのポリシーを提供します: ネイティブOutlook検索エクスペリエンスの有効化、Citrix Profile Managementプロファイルコンテナ、およびフォルダミラーリングの高速化。デフォルトでは、VHDXファイルはユーザー ストアに保存されます。

構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルトで無効になります。

VHDコンテナのデフォルト容量

VHDコンテナのデフォルトのストレージ容量（GB単位）を指定できます。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルトは50（GB）です。

セッションでVHDXディスクを自動的に再アタッチする

このポリシーを有効にすると、Profile ManagementはVHDXベースのポリシーの高い安定性を確保します。デフォルトでは、このポリシーは有効になっています。

このポリシーが有効な場合、Profile ManagementはVHDXベースのポリシーで使用されているVHDXディスクを監視します。いずれかのディスクがデタッチされた場合、Profile Managementはディスクを自動的に再アタッチします。

ログオン時にユーザーグループポリシーの非同期処理を有効にする

Windowsは、ユーザーグループポリシーに同期と非同期の2つの処理モードを提供します。Windowsは、次のユーザーログオンの処理モードを決定するためにレジストリ値を使用します。レジストリ値が存在しない場合、同期モードが適用されます。レジストリ値はマシンレベルの設定であり、ユーザーとともにローミングされません。したがって、ユーザーが次のいずれかの場合は、非同期モードが期待どおりに適用されません。

- 異なるマシンにログオンする。
- ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除するポリシーが有効になっている同じマシンにログオンする。

このポリシーを有効にすると、レジストリ値はユーザーとともにローミングされます。その結果、ユーザーがログオンするたびに処理モードが適用されます。

VHDディスク圧縮をトリガーする空き領域比率

VHDディスク圧縮を有効にするが有効な場合に適用されます。VHDディスク圧縮をトリガーする空き領域比率を指定できます。ユーザーログオフ時に空き領域比率が指定された値を超えると、ディスク圧縮がトリガーされます。

空き領域比率 = (現在のVHDファイルサイズ – 必要な最小VHDファイルサイズ*) ÷ 現在のVHDファイルサイズ

* Microsoft Windowsオペレーティングシステムの`MSFT_Partition`クラスのGetSupportedSizeメソッドを使用して取得されます。

構成の優先順位:

1. ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。

2. ここでも.iniファイルでもこの設定が構成されていない場合、デフォルト値の20 (%)が使用されます。

VHDディスクの圧縮をトリガーするログオフ回数

VHDディスクの圧縮を有効にするが有効な場合に適用されます。VHDディスクの圧縮をトリガーするユーザーログオフ回数を指定できます。

最後の圧縮以降のログオフ回数が指定された値に達すると、ディスク圧縮が再度トリガーされます。

構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルト値の5が使用されます。

VHDディスク圧縮のデフラグを無効にする

VHDディスクの圧縮を有効にするが有効な場合に適用されます。VHDディスク圧縮のファイルデフラグを無効にするかどうかを指定できます。

VHDディスク圧縮が有効な場合、VHDディスクファイルはまずWindows組み込みの`defrag`ツールを使用して自動的にデフラグされ、その後圧縮されます。VHDディスクのデフラグはより良い圧縮結果をもたらしますが、無効にするとシステムリソースを節約できます。

構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフラグはデフォルトで有効になります。

プロファイルコンテナの自動拡張しきい値

プロファイルコンテナが自動拡張をトリガーするストレージ容量の使用率を指定できます。

構成の優先順位:

- このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
- このポリシーがここで、または.iniファイルで構成されていない場合、デフォルトはストレージ容量の90（%）です。

プロファイルコンテナの自動拡張増分

自動拡張がトリガーされたときに、プロファイルコンテナが自動的に拡張するストレージ容量（GB単位）を指定できます。

構成の優先順位:

- このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
- このポリシーがここで、または.iniファイルで構成されていない場合、デフォルトは10（GB）です。

プロファイルコンテナの自動拡張制限

自動拡張がトリガーされたときに、プロファイルコンテナが自動的に拡張できる最大ストレージ容量（GB単位）を指定できます。

構成の優先順位:

- このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
- このポリシーがここで、または.iniファイルで構成されていない場合、デフォルトは80（GB）です。

OneDriveコンテナを有効にする

OneDriveフォルダーをユーザーと共にローミングできるようにします。

OneDriveコンテナは、VHDXベースのフォルダーローミングソリューションです。Profile Managementは、ファイル共有上にユーザーごとにVHDXファイルを作成し、ユーザーのOneDriveフォルダーをVHDXファイルに保存します。VHDXファイルは、ユーザーがログオンするときにアタッチされ、ログオフするときにデタッチされます。

UWP アプリのローミング

UWP (Universal Windows Platform) アプリをユーザーとともにローミングできるようにします。その結果、ユーザーは異なるデバイスから同じ UWP アプリにアクセスできます。

このポリシーを有効にすると、Profile Management は UWP アプリを個別の VHDX ディスクに保存することで、ユーザーとともにローミングできるようにします。これらのディスクは、ユーザーのログオン時にアタッチされ、ログオフ時にデタッチされます。

構成の優先順位:

ここでこの設定が構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。 ここで、または .ini ファイルのいずれでもこの設定が構成されていない場合、この機能は無効になります。

ユーザーレベルのポリシー設定を有効にする

このポリシーを有効にすると、マシンレベルのポリシー設定がユーザーレベルで機能し、ユーザーレベルの設定がマシンレベルの設定を上書きします。

構成の優先順位:

1. ここでこのポリシーが構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。
2. ここで、または .ini ファイルのいずれでもこのポリシーが構成されていない場合、無効になります。

ユーザーグループの優先順位を設定する

ユーザーグループの優先順位を指定します。この順序は、ユーザーが異なるポリシー設定を持つ複数のグループに属している場合に、どのグループが優先されるかを決定します。

ユーザーが競合するポリシー設定を持つ複数のグループに属している場合は、以下を考慮してください。

- ユーザーがこのポリシーで定義されている1つ以上のグループに属している場合、最も優先順位の高いグループが優先されます。
- ユーザーがこのポリシーで定義されているどのグループにも属していない場合、アルファベット順で最初にリストされている SID を持つグループが優先されます。

構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、優先順位は指定されません。

ユーザー ストアの選択方法

複数のユーザー ストアが利用可能な場合に、ユーザー ストアの選択方法を指定できます。オプションは次のとおりです。

- **構成順序。** Profile Managementは、最初に構成されたストア（構成順序で最も早いもの）を選択します。
- **アクセス パフォーマンス。** Profile Managementは、最高のアクセス パフォーマンスを持つストアを選択します。

構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、**構成順序**が使用されます。

Profile Management\Citrix Virtual Appsの最適化設定

Citrix Virtual Apps™の最適化を有効にする

この機能を有効にすると、ユーザーが起動または終了する公開アプリケーションに固有の設定のみが同期されます。

構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、Citrix仮想アプリの最適化設定は適用されません。

Citrix Virtual Apps最適化定義へのパス

Citrix仮想アプリ最適化の定義ファイルを保存するフォルダーを指定できます。

構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、Citrix仮想アプリの最適化設定は適用されません。

> **注:**
>
> フォルダーはローカルストレージまたはSMBファイル共有に配置できます。

プロファイル管理\クロスプラットフォーム設定

クロスプラットフォーム設定を有効にする

クロスプラットフォーム設定を有効にできます。クロスプラットフォーム設定機能は、主にWindows 7およびWindows Server 2008からWindows 8およびWindows Server 2012への移行に使用されます。この移行では、Microsoft Office 2003またはOffice 2007からOffice 2010への移行も含まれる場合があります。

デフォルトでは、展開を容易にするために、クロスプラットフォーム設定は無効になっています。このポリシーは、この機能の十分な計画とテストを行った後にのみ有効にしてください。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。

2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、クロスプラットフォーム設定は適用されません。

クロスプラットフォーム設定のユーザーグループ

クロスプラットフォーム設定機能が適用されるWindowsユーザーグループを指定できます。たとえば、このポリシーを使用して、テストユーザーグループのプロファイルのみを処理できます。

構成の優先順位:

1. このポリシーが構成されている場合、Profile Managementのクロスプラットフォーム設定機能は、これらのユーザーグループのメンバーのみを処理します。このポリシーが無効になっている場合、この機能は「処理されたグループ」ポリシーで指定されたすべてのユーザーを処理します。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、すべてのユーザーグループが処理されます。

クロスプラットフォーム定義へのパス

定義ファイルが格納されているネットワークの場所を指定できます。

このパスはUNCパスである必要があります。ユーザーはこの場所への読み取りアクセス権を持ち、管理者は書き込みアクセス権を持っている必要があります。この場所は、Server Message Block (SMB) またはCommon Internet File System (CIFS) ファイル共有である必要があります。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、クロスプラットフォーム設定は適用されません。

クロスプラットフォーム設定ストアへのパス

クロスプラットフォーム設定ストアへのパスを指定できます。このストアは、ユーザーのクロスプラットフォーム設定が保存されるフォルダーを指します。

このストアは、複数のプラットフォームで共有されるプロファイルデータが格納されているユーザーストア内にあります。ユーザーはストアへの書き込みアクセス権を持っている必要があります。パスは絶対UNCパス、またはホームディレクトリに対する相対パスにすることができます。「**ユーザーストアへのパス**」で使用される変数を使用できます。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、`Windows\PM_CP` パスが使用されます。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルト値が使用されます。

クロスプラットフォーム設定を作成するためのソース

このポリシーがそのプラットフォームのOUで有効になっている場合、プラットフォームをベースプラットフォームとして指定できます。このポリシーは、ベースプラットフォームのプロファイルからクロスプラットフォーム設定ストアにデータを移行します。デフォルトでは、このポリシーは無効になっています。

各プラットフォーム独自のプロファイルセットは、個別のOUに保存されます。クロスプラットフォーム設定ストアのシードとして使用するベースプラットフォームとして、どのプラットフォームのプロファイルデータを使用するかを決定します。

このポリシーが有効になっている場合、次のいずれかの状況が発生すると、Profile Managementはシングルプラットフォームプロファイルからストアにデータを移行します。

- クロスプラットフォーム設定ストアにデータのない定義ファイルが含まれている。
- シングルプラットフォームプロファイルのキャッシュデータが、ストア内の定義データよりも新しい。

> **重要:**

> このポリシーが複数のOU、ユーザーオブジェクト、またはマシンオブジェクトで有効になっている場合、最初のユーザーがログオンするプラットフォームがベースプロファイルになります。

プロファイル管理\ファイルシステム

除外リスト - ファイル

Profile Managementが同期中に無視するファイルを指定できます。ファイル名はユーザープロファイル (%USERPROFILE%) に対する相対パスである必要があります。ワイルドカードが許可され、再帰的に適用されます。

例:

- `Desktop`フォルダー内の`Desktop.ini`ファイルを`Desktop\Desktop.ini`は無視します。
- `%USERPROFILE%*.tmp`はプロファイル全体の`.tmp`拡張子を持つすべてのファイルを無視します。
- `AppData\Roaming\MyApp*.tmp`はプロファイルの一部にある`.tmp`拡張子を持つすべてのファイルを無視します。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、ファイルは除外されません。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ファイルは除外されません。

デフォルトの除外リストを有効にする - ディレクトリ

Profile Managementが同期中に無視するディレクトリのデフォルトリストを指定できます。このポリシーを使用して、GPO除外ディレクトリを手動で入力することなく指定できます。

構成の優先順位:

1. このポリシーを無効にすると、Profile Managementはデフォルトでどのディレクトリも除外しません。
2. このポリシーをここで構成しない場合、Profile Managementは.iniファイルの値を使用します。
3. このポリシーをここでも.iniファイルでも構成しない場合、Profile Managementはデフォルトでどのディレクトリも除外しません。

除外リスト - ディレクトリ

Profile Management が同期中に無視するフォルダーを指定できます。フォルダー名は、ユーザープロファイル (%USERPROFILE%) に対する相対パスとして指定する必要があります。

例:

- Desktop は、ユーザープロファイル内の Desktop フォルダーを無視します。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、フォルダーは除外されません。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。

3. このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、フォルダーは除外されません。

ログオン除外チェック

ユーザーストア内のプロファイルに除外されたファイルまたはフォルダーが含まれている場合に、Profile Management が何を行うかを指定できます。

構成の優先順位:

1. この設定が無効になっているか、デフォルト値の **除外されたファイルまたはフォルダーを同期する** に設定されている場合、ユーザーがログオンすると、Profile Management はそれらの除外されたファイルまたはフォルダーをユーザーストアからローカルプロファイルに同期します。
2. この設定が **除外されたファイルまたはフォルダーを無視する** に設定されている場合、Profile Management はユーザーログオン時にユーザーストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを無視します。この設定が **除外されたファイルまたはフォルダーを削除する** に設定されている場合、Profile Management はユーザーログオン時にユーザーストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを削除します。
3. この設定がここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。
4. この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、Profile Management は除外されたファイルまたはフォルダーをユーザーストアからローカルプロファイルに同期します。

大容量ファイルの処理 - シンボリックリンクとして作成されるファイル

シンボリックリンクとして作成されるファイルを指定できます。この設定は、ログオンパフォーマンスの向上と、サイズの大きいファイルの処理に使用されます。

ファイルを参照するポリシーでは、ワイルドカードを使用できます。例: `!ctx_localappdata!\Microsoft\Outlook*.OST`。

オフラインOutlookデータファイル（`*.ost`）を処理するには、**Outlook**フォルダーがProfile Managementで除外されていないことを確認してください。

これらのファイルには、複数のセッションから同時にアクセスすることはできません。

プロファイル管理\ファイルシステム\同期

同期するディレクトリ

親フォルダーが除外されている場合に、Profile Managementで同期するフォルダーを指定できます。

このリストのパスは、ユーザープロファイルに対する相対パスである必要があります。

Profile Managementは、インストールされているシステムとユーザーストアの間で、各ユーザーのプロファイル全体を同期します。ユーザープロファイルのサブフォルダーをこのリストに追加して含める必要はありません。

このポリシーを無効にすると、有効にして空のリストを構成した場合と同じ効果があります。

構成の優先順位:

1. ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ユーザープロファイル内の除外されていないフォルダーのみが同期されます。

同期するファイル

親フォルダーが除外されている場合に、Profile Managementで同期するファイルを指定できます。

このリストのパスは、ユーザープロファイルに対する相対パスである必要があります。ワイルドカードはファイル名とフォルダー名で使用できます。ただし、ワイルドカードはファイル名でのみ再帰的に適用されます。

例:

- AppData\Local\Microsoft\Office\Access.qat は、デフォルト構成で除外されているフォルダー内のファイルを指定します。
- AppData\Local\MyApp*.cfg は、プロファイルフォルダー AppData\Local\MyApp とそのサブフォルダー内の拡張子 .cfg を持つすべてのファイルを指定します。

Profile Management は、インストールされているシステムとユーザー ストアの間で、各ユーザーのプロファイル全体を同期します。このリストにファイルを追加して、ユーザープロファイルに含める必要はありません。

このポリシーを無効にすると、有効にして空のリストを構成した場合と同じ効果があります。

構成の優先順位:

1. ここでこのポリシーが構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。
2. ここでも .ini ファイルでもこのポリシーが構成されていない場合、ユーザープロファイル内の除外されていないファイルのみが同期されます。

ミラーリングするフォルダー

このポリシーは、トランザクションフォルダー (参照フォルダーとも呼ばれます) に関連する問題を解決するのに役立ちます。この種のフォルダーには、相互に依存するファイルが含まれており、1つのファイルが他のファイルを参照します。

このポリシーを使用すると、Profile Management は、ユーザープロファイルを同期する際に、トランザクションフォルダーとその内容を単一のエンティティとして処理します。

構成の優先順位:

1. ここでこのポリシーが構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。
2. ここでも .ini ファイルでもこのポリシーが構成されていない場合、フォルダーはミラーリングされません。

フォルダミラーリングを高速化

このポリシーと**ミラーリングするフォルダー**ポリシーの両方が有効な場合、Profile Management は、ミラーリングされたフォルダーをVHDXベースの仮想ディスクに保存します。ログオン時に仮想ディスクをアタッチし、ログオフ時にデタッチします。このポリシーを有効にすると、ユーザーストアとローカルプロファイルの間でフォルダーをコピーする必要がなくなり、フォルダーミラーリングが高速化されます。

プロファイル マネジメント\ファイル重複排除

ユーザーストア内のさまざまなユーザープロファイルに同一のファイルが存在する可能性があります。ユーザーストアにファイルの重複インスタンスが保存されていると、ストレージコストが増加します。

ファイル重複排除ポリシーを使用すると、Profile Managementはユーザーストアから重複ファイルを削除し、それらの1つのインスタンスを中央の場所（*共有ストア*と呼ばれる）に保存できます。これにより、ユーザーストアでのファイルの重複が回避され、ストレージコストが節約されます。

重複排除のために共有ストアに含めるファイル

ファイル重複排除を有効にし、重複排除のために共有ストアに含めるファイルを指定できます。

共有ストアから除外するファイル

共有ストアから除外するファイルを指定できます。このポリシーは、*重複排除のために共有ストアに含めるファイル*ポリシーと組み合わせて使用します。

プロファイルコンテナーから重複排除するファイルの最小サイズ

プロファイルコンテナーから重複排除するファイルの最小サイズを指定できます。このサイズは256 MB以上である必要があります。

構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、値は256になります。

プロファイル マネジメント\ログ設定

ログを有効にする

Profile Management のログを有効にするかどうかを指定できます。このポリシーは、Profile Management のトラブルシューティングを行う場合にのみ有効にしてください。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、エラーのみがログに記録されます。このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、エラーのみがログに記録されます。

ログ設定

Profile Management がログに記録するイベントまたはアクションを選択できます。Citrix の担当者から要求された場合にのみ、すべてを選択してください。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、Profile Management は .ini ファイルの値を使用します。
2. このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、エラーと一般情報がログに記録されます。

このポリシーのチェックボックスは、.ini ファイルの次の設定に対応しています: LogLevelWarnings, LogLevelInformation, LogLevelFileSystemNotification, LogLevelFileSystemActions, LogLevelRegistryActions, LogLevelRegistryDifference, LogLevelActiveDirectoryActions, LogLevelPolicyUserLogon, LogLevelLogon, LogLevelLogoff, および LogLevelUserName。

ログファイルの最大サイズ

Profile Management ログファイルの最大サイズをバイト単位で指定できます。

Profile Management ログファイルの最大サイズのデフォルト値は 10 MB です。十分なディスク容量がある場合は、値を増やしてください。ログファイルが最大サイズを超えて増加した場合、次のようになります:

1. ファイルの既存のバックアップ (.bak) が削除されます。
2. ログファイルの名前が.bakに変更されます。
3. 新しいログファイルが作成されます。

ログファイルは`%SystemRoot%\System32\Logfiles\UserProfileManager`、または**ログファイルのパス**ポリシーで指定された場所に作成されます。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、デフォルト値の10 MBが使用されます。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルト値が使用されます。

ログファイルのパス

ログファイルを保存するための代替パスを構成できます。

パスはローカルドライブまたはネットワークベースのドライブ（UNCパス）を指すことができます。

- 大規模な分散環境ではリモートドライブが推奨されます。ただし、大量のネットワークトラフィックを生成する可能性があり、ログファイルには適さない場合があります。
- ローカルドライブは、永続的なハードドライブを持つプロビジョニングされた仮想マシンでよく使用されます。

この設定により、マシンが再起動してもログファイルが保持されます。永続的なハードドライブを持たない仮想マシンでは、UNCパスを設定することでログファイルを保持できます。ただし、マシンのシステムアカウントにはUNC共有への書き込みアクセス権が必要です。オフラインプロファイル機能によって管理されるラップトップには、ローカルパスを使用してください。

ログファイルにUNCパスを使用する場合、Citrixはログファイルフォルダーに適切なアクセス制御リストを適用することを推奨します。アクセス制御により、承認されたユーザーまたはコンピューターアカウントのみが保存されたファイルにアクセスできるようになります。

例:

- D:\LogFiles\ProfileManagement.
- \\server\LogFiles\ProfileManagement

このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルトの場所 %SystemRoot%\System32\Logfiles\UserProfileManager が使用されます。

プロファイル管理\プロファイルコンテナ設定

プロファイルコンテナ

VHDXベースのネットワークディスク（プロファイルコンテナ）を使用してユーザープロファイルを保存できます。ユーザープロファイル全体または一部を保存するために使用できます。ユーザーログオン時に、プロファイルコンテナはユーザー環境にマウントされ、プロファイルフォルダはすぐに利用可能になります。

プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする

Citrix Profile Managementのプロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にできます。このポリシーは、プロファイルコンテナがユーザープロファイル全体に対して有効になっている場合にのみ適用されます。

ポリシーが**有効**に設定されている場合、各ローカルプロファイルは、そのCitrix Profile Managementプロファイルコンテナのローカルキャッシュとして機能します。プロファイルストリーミングが使用されている場合、ローカルにキャッシュされたファイルはオンデマンドで作成されます。それ以外の場合は、ユーザーログオン時に作成されます。

プロファイルコンテナから除外するフォルダ

Citrix Profile Managementのプロファイルコンテナから除外するフォルダを指定できます。

プロファイルコンテナに含めるフォルダ

親フォルダが除外されている場合でも、Citrix Profile Managementのプロファイルコンテナに保持するフォルダを指定できます。

このリストのフォルダは、除外されたフォルダのサブフォルダである必要があります。そうでない場合、この設定は機能しません。

この設定を無効にすると、有効にして空のリストを構成した場合と同じ効果があります。

プロファイルコンテナに含めるファイル

親フォルダーが除外されている場合に、Citrix Profile Managementプロファイルコンテナに含めるファイルを指定できます。

このリストのファイルは、除外されたフォルダー内にある必要があります。そうでない場合、この設定は機能しません。

プロファイルコンテナから除外するファイル

Citrix Profile Management のプロファイルコンテナから除外するファイルを指定できます。

VHDディスクの圧縮を有効にする

Profile ManagementのVHDディスク圧縮を有効にできます。有効にすると、特定の条件が満たされた場合、ユーザーのログオフ時にVHDディスクが自動的に圧縮されます。このポリシーにより、プロファイルコンテナ、OneDriveコンテナ、およびミラーフォルダーコンテナによって消費されるストレージスペースを節約できます。

ニーズと利用可能なリソースに応じて、Advanced settingsにある**VHDディスク圧縮をトリガーする空き領域の比率**、**VHDディスク圧縮をトリガーするログオフ回数**、および**VHDディスク圧縮のデフラグを無効にする**ポリシーを使用して、デフォルトのVHD圧縮設定と動作を調整できます。

構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、この機能は無効になります。

プロファイルコンテナのVHD自動拡張を有効にする

プロファイルコンテナのVHD自動拡張を有効にするかどうかを指定できます。有効にすると、すべてのVHD自動拡張設定がプロファイルコンテナに適用されます。

構成の優先順位:

- このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
- このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、無効になります。

VHDコンテナへの排他的アクセスを有効にする

デフォルトでは、VHDコンテナは同時アクセスを許可します。この設定を有効にすると、一度に1つのアクセスのみが許可されます。この機能は、プロファイルコンテナとOneDriveコンテナに適用されます。

> **注：**

> コンテナベースのプロファイルソリューションでは、プロファイルコンテナに対してこの設定を有効にすると、*プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする*設定が自動的に無効になります。

> 構成の優先順位：

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、この設定は無効になります。

ログオン時にプロファイルコンテナが利用できない場合にユーザーをログオフする

ユーザーログオン時にプロファイルコンテナが利用できない場合にユーザーを強制的にログオフするかどうかを指定し、ユーザーに表示されるエラーメッセージをカスタマイズできます。

構成の優先順位：

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、この設定は無効になります。

プロファイルコンテナにアクセスするユーザーとグループ

プロファイルコンテナに対する読み取りと実行のアクセス許可を持つADドメインユーザーとグループを指定できます。デフォルトでは、プロファイルコンテナはその所有者のみがアクセスできます。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの設定が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、プロファイルコンテナはその所有者のみがアクセスできます。

プロファイル管理\プロファイルの処理

ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する

ログオフ後にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除するかどうかを指定できます。

このポリシーが有効になっている場合、ユーザーのログオフ後にユーザーのローカルプロファイルキャッシュが削除されます。この設定はターミナルサーバーに推奨されます。このポリシーが無効になっている場合、キャッシュされたプロファイルは削除されません。

> **注:**

> 「キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延」ポリシーを使用して、ログオフ時にプロファイルキャッシュが削除されるタイミングを制御できます。

> 構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、キャッシュされたプロファイルは削除されません。

キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延

ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルが削除されるまでの遅延に、オプションの延長を指定できます。プロセスがログオフ中にファイルまたはユーザーレジストリハイブを開いたままにしていることがわかっている場合、遅延を延長すると便利です。大規模なプロファイルの場合、この設定はログオフを高速化することもできます。

値が0の場合、ログオフプロセスの終了時にプロファイルがすぐに削除されます。

Profile Management は毎分ログオフをチェックします。値 60 は、最後のチェックが行われた時間に応じて、ユーザーのログオフ後 1 分から 2 分の間にプロファイルが削除されることを保証します。

重要: このポリシーは、 が有効になっている場合にのみ機能します。

このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、プロファイルはすぐに削除されます。

既存のプロファイルの移行

ユーザーストアが空の場合に、Profile Management がどの種類のユーザープロファイルをユーザーストアに移行するかを指定できます。

ユーザーがユーザーストアにプロファイルを持っていない場合、Profile Management はログオン中に既存のプロファイルを「オンザフライ」で移行できます。ローミングプロファイルまたはリモートデスクトップサービスプロファイルを移行する場合は、**ローミング**を選択します。

ログオン中に次のイベントが発生します。ユーザーがユーザーストアにCitrixユーザープロファイルではなくWindowsプロファイルを持っている場合、Profile Management はWindowsプロファイルをユーザーストアに移行します。このプロセス後、Profile Management は、同じユーザーストアへのパスで構成された現在のセッションおよび他のセッションでユーザーストアプロファイルを使用します。

構成の優先順位:

1. この設定が有効になっている場合、プロファイルの移行は、ローミングプロファイルとローカルプロファイル（デフォルト）、ローミングプロファイルのみ、ローカルプロファイルのみに対してアクティブ化できます。または、プロファイルの移行を無効にすることもできます。
2. このポリシーが無効で、ユーザーストアにCitrixユーザープロファイルが存在しない場合、プロファイルを作成するための既存のWindowsメカニズムが使用されます。
3. プロファイルの移行が無効で、ユーザーストアにCitrixユーザープロファイルが存在しない場合、プロファイルを作成するための既存のWindowsメカニズムが使用されます。
4. このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。
5. このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、Profile Management は既存のローカルプロファイルとローミングプロファイルをユーザーストアに移行します。

既存のアプリケーションプロファイルの自動移行

この設定は、異なるオペレーティングシステム間での既存のアプリケーションプロファイルの自動移行を有効または無効にします。アプリケーションプロファイルには、**AppData** フォルダー内のアプリケーションデータと、`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE` の下のレジストリエントリの両方が含まれます。この設定は、異なるオペレーティングシステム間でアプリケーションプロファイルを移行したい場合に役立ちます。

例えば、オペレーティングシステム (OS) を Windows 10 バージョン 1803 から Windows 10 バージョン 1809 にアップグレードする必要があるとします。この設定が有効になっている場合、Profile Management は、各ユーザーが最初にログオンしたときに、既存のアプリケーション設定を Windows 10 バージョン 1809 に自動的に移行します。**AppData** フォルダー内のアプリケーションデータと、`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE` の下のレジストリエントリが移行されます。

既存のアプリケーションプロファイルが複数ある場合、Profile Management は次の優先順位で移行を実行します。

1. 同じOSタイプのプロファイル（シングルセッションOSからシングルセッションOS、マルチセッションOSからマルチセッションOS）。

2. 同じWindows OSファミリーのプロファイル（例：Windows 10からWindows 10、またはWindows Server 2016からWindows Server 2016）。
3. 以前のバージョンのOSのプロファイル（例：Windows 7からWindows 10、またはWindows Server 2012からWindows 2016）。
4. 最も近いOSのプロファイル。

> **注：**

> ユーザーストアパスに `!CTX_OSNAME!` 変数を含めることで、OSの短い名前を指定する必要があります。これにより、Profile Management は既存のアプリケーションプロファイルを特定できます。

> ここでこの設定が構成されていない場合、.ini ファイルの設定が使用されます。

ここでも.iniファイルでもこの設定が構成されていない場合、デフォルトで無効になります。

ローカルプロファイルの競合処理

ユーザーストア内のプロファイルとローカルのWindowsユーザープロファイル（Citrixユーザープロファイルではない）の両方が存在する場合に、Profile Management がどのように動作するかを指定できます。

構成の優先順位：

1. このポリシーが無効になっているか、デフォルト値の**ローカルプロファイルを使用**に設定されている場合、Profile Management はローカルプロファイルを使用しますが、一切変更しません。
2. このポリシーが**ローカルプロファイルを削除**に設定されている場合、Profile Management はローカルのWindowsユーザープロファイルを削除します。その後、ユーザーストアからCitrixユーザープロファイルをインポートします。このポリシーが**ローカルプロファイルの名前を変更**に設定されている場合、Profile Management はローカルのWindowsユーザープロファイルの名前を変更し（バックアップ目的）、その後、ユーザーストアからCitrixユーザープロファイルをインポートします。
3. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、既存のローカルプロファイルが使用されます。

テンプレートプロファイル

テンプレートとして使用するプロファイルの保存パスを指定できます。このパスは、NTUSER.DATレジストリファイルと、テンプレートプロファイルに必要なその他のフォルダーおよびファイルを含むフォルダーのフルパスです。

重要: パス設定に`NTUSER.DAT`を含めないでください。たとえば、`\\myservername\myprofiles\template\ntuser.dat`ファイルの場合、場所を`\\myservername\myprofiles\template`として設定します。 UNCパスまたはローカルコンピューター上のパスである絶対パスを使用します。後者は、たとえば、Citrix Provisioning™ Servicesイメージにテンプレートプロファイルを永続的に指定するために使用できます。相対パスはサポートされていません。

このポリシーは、Active Directory属性、システム環境変数、または`%USERNAME%`および`%USERDOMAIN%`変数の展開をサポートしていません。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、テンプレートは使用されません。
2. このポリシーが有効になっている場合、Profile Managementはユーザープロファイルを作成するときに、ローカルのデフォルトプロファイルの代わりにテンプレートを使用します。ユーザーにCitrixユーザープロファイルがないが、ローカルまたは移動Windowsユーザープロファイルが存在する場合、デフォルトではローカルプロファイルが使用されます。そして、このポリシーが無効になっていない場合、ローカルプロファイルはユーザーストアに移行されます。この設定は、**テンプレートプロファイルがローカルプロファイルを上書きする**または**テンプレートプロファイルが移動プロファイルを上書きする**チェックボックスを有効にすることで変更できます。また、テンプレートをCitrix強制プロファイルとして識別することは、Windows強制プロファイルと同様に、変更が保存されないことを意味します。
3. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
4. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、テンプレートは使用されません。

プロファイル管理\レジストリ

除外リスト

ログオフ時にProfile Managementが無視するHKCUハイブ内のレジストリキーを指定できます。

例: Software\Policies

構成の優先順位:

- このポリシーが無効になっている場合、レジストリキーは除外されません。
- このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
- このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、レジストリキーは除外されません。

インクルージョンリスト

ログオフ時にProfile Managementが処理するHKCUハイブ内のレジストリキーを指定できます。

例: Software\Adobe。

構成の優先順位:

1. このポリシーが有効になっている場合、このリストのキーのみが処理されます。このポリシーが無効になっている場合、HKCUハイブ全体が処理されます。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、HKCU全体が処理されます。

デフォルトの除外リストを有効にする - Profile Management 5.5

Profile Managementがユーザープロファイルに同期しないHKCUハイブ内のレジストリキーを指定できます。このポリシーを使用して、GPO除外ファイルを手動で入力することなく指定できます。

構成の優先順位:

1. このポリシーを無効にすると、Profile Managementはデフォルトでレジストリキーを除外しません。
2. このポリシーをここで構成しない場合、Profile Managementは.iniファイルの値を使用します。
3. このポリシーをここでも.iniファイルでも構成しない場合、Profile Managementはデフォルトでレジストリキーを除外しません。

NTUSER.DATのバックアップ

NTUSER.DATの最後に確認された正常なコピーのバックアップを有効にし、破損が発生した場合にロールバックできるようにします。

ここでこのポリシーを構成しない場合、Profile Managementは.iniファイルの値を使用します。このポリシーをここでも.iniファイルでも構成しない場合、Profile ManagementはNTUSER.DATをバックアップしません。

プロファイル管理\アプリのアクセス制御

ファイル、フォルダー、およびレジストリへのアクセスを制御できます。

アプリのアクセス制御

有効にすると、Profile Managementは、提供されたルールに基づいて、項目（ファイル、フォルダー、レジストリなど）へのユーザーアクセスを制御します。

アプリケーションルールを作成するには、次の方法を使用します。

- GUIベースのツール – **WEM Tool Hub > アプリアクセス制御用ルールジェネレーター**
- PowerShellツール – Profile Managementインストールパッケージに付属

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、無効になります。

プロファイル管理\ストリーミングユーザープロファイル

プロファイルストリーミング

プロファイルストリーミング機能を有効にします。この機能を有効にすると、ユーザープロファイル内のファイルは、ユーザーがアクセスしたときにのみ、ユーザー ストアからローカルコンピューターにフェッチされます。`NTUSER.DAT` ファイルと保留領域にあるファイルは例外です。これらはすぐにフェッチされます。NTUSER.DAT にはレジストリエントリが保存されます。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、無効になります。

フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする

ユーザープロファイル内のフォルダーに対してプロファイルストリーミング機能を有効にします。

このポリシーと**プロファイルストリーミング**ポリシーの両方が**有効**に設定されている場合、ユーザープロファイル内のフォルダーは、ユーザーがアクセスしたときにのみ、ユーザー ストアからローカルコンピューターにフェッチされます。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。

2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、無効になります。

常にキャッシュする

ログオン直後にユーザー ストアからローカルコンピューターにフェッチされるファイルのサイズの最小値を指定できます。

プロファイルストリーミング機能が有効になっている場合、ユーザープロファイル内のファイルは、ユーザーがアクセスしたときにローカルコンピューターにフェッチされます。このオンデマンドのファイルフェッチメカニズムは、ユーザーが要求するファイルが大きい場合に読み込みが遅くなる原因となります。このポリシーを有効にすると、Profile Management は、指定されたサイズより大きいファイルをログオン直後にローカルコンピューターにフェッチします。

ログオン直後にプロファイル全体をローカルコンピューターにフェッチするには、この制限をゼロに設定します。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、無効になります。

保留中の領域ロックファイルのタイムアウト

Profile Managementがユーザーのファイルを解放するまでのタイムアウト期間（日数）を指定できます。タイムアウトが発生すると、ストレージサーバーが応答しなくなったときにユーザープロファイルストアがロックされたままである場合、ユーザーのファイルは保留中の領域からユーザープロファイルストアに書き込まれます。このポリシーを使用して、保留中の領域の肥大化を防ぎ、ユーザープロファイルストアに常に最新のファイルが含まれるようにします。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルト値の1日が使用されます。

ストリーミングされたユーザープロファイルグループ

ユーザープロファイルがストリーミングされるWindowsユーザーグループを指定できます。

このポリシーは、OU内のWindowsユーザーグループのサブセットのプロファイルをストリーミングします。他のすべてのグループのユーザーのプロファイルはストリーミングされません。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、すべてのユーザーグループが処理されます。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、すべてのユーザーが処理されます。

プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ

プロファイルストリーミングが無視するフォルダーを指定できます。フォルダー名は、ユーザープロファイルに対する相対パスとして指定する必要があります。

例: `Desktop`と入力すると、ユーザープロファイル内の`Desktop`ディレクトリは無視されます。

構成の優先順位:

1. この設定が無効になっている場合、フォルダーは除外されません。
2. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、フォルダーは除外されません。

> **注:**
>
> プロファイルストリーミングの除外は、構成されたフォルダーがプロファイル処理から除外されることを意味しません。Citrix Profile Managementは引き続きそれらを処理します。

保留領域のプロファイルストリーミングを有効にする

保留領域内のファイルおよびフォルダーに対してプロファイルストリーミング機能を有効にできます。

保留領域は、プロファイルストリーミングが有効になっている間のプロファイルの一貫性を確保するために使用されます。同時セッションで変更されたプロファイルファイルとフォルダーを一時的に保存します。

デフォルトでは、このポリシーは無効になっており、保留領域内のすべてのファイルとフォルダーはログオン時にローカルプロファイルにフェッチされます。このポリシーを有効にすると、保留領域内のファイルは要求されたときにのみローカルプロファイルにフェッチされます。同時セッションシナリオで最適なログオンエクスペリエンスを確保するには、このポリシーをプロファイルストリーミングポリシーと組み合わせて使用してください。

このポリシーは、フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にするポリシーが有効になっている場合に、保留領域内のフォルダーに適用されます。

Profile Management\フォルダーリダイレクト (ユーザー構成)

プロファイルに一般的に表示されるフォルダーをリダイレクトするかどうか、およびリダイレクトターゲットを指定できます。ターゲットは、UNCパス（サーバー共有またはDFS名前空間の場合）またはユーザーのホームディレクトリに対する相対パスとして指定します。ホームディレクトリは通常、Active Directoryの `#homeDirectory#` 属性で構成されます。

ここでポリシーが構成されていない場合、Profile Management は指定されたフォルダーをリダイレクトしません。

> **注:**

> フォルダーリダイレクトに UNC パスを使用する場合、#homedirectory# 変数はサポートされません。「**ユーザーのホームディレクトリにリダイレクト**」ポリシーを選択した後、パスを指定する必要はありません。

> Redirect `<folder-name>` フォルダーポリシーを使用すると、`<folder-name>` フォルダーをリダイレクトする方法を指定できます。これを行うには、「**有効**」を選択し、リダイレクトされたパスを入力します。

> **注意:**

> データ損失が発生する可能性があります。

> ポリシーが有効になった後でパスを変更したい場合があります。ただし、変更する前にデータ損失の可能性を考慮してください。変更されたパスが以前のパスと同じ場所を指している場合、リダイレクトされたフォルダーに含まれるデータが削除される可能性があります。

たとえば、連絡先パスを `path1` と指定します。その後、`path1` を `path2` に変更します。`path1` と `path2` が同じ場所を指している場合、ポリシーが有効になった後、リダイレクトされたフォルダーに含まれるすべてのデータが削除されます。

データ損失の可能性を回避するには、次の手順を実行します。

1. Active Directory グループポリシーオブジェクトを介して、Profile Management が実行されているマシンに Microsoft ポリシーを適用します。詳細な手順は次のとおりです。

a. グループポリシー管理コンソールを開きます。

b. **「コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Windows コンポーネント > エクスプローラー」**に移動します。

c. **「リダイレクトする前に、古いフォルダーリダイレクトターゲットと新しいフォルダーリダイレクトターゲットが同じ共有を指していることを確認する」**を有効にします。

2. 該当する場合は、Profile Management が実行されているマシンに修正プログラムを適用します。詳細については、`<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/977229>` および `<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/2799904>` を参照してください。

ファイルベースおよびコンテナベースのソリューションのポリシー

Profile Management は、ファイルベースおよびコンテナベースのプロファイルソリューションを提供します。次の表に、Profile Management のポリシーと、各ソリューションでの利用可能性を示します。

カテゴリ	ポリシー名	ファイルベースに適用	コンテナベースに適用	コメント
NA	プロファイルのリセット	Y	Y	この設定は、ポリシー設定ではなく、Profile Management WMI プラグインによって提供される WMI コマンドです。コンテナベースのソリューションが有効になっている場合、Profile Management はユーザープロファイルを作成し、`Downloads` や `Pictures` などのプロファイルフォルダー内

カテゴリ	ポリシー名	ファイルベースに適用	コンテナベースに適用	コメント
				のレガシーコンテンツを復元しません。
プロファイル管理	プロファイル管理を有効にする	Y	Y	
	処理されたグループ	Y	Y	
	除外されたグループ	Y	Y	
	ローカル管理者のログオンを処理する	Y	Y	
	ユーザーストアへのパス	Y	Y	
	ユーザーストアを移行する	Y	いいえ	
	アクティブライトバック	はい	いいえ	
	アクティブライトバックレジストリ	はい	いいえ	
	セッションロックおよび切断時のアクティブライトバック	はい	いいえ	
	オフラインプロファイルサポート	はい	いいえ	
プロファイル管理\詳細設定	ロックされたファイルへのア	はい	いいえ	

カテゴリ	ポリシー名	ファイルベースに適用	コンテナベースに適用	コメント
	クセス時の再試行回数			
	ログオフ時にインターネットクッキーファイルを処理する	はい	いいえ	
	自動構成を無効にする	はい	いいえ	
	問題が発生した場合にユーザーをログオフする	はい	はい	
	カスタマーエクスペリエンス向上プログラム	はい	はい	
	ユーザーレベルのポリシー設定を有効にする	Y	Y	
	ユーザーグループの優先順位を設定	Y	Y	
	Outlook の検索インデックスローミングを有効にする	Y	Y	
	Outlook 検索データローミングの同時セッションサポートを有効にする	Y	Y	
	プロファイルコンテナのマルチセッションライ	Y	Y	

カテゴリ	ポリシー名	ファイルベースに適用	コンテナベースに適用	コメント
	トバックを有効にする			
	ユーザーストアをレプリケート	Y	Y	
	ユーザー ストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする	Y	Y	
	VHDX ファイルのストレージ パスをカスタマイズする	Y	Y	
	アプリのアクセス制御	Y	Y	
	セッションで VHDX ディスクを自動的に再アタッチする	Y	Y	
	ログオン時にユーザー グループ ポリシーの非同期処理を有効にする	Y	Y	
	OneDriveコンテナを有効にする	Y	Y	
	VHDディスクの圧縮をトリガーする空き領域の比率	Y	Y	
	VHDディスクの圧縮をトリガー	Y	Y	

カテゴリ	ポリシー名	ファイルベースに適用	コンテナベースに適用	コメント
	するログオフ回数			
	VHDディスクの圧縮におけるデフラグを無効にする	Y	Y	
	プロファイルコンテナの自動拡張しきい値	Y	Y	
	プロファイルコンテナの自動拡張増分	Y	Y	
	プロファイルコンテナの自動拡張制限	Y	Y	
	UWPアプリのローミング	Y	Y	
	VHDコンテナのデフォルト容量	Y	Y	
	ユーザーストアの選択方法	Y	Y	
プロファイル管理\アプリアクセス制御	アプリアクセス制御	Y	Y	
Profile Management\Citrix Virtual Appsの最適化	Citrix Virtual Appsの最適化を有効にする	Y	N	
	Citrix Virtual Apps™最適化定義へのパス	Y	N	

カテゴリ	ポリシー名	ファイルベースに適用	コンテナベースに適用	コメント
プロファイル管理\クロスプラットフォーム設定	クロスプラットフォーム設定を有効にする	Y	N	
	クロスプラットフォーム設定ユーザーグループ	Y	N	
	クロスプラットフォーム定義へのパス	Y	N	
	クロスプラットフォーム設定ストアへのパス	Y	N	
	クロスプラットフォーム設定作成のソース	Y	N	
プロファイル管理\ファイル重複排除	重複排除のために共有ストアに含めるファイル	Y	Y	
	共有ストアから除外するファイル	Y	Y	
	プロファイルコンテナから重複排除するファイルの最小サイズ	Y	Y	
プロファイル管理\ファイルシステム	除外リスト - ファイル	Y	N	

カテゴリ	ポリシー名	ファイルベースに適用	コンテナベースに適用	コメント
	デフォルトの除外リストを有効にする - ディレクトリ	Y	N	
	除外リスト - ディレクトリ	Y	N	
	ログオン除外チェック	Y	N	
	大容量ファイルの処理 - シンボリックリンクとして作成されるファイル	Y	N	
プロファイル管理\ファイルシステム\同期	同期するディレクトリ	Y	N	
	同期するファイル	はい	いいえ	
	ミラーリングするフォルダー	はい	いいえ	
	フォルダーミラーリングの高速化	はい	いいえ	
プロファイル管理\ログ設定	ログを有効にする	はい	はい	
	ログ設定	はい	はい	
	ログファイルの最大サイズ	Y	Y	

カテゴリ	ポリシー名	ファイルベースに適用	コンテナベースに適用	コメント
	ログファイルへのパス	Y	Y	
プロファイル管理\プロファイルコンテナー設定	プロファイルコンテナー	N	Y	
	プロファイルコンテナーから除外するフォルダー	N	Y	
	プロファイルコンテナーに含めるフォルダー	N	はい	
	プロファイルコンテナから除外するファイル	いいえ	はい	
	プロファイルコンテナに含めるファイル	いいえ	はい	
	プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする	いいえ	はい	コンテナベースのソリューションでこのポリシーが有効になっている場合、ファイルベースのソリューションに適用されるすべてのポリシー設定は、プロファイルストリーミングやアクティブライトバックなど、コンテナ

カテゴリ	ポリシー名	ファイルベースに適用	コンテナベースに適用	コメント
				ベースのソリューションでも機能します。
	VHDディスクの圧縮を有効にする	はい	はい	
	プロファイルコンテナのVHD自動拡張を有効にする	Y	Y	
	VHDコンテナへの排他的アクセスを有効にする	Y	Y	
	ログオン時にプロファイルコンテナが利用できない場合、ユーザーをログオフする	N	Y	
	プロファイルコンテナにアクセスするユーザーとグループ	Y	Y	
プロファイル管理\プロファイル処理	ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する	Y	N	コンテナベースソリューションが有効な場合、ポリシーが無効になっていても、ユーザーログオフ時にローカルプロファイルは常に自動的に削除されます。

カテゴリ	ポリシー名	ファイルベースに適用	コンテナベースに適用	コメント
	キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延	Y	Y	コンテナベースソリューションが有効な場合、ポリシーが無効になっていても、ユーザーログオフ時にローカルプロファイルは常に自動的に削除されます。
	既存のプロファイルの移行	Y	N	コンテナベースソリューションが有効な場合、ユーザーログオフ時にローカルプロファイルは自動的にコンテナに移行されます。
	既存のアプリケーションプロファイルの自動移行	Y	N	
	ローカルプロファイルの競合処理	Y	N	コンテナベースのソリューションが有効になっている場合、ユーザーのログオフ時にローカルプロファイルは自動的にコンテナに移行されます。
	テンプレートプロファイル	Y	Y	

カテゴリ	ポリシー名	ファイルベースに適用	コンテナベースに適用	コメント
プロファイル管理\レジストリ	除外リスト	Y	N	
	デフォルトの除外リストを有効にする	Y	N	
	包含リスト	Y	N	
	NTUSER.DAT バックアップ	Y	N	
プロファイル管理\ストリーミングされたユーザープロファイル	プロファイルストリーミング	Y	N	
	フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする	Y	N	
	保留領域のプロファイルストリーミングを有効にする	Y	N	
	常にキャッシュする	Y	N	
	保留中のエリアロックファイルのタイムアウト (日数)	Y	N	
	ストリーミングされたユーザープロファイルグループ	Y	N	

カテゴリ	ポリシー名	ファイルベースに適用	コンテナベースに適用	コメント
	プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ	Y	N	

統合

プロファイル管理とCitrix Virtual Apps™

Citrix Virtual Appsサーバーでこのバージョンの Profile Management を使用するには、Profile Management EULAに従う必要があります。Profile Managementをローカルデスクトップにインストールして、ユーザーがローカルプロファイルを公開リソースと共有することもできます。

注： Profile ManagementはCitrix Virtual Desktops™では自動的に構成されますが、Citrix Virtual Apps環境では構成されません。Citrix Virtual Apps展開のProfile Management設定を調整するには、グループポリシーまたは.iniファイルを使用してください。

Profile Managementは、リモートデスクトップサービス（旧称ターミナルサービス）を使用するCitrix Virtual Apps環境で動作します。これらの環境では、サポートされているオペレーティングシステムごとにOUを設定する必要があります。詳しくは、Microsoftのドキュメントを参照してください。

異なるバージョンのCitrix Virtual Appsを含むファーム、または異なるオペレーティングシステムを実行するファームでは、Citrixは各バージョンまたはオペレーティングシステムを実行するサーバーごとに個別のOUを使用することを推奨します。

重要：複数のユーザーで共有されているフォルダー（たとえば、Citrix Virtual Appsで公開された共有アプリケーションデータを含むフォルダー）の包含と除外はサポートされていません。

ストリーミングアプリケーション

Profile Managementは、アプリケーションがユーザーデバイスに直接ストリーミングされる環境、またはCitrix Virtual Appsサーバーにストリーミングされ、そこからユーザーに公開される環境で使用できます。

Citrix Virtual Appsのクライアント側のアプリケーション仮想化テクノロジーは、アプリケーションを自動的に分離するアプリケーションストリーミングに基づいています。アプリケーションストリーミング機能により、アプリケーションをCitrix Virtual Appsサーバーおよびクライアントデバイスに配信し、保護された仮想環境で実行できます。ユーザーにストリーミングされるアプリケーションを分離する理由は多数あり、たとえば、アプリケーションの競合を防ぐためにユーザーデバイス上でアプリケーションがどのように相互作用するかを制御する機能などがあります。たとえば、同じアプリケーションの異なるバージョンが存在する場合、ユーザー設定の分離が必要で

す。Microsoft Office 2003がローカルにインストールされ、Office 2007がユーザーのデバイスにストリーミングされる場合があります。ユーザー設定を分離しないと競合が発生し、両方のアプリケーション（ローカルとストリーミング）の機能に深刻な影響を与える可能性があります。

ストリーミングアプリケーションでのProfile Managementの使用に関する要件については、「システム要件」を参照してください。

プロファイル管理と Citrix Virtual Desktops™

重要: Citrix Virtual Desktops に統合されている Profile Management の機能を使用することをお勧めします。詳細については、 Citrix Virtual Desktops のドキュメントを参照してください。このトピックの情報は、別の展開、つまり、Profile Management コンポーネントが個別にインストールおよび構成されている Citrix Virtual Desktops の使用に適用されます。

Citrix Virtual Desktops 展開での Profile Management のインストールとアップグレード

このバージョンの Profile Management を Citrix Virtual Desktops で使用するには、Profile Management EULA に従う必要があります。EULA の条項に従い、Citrix Virtual Desktops 環境で Citrix Virtual Apps™ と Profile Management を使用することもできます。

Citrix Virtual Desktops 展開で Profile Management をアップグレードする場合は、Profile Management のアップグレードに記載されているログファイルの場所への影響を考慮してください。

Quick Deploy セットアップの Citrix Virtual Desktops については、構成の決定の推奨事項を参照してください。

Citrix Virtual Desktops 展開での Profile Management の構成

イメージが展開される前に Profile Management がイメージ上で正しく構成されていない場合、グループポリシーが適用される前に Profile Management Service が開始されます。これを回避するには、イメージを本番環境に投入する前に、文書化された手順を使用して構成を実行してください。

重要: 複数のユーザーで共有されるフォルダー（たとえば、複数の仮想デスクトップで共有できるデータを含むフォルダー）の包含と除外はサポートされていません。

Personal vDisk 展開での Profile Management の構成

Citrix Virtual Desktops の Personal vDisk 機能を使用する場合、Citrix ユーザープロファイルはデフォルトで仮想デスクトップの Personal vDisk (通常は P: ドライブ) に保存されます。プロファイルはユーザーの C: ドライブには保存されません。しかし、Profile Management はプロファイルをここに探しに行きます。そのため、Virtual Delivery Agent のインストールまたはアップグレード中に、マスターイメージのレジストリを変更する必要があります。さらに、Personal vDisk の空き容量を増やしたため、マスターイメージ上のアプリケーションのデフォルトのディスク容量割り当てを増やすことも良い方法です。これらの変更に関する手順については、「Citrix Virtual Desktops の管理」ドキュメントを参照してください。

Personal vDisk にコピーが残っている間に、ユーザーストア内のプロファイルのコピーを削除しないでください。これを実行すると、Profile Management エラーが発生し、仮想デスクトップへのログオンに一時プロファイルが使用されます。詳細については、一般的な問題のトラブルシューティングの「ユーザーが新規または一時プロファイルを受け取る」を参照してください。

Windows アプリ - マイクロソフト ストア

Citrix Virtual Desktops 環境では、Microsoft Store のアプリケーション（UWP アプリとも呼ばれる）がサポートされています。プールされたマシン（プールランダム、静的、または RDS）で Microsoft Store アプリケーションを使用するには、グループポリシー管理エディターを開き、**ポリシー \> 管理用テンプレート \> 従来の管理用テンプレート (ADM) \> Citrix \> Profile Management \> ファイルシステム \> 同期**で次の設定を構成します。

- ミラーリングするフォルダーを有効にし、次に、`appdata\local\packages`をミラーリングするフォルダーのリストに追加します
- 同期するファイルを有効にし、`!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows\UsrClass.dat*`を同期するファイルのリストに追加します

ユーザーが別のデスクトップでプロファイルを作成済みの場合に、Personal vDisk (推奨ソリューション) を使用して専用デスクトップにアクセスすると、Microsoft Store アプリケーションが動作しない可能性があります。

Citrix Virtual Desktops の設定例

このトピックでは、一般的な Citrix Virtual Desktops 展開で使用される Profile Management ポリシー設定を一覧表示します。Windows 7 仮想デスクトップは Citrix Provisioning™ Services で作成され、複数のユーザーで共有されます。この例では、プールされたランダムカタログから作成され、ログオフ時に削除されるデスクトップは、静的ワークステーション (モバイルノートパソコンではない) での使用を目的としており、パーソナル vDisk は使用されません。

ポリシーがリストされていない場合、グループポリシーで選択または入力は行われず、デフォルト設定が適用されます。

以下に注意してください。

- **ユーザー ストアへのパス** - Profile Management 変数をユーザー ストアへのパスに組み込むことができます。この例では、パスが解釈されるときにそれぞれ Win7 と x86 に展開される \!CTX_OSNAME\! と \!CTX_OSBITNESS\! を使用しています。AD 属性 #sAMAccountName# もユーザー名を指定するために使用されます。
- **ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する** - このポリシーを無効にしても安全です。デスクトップにはパーソナル vDisk が含まれておらず、ユーザーがログオフすると削除されるためです。したがって、ローカルにキャッシュされたプロファイルを保持する必要はありません。(ログオフ時にデスクトップが破棄されない場合は、このポリシーを有効にしてください。)
- **プロファイル ストリーミング** - この設定を有効にすると、この展開でのログオン時間が改善されます。
- **アクティブ ライトバック** - このポリシーは、この展開のプールされたデスクトップがユーザーに一時的に割り当てられるため有効になっています。そのため、ユーザーはプロファイルを変更する可能性がありますが、デスクトップセッションを閉じるのを忘れる (または気にしない) 可能性があります。この設定を有効にすると、プロファイル内のローカルファイルの変更がログオフ前にユーザー ストアにミラーリングされます。

注: アクティブ ライトバック ポリシーを有効にすると、セッション内でファイル作成、ファイルコピー、ファイル削除などの多数のファイル操作を実行すると、システム I/O アクティビティが高くなり、Profile Management がファイル変更をユーザー ストアに同期している間、一時的なパフォーマンスの問題が発生する可能性があります。

- **ローカル管理者ログオンの処理** - ほとんどのユーザーがローカル管理者である Citrix Virtual Desktops 展開では、この設定を有効にすることをお勧めします。
- **処理されたグループ** - すべてのドメインユーザーのプロファイルは Profile Management によって管理されます。
- **除外リスト - ディレクトリ** (ファイルシステム) および **除外リスト** (レジストリ) - これらの設定は、リストされた一時ファイルまたはキャッシュファイル、およびリストされたレジストリエントリが処理されるのを防ぎます。これらのファイルとエントリは、一般的にユーザープロファイルに保存されます。
- **同期するディレクトリ** および **同期するファイル** - ユーザーのアプリケーションデータがどこに保存されているかを知ることで、これらの設定を定義するのに役立ちました。

重要： Citrix Virtual Desktopsの展開は様々であるため、決定するProfile Managementポリシー設定は、この例の設定とは異なる場合があります。設定を計画するには、次のアドバイスに従ってください。 構成の決定。

Citrix/プロファイル管理

プロファイル管理を有効にする

> 有効

処理されたグループ

> MyDomainName\\ドメインユーザー

ユーザー ストアへのパス

> \\\\MyServer.MyDomain\\MyUserStore\\#sAMAccountName#\\\!
> CTX_OSNAME\!_\!CTX_OSBITNESS\!

アクティブ ライトバック

> 有効

ローカル管理者のログオンを処理する

> 有効

Citrix/Profile Management/プロファイル処理

ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する

> 無効

Citrix/Profile Management/詳細設定

ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する

> 有効

Citrix/Profile Management/ファイルシステム

除外リスト - ディレクトリ

```
$Recycle.Bin


AppData\\Local\\Microsoft\\Windows\\一時インターネットファイル


AppData\\Local\\Microsoft\\Outlook


AppData\\Local\\Temp


AppData\\LocalLow


AppData\\Roaming\\Microsoft\\Windows\\スタートメニュー


AppData\\Roaming\\Sun\\Java\\Deployment\\cache


AppData\\Roaming\\Sun\\Java\\Deployment\\log


AppData\\Roaming\\Sun\\Java\\Deployment\\tmp
```

Citrix/Profile Management/ファイルシステム/同期

同期するディレクトリ

```
AppData\\Microsoft\\Windows\\スタートメニュー\\プログラム\\Dazzle アプリ
```

ミラーリングするフォルダー

```
AppData\\Roaming\\Microsoft\\Windows\\Cookies
```

Citrix/Profile Management/ストリーミングされたユーザープロファイル

プロファイルストリーミング

> 有効

プロファイル管理とUE-V

Profile Management 5.xとMicrosoft User Experience Virtualization (UE-V) 2.0は、同じ環境で共存できます。UE-Vは、複数のプロファイルバージョン（例：バージョン1とバージョン2のプロファイル）が存在する場合に有用です。このため、UE-Vが存在する場合は、Citrix Profile Managementのクロスプラットフォーム設定機能を使用しないでください。UE-Vは、より多くのアプリケーション、ユーザーセッション中の同期、およびアプリケーションのXML構成と生成をサポートするため、その機能よりも優先される場合があります。

Profile ManagementがUE-Vと共存する場合、クロスプラットフォーム設定機能が有効になっているかどうかにかかわらず、次のようになります。

- `AppData\Local\Microsoft\UEV`フォルダーを除外します。UE-Vによってキャプチャされたプロファイル設定は、Profile Managementによってキャプチャされたプロファイル設定を上書きします。
- UE-Vによって制御されるプロファイルを、Profile Managementのみによって制御されるプロファイルと共有しないでください。共有した場合、「最後の書き込みが優先」されます。つまり、プロファイルを同期する最後のコンポーネント（UE-VまたはProfile Management）がどのデータが保存されるかを決定し、データ損失につながる可能性があります。

注: UE-VにはMicrosoft Desktop Optimization Pack (MDOP)が必要です。

プロファイル管理とCitrix Content Collaboration™

この記事の情報は、Citrix Content Collaborationの展開におけるProfile Managementの使用に適用されます。その一部は、他のインターネットベースのファイル共有システムにも役立つ可能性があります。

Citrix Content Collaborationは、Profile Management 4.1.2以降とともに使用できます。Citrix Content Collaborationは、オンデマンドモードでのみサポートされています。

インストール

ShareFile 2.7を使用している場合、互換性の問題を回避するために、Profile Managementをインストールする前にこのバージョンを先にインストールしてください。このインストール依存関係は、ShareFile 2.6には存在しません。

除外

Citrix Content Collaborationは、構成データをローカルの`\AppData\Roaming\ShareFile`フォルダーに保存します。Citrixユーザープロファイルを持つユーザーの場合、ユーザー固有のCitrix Content Collaboration構成が永続化されるように、このデータはユーザープロファイルとともにローミングする必要があります。この`ShareFile`フォルダーはプロファイルの一部であるため、Profile Managementの構成は不要です。構成データはデフォルトでローミングされます。

ただし、Citrix Content Collaborationによって管理されるユーザーデータは、プロファイルのルートにある`ShareFile`フォルダー（`%USERPROFILE%\ShareFile`）に含まれています。このデータはCitrix Content Collaborationサーバーによって管理され、同期されるため、プロファイルとともにローミングしてはなりません。したがって、このフォルダーをProfile Managementの除外対象として追加する必要があります。除外設定の手順については、「項目の包含と除外」を参照してください。

パーソナル vDisk

Personal vDiskを使用して仮想デスクトップを作成する場合、vDisk上のユーザーデータの場所でCitrix Content Collaborationを構成します。これにより、デスクトップとCitrix Content Collaborationサーバー間でファイル同期が行われるようになります。デフォルトでは、Personal vDiskはデスクトップ上でP:ドライブとしてマップされるため、データは`P:\Users\<user` name\>に配置される可能性があります。この場合、Citrix Content CollaborationのLocalSyncFolderポリシーを使用して場所を設定します。

重要: 不要な同期を防ぐために、大きなファイルを含むフォルダーでは、仮想デスクトップで同期する必要がある場合を除き、**Folder-ID**設定を使用することをお勧めします。これはProfile

ManagementとPersonal vDiskのパフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります。これはShareFileの設定です。

プロファイル管理とApp-V

Profile Managementは、Microsoft Application Virtualization 5.x (App-V 5.x) と同じ環境で使用できます。

> **注:**
>
> Profile Managementは、グローバルに公開されたApp-Vのみをサポートします。
>
> Profile Managementの除外機能を使用して、以下の項目を除外します。

- プロファイル管理\\ファイルシステム\\除外リスト\\ディレクトリ:
  - `AppData\Local\Microsoft\AppV`
  - `AppData\Roaming\Microsoft\AppV\Client\Catalog`
- プロファイル管理\\レジストリ\\除外リスト:
  - `Software\Microsoft\AppV\Client\Integration`
  - `Software\Microsoft\AppV\Client\Publishing`

除外の設定方法については、「項目の包含と除外」を参照してください。

App-Vで**UserLogonRefresh**設定が有効になっている場合、Profile Managementのプロファイルストリーミングポリシーを無効にします。この制限は、**UserLogonRefresh**とプロファイルストリーミングの非互換性によるものです。

App-Vアプリケーションのシーケンス方法の例については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/application-management/app-v/appv-sequence-a-new-application>`を参照してください。

App-Vが有効なサードパーティのProfile Managementソリューションの構成については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/microsoft-desktop-optimization-pack/appv-v5/performance-guidance-for-application-virtualization-50>`を参照してください。
Microsoft Windows 10システムでは、`Software\Classes`を含めないでください。

プロファイル管理とプロビジョニングサービス

この記事では、Citrix Provisioning Services で作成された仮想ディスク (vDisk) 上で Citrix ユーザープロファイルを維持するためのアドバイスを提供します。このアドバイスに従う前に、「永続的またはプロビジョニング済み、専用または共有」で説明されているように、vDisk 構成がプロファイル管理構成にどのように影響するかを理解してください。

サポートされているモード

プロファイル管理は、標準イメージモードとプライベートイメージモードで実行されている vDisk で使用できますが、差分ディスクイメージモードでは使用できません。

マスターターゲットデバイスから不要なローカルキャッシュプロファイルを削除するには

不要なローカルキャッシュプロファイルが保存されないようにするには、マスターターゲットデバイスのイメージを取得する前に、標準イメージモードで実行されている vDisk からこれらのプロファイルを削除してください。ただし、現在ログオンしているローカル管理者のプロファイルは削除しないでください。これを実現する良い方法は次のとおりです。この手順中に、エラーメッセージが表示される場合があります。

1. コンピューターを右クリックします。
2. プロパティを選択します。
3. 詳細システム設定をクリックします。
4. 詳細設定タブで、「ユーザープロファイル」の「設定」をクリックします。
5. 削除する各プロファイルを強調表示し、「削除」をクリックします。

vDisk イメージからログファイルを取得する

このトピックでは、Citrix Provisioning™ Services で作成された共有 (vDisk) イメージに存在するログファイルの使用に関するガイダンスを提供します。プロファイル管理はログオフ時にファイルを保存します。ただし、vDisk イメージを使用する場合、ベースイメージがリセットされる可能性があり、その結果ログファイルが削除されるという事実に留意してください。したがって、ファイルを回復するために何らかの措置を講じる必要があります。講じる措置は、ログファイルがログオン時に削除されるかログオフ時に削除されるかによって異なります。

vDisk イメージの使用は Citrix Virtual Desktops™ の展開で一般的であるため、このトピックのガイダンスではその製品を例として使用します。

ログオフ時に削除されるログファイルを取得するには

プロファイル全体またはその一部がネットワーク上のユーザーストアに保存されない場合、ログファイルもそこに保存されません。

Provisioning Servicesのライトキャッシュがprovisioning Servicesを実行しているコンピューターに保存されている場合、この問題は発生しません。そして、ログファイルはユーザー ストアに保存されます。

ライトキャッシュがローカルに保存されている場合、この手順ではユーザーと同じデバイスからログオンする必要があるかもしれません。ただし、ライトキャッシュがRAMにローカルに保存されている場合、これも失敗する可能性があります。

ライトキャッシュがProvisioning Servicesを実行しているコンピューターにない場合、vDiskイメージのコピーを作成する必要があるかもしれません。それを新しい仮想マシンに割り当て、イメージ上のライトキャッシュを変更して、そのコンピューターに保存されるようにします。

1. Citrix仮想デスクトップで、デスクトップグループを作成し、1つの仮想マシンを追加して、vDiskイメージを指すようにします。
2. 仮想マシンへのアクセスを1人のテストユーザーと管理者に付与します。
3. デスクトップグループのアイドルプール数を終日1に変更します（電源管理によるマシンのシャットダウンを停止するため）。ログオフ動作を「何もしない」に設定します（マシンの再起動とイメージのリセットを防ぐため）。
4. テストユーザーとして仮想デスクトップにログオンし、その後ログオフします。
5. XenCenter®またはVMwareコンソールから管理者としてログオンし、ログファイルを取得します。

デスクトップグループの作成とプロパティの変更に関する詳細については、Citrix Virtual Desktopsのドキュメントを参照してください。

ログオン時に削除されるログファイルを取得するには

プロファイルがネットワーク上のユーザー ストアに存在しても、ユーザーがログオンしたときに正しくロードされない場合、ログファイルのエントリは失われます。

1. `\\<vmhostname>\C$` にドライブをマップし、ユーザーがセッションからログオフする前にログファイルを見つけます。ログファイルは完全ではありません（一部のエントリが欠落している可能性があります）が、トラブルシューティングしている問題がログオン時である場合、問題の原因を特定するのに十分な情報を提供できます。

Provisioning Servicesログファイルを再配置するには

標準イメージモードを使用すると、システムがシャットダウンしたときにProvisioning Servicesのイベントログファイルが失われます。これを防ぐためにファイルのデフォルトの場所を変更する方法については、Knowledge Centerの記事CTX115601を参照してください。

プロビジョニングされたイメージでプロファイル管理を事前構成する

Citrix Provisioning Services、Citrix XenServer、VMware ESXなどのプロビジョニングソフトウェアを使用すると、プロファイル管理がプリインストールされたイメージを構築できます。その際、イメージのセットアップ中にレジストリにグループポリシー設定の一部がキャプチャされる可能性があります。たとえば、Provisioning Servicesでプライベートイメージモードの場合に発生します。イメージを展開するときにも、設定は残っています。たとえば、Provisioning Servicesで標準イメージモードに戻す場合などです。理想的には、仮想マシンが実行を開始したときの状態と、ユーザーがログオンしたときの要件に適したデフォルトを選択してください。最低限、(/ja-jp/profile-management/2311/plan/upm-plan-decide-4a.html)で説明されているポリシーに適切なデフォルトがあることを確認してください。

Citrix Profile Management Serviceが開始する前に`gpupdate`が実行されない場合、デフォルトが使用されます。そのため、ほとんどのケースで適切なデフォルトであることを確認するのが最善です。この手順を使用して、これらの設定やイメージに保持したいその他の設定を事前構成します。

注：Provisioning Servicesを使用する場合は、まずProfile Managementの.iniファイルでイメージを事前構成することをお勧めします。そして、テストが成功したことが証明されてから、設定を.admまたは.admxファイルに転送してください。

1. .admまたは.admxファイルを使用する場合は、適切なGPOでファイルを使用して目的の設定を変更します。.iniファイルを使用する場合は、この手順を省略します。変更は後の手順で行います。
2. ログレベルにも同じ変更を加えます。
3. 次のいずれかを実行します。
    - イメージをプライベートイメージモード（Citrix Provisioning™ Services）に切り替え、その上でオペレーティングシステムを起動します。
    - オペレーティングシステムを起動します（Citrix XenServer®またはVMware ESX）。

4. 管理者アカウント（設定した可能性のあるテストユーザーアカウントではない）を使用してログオンし、`gpupdate /force`を実行します。この手順により、レジストリが正しく構成されます。
5. .iniファイルを使用する場合は、ファイル内の目的の設定を変更します。
6. Profile Management Serviceを停止します。
7. 新しく作成されるログファイルとの混同を避けるため、古いProfile Managementログファイルと構成ログファイルを削除します。これらは古いイメージの名前を使用するファイル名を持っています。更新されたイメージには新しいファイル（新しいイメージの名前を持つ）があるため、これらは冗長です。
8. 次のいずれかを実行します。
    - イメージを標準イメージモード（Citrix Provisioning Services）に戻します。
    - 更新されたイメージ (Citrix XenServerまたはVMware ESX) を保存します。
9. イメージ上でオペレーティングシステムを起動します。

プロファイル管理とセルフサービスプラグイン

デフォルトでは、Profile Management は Windows の**スタートメニュー**フォルダーを除外します。Citrix Self-service Plug-in ユーザーは、**スタートメニュー**でサブスクライブされたアプリケーションを表示できません。このデフォルトの動作を調整するには、**除外リスト - ディレクトリ**ポリシーからフォルダー `%APPDATA%\Microsoft\Windows\Start Menu` を削除します。さらに、GPO を使用して構成する場合、Profile Management の .ini ファイルを削除することをお勧めします。これらのアクションにより、サブスクライブされたアプリケーション（およびユーザーが作成したサブフォルダー）を含む**スタートメニュー**フォルダーが Profile Management によって処理されるようになります。

注: Group Policy ではなく Profile Management の .ini ファイルを使用している場合は、そのファイル内のデフォルトの除外リストからこのエントリを削除してください。

プロファイル管理とOutlook

この記事では、Microsoft Outlookとローミングプロファイルを統合するためのベストプラクティスについて説明します。

ユーザーがOutlookデータをネットワーク共有やローカルではなくサーバーに保存するようにすることは、良い習慣です。

ローミングプロファイルでは、環境変数 `%UserProfile%` で定義された場所（ローカルコンピューター上）にあるファイルとフォルダーは、1つのフォルダー `%UserProfile%\Local Settings` を除いて、ユーザーと共にローミングします。この例外はOutlookユーザーに影響します。なぜなら、Microsoftの推奨により、既定では一部のOutlookデータ（たとえば、`.ost` 、`.pst` 、および `.pab` ファイル）がこの非ローミングフォルダーに作成されるためです。

重要: この場所にあるファイルは通常サイズが大きく、ローミングプロファイルのパフォーマンスを妨げます。

次のプラクティスは、Outlookでのローミングプロファイルのトラブルシューティングを減らし、ユーザーと管理者による適切なメール管理を促進します。

- 可能であれば、`.pst` ファイルの使用を禁止するMicrosoft Office用のADMテンプレートを使用してください。
- ユーザーがより多くのスペースを必要とする場合は、ネットワーク共有ではなく、Microsoft Exchangeサーバーのストレージを増やしてください。
- 個々のユーザーに `.pst` ファイルの例外を許可したり、個人のストレージ容量を増やしたりするのではなく、会社全体（会社全体のメールストレージサーバーを含む）のメール保持ポリシーを定義し、適用してください。このポリシーは、ユーザーが受信トレイへのメール復元を簡単に要求できるようにすることで、`.pst` ファイルへの依存を推奨しないものでなければなりません。
- `.pst` ファイルを禁止できない場合は、プロファイル管理またはローミングプロファイルを構成しないでください。**Outlookの検索インデックスローミングを有効にする**機能は、`.pst` ファイルのために設計されていません。

Password ManagerおよびシングルサインオンでのWindowsプロファイルの使用

この記事には、Profile Managementに固有の情報は含まれていません。Citrix Single Sign-onがローカルプロファイル、移動プロファイル、強制プロファイル、またはハイブリッドプロファイルで最適に動作するように、特定のWindowsオプションを構成する方法について説明します。このトピックは、Citrix Single Sign-on 4.8または5.0に適用されます。

ローカルプロファイル

ローカルプロファイルは、ユーザーがログオンしたローカルサーバーに保存されます。Password Managerとシングルサインオンは、ユーザーレジストリの

`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Citrix\MetaFrame Password Manager`ハイブにレジストリ情報を保存します。場所:

`%SystemDrive%\Documents`および`Settings\%username%\NTUSER.DAT`。

ファイルは次の場所にも保存されます。

`%SystemDrive%\Documents and Settings\%username%\Application Data\Citrix\MetaFrame Password Manager`。

Windows 7では、シングルサインオンは以下を使用します。

`%APPDATA%\Roaming\Citrix\MetaFrame Password Manager`

重要: シングルサインオンが以下のファイルに対してフルコントロールアクセス権を持っていることが重要です。

ファイル名	説明
%username%.mmf	aelist.iniへのポインターを含むユーザーの資格情報ファイル。
entlist.ini	同期ポイントまたはActive Directoryでエンタープライズレベルで作成されたアプリケーション定義ファイル。
aelist.ini	ユーザーのローカルアプリケーション定義ファイル (applist.ini) とエンタープライズアプリケーション定義 (entlist.ini) をマージして作成されたアプリケーション定義ファイル。

移動プロファイル

移動プロファイルはネットワーク共有に保存され、ユーザーがログオンするたびにローカルサーバーのコピーに同期されます。移動プロファイルの展開を成功させるには、SAN (System Area Network) や NAS (Network Area Storage) などの高速ネットワーク接続が必要です。その他の一般的な展開には、プロファイルが高可用性サーバーに保存されるクラスタリングソリューションが含まれます。

移動プロファイルと強制プロファイルの展開には、次の2つの問題があります。

- 単一の移動プロファイルは、1つのファイル同期ポイントでのみ使用できます。複数の同期ポイントを使用すると、メモリマップトファイル (MMF) のデータが破損する可能性があります。
- 移動プロファイルを複数の同時セッションで使用する場合、バックエンドのMMFを共有します。すべてのアクティブなセッションは、再試行ロックカウンター、最終使用データカウンター、イベントログエントリなどの共通セッションデータを共有します。

強制プロファイルまたはハイブリッドプロファイル

強制プロファイルは、定義上、ユーザーの読み取り専用プロファイルです。シングルサインオンには、**Application Data** の下のプロファイルフォルダーへの書き込み権限が必要です。強制プロファイルでは、ユーザーは変更を加えることができますが、ログオフ時に変更がプロファイルに保存されません。シングルサインオンが強制プロファイルで正しく機能するには、Application Dataフォルダーをリダイレクトする必要があります。

レジストリの変更は、ユーザーがログオンするたびに書き込まれます。資格情報が同期ポイントと同期されますが、変更はプロファイルに保存されません。

Windows 2000以降、Microsoftは**Application Data**フォルダーをリダイレクトするメカニズムを提供しています。ただし、Windows NT4ドメインを使用する場合は、**Application Data**フォルダーの場所を変更できるログオンスクリプトが必要です。これは、`Kix` や `VBScript` などのツールを使用して、**Application Data**フォルダーの書き込み可能な場所を定義することで実現できます。

次の例では、`Kix` を使用してユーザーログオン時に**Application Data**フォルダーをリダイレクトします。

重要: このサンプルスクリプトは情報提供のみを目的としています。テストせずに環境で使用しないでください。

```
$LogonServer = "%LOGONSERVER%"

$HKCU = "HKEY_CURRENT_USER"

$ShellFolders_Key =

"$HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\Shell

Folders"
```

```
$UserShellFolders_Key =

"$HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\User

Shell Folders"

$UserProfFolder =

"$LogonServer\profiles\@userID"

$UserAppData =

"$LogonServer\profiles\@userID\Application Data"

$UserDesktop =

"$LogonServer\profiles\@userID\Desktop"

$UserFavorites =

"$LogonServer\profiles\@userID\Favorites"

$UserPersonal = "X:\My Documents"

$UserRecent =

"$LogonServer\profiles\@userID\Recent"

if (exist("$UserAppData") = 0)

shell '%ComSpec% /c md "$UserAppData"'

endif

if (exist("$UserDesktop") = 0)

shell '%ComSpec% /c md "$UserDesktop"'

endif

if (exist("$UserRecent") = 0)

shell '%ComSpec% /c md "$UserRecent"'
```

```
endif

if (exist("$UserFavorites") = 0)

shell '%ComSpec% /c md "$UserFavorites"'

endif
```

ハイブリッドプロファイルは、強制プロファイルの問題に対するもう1つの解決策です。ユーザーがログオンすると、強制プロファイルがロードされ、カスタムアプリケーションがユーザーが利用できるアプリケーションに基づいてユーザーレジストリハイブをロードおよびアンロードします。強制プロファイルと同様に、ユーザーはセッション中にレジストリのそれらの部分を変更できます。強制プロファイルとの違いは、ユーザーがログオフしたときに変更が保存され、再度ログオンしたときに再ロードされることです。

ハイブリッドプロファイルを使用する場合、`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Citrix\MetaFrame Password` レジストリキーはログオンおよびログオフプロセスの一部としてインポートおよびエクスポートする必要があります。

フォルダーリダイレクト

フォルダーリダイレクトは、グループポリシーオブジェクトとActive Directoryを使用して実装されます。グループポリシーを使用して、ユーザープロファイルの一部であるフォルダーの場所を定義します。

リダイレクトできるフォルダーは4つあります。

- マイドキュメント
- アプリケーションデータ
- デスクトップ
- スタートメニュー

グループポリシーを使用して、基本リダイレクトと高度なリダイレクトの2つのリダイレクトモードを設定できます。どちらもシングルサインオンでサポートされています。Windows 2000では、アプリケーションデータを格納する共有を `%username%` 変数を使用して参照する必要があります（例: `\\servername\sharename\%username%`）。

フォルダーリダイレクトはユーザーに対してグローバルであり、そのユーザーのすべてのアプリケーションに影響します。**Application Data**フォルダーを使用するすべてのアプリケーションがこれをサポートしている必要があります。

フォルダーリダイレクトの詳細については、以下のMicrosoftの記事を参照してください。

方法: フォルダーリダイレクトを使用して安全なリダイレクトフォルダーを動的に作成する

Windowsのフォルダーリダイレクト機能

管理者がリダイレクトされたフォルダーにアクセスできるようにする

ベストプラクティス

- 可能な場合は、Application Dataフォルダーをリダイレクトします。このアプローチにより、ネットワークパフォーマンスが向上し、ユーザーがログオンするたびにこれらのフォルダー内のデータをコピーする必要がなくなります。
- Password Manager Agentのトラブルシューティングを行う際は、ログオンしているユーザーがApplication Dataフォルダーに対してフルコントロールのアクセス許可を持っていることを常に確認してください。

トラブルシューティング

プロファイル管理設定の確認

問題のトラブルシューティングの最初のステップとして、現在のプロファイル管理設定を次のように確認します。

1. Citrix Director でトラブルシューティングを開始します。このコンソールには、問題の診断と修正に役立つプロファイルのプロパティが表示されます。
2. UPMConfigCheck ツールを使用して、稼働中のプロファイル管理展開を調査し、最適に構成されているかどうかを判断します。

   このツールのインストールと使用方法の詳細については、Knowledge Center の記事 CTX132805 を参照してください。
3. プロファイル管理の .ini ファイルが使用されている場合は、影響を受けるマシンでその構成を確認します。
4. リストとして入力するプロファイル管理ポリシー（除外リストや包含リストなど）を非アクティブ化するには、ポリシーを に設定します。 に設定しないでください。
5. 影響を受けるマシンで `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies` レジストリエントリを確認します。GP タトゥーの問題が原因で古いポリシーがある場合は、それらを削除します。タトゥーとは、ポリシーが GP から削除されてもレジストリに残る場合に発生します。
6. 各ユーザーに適用されているプロファイル管理設定を含む UPMSettings.ini ファイルを確認します。このファイルは、ユーザーストア内の各 Citrix ユーザープロファイルのルートフォルダーに存在します。

Profile Managementログファイルを確認する

ログファイルは、システム動作のトラブルシューティングを行う際に役立ちます。(/ja-jp/profile-management/2311/troubleshoot/self-troubleshoot.html)後、Profile Managementのログ記録を有効にし、問題を再現してログファイルを確認します。

詳細な手順は次のとおりです。

1. すべてのイベントとアクションに対して(#enable-profile-management-logging)を有効にします。

2. マシンで問題を再現します。
3. `%SystemRoot%\system32\LogFiles\UserProfileManager`フォルダーにあるProfile Managementログファイル（例: #computername#.#domainname#_pm.log）でエラーと警告を確認します。それぞれ「ERROR」または「WARNINGS」という単語を検索して見つけます。

   ログファイルの詳細は、この記事の後半にある(#reference)を参照してください。
4. ユーザーストアへのパスが正しいことを確認します。
5. Active Directoryからのすべての情報が正しく読み取られたことを確認します。
6. タイムスタンプを確認して、時間がかかりすぎているアクションがないか調べます。

> **ヒント：**
>
> Microsoft Excel を使用して Profile Management のログファイルを確認できます。詳細については、Knowledge Center の記事 CTX200674 を参照してください。

Profile Managementのログ記録を有効にする

Profile Management展開で問題のトラブルシューティングを行う場合にのみ、すべてのイベントとアクションに対してProfile Managementのログ記録を有効にしてください。問題が解決したら、ログ記録を無効にし、機密情報が含まれている可能性があるためログファイルを削除してください。

このセクションでは、GPOと`UPMPolicyDefaults_all.ini`を使用して、すべてのイベントとアクションのログ記録を有効にする方法について説明します。

Citrix StudioとWorkspace Environment Management (WEM) を使用して、この目標を達成することもできます。詳細については、「Profile Management を集中管理する場所を決定する」を参照してください。

GPO を使用してログ記録を有効にする

GPO を使用してすべてのイベントとアクションの Profile Management ログ記録を有効にするには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開き、グループポリシーオブジェクトを作成します。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > ログ設定** にアクセスします。
3. 次のように Profile Management ログ記録を有効にします。

a. **ログ記録を有効にする** をダブルクリックします。
b. **有効** をクリックします。
c. **OK** をクリックします。

4. Profile Management ですべてのイベントとアクションをログに記録するように有効にします。
   a. **ログ設定** をダブルクリックします。
   b. すべてのイベントとアクションを選択します。それらの説明の詳細については、「イベントとアクション」を参照してください。
   c. **OK** をクリックします。
5. ログファイルのデフォルトの最大サイズを変更するには、次の手順に従います。
   a. **ログファイルの最大サイズ** をダブルクリックします。
   b. 「**有効にする**」をクリックし、「**最大サイズ（バイト単位）**」フィールドにサイズを入力します。
   c. 「**OK**」をクリックします。

> 「**ヒント:**」:
>
> 最大サイズに達すると、Profile Management はバックアップファイル（例: Logfilename.log.bak）を1つ保持します。

6. マシンで `gpupdate /force` コマンドを実行します。

   これらのポリシーはマシンに適用されます。

ログ設定ポリシーの詳細については、「Profile Management のポリシーの説明とデフォルト」を参照してください。

.ini ファイルを使用してログ記録を有効にする

`UPMPolicyDefaults_all.ini` を使用してすべてのイベントとアクションの Profile Management ログを有効にするには、次の手順に従います。

1. Profile Management のインストールフォルダー（デフォルトでは C:\Program Files\Citrix\User Profile Manager）で `UPMPolicyDefaults_all.ini` を開きます。
2. 設定を見つけるには、「**ログ設定**」を検索します。

```
; Log settings
;
;LoggingEnabled=
;LogLevelWarnings=
;LogLevelInformation=
;LogLevelFileSystemNotification=
;LogLevelFileSystemActions=
;LogLevelRegistryActions=
;LogLevelRegistryDifference=
;LogLevelActiveDirectoryActions=
;LogLevelPolicyUserLogon=
;LogLevelLogon=
;LogLevelLogoff=
;LogLevelUserName=
;MaxLogSize=
;PathToLogFile=
```

3. `LoggingEnabled` に `1` を入力します。
4. `LogLevelWarnings` から `LogLevelUserName` までの各パラメーターに `1` を入力します。これらのパラメーターの詳細については、「イベントとアクション」を参照してください。
5. ログファイルのデフォルトの最大サイズを変更するには、必要に応じて `MaxLogSize` のサイズを入力します。
6. ログファイルのデフォルトフォルダを変更するには、必要に応じて`PathToLogFile`のパスを入力します。

参照

このセクションでは、以下の情報を提供します。

- ログの種類
- イベントとアクション
- Profile Managementログファイルのフィールド

ログの種類

この表は、Profile Managementのトラブルシューティングに使用できるログを一覧表示します。

通称	ログファイル名	場所	ログ情報の種類
Profile Management ログファイル	#computername#.#domainname#_pm.log	%SystemRoot%\system32\LogFiles\UserProfileManager	情報メッセージ、警告、およびエラーは、Profile Managementログファイルに書き込ま

通称	ログファイル名	場所	ログ情報の種類
			れます。ドメイン名はコンピューターのドメインです。コンピューター名が特定できない場合、このログファイルはUserProfileManager.logという名前になります。コンピューター名が利用可能であるにもかかわらずドメインが特定できない場合、ログファイルは#computername#_pm.logという名前になります。
Profile Management構成ログファイル	#computername#.#domainname#_pm_config.log	%SystemRoot%\system32\LogFiles\UserProfileManager	構成ログファイルは、ログ記録がオフになっている場合でも、GPOおよび.iniファイルの設定をキャプチャします。コンピューター名が特定できない場合、UserProfileManager_pm_configという名前になります。コンピューター名が利用可能であるにもかかわらずドメインが特定できない場合、ログファイルは#computername#_pm_config.logという名前になります。
Windowsイベントログ	Application.evtx	%SystemRoot%\System32\winevt\Logs	Microsoftイベントビューアーで表示するWindowsイベント

通称	ログファイル名	場所	ログ情報の種類
			は、主にエラー報告に使用されます。エラーのみが書き込まれます。

イベントとアクション

この表は、Profile Managementがログに記録できるイベントとアクションを示します。

種類	説明	.INIのパラメーター
一般的な警告	一般的なすべての警告。	LogLevelWarnings
一般的な情報	一般的なすべての情報。	LogLevelInformation
ファイルシステム通知	処理されたファイルまたはフォルダーが変更されるたびに、1つのログエントリが作成されます。	LogLevelFileSystemNotification
ファイルシステムアクション	Profile Managementによって実行されるファイルシステム操作。	LogLevelFileSystemActions
レジストリアクション	Profile Managementによって実行されるレジストリアクション。	LogLevelRegistryActions
ログオフ時のレジストリの相違点	セッション中に変更されたHKCUハイブ内のすべてのレジストリキー。重要: この設定は、ログファイルに大量の出力を生成します。	LogLevelRegistryDifference
Active Directoryアクション	Profile ManagementがActive Directoryをクエリするたびに、エントリがログファイルに書き込まれます。	LogLevelActiveDirectoryActions
ポリシー値	Profile Managementサービスが開始されるか、ポリシーの更新が行われると、ポリシー	LogLevelPolicyUserLogon

種類	説明	.INIのパラメーター
	値がログファイルに書き込まれます。	
ログオン	ログオン中のアクションのシーケンスがログファイルに書き込まれます。	LogLevelLogon
ログオフ	ログオフ中のアクションのシーケンスがログファイルに書き込まれます。	LogLevelLogoff
パーソナライズされたユーザー情報	該当する場合、ユーザー名とドメイン名はログファイルの専用の列に記録されます。	LogLevelUserName

ログファイルフィールド

Profile Managementログファイルの各行には、セミコロンで区切られた複数のフィールドがあります。この表は、ログファイルのフィールドを示します。

フィールド	説明
日付	ログエントリの日付
時刻	ログエントリの時刻 (ミリ秒を含む)
重大度	INFORMATION、WARNING、またはERRORのいずれか
ドメイン	ユーザーのドメイン (該当する場合)
ユーザー名	ユーザー名（該当する場合）
セッションID	セッションID（該当する場合）
スレッドID	この行を作成したスレッドのID
関数と説明	その時点で実行されていたProfile Management関数の名前とログメッセージ

Windowsイベントを確認する

Profile Management によってログに記録された Windows イベントも、トラブルシューティングのための診断情報を提供します。Windows イベントは、`%SystemRoot%\System32\winevt\Logs\` フォルダー内の Application.evtx ファイルに保存されます。

Windowsイベントビューアーを使用してイベントを表示するには、次の手順に従います。

1. Windowsマシンで**イベントビューアー**を起動します。
2. 左ペインで、**Windowsログ > アプリケーション**ノードを選択します。

   イベントは右ペインに表示されます。

イベントのリスト

Profile Management によってログに記録されたイベントは、すべてが連続して番号付けされているわけではなく、このバージョンの Profile Management で使用されているわけでもありません。ただし、以前のバージョンからアップグレードした場合にログに記録される可能性があります。

イベントID	説明	原因	アクション
5	ユーザーログオン時にCitrix Profile Managementが選択したユーザーストアと、ネットワークの遅延を示します。	Citrix Profile Managementは、ユーザーログオン時にユーザーストアを選択しました。	なし。このメッセージは情報提供のみを目的としています。
6	Citrix Profile Managementサービスが開始されました。	Citrix Profile Managementサービスが開始されました。これは、自動開始、手動開始、または再起動の結果である可能性があります。	開始または再起動が計画されていなかった場合は、イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含む、示されている是正措置を講じてください。
7	Citrix Profile Managementサービスが停止しました。	Citrix Profile Managementサービスが停止しました。これは、手動停止の	サービス停止が計画されていなかった場合は、イベントログでエラーを確認し、

イベントID	説明	原因	アクション
		結果であるか、シャットダウン処理の一部である可能性があります。	Profile Managementのトラブルシューティング手順を含む、示されている是正措置を講じてください。
8	ユーザーのプロファイルは、Citrix Profile Managementの新しいバージョンによって変更されたため、このバージョンでは使用できません…	このマシンのCitrix Profile Managementサービスは、Profile Managementの新しいバージョンがユーザーストア内のユーザープロファイルを変更したことを検出しました。データ損失の可能性を防ぐため、以前のバージョンのProfile Managementは一時プロファイルの使用に戻ります。	このコンピューター（およびユーザーストアを共有し、以前のバージョンのProfile Managementを使用している他のすべてのコンピューター）をアップグレードして、最新バージョンを使用してください。
9	ログオンフックの検出で問題が発生しました…	Citrix Profile Managementサービスは、ログオン通知の設定中に問題を検出しました。Citrix Profile Managementサービスは、インストールパスにスペースが含まれていないか、サービスがインストールされているボリュームで8.3ファイル名サポートが有効になっている必要があります。	Citrix Profile Managementをスペースのないパスに再インストールするか、Profile Managementがインストールされているボリュームで8.3ファイル名サポートを有効にしてください。

イベントID	説明	原因	アクション
10	ユーザーストアへのユーザーパスは…	指定された場所に有効なCitrixユーザープロファイルが見つかりました。	なし。このメッセージは情報提供のみを目的としています。
11	spsMain: CreateNamedPipeが失敗しました…	(このイベントは使用されなくなりました。)	なし。
12	StartMonitoringProfile: ログオン中にWindows変更ジャーナル管理で問題が検出されました…	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。Windows変更ジャーナルイベント管理で問題が検出され、サービスが変更を監視できなくなりました。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。	Profile Managementによって管理されているすべてのボリュームで、変更ジャーナル処理が構成され、動作していることを確認してください。コンピューターに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。
13	StopMonitoringProfile: ログオフ中にWindows変更ジャーナル管理で問題が検出されました…	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーの監視を停止できませんでした。Windows変更ジャーナル管理で問題が検出され、サービスが変更を監視できなくなりました。Citrix	Profile Managementによって管理されているすべてのボリュームで、変更ジャーナル処理が構成され、動作していることを確認してください。コンピューターに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログで

イベントID	説明	原因	アクション
		Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。ファイルおよびレジストリの変更はユーザーに対して同期されません。	エラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。
14	CJIncreaseSizeIfNecessary: 変更ジャーナルの作成/サイズ変更に失敗しました…	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。ボリューム上のNTFS変更ジャーナルを作成またはサイズ変更しようとしたときに問題が検出され、サービスが変更を監視できなくなりました。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。	Profile Managementによって管理されているすべてのボリュームで、変更ジャーナル処理が構成され、動作していることを確認してください。コンピューターに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。
15	CJInitializeForMonitoring: ジャーナルを照会できません…	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。ボリューム上のNTFS変更ジャーナルを照会中に問題が検出され、サービスが変更を監	Profile Managementによって管理されているすべてのボリュームで、変更ジャーナル処理が構成され、動作していることを確認してください。コンピューターに十分なシステムリソースがあることを確認してくださ

イベントID	説明	原因	アクション
		視できなくなりました。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。	い。イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。
16	CJInitializeForMonitoring: 初期MFTスキャンがエラーで終了しました。	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。ボリューム上のNTFS変更ジャーナルの初期スキャンを実行中に問題が検出され、サービスが変更を監視できなくなりました。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。	Profile Managementによって管理されているすべてのボリュームで、変更ジャーナル処理が構成され、動作していることを確認してください。コンピューターに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。
17	CJInitializeForMonitoring: サービス開始以降のFS変更の処理に失敗しました。	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。ボリューム上のNTFS変更ジャーナルの更新スキャンを実行中に問題が検出されまし	このエラーはProfile Managementの動作を妨げませんが、念のためエラーを確認してください。Profile Managementによって管理されているすべてのボリュームで、変更ジャーナル処理が構成され、動作してい

イベントID	説明	原因	アクション
		た。このエラーは、サービスが変更を監視することを妨げません。Citrix Profile Managementはこのディレクトリを通常どおり処理します。	ることを確認してください。コンピューターに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含む、示された是正措置を講じてください。
18	CJProcessAvailableRecords: 内部エラー…	Citrix Profile Managementサービスが、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視しているときに障害が発生しました。ボリューム上のNTFS変更ジャーナルの更新スキャンを実行中に問題が検出され、サービスが最近の変更を監視できなくなりました。Citrix Profile Managementはこのフォルダーの処理を完了しません。重要なデータは手動でバックアップしてください。	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。Windows変更ジャーナルイベント管理で問題が検出され、サービスが変更を監視できなくなりました。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。
19	USNChangeMonitor: 変更ジャーナルの初期化に失敗しました…	Citrix Profile Managementサービスが、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォル	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォル

イベントID	説明	原因	アクション
		ダーを監視しているときに障害が発生しました。ボリューム上のNTFS変更ジャーナルの初期スキャンを準備中に問題が検出され、サービスが変更を監視できなくなりました。Citrix Profile Managementはこのディレクトリの処理を完了しません。重要なデータは手動でバックアップしてください。	ダーを監視できませんでした。Windows変更ジャーナルイベント管理で問題が検出され、サービスが変更を監視できなくなりました。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。
20	CADUser::Init: DNSドメインとADsPathの決定に失敗しました…	ログオンしているユーザーに関する情報をActive Directoryに問い合わせる際に問題が発生しました。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。	コンピューターがドメインコントローラーへの機能するネットワークパスを持っていることを確認してください。コンピューターに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。
21	DNSドメインとADsPathの決定に失敗しました…	この問題は、Microsoft TechNetの記事263693で説明されているように、メモリ割り当ての制限	この問題の解決策は、Citrix Knowledge Centerの記事CTX124953で説明されています。

イベントID	説明	原因	アクション
		が原因で発生する可能性があります。	
22	ファイルアクセスが遅かった。ユーザーは、ユーザーストアからファイルがフェッチされる際に遅延を経験しました。	ユーザーがファイルにアクセスしようとしましたが、Profile Managementはこの操作に遅延を検出しました。ユーザーは警告メッセージを受け取りました。このエラーは、アンチウイルスソフトウェアがユーザーストア内のファイルへのアクセスを妨げていることが原因である可能性があります。	エンタープライズアンチウイルス製品に関するトラブルシューティングと構成のアドバイスについては、Profile Managementのドキュメントを参照してください。
23	ファイルアクセスが拒否される可能性があります。ユーザーは、ユーザーストアからファイルがフェッチされる際に長い遅延を経験しました。	ユーザーがファイルにアクセスしようとしましたが、Profile Managementはこの操作に非常に大きな遅延を検出し、アクセスが拒否される可能性があります。ユーザーはエラーメッセージを受け取りました。このエラーは、アンチウイルスソフトウェアがユーザーストア内のファイルへのアクセスを妨げていることが原因である可能性があります。	エンタープライズアンチウイルス製品に関するトラブルシューティングと構成のアドバイスについては、Profile Managementのドキュメントを参照してください。
24	RevertToSelfがエラーコードで失敗し、Profile	ログオンおよびログオフ処理の一部は、偽装を使用して実行	セキュリティ侵害が疑われる場合は、組織の手順に従って対

イベントID	説明	原因	アクション
	Managementがシャットダウンされました。	されます。通常、偽装が完了するとRevertToSelf関数が呼び出されます。この場合、関数が呼び出されませんでした。そのため、セキュリティ上の理由から、Profile Managementソフトウェアはシャットダウンされました。ユーザーにはエラーメッセージが表示されました。	処し、Profile Managementを再起動してください。
25	ユーザーのプロファイルはCitrix Profile Managementによって管理されていますが、ユーザーストアにアクセスできません…	このコンピューター上のCitrix Profile Managementサービスは、指定されたユーザーストアにアクセスできません。これは通常、ネットワークの問題、またはユーザーストアをホストしているサーバーが利用できないことが原因です。	ユーザーストアをホストしているサーバーが利用可能であり、このコンピューターとサーバー間のネットワークが動作していることを確認してください。
26	デフォルトのプロファイル場所が無効です。この場所にあるプロファイルは正しく監視できません…	このコンピューター上のプロファイルは、ドライブ文字（例: C:）にマウントされたディスク上にある必要があります。	このコンピューター上のプロファイルをドライブ文字にマウントされたディスクに移動し、Profile Managementを再起動してください。
27	ユーザーのプロファイルフォルダーがデフォルトのプロファ	レジストリでは、このユーザーのプロファイルの場所とデフォルトプロファイ	このユーザーのプロファイルがデフォルトのフォルダーの場所にあることを確認

イベントID	説明	原因	アクション
	イル場所にありません…	ルの場所が一致しません。これは、たとえば、Profile Managementサービスを実行しているマシン上の異なるボリューム間でプロファイルが移動された場合に発生する可能性があります。	してください。必要に応じて適切なツールを使用し、ファイルシステム内のプロファイルデータがプロファイルのレジストリ設定と一致するようにしてください。
28	ユーザーのレジストリハイブのセキュリティ権限をリセットしようとしたときにエラーが発生しました。	このCitrixユーザープロファイルを作成するために使用されたデフォルトまたはテンプレートプロファイルのレジストリに、権限の問題がある可能性があります。	必要に応じて、SetAclなどのサードパーティユーティリティを使用して、Profile Management ユーザー ストア内のユーザーのレジストリハイブのセキュリティ権限をリセットしてください。
29	テンプレートプロファイルのパスが構成されていますが、プロファイルが見つかりませんでした…	指定されたフォルダーにはNTUSER.DATファイルが含まれていないため、テンプレートプロファイル設定では使用できません。この問題は、NTUSER.DATファイルを含むフォルダーではなく、NTUSER.DATファイルのフルパスが構成されている場合に頻繁に発生します。テンプレートプロファイル設定は、Active Directory属性、システム環境変数、また	テンプレートプロファイルを含むフォルダーへの有効なパスが構成されていることを確認してください。パスにNTUSER.DATが含まれていることを確認してください。このファイルが有効であり、すべてのファイルへの読み取りアクセスを許可するようにフォルダーのアクセス権が正しく設定されていることを確認してください。

イベントID	説明	原因	アクション
		は `%USERNAME%` および `%USERDOMAIN%` 変数の展開をサポートしていません。	
33	Citrix Profile Managementは、LOCATIONにあるローカルプロファイルからユーザー ストアにプロファイルを作成しました。	示された場所からユーザー ストアにプロファイルが作成されました。	なし。このメッセージは情報提供のみを目的としています。
34	Citrix Profile Managementは、LOCATIONにある移動プロファイルからユーザー ストアにプロファイルを作成しました。	示された場所からユーザー ストアにプロファイルが作成されました。	なし。このメッセージは情報提供のみを目的としています。
35	Citrix Profile Management は、LOCATION にあるテンプレート プロファイルから、ユーザー ストアにプロファイルを作成しました	指定された場所から、ユーザー ストアにプロファイルが作成されました。	なし。このメッセージは情報提供のみを目的としています。
36	USER の既存のプロファイル フォルダーは、このユーザーの新しい Citrix 強制プロファイル用に準備できません。可能であれば、ユーザーには一時プロファイルが与えられます。	Citrix 強制プロファイルは、ログオンごとにテンプレート プロファイルのコピーを使用します。既存のプロファイルはすべて削除され、指定されたテンプレートの場所から Citrix 強制プロファイルがコピーされます。この	既存のプロファイル フォルダーを手動で削除してください。削除が失敗する原因となる別のプロセスによってファイルがロックされている場合は、コンピューターを再起動する必要があるかもしれません。テンプレート フォルダーが存在

イベントID	説明	原因	アクション
		プロセスは失敗しました。	し、ユーザーがその内容を読み取る権限を持っていることを確認してください。
37	ユーザーのユーザー ストア パスに到達できません。このユーザーのために一時プロファイルが作成され、このユーザー ストアのプロファイルには変更が保存されません。	このコンピューター上の Citrix Profile Management Service は、指定されたユーザー ストアに到達できません。これは通常、ネットワークの問題、またはユーザー ストアをホストしているサーバーが利用できないためです。	ユーザー ストアをホストしているサーバーが利用可能であること、およびこのコンピューターとサーバー間のネットワークが動作していることを確認してください。
38	ユーザーのプロファイルは Citrix Profile Management によって管理されていますが、ユーザー ストア パスが見つかりません。このユーザーのために一時プロファイルが作成され、このユーザー ストアのプロファイルには変更が保存されません。	このコンピューター上の Citrix Profile Management Service は、指定されたユーザー ストア内のプロファイルを見つけることができません。これはネットワークの問題、またはユーザー ストアをホストしているサーバーが利用できないためかもしれません。しかし、ユーザー ストア内のプロファイルが削除または移動されたためである可能性もあります。あるいは、ユーザー ストアへのパスが変更され、ユーザー ストア内の既存のプロファイルを正しく指して	ユーザー ストアをホストしているサーバーが利用可能であることを確認してください。また、このコンピューターとサーバー間のネットワークが動作しており、ユーザー ストアへのパスが既存のプロファイルを指していることを確認してください。ユーザー ストア内のプロファイルが削除されている場合は、ローカル マシン上のプロファイルを削除してください。

イベントID	説明	原因	アクション
		いない可能性もあります。	
42	ユーザー `<userdomain>\<username>` のポリシー設定を更新しようとしたときにエラーが発生しました。ポリシー設定が正しく適用されていない可能性があります。エラーコード: `<error code>`	Citrix Profile Management は、Citrix グループ ポリシー設定の更新に失敗しました。	Citrix Group Policy Client-Side Extension がインストールされ、正しく動作していることを確認してください。
3005	`<path1>` からアクセス ポイント `<path2>` への仮想ディスクのマウントに失敗しました。	Citrix Profile Management は、仮想ディスクをアクセス ポイントにマウントできませんでした。この問題は、仮想ディスクにアクセスできない場合、アクセス ポイントが空でない場合、または仮想ディスクがすでにマウントされている場合に発生する可能性があります。	マシンを再起動し、問題が解決されたかどうかを確認してください。解決しない場合は、CDF トレースを収集し、Citrix テクニカル サポートにお問い合わせください。
3008	`<path1>` からアクセス ポイント `<path2>` への検索データベースのマウントに失敗しました。	Windows Search サービスは、検索データベースのマウントに失敗しました。この問題は、検索データベースが破損している場合に発生する可能性があります。	CDF トレースを収集し、Citrix テクニカル サポートにお問い合わせください。

イベントID	説明	原因	アクション
5000	ローカル ホストとユーザー ストア <"%3"> 間のネットワーク遅延は <%2> ミリ秒です。セッション ID は %1 です。	NA	NA
5001	現在のプロファイルサイズは <%1> バイトです。セッションIDについてはイベントデータを参照してください。	NA	NA
5002	保留領域のサイズは <%1> バイトで、<%2> 個のファイル、<%3> 個のフォルダー、セッション ID <%4>、ユーザー名 <%5> で構成されています。	NA	NA
5003	保留領域の同期が開始されました。セッションID: <%1>。ユーザー名: <%2>。	NA	NA
5004	保留中の領域の同期が完了しました。セッションID: <%1>。ユーザー名: <%2>。	NA	NA

一般的な問題のトラブルシューティング

この記事では、一般的なProfile Managementの問題をトラブルシューティングする方法について説明します。

ログオンが遅い

ユーザーのログオンが遅い場合は、次の手順に従ってトラブルシューティングを行ってください。

1. Citrix Directorのパネルでプロファイルの読み込み時間を確認します。予想よりも大幅に長い場合は、ユーザープロファイルの読み込みが原因でログオンが遅くなっています。

   詳細については、「ユーザーログオンの問題の診断」を参照してください。

2. Citrix Profile Managementログファイルでプロファイルの処理時間を確認します。

   `C:\Windows\System32\Log Files\User Profile Manager`にあるProfile Managementログファイルで、`DispatchLogonLogoff`で始まるエントリを見つけます。次の例は、ログオン処理時間が10.22秒であることを示しています。

   `DispatchLogonLogoff: ---------- Finished logon processing successfully in [s]: <10.22>.`.

3. 推奨されるProfile Managementポリシーが適用されていることを確認します。

   「ユーザーログオンパフォーマンスの向上」に記載されているログオンパフォーマンスを向上させるための推奨事項に従ってください。

4. Citrixテクニカルサポートにお問い合わせください。

   ログオンの遅延が続く場合は、Citrixテクニカルサポートに連絡して、さらにサポートを受けてください。詳細については、「Citrixテクニカルサポートへのお問い合わせ」を参照してください。

プロファイルがストリーミングされていることを確認する

ストリーミングユーザープロファイルを有効にしており、この機能がユーザーのプロファイルに適用されていることを確認したい場合は、次の手順を実行します。

1. Profile Managementログファイルで次の種類のエントリを確認します。

   ```
   2010-03-16;16:16:35.369;INFORMATION;;;;1140;ReadPolicy: Configuration
   value read from policy: PSEnabled=<1>
   ```

   最後の項目は、機能が有効になっている場合、PSEnabled=\<1\> に設定する必要があります。

2. Profile Managementログファイルで、ユーザーの次のエントリを確認します。

```
2010-03-16;20:17:30.401;INFORMATION;<domain name>;<user
name>;2;2364;ProcessLogon: User logging on with Streamed Profile
support enabled.
```

ストリーミングされたユーザープロファイルが適用されていない場合、項目には「ProcessLogon: User logging on with Streamed Profile support disabled」と表示されます。

適用されているポリシーを特定する

UPMSettings.iniファイルを使用して、適用されているProfile Managementポリシーを特定します。このファイルは、ユーザーストア内の各Citrixユーザープロファイルのルートフォルダーに存在します。このファイルを調べることは、ポリシーの結果セット（RSoP）を使用するよりも便利な場合があります。特に、GPOと.iniファイルの設定を組み合わせてポリシーを決定している場合に便利です。

UPMFRSettings.iniファイルを使用して、除外リストにあるため処理されないプロファイルフォルダーを特定します。UPMFRSettings.iniファイルもルートフォルダーに存在します。

破損したプロファイルデータを除外する

ユーザープロファイルが破損しており、問題が特定のファイルまたはフォルダーにあると確信している場合は、同期プロセスから除外します。その方法は、そのファイルまたはフォルダーを除外リストに追加することです。

レジストリエントリへの接続をクリーンアップする

一部のシナリオ（Profile Managementが関係するものに限らず）では、ユーザーがログオフした後もレジストリプロファイルデータへの接続が保持されます。この保持により、ログオフが遅くなったり、ユーザーセッションが完全に終了しなかったりする可能性があります。MicrosoftのUser Profile Hive Cleanup (`UPHClean`) ツールは、これらのシナリオの解決に役立ちます。

ローカルプロファイルを削除する

Microsoft Delprof.exeとSepago Delprof2は、ユーザープロファイルの削除に役立つツールです。

プロファイルが保存されている場所を特定する

プロファイルの問題を診断するには、ユーザープロファイル内のファイルがどこに保存されているかを特定する必要があります。次の手順は、プロファイルが保存されている場所をすばやく特定する方法を提供します。

1. イベントビューアーで、左ペインの「アプリケーション」をクリックします。

2. 右ペインの で、目的の Citrix Profile Management イベントを見つけてダブルクリックします。
3. イベントに関連付けられているユーザー ストアへのパスは、 タブにリンクとして表示されます。
4. ファイルを探索する場合は、リンクをたどってユーザー ストアを参照します。

サーバーの確認

サーバーがユーザーのログオンとログオフを正しく処理しているかどうかを確認するには、ユーザー ストア内のユーザープロファイルにある PmCompatibility.ini というファイルを確認します。このファイルはプロファイルのルートフォルダーにあります。ファイルの最後のエントリは、ユーザーが最後にログオフしたサーバーの名前です。たとえば、サーバーが Profile Management 5.0 を実行している場合、エントリは次のようになります。

```
[LastUpdateServerName]

5.0=<computer name>
```

ロールバック

Profile Management の以前のバージョンにロールバックするには、ユーザー ストアをホストするファイルサーバーでコマンドラインから **del /s** を実行します。このコマンドは、各プロファイルから PmCompatibility.ini ファイルを削除します。たとえば、ユーザー ストアへのローカルパスが `D:\UpmProfiles` の場合、次を実行します。

```
del /s D:\UpmProfiles\pmcompatibility.ini
```

コマンドが完了すると、ユーザーは以前のバージョンを実行しているコンピューターにログオンし、ユーザー ストアからプロファイルを受け取ることができます。

ユーザー ストア内の除外されたフォルダー

除外されたフォルダーはユーザー ストアに表示されます。この問題は想定されており、修正措置は不要です。除外リストにあるフォルダーはユーザー ストアに作成されますが、その内容は同期されません。

ログファイル内の情報が不足している

デバッグモードをアクティブにしても、完全なログ記録が自動的に有効になるわけではありません。ログ設定で、ログに記録するイベントのすべてのチェックボックスが選択されていることを確認してください。

ヒント: リストの最後のチェックボックスを有効にするには、下にスクロールする必要がある場合があります。

GPO 設定が機能しない

GPO 設定を変更しても、Citrix Profile Management Service を実行しているコンピューターで機能しません。この問題は、GP がすぐに更新されず、展開で指定されたイベントまたは間隔に基づいているために発生します。GP をすぐに更新するには、コンピューターで `gpupdate /force` を実行します。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` に記載されているように、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

ユーザーが新規または一時プロファイルを受け取る

デフォルトでは、問題が発生した場合（たとえば、ユーザー ストアが利用できない場合）に、ユーザーには一時プロファイルが与えられます。または、エラーメッセージを表示してユーザーをログオフするようにProfile Managementを構成することもできます。このアプローチはトラブルシューティングに役立ちます。

この機能の構成方法については、「ユーザーのログオフを強制する」を参照してください。

特定の状況では、ユーザーがログオンしたときに、キャッシュされたプロファイルの代わりに新しいプロファイルを受け取ることがあります。

ユーザー ストア内のコピーが削除された後にローカル プロファイルが存在する場合、ユーザーは一時プロファイルを受け取ることもあります。この状況は、ユーザー ストアがクリアされても、ログオフ時にローカル プロファイルが削除されない場合に発生する可能性があります。

Profile Managementは、このような部分的なプロファイルの削除をネットワーク、共有、または権限のエラーとして扱い、ユーザーに一時プロファイルを提供します。このため、部分的な削除は推奨されません。この問題を回避するには、影響を受けるコンピューターにログオンし、プロファイルを手動で削除してください。

展開にパーソナルvDiskが含まれている場合、これらのディスクのデフォルト処理が正しく調整されていないと、ユーザーは一時プロファイルを受け取る可能性があります。詳細については、「ユーザープロファイルの移行」を参照してください。

仮想デスクトップセッションが応答しなくなったときにプロファイルデータが失われる

Citrix仮想デスクトップの展開では、リモートデスクトッププロトコル (RDP) セッションから切断すると、仮想デスクトップが応答しなくなったり、再起動したりする可能性があります。この動作は、セッション終了時にプロファイルデータが失われるため、Profile Managementに影響を与えます。この問題は、Citrix Virtual Delivery Agentバージョン3.1.3242以降で修正されています。

ユーザーがログオンできない (イベントID: 1000、ソース: Userenv)

ユーザーはCitrix環境にログオンできず、次のエラーメッセージを受け取ります: 「Windowsはローミングプロファイルをロードできませんでした。ローカルプロファイルでログオンしようとしています...ネットワーク管理者に連絡してください。」このエラーは、Windowsアプリケーションイベントログ (イベントID: 1000、ソース: Userenv) に表示されます。

印刷

Citrix virtual desktops™環境では、ユーザーはデフォルトのプリンターを選択できますが、ログオン間でその選択が保持されないことがあります。この問題は、標準イメージモードのCitrix Provisioning ServicesパーソナルvDiskに基づくプールされた仮想デスクトップでプリンターを設定するためにCitrix仮想デスクトップのポリシーが使用される場合に観察されています。

この問題はProfile Managementに起因するものではありません。Profile Managementのログファイルには、プリンターのレジストリエントリがログオフ時にコピーされたことが示されていますが（これは予期される動作です）、ユーザーのNTUSER.datにはそのエントリが含まれていません（これは予期されない動作です）。この問題は実際には、Citrix仮想デスクトップが `DefaultPmFlags` レジストリ設定を使用する方法に起因しています。

プロファイルに予期しないプリンターが追加されることがあります。ユーザーがそれらを削除しても、次のログオン時にプリンターが再表示されます。詳細については、Profile Managementサポートフォーラムを参照してください。

複数のプラットフォームでのアプリケーション設定に関する問題

複数のプラットフォーム間でアプリケーション設定が正しくローミングされないという問題が発生する場合があります。通常、これらの問題は次の原因で発生します。

- あるシステムから別のシステムに適用できない設定。たとえば、すべてのシステムに存在するわけではないハードウェア固有の設定などです。
- 異なるシステムに異なる方法でインストールされているアプリケーション。例：
  - あるシステムではC:ドライブにインストールされているが、別のシステムではD:ドライブにインストールされているアプリケーション。
  - あるシステムでは `C:\Program Files` にインストールされているが、別のシステムでは `C:\Program Files (x86)` にインストールされているアプリケーション。
  - あるシステムにはインストールされているが、別のシステムにはインストールされていないExcelアドイン。
- 設定情報をプロファイルに保存しないアプリケーション。たとえば、ローカルマシンの設定内またはユーザープロファイルの外部に保存されている情報などです。
- レジストリに保存されている言語固有の構成設定。Profile Management は、バージョン1プロファイルの言語固有のフォルダー名を自動的に翻訳しますが、レジストリ内のフォルダー名は翻訳しません。

ほとんどの場合、これらの問題を引き起こすシステムの標準化を改善することで、問題を最小限に抑えることができます。ただし、多くの場合、問題はOSまたはそれぞれのアプリケーションの（複数のプラットフォームとの）固有の非互換性に起因します。問題のある設定が重要でない場合は、プロファイルから除外することで問題が解決する可能性があります。

不明なアカウントが所有するプロファイル

まれに、プロファイルが不明なアカウントに属しているように見えることがあります。コンピューターの ダイアログボックスの タブで、 の をクリックすると、 と表示されます。この問題は、イベントログエントリ 「*Profile notification of event Create for component \<application ID\> failed, error code is???*」 とともに発生します。レジストリでは、アプリケーションIDはMicrosoftコンポーネントであるSHACCTプロファイル通知ハンドラーを指します。

この問題が環境で発生していることを確認するには、Profile Management がデータを処理しないユーザーとしてログオンし、これらの症状を確認します。

これはProfile Managementの問題ではありませんが、Active Directoryが仮想マシンのスナップショットと適切に連携しない結果である可能性があります。Citrixユーザープロファイルの操作には影響ありません。ユーザーはログオンおよびログオフでき、プロファイルの変更は保持されます。

高度なトラブルシューティングを実行する

現在のProfile Management設定を確認し、Profile Managementログが有用な情報のソースではないと判断した後、このチェックリストを使用してさらにトラブルシューティングを行ってください。

- 分析しているマシンから結果セットのポリシー (RSoP) レポートを確認し、すべてのGPOが期待どおりに適用されていることを確認します。

  レポートを生成するには、マシンで `gpresult` コマンドを実行します。
- Profile Managementの最新バージョンがインストールされていることを確認します。詳細については、「Profile Managementのバージョンを確認する」を参照してください。
- 他のユーザーからの解決策については、Profile Managementサポートフォーラム を確認してください。
- 影響を受けるマシンと同じオペレーティングシステムを持つクリーンなマシンで問題を再現してみてください。ソフトウェア製品を1つずつインストールし、各インストール後に問題が再現するかどうかを確認します。詳細については、「テスト環境にProfile Managementを展開する」を参照してください。

Profile Managementのバージョンを確認する

バージョン情報を確認するには、次の手順に従います。

1. WindowsエクスプローラーでUserProfileManager.exeファイルを右クリックします。
2. **>** をクリックします。
3. 最新バージョンでない場合は、My Accountサイトから最新バージョンをダウンロードしてください。Citrix®製品を選択し、ダウンロードセクションからProfile Managementをダウンロードします。

> **ヒント:**
>
> アップグレード後、必要に応じて新しい機能を有効にできます。

テスト環境にProfile Managementを展開する

ログファイルが問題のトラブルシューティングに役立たない場合は、次の例で使用されているトラブルシューティングアプローチを試してください。このアプローチは、次の目的で使用できます。

- どの構成設定が読み取られているかを特定します。
- 構成設定がどこから読み取られているかを特定します（複数のADMファイルが存在する場合）。
- ログファイルがプロファイルに加えられた変更を正しく追跡していることを確認します。

展開例

この例での展開は次のとおりです。

- Citrix Virtual Apps™ サーバーはWindows Server 2022で実行されています。
- ユーザーは、Windows版Citrix Workspaceアプリを使用して公開リソースに接続しています。
- INIファイルベースの構成ではなく、OUベースのGPOが使用されます。

> **注意:**
>
> レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になるような深刻な問題が発生する可能性があります。レジストリエディターの不適切な使用によって生じた問題が解決できることを保証することはできません。レジストリエディターの使用は自己責任で行ってください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

トラブルシューティングのワークフロー

この例には、1台のサーバーのみで構成される小さなテストOUが含まれています。サーバーのプロファイル設定を編集できます。その後、ログファイルとポリシーの結果セット（RSoP）レポートで設定の変更を追跡します。

詳細な手順は次のとおりです。

1. 実稼働環境から、Citrixユーザープロファイルをホストする Citrix Virtual Appsサーバーの1つを削除します。次に、そのサーバーを新しいOUに追加します。
2. サーバーからProfile Managementを削除し、再インストールします。
3. ドメイン管理者としてサーバーにログオンします。
4. ローカルポリシーを調べ、このレベルのADMファイルを削除します。
5. 新しいOUに割り当てられているGPOへのリンクをすべて削除します。
6. サーバーで、レジストリエディターからキーとすべてのサブキーを削除します: `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Citrix\UserProfileManager\`。

7. Profile Managementの.iniファイルをすべて削除します。
8. **マイコンピュータ \> プロパティ \> 詳細設定**を使用して、テストしたいプロファイル以外のすべてのプロファイルを削除します。表示されるエラーを調査します。
9. Authenticated Usersグループにファイルのフルコントロールを付与します。これにより、ユーザーとしてログオンしたときにProfile Managementのログファイルを確認できます。ログファイルは`C:\Windows\System32\LogFiles\UserProfileManager\<domainname>#<computername>_pm.log`です（\<domainname\>はコンピューターのドメイン、\<computername\>はその名前です）。ドメインを特定できない場合、ログファイルはUserProfileManager.logになります。
10. 次の設定のみを含むGPOを作成し、新しいOUにリンクします。GPOがAuthenticated Usersグループに割り当てられていることを確認します。これらの設定を有効にして構成します:
    a. Profile Managementを有効にします。
    b. ユーザーストアへのパス。
    c. ログ記録を有効にします。
    d. ログ設定。すべてのイベントとアクションを選択します。
    e. 既存のプロファイルの移行。ローミングプロファイルとローカルプロファイルを選択します。
    f. ローカルプロファイルの競合処理。ローカルプロファイルの名前変更を選択します。
    g. ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除します。
    h. *ローカル管理者ログオンの処理*設定を無効にします。これにより、Profile Managementが誤って構成され、ユーザーログオンが妨げられた場合でも、管理者としてログオンできます。
11. OUを右クリックし、**継承のブロック**を選択して、GPOリンクがOUに適用される方法を制御します。
12. サーバー上で、一度もログオンしたことがなく、どのローカル管理者グループのメンバーでもないドメインテストユーザーを作成します。
13. このユーザーにフルデスクトップを公開し、ユーザーがRemote Desktop Usersグループに属していることを確認します。
14. ドメインに複数のドメインコントローラー (DC) がある場合は、サーバーと同じサイト内のすべてのDC間でADレプリケーションを強制します。
15. ドメイン管理者としてサーバーにログオンし、ログファイルを削除し、Citrix Profile Managementサービスを再起動して、`gpupdate /force`を実行します。

16. レジストリを確認し、`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Citrix\UserProfileManager\`内の値が新しいGPOの値のみであることを確認します。
17. 管理者としてログアウトします。
18. Internet Explorerの設定をいくつか変更し、My Docsフォルダーに空のテストファイルを作成します。
19. Profile Managementログファイルへのショートカットを作成します。それを開いてエントリを調べます。注意が必要な項目を調査します。
20. ドメイン管理者としてログアウトし、再度ログオンします。
21. `gpresult`を実行して、テストユーザーとサーバーのRSoPレポートを生成します。

レポートに期待する内容が含まれていない場合は、注意が必要な項目を調査します。

Citrixテクニカルサポートへのお問い合わせ

このセクションのトラブルシューティングアドバイスを確認し、発生した問題がProfile Managementに起因すると考えられる場合は、Citrixテクニカルサポートにお問い合わせください。常に以下のファイルと、可能な限り多くのその他の情報を収集して提供してください。

Profile Managementログファイルの収集

詳細な手順は次のとおりです。

1. すべてのイベントとアクションをログに記録するように、マシンでProfile Managementを有効にします。詳細については、「Profile Managementログの有効化」を参照してください。
2. 影響を受けるマシンで問題を再現します。
3. %SystemRoot%\\System32\\Logfiles\\UserProfileManagerからProfile Managementログファイルとそのバックアップファイルを収集します。

影響を受けるマシンからのログファイルには、少なくとも以下の情報が含まれています。

- サービスの開始（Profile Managementのバージョンとビルド番号を含む）
- サービスによる構成の読み取り
- 影響を受けるユーザーの完全なログオンプロセス
- 問題発生時にユーザーが行ったアクティビティ
- 影響を受けるユーザーの完全なログオフプロセス

Windowsイベントログファイルの収集

影響を受けるマシンで問題を再現した後、以下の手順に従ってWindowsイベントログファイルを収集します。

1. `%SystemRoot%\System32\winevt\Logs` フォルダーを見つけます。
2. Application.evtx ファイルを集めます。

インストールされているソフトウェアの詳細を収集する

影響を受けるマシンにインストールされている以下のソフトウェアの詳細を収集します。

- オペレーティングシステム、言語、およびバージョン。
- Citrix 製品とバージョン。

.ini ファイルを収集する

Profile Management に関連付けられている .ini ファイルを収集するには、次の手順に従います。

1. ユーザーストア内の各 Citrix ユーザープロファイルのルートフォルダーを見つけます。
2. 次の .ini ファイルを収集します。
    - UPMSettings.ini
    - UPMFRSettings.ini
    - PmCompatibility.ini

Always On Tracing ログファイルを収集する

Always On Tracing (AOT) ログは、Profile Management の重大な問題を特定するのに役立つ情報を提供し、問題の再現の必要性を減らします。

AOTログファイルを収集するには、次の手順に従います。

1. 問題が発生したマシンで、`C:\ProgramData\Citrix\TelemetryService\CitrixAOT` に移動します。すべてのAOTログファイルが表示されます。

> **注：**
>
> AOTが有効になっている他のCitrixコンポーネントがマシンにインストールされている場合、AOTログファイルにはそれらのコンポーネントからのログも含まれます。

2. 最新のログファイルを手動で生成するには、次の手順に従います。
    a. **Windows PowerShell**を管理者として実行します。
    b. 次のコマンドを実行します: `Restart-Service -Name "Citrix Telemetry Service"`
3. すべてのAOTログファイルを収集し、Citrixテクニカルサポートに送信します。

CDFControlを使用して診断トレースログを収集する

CDFControlを使用して診断トレースログを収集するには、次の手順に従います。

1. Knowledge Centerの記事CTX111961からCDFControlツールをダウンロードします。
2. CDFControl実行可能ファイルを実行します。
3. 表示されるウィンドウで、必要に応じて1つ以上のトレースモジュールを選択します。機能の説明の詳細については、次の表を参照してください。
4. **トレースの開始**をクリックします。
5. 問題を再現します。
6. 「**トレースの停止**」をクリックします。
7. CDFControl実行可能ファイルと同じフォルダーでトレースログを見つけます。

この表は、CDFControlにおける追跡モジュールの機能を示しています。

トレースモジュール	説明
UPM_DLL_GPCSE	Profile ManagementからCitrix Group Policyクライアント側拡張機能に送信されたユーザーグループポリシー評価要求をトレースします。
UPM_DLL_OUTLOOK_HOOK	OutlookのProfile Managementフックモジュールをトレースします。Outlook検索インデックスのローミング機能に関する問題をトレースするには、これを選択します。
UPM_DLL_Perfmon	Profile Managementに関連付けられたWindowsパフォーマンスモニターカウンターと、Profile Managementによって生成されたエラーをトレースします。
UPM_DLL_SearchSvc_Hook	Windows Search ServiceのProfile Managementフックモジュールをトレースします。Outlook検索インデックスのローミング機

トレースモジュール	説明
	能に関する問題をトレースするには、これを選択します。
UPM_DLL_WfShell	公開アプリケーションのデスクトップ準備完了イベントを報告するProfile Management `Wfshell` プラグインをトレースします。
UPM_Driver	Citrix ストリーミングユーザープロファイルドライバーが使用されるたびに、ファイルシステムの変更をトレースします。
UPM_Service	Profile Management Service が呼び出されるたびに情報をトレースします。例としては、ログオン時、ログオフ時、またはセッション中の同期や定期的なメンテナンスが行われる場合などがあります。
UPM_SessionLaunchEvaluation	Profile Management の一意のトランザクション ID に関連付けられた起動イベントをトレースします。
UPM_WMI	Profile Management VDA WMI プラグインイベントをトレースします。

その他の情報の収集

可能であれば、以下の情報を収集してください。

- 影響を受けるマシンとユーザーのポリシーの結果セット (RSoP) レポートを、`gpresult` コマンドを実行して収集します。
- アプリケーションイベントログ。
- 利用可能な場合は、**Userenv** デバッグファイル。このツールに関する情報については、Microsoft のドキュメントを参照してください。

> **注記:**
>
> Citrix Provisioning Services が展開の一部であり、プロファイルが初期化されるときに問題が発生する場合、データ収集は複雑になる可能性があります。そのシナリオでは、.ini ファ

イルで上記の構成更新を行い (GPO ログ設定を無効にし)、プロビジョニングされたイメージでのプロファイル管理の事前構成 の手順に従うことをお勧めします。

方法

ユーザーログオンパフォーマンスの向上

Profile Managementは、ユーザーログオンパフォーマンスを向上させるためのさまざまなポリシーを提供します。例としては、**ストリーム配信ユーザープロファイル**、**フォルダーミラーリングの高速化**、および**プロファイルコンテナ**ポリシーがあります。これらのポリシーは、ユーザープロファイルが日常の使用で増え続けるシナリオで役立ちます。

このセクションでは、ユーザーログオンパフォーマンスを向上させる2つのProfile Managementソリューションについて説明します。

ストリーム配信プロファイルの有効化とフォルダーミラーリングの高速化

環境にユーザーストアを展開した後、ユーザーログオンパフォーマンスを向上させるために、次のポリシーを有効にします。

1. **Profile Management > ストリーム配信ユーザープロファイル**に移動し、**プロファイルストリーミング**と**フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする**を有効にします。
2. **Profile Management > ファイルシステム**に移動し、**フォルダーミラーリングの高速化**を有効にします。

プロファイルコンテナをフルプロファイルに有効にする

ログオンパフォーマンスを向上させるために、VHDXベースのCitrix®プロファイルソリューション（プロファイルコンテナと呼ばれます）を展開できます。これらのVHDXファイルは、ユーザーログオン時に動的にアタッチされます。 VHDXベースのソリューションを展開するには、次のようにプロファイルコンテナを有効にして、完全なユーザープロファイルを保存します。

1. **Profile Management > プロファイルコンテナ設定**に移動します。
2. **プロファイルコンテナ**を有効にし、プロファイルコンテナリストにアスタリスク（*）を入力します。

パフォーマンスの比較

一般的なユーザープロファイルを使用したテストに基づいて、上記のソリューションを推奨します。詳細については、Knowledge Centerの記事CTX463658を参照してください。次の表に示すように、いずれかのソリューションを展開した後、ユーザーのログオン時間とログオフ時間は大幅に短縮されました。

ストリーム配信ユーザープロファイルと**フォルダーミラーリングの高速化**ポリシーを有効にしたテスト結果：

パラメーター	変更前	変更後
ログオン時間 / 合計ログオン時間	53.81 s / 56.48 s	1.80 s / 4.45 s
ログオフ時間 / 合計ログオフ時間	42.49 s / 43.67 s	5.62 s / 6.89 s

フルプロファイルに対して**プロファイルコンテナ**ポリシーを有効にした場合のテスト結果:

パラメーター	変更前	変更後
ログオン時間 / 合計ログオン時間	53.81 s / 56.48 s	2.66 s / 5.26 s
ログオフ時間 / 合計ログオフ時間	42.49 s / 43.67 s	3.63 s / 4.99 s

ファイル重複排除を使用してストレージ容量を節約する

ユーザー ストア内のさまざまなユーザー プロファイルに、同一ファイルが存在する可能性があります。たとえば、異なるユーザーが同じファイルをダウンロードしたり、同じソフトウェアをユーザー プロファイルにインストールしたりします。**ファイル重複排除**ポリシーを使用すると、Profile Managementはファイルの重複インスタンスをユーザー ストアから中央の場所（*共有ストア*と呼ばれます）に移動し、他のインスタンスを削除します。そのため、ストレージ コストが削減されます。

前提条件

ファイル重複排除を有効にするには、以下を確認してください。

- 共有ストアが自動的に作成されるように、**Path to user store**設定で**%username%**または**#samaccountname#**を使用します。
- Citrix Profile Managementバージョン2209以降をインストールします。

ファイル重複排除ポリシーを有効にして構成する

Workspace Environment Management™ (WEM) Webコンソールを例にとります。コンソールを使用してファイル重複排除を有効にして構成するには、次の手順に従います。

1. **プロファイル > プロファイル管理設定 > ファイル重複排除**に移動します。
2. **Enable file inclusions**を選択し、重複排除するファイルを指定します。必要に応じて、**Enable file exclusions**を選択し、含まれるファイルから除外するファイルを指定します。詳細については、「Enable file deduplication」を参照してください。

次のような、頻繁に変更されないファイルのみを重複排除することをお勧めします。

- ユーザーがインストールするプログラムファイル:

  `AppData\Local\Microsoft\Teams*.exe`,
  `AppData\Local\Microsoft\Teams*.dll`,
  `AppData\Local\Microsoft\OneDrive*.exe`,
  `AppData\Local\Microsoft\OneDrive*.dll`

- ユーザーがダウンロードするインストーラーまたはイメージファイル:

  `Downloads*.exe`, `Downloads*.msi`, `Downloads*.iso`

以下のファイルの重複排除は推奨しません。

- ユーザーが頻繁に編集する可能性のあるドキュメント:

  `Documents*.xlsx`, `Documents*.docx`

- 頻繁に変更される可能性のあるデータファイル:

  `AppData\Local*.dat`

> **注:**
>
> ファイルの重複排除の効果は、ユーザー環境や重複排除の対象として指定するファイルによって異なります。実際の状況に基づいてファイル設定をカスタマイズすることをお勧めします。

権限設定の変更

共有ストアフォルダーを作成すると、Profile Managementは以下のプリンシパルにフォルダーへのアクセス権を付与します。

- ドメインコンピューター (フルコントロールアクセス権付き)
- ドメインユーザー (読み取りアクセス権付き)

これらのデフォルトの権限設定では、ファイルの重複排除はドメイン参加済みマシンでのみ機能します。ドメインに参加していないマシンで機能させるには、共有ストアフォルダーへのフルコントロールアクセス権を持つユーザーアカウントをそれらのマシンに割り当てる必要があります。詳細な手順は次のとおりです。

1. 共有ストアサーバーで、ユーザーアカウント (例: `admin0`) に共有ストアフォルダーへのフルコントロールアクセス権を付与します。
2. 各VDAで、`admin0`ユーザーアカウントが共有ストアフォルダーにサインインするためのWindows資格情報を追加します。これを行うには、Windows資格情報マネージャーまたはWorkspace Environment Managementを使用します。詳細については、ユーザーストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にするに記載されている手順を参照してください。
3. (オプション) 共有ストアサーバーで、共有ストアフォルダーを見つけ、ドメインコンピューターの権限エントリを削除します。

重複排除されたファイルのデータ変更のサポート

この機能は、重複排除されたファイルのデータ変更を処理できます。たとえば、2人のユーザーがソフトウェアXYZバージョン1をインストールし、それをファイル重複排除に含めるとします。その後、1人のユーザーがバージョン2にアップグレードすると、Profile Managementは共有ストアにファイルの新しいバージョンを作成します。もう1人のユーザーもバージョン2にアップグレードすると、Profile Managementは古いバージョンのファイルを削除します。

__index__

アクティブライトバックを構成する

既定では、ユーザーがログオフすると、Profile Management はローカルユーザープロファイルに加えられた変更をユーザープロファイルに書き戻します。ユーザーが最初のセッションからログオフする前に2番目のセッションを開始した場合、最初のセッションで行われたローカルプロファイルの変更は、2番目のセッションでは利用できません。

同時セッション間でのプロファイルの一貫性を向上させるには、アクティブライトバック機能を有効にできます。この機能を使用すると、Profile Management はユーザーがログオフするまで待つのではなく、*セッション中に*ローカルプロファイルの変更をユーザープロファイルに書き戻します。

概要

Profile Management は、**アクティブライトバック**ポリシーと、次の2つの拡張ポリシーを提供します。

- **アクティブライトバック**。Profile Management は、ローカルの*プロファイルファイルとフォルダー*に加えられた変更をユーザープロファイルに書き戻します。既定では、Profile Management は5分ごとにアクティブライトバックを実行します。
- **アクティブライトバックレジストリ**。**アクティブライトバック**ポリシーと組み合わせて使用します。Profile Management は、ローカルの*レジストリエントリ*に加えられた変更をユーザープロファイルに書き戻します。
- **セッションロックおよび切断時のアクティブライトバック**。**アクティブライトバック**ポリシーと組み合わせて使用します。Profile Management は、5分ごとではなく、セッションがロックまたは切断された場合にのみアクティブライトバックを実行します。

アクティブライトバックを有効にする

GPO を使用してアクティブライトバックを有効にするには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management** にアクセスします。

3. **アクティブライトバック**をダブルクリックします。
4. 表示されるポリシーウィンドウで、**有効**を選択し、**OK**をクリックします。 既定では、アクティブライトバックは5分ごとに実行されます。
5. レジストリエントリのアクティブライトバックを有効にするには、次の手順に従います。
    a. 「**Active write back registry**」をダブルクリックします。
    b. 表示されるポリシーウィンドウで、「**Enabled**」を選択し、「**OK**」をクリックします。
6. Profile Managementで、セッションがロックまたは切断されている場合にのみアクティブライトバックを実行するには、次の手順に従います。
    a. 「**Active write back on session lock and disconnection**」をダブルクリックします。
    b. 表示されるポリシーウィンドウで、「**Enabled**」を選択し、「**OK**」をクリックします。

> 「**注：**」:
>
> ベストプラクティスとして、「**Active write back on session lock and disconnection**」ポリシーを有効にすることをお勧めします。

アクティブライトバックポリシーの構成の優先順位は次のとおりです。

- 設定がGPO、Studio、またはWorkspace Environment Management™ (WEM)を使用して構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
- 設定がどこにも構成されていない場合、Profile Managementが動的に構成します。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

定義ファイルを作成する

定義ファイルは、同期するフォルダー、ファイル、またはレジストリを定義します。独自のアプリケーション定義ファイルを作成できます。

Microsoft UE-V テンプレートジェネレーターを使用して、UE-V テンプレートファイルを作成します。

1. Microsoft の Webサイト から Windows 10 用の **Windows Assessment and Deployment Kit** (Windows ADK) をダウンロードします。

2. Windows ADK をインストールします。**Microsoft User Experience Virtualization (UE-V) Template Generator** を選択します。**Install** をクリックします。インストールが完了したら、**Finish** をクリックしてウィザードを閉じます。
3. **Start** をクリックし、**Microsoft User Experience Virtualization** をクリックし、次に **Microsoft User Experience Virtualization Generator** をクリックします。
4. **Create a settings location template** をクリックします。
5. ウィザードに従って、アプリケーション関連のパラメーターを指定します。続行するには、**Next** をクリックします。

   メモ帳を例にとります。ファイルパスを **C:\\Windows\\System32\\notepad.exe** と指定します。
6. 指定したアプリケーションが起動したら、閉じます。
7. プロセスが完了したら、**Next** をクリックして続行します。
8. 左ペインで **Review Locations** を選択します。標準および非標準のレジストリ/ファイルのリストにあるすべてのチェックボックスを選択します。
9. **Create** をクリックしてテンプレート XML ファイルを保存します。

   メモ帳を例にとります。テンプレート XML ファイルを **Notepad.xml** として保存します。

> **注**

> 1つの UE-V テンプレートファイルに複数のアプリケーションが定義されている場合があります。

> UE-V テンプレートファイルをクロスプラットフォーム定義ファイルに変換するには、次の手順を実行します。

1. 変換ツールをここからダウンロードします。
2. コマンドプロンプトから、コマンド **convert show filename** を実行して、定義ファイル内のすべてのアプリケーション名を表示します。
3. UE-Vテンプレートファイルを定義ファイルに変換するには、次のコマンドを実行します。

   convert source destination \[/Index\] \[/V\]

   \[/Index\]: インデックス番号で指定されたアプリケーションのみを変換します。

   既定では、このツールはUE-Vテンプレート内のすべてのアプリケーションを変換します。

\[/V\]: 変換の詳細情報を表示します。

クロスプラットフォーム設定の場合、他のオペレーティングシステムに対して前述の手順を繰り返し、定義ファイルを1つにマージする必要があります。ファイルをマージするには、**OSVersionNumber** 属性を持つ **Platform** 要素を使用できます。Windows 7では、設定フォルダーは **AppData\\Application\\Win7\\folder** にあります。Windows 10では、**AppData\\Application\\Win10\\folder** にあります。

Windows 7で作成した定義ファイルは次のようになります。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>



<GroupDefinitions Version="4.0.0.0"
GUID="93E41C6E-2091-1B9B-36BC-7CE94EDC677E">



    <Group Name="Common Settings" GUID="32D83BB6-F3AD-985F-
D4BC-655B3D9ACBE2">



        <Object Name="!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win7\folder"
GUID="1B43DE3F-EC9C-463c-AC19-CD01D00219B6">



            <Platform>



                <Folder>



                    <Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win7\folder</
Path>



                    <Recurse/>
```

```
                </Folder>

            </Platform>

        </Object>

    </Group>

</GroupDefinitions>
```

Windows 10で作成した定義ファイルは次のようになります。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>

<GroupDefinitions Version="4.0.0.0"
GUID="93E41C6E-2091-1B9B-36BC-7CE94EDC677E">

    <Group Name="Common Settings" GUID="32D83BB6-F3AD-985F-
D4BC-655B3D9ACBE2">

        <Object Name="!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win10\folder"
GUID="1B43DE3F-EC9C-463c-AC19-CD01D00219B6">

            <Platform>
```

```
                <Folder>

                    <Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win10\folder</
Path>

                    <Recurse/>

                </Folder>

            </Platform>

        </Object>

    </Group>

</GroupDefinitions>
```

マージ後、定義ファイルの内容は次のようになります。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>

<GroupDefinitions Version="4.0.0.0"
GUID="93E41C6E-2091-1B9B-36BC-7CE94EDC677E">
```

```
    <Group Name="Common Settings" GUID="32D83BB6-F3AD-985F-
D4BC-655B3D9ACBE2">



        <Object Name="!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\%osname%\folder"
GUID="1B43DE3F-EC9C-463c-AC19-CD01D00219B6">



            <!-- Assuming that the folder locates differently when in
different platforms -->



            <Platform OSVersionNumber="6.1"> <!-- Win7 -->



                <Folder>



                    <Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win7\folder</
Path>



                    <Recurse/>



                </Folder>



            </Platform>



            <Platform OSVersionNumber="10.0"> <!-- Win10 -->
```

```
                <Folder>


                    <Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win10\folder</
Path>


                    <Recurse/>


                </Folder>


            </Platform>


        </Object>


    </Group>


</GroupDefinitions>
```

クロスプラットフォーム設定の構成については、(/ja-jp/profile-management/2311/configure/cross-platform-settings.html)を参照してください。

定義ファイルのアーキテクチャについては、(/ja-jp/profile-management/2311/configure/cross-platform-settings/application-definition-file-structure.html)を参照してください。

アプリケーションプロファイラーの有効化については、「アプリケーションプロファイラーの有効化」を参照してください。

クロスプラットフォーム設定 - ケーススタディ

クロスプラットフォーム設定機能は、主にWindows 7およびWindows Server 2008からWindows 8およびWindows Server 2012への移行に使用されます。この移行では、Microsoft Office 2003またはOffice 2007からOffice 2010への移行も含まれる場合があります。Windows 2003システムへの一般的な投資を考慮すると、かなりの共存期間が予想されます。この機能は、移行と持続的な共存の両方をサポートすることが期待されています。

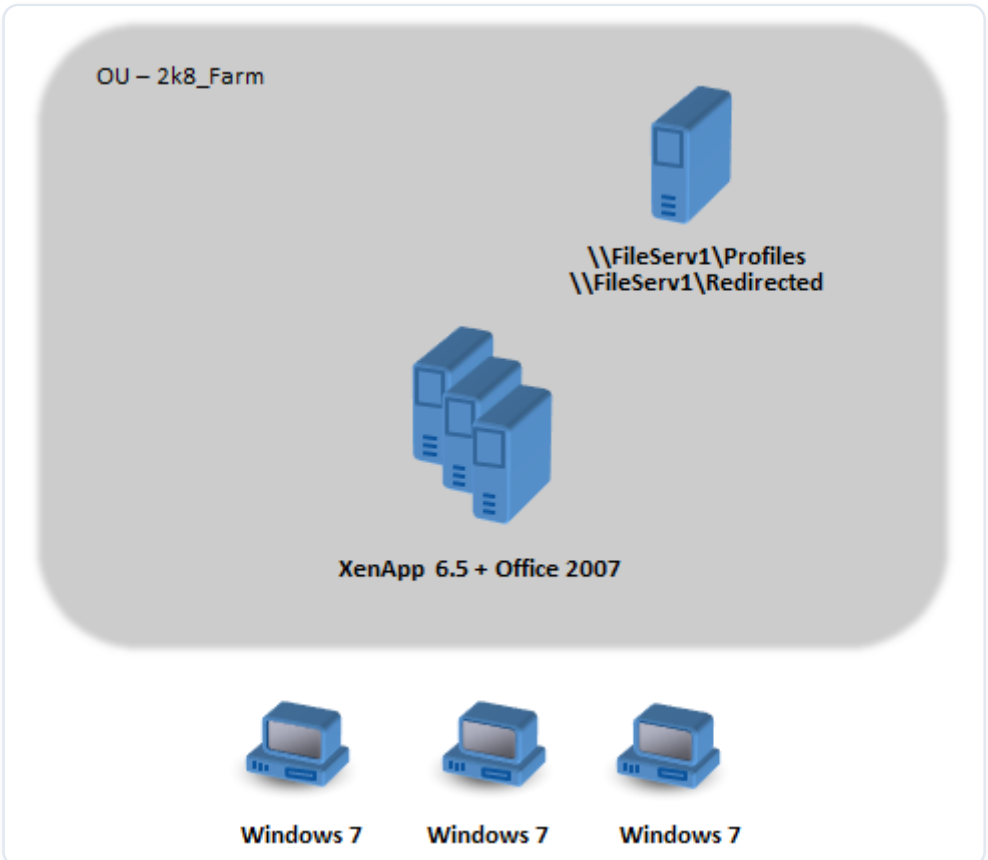
このケーススタディは、Office 2007が稼働している既存のWindows 7およびWindows 2008環境から始まり、Windows 8の共有プロビジョニング済み仮想デスクトップを追加します。

このケーススタディは以下で構成されます。

- 初期構成
- 新しいサイトの計画
- 計画の実行
- その他の考慮事項

初期構成

次の図は、このケーススタディにおける環境構成を示しています。



Windows 7 マシンは、Citrix XenApp 6.5 で公開されている Office 2007 を使用するように構成されています。

ドメインには、Windows 2008 レベルで Active Directory を実行している Windows 2008 ドメインコントローラーが含まれています。すべてのマシンは 2k8_Farm という OU に属しており、Profile Management 5.0 の .adm ファイルは 2k8_Farm_PO という GPO に追加されています。次のポリシーが構成されています。

ポリシー	値
ユーザーストアへのパス	`\\FileServ1\Profiles#sAMAccountName#\%ProfVer%`
プロファイルストリーミング	有効
アクティブライトバック	有効

システム環境変数 `%ProfVer%` を設定するマシンログオンスクリプトが、OU 内のすべてのマシンで実行されます。

マシンタイプ	%PROFVER%
Windows 2008 上の XenApp® サーバー	Win2008
Windows 7 デスクトップ	Win7

したがって、たとえば、ユーザー john.smith は Windows 7 デスクトップ用に `\\FileServ1\Profiles\john.smith\Win7` に、Citrix 仮想アプリサーバー用に `\\FileServ1\Profiles\john.smith\Win2008` にプロファイルを持っています。デスクトップとサーバー用に個別のプロファイルが維持されています。管理者は、ワークステーションとマルチセッションオペレーティングシステム間でプロファイルがローミングする際に問題が発生することを知っており、慎重に対応しています。

フォルダーリダイレクトは、グループポリシーの **User Configuration** \> **Policies** \> **Windows Settings** \> **Folder Redirection** で設定されます。

新しいサイトを計画する

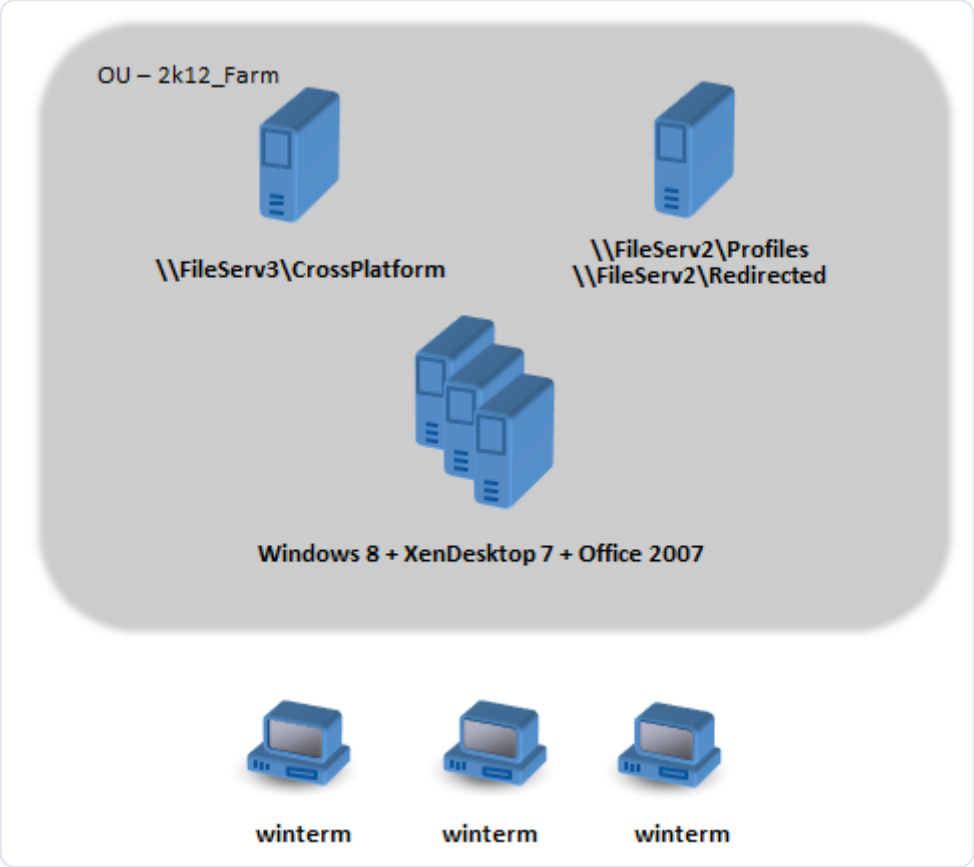
ネットワーク管理者は、Windows Server 2012ドメインコントローラーとActive Directory 2012に基づいた新しい環境のために新しいドメインをセットアップすることを決定しました。最終的には、仮想アプリを実行するWindows Server 2012に基づいた新しい仮想アプリサイトが計画されて

います。しかし今のところ、新しいドメインはWindows 7仮想デスクトップサイトのみに使用されています。

このサイトは、XenServer (旧Citrix Hypervisor™) 環境でホストされ、Windows端末からアクセスされる共有のWindows 7ベースイメージに基づいています。Office 2007はベースイメージに含まれています。

両方のドメインのユーザーが新しいドメインを使用すると予想されるため、OldDomainとNewDomainの間に双方向の信頼関係が設定されます。両方のドメインは同じADフォレストに属している必要があります。

次の図は、新しい仮想デスクトップサイトの構成を示しています。



トランザクションフォルダーの管理

トランザクションフォルダーとは、相互依存するファイルを含むフォルダーのことで、あるファイルが他のファイルを参照します。**ミラーリングするフォルダー**ポリシーは、プロファイル同期中にトランザクションフォルダーの整合性を確保します。このポリシーにより、Profile Management はユーザー ストアとローカル ユーザー プロファイルの間でトランザクションフォルダー全体をミラーリングします。

フォルダーミラーリングの高速化ポリシーは、Profile Management 2106以降で利用可能です。

この記事では、**ミラーリングするフォルダー**ポリシーを使用してトランザクションフォルダーを管理するプロセスについて説明します。また、このポリシーを使用してInternet ExplorerのCookieフォルダーを管理する方法の例も示します。

フォルダーミラーリングの仕組み

通常、Profile Management がユーザー ストアとローカル プロファイル間でユーザー プロファイルを同期する場合、タイムスタンプを比較して更新されたファイルのみを同期します。しかし、トランザクションフォルダー内のファイルは関連付けられているため、整合性の問題を避けるためにProfile Management はフォルダー全体を同期する必要があります。トランザクションフォルダーの例としては、トランザクションログファイルとそれに対応するデータベースファイルを含むフォルダーがあります。異なるセッションからのトランザクションログファイルとデータベースファイルを混在させると、トランザクションの整合性の問題が発生する可能性があります。

トランザクションフォルダーを正しく同期するために、Profile Management は**ミラーリングするフォルダー**ポリシーを提供します。トランザクションフォルダーを宛先に同期する場合、Profile Management は次の手順を使用してフォルダーを宛先にミラーリングします。

1. フォルダー内のすべてのコンテンツをタイムスタンプを無視して宛先にコピーします。
2. 宛先にある追加のコンテンツをすべて削除します。

> **注意:**

> トランザクションフォルダーをミラーリングするということは、「最後の書き込みが優先される」ことを意味します。複数のセッションで変更されたファイルは、最新の更新によって上書きされ、プロファイルの変更が失われる可能性があります。

ミラーリングするフォルダーを指定する

ミラーリングするフォルダーポリシーを有効にし、ミラーリングするフォルダーを指定します。

Google Chromeを例にとってみましょう。`AppData\Local\Google\Chrome\User Data\Default`内のブックマーク関連ファイルとサブフォルダーは相互依存しており、プロファイル同期中に全体として処理される必要があります。この目標を達成するには、このフォルダーを**ミラーリングするフォルダー**ポリシーに追加する必要があります。

ミラーリングするフォルダーからファイルやサブフォルダーを除外することもできます。前の例では、`AppData\Local\Google\Chrome\User Data\Default`フォルダーにはブックマークとは

無関係のファイルやサブフォルダーも含まれています。これらを除外するには、**除外リスト – ディレクトリ**および**除外リスト – ファイル**ポリシーを使用できます。

詳細な手順は次のとおりです。

1. **Profile Management \> File system \> Synchronization** に移動し、**Folders to mirror** ポリシーをダブルクリックします。
2. **Enabled** を選択します。
3. **List of folders to mirror** フィールドに、ユーザー ストアへの相対パスの形式でミラーリングするフォルダーのリストを入力します。フォルダーを区切るには `Enter` を入力します。

   > **注:**
   >
   > このポリシーは再帰的に機能します。サブフォルダーをリストに追加しないでください。
   >
   > たとえば、`AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies` を追加した場合、`AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies\Low` は追加しないでください。

4. **OK** をクリックします。
5. ミラーリングされたフォルダー内の特定のファイルとサブフォルダーをミラーリングプロセスから除外するには、次の手順に従います。

   a. **Profile Management \> File system** に移動し、**Exclusion list – directories** ポリシーまたは **Exclusion list – files** ポリシーをダブルクリックします。

   b. 除外するファイルとサブフォルダーを指定します。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、フォルダーはミラーリングされません。

フォルダーミラーリングの高速化

Profile Management 2106以降、**フォルダーミラーリングの高速化**ポリシーを有効にすることで、フォルダーミラーリングを高速化できます。

このポリシーを有効にすると、Profile Managementはミラーリングされたフォルダーを VHDXベースの仮想ディスクに保存します。Profile Managementはログオン時に仮想ディスクをアタッチし、ログオフ時にデタッチするため、ユーザープロファイルストアとローカルプロファイルの間でフォルダーをコピーする必要がなくなります。

このポリシーを有効にするには、次の手順に従います。

1. **Profile Management \> ファイルシステム \> 同期**で、**フォルダーミラーリングの高速化**ポリシーをダブルクリックします。
2. **有効**を選択します。
3. **OK**をクリックします。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ポリシーは無効になります。

例: Internet ExplorerのCookieフォルダーを管理する

Internet ExplorerのCookieフォルダーを管理する際、プロファイルの肥大化を抑えつつ、トランザクションの整合性を確保する必要があります。この目標を達成するには、**ミラーリングするフォルダー**および**ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する**ポリシーを使用します。

詳細な手順は次のとおりです。

1. ミラーリングするCookieフォルダーを指定する。
2. プロファイルの肥大化の問題が発生した場合は、ユーザーログオフ時に古いCookieの削除を有効にする。

変更を有効にするには、このMicrosoftの記事に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

概要

このセクションでは、2つのポリシーがCookieフォルダーの管理にどのように役立つかを説明します。

Internet Explorer 8のCookieフォルダーを例にとってみましょう。このフォルダーには、index.datファイルとCookieファイルが含まれています。ユーザーがインターネットを閲覧すると、index.datはCookieファイルを参照します。たとえば、ユーザーが異なるデバイスからそれぞれ2つのInternet Explorerセッションを持ち、各セッションで異なるサイトにアクセスするとします。各サイトからのCookieは、対応するデバイスに追加されます。

トランザクションの整合性を確保する方法

前の例で、ユーザーが両方のセッションからログオフしたときに何が起こるかを見てみましょう。セッションからのCookieはマージされ、index.datファイルは最後にログオフしたセッションのものと同期されます。その結果、Cookieファイルとindex.dat内のそれらのCookieファイルへの参照が一致しなくなります。

ミラーリングするフォルダーポリシーがこの問題を解決します。このポリシーを設定すると、Profile Managementはプロファイルの同期中にフォルダー全体を宛先にコピーします。このポリシーの動作の詳細については、「トランザクションフォルダーの管理」を参照してください。

プロファイルの肥大化を回避する方法

新しいセッションでのブラウジングは、Cookieフォルダーの肥大化につながります。また、Webサイトを再訪問すると、古いCookieが蓄積されます。**ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する**ポリシーは、ユーザーのログオフ時にプロファイルから古いCookieを削除することで、この問題を解決します。

> **注：**
>
> Internet Explorer 9以前のCookieおよび閲覧履歴情報は、Internet Explorer 10以降のCookieおよび閲覧履歴情報とは互換性がありません。ユーザーは、異なるバージョンのInternet Explorerがインストールされている複数のシステム間を移動しないことをお勧めします。\[#474200\]

ミラーリングするCookieフォルダーを指定する

ミラーリングするフォルダーポリシーを有効にします。このポリシーで、展開でサポートされているOSのバージョンに基づいて、ミラーリングするCookieフォルダーを指定します。

1. **Profile Management \> ファイルシステム \> 同期**に移動します。
2. **ミラーリングするフォルダー**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。
4. 「**ミラーリングするフォルダーのリスト**」フィールドに、次のCookieフォルダーを追加します。フォルダーを区切るには`Enter`を使用します。
   - バージョン2プロファイルの場合の`AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies`。
   - `AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCookies` (Windows 8.1以降のCookieフォルダー)

- `AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies` (Windows 7およびWindows 8のCookieフォルダー)
- `AppData\Local\Microsoft\Windows\WebCache` (Internet Explorer 10以降で利用可能なフォルダーで、Cookieデータベースファイル `Webcache01.dat` が保存されます)

5. **OK**をクリックします。
6. Profile Management 2106以降を使用している場合は、「**フォルダーミラーリングの高速化**」ポリシーをダブルクリックし、「**有効**」を選択します。

(オプション) ログオフ時に古いCookieを削除する

Profile Managementでユーザーログオフ時に古いCookieを削除させるには、「**ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する**」ポリシーを有効にします。

このポリシーはログオフ時間を増加させるため、プロファイルの肥大化の問題が発生した場合にのみ有効にしてください。

1. **Profile Management** > **詳細設定**に移動します。
2. 「**ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する**」ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。
4. **OK**をクリックします。

用語集

この記事では、Profile Managementソフトウェアおよびドキュメントで使用される用語と定義を一覧表示します。他のCitrix®ソフトウェアで使用されるプロファイル関連の用語も含まれています。Windowsユーザープロファイルに関連するその他の概念を理解するには、MicrosoftのWebサイトをご覧ください。

用語	定義
ベースプラットフォーム	クロスプラットフォーム設定ストアを参照してください。
ベースプロファイル	ベースプロファイルは、ユーザーストア内のプロファイルへのUNCパスによって定義されます。クロスプラットフォーム設定機能が使用されている場合、ベースプロファイルのサブセットからプラットフォーム間で共有できる

用語	定義
	レジストリ設定とファイルが対象となります。このサブセットはクロスプラットフォーム設定ストアにコピーされ、そこから移行またはローミングのターゲットとして使用されるプロファイルに追加されます。クロスプラットフォーム設定ストアにはベースプロファイルのサブセットが含まれていますが、これ（およびターゲットプロファイル）は常に完全なプロファイルとして保存されます。そして、必要に応じて、標準のWindowsローミングプロファイルまたはローカルプロファイルとして使用できます。ただし、ストリーミングユーザープロファイル機能が使用されている場合、ベースプロファイルは一時的に不完全になる可能性があることに注意してください。一部のファイルは、ユーザーがログオフするまで保留領域に存在する可能性があります。ローミングシナリオでベースプロファイルを定義する際の考慮事項については、ローミングを参照してください。
キャッシュ	「キャッシュ」と「同期」という用語は、ユーザーストアからファイルをダウンロードする、またはユーザーストアにファイルをアップロードする行為を指します。「フェッチ」という用語はより具体的で、ストリーミングユーザープロファイル機能が、ログオン後いつでもユーザーが必要とするときに、ユーザーストアからファイルのサブセットをダウンロードする方法を指します。
Citrix強制プロファイル、Citrixローミングプロファイル、Citrixユーザープロファイル	Citrixユーザープロファイルは、Profile Managementがインストールされ有効になっているときにユーザーが受け取るプロファイルの総称です。Citrixユーザープロファイルには、Citrixローミングプロファイルと Citrix強制プロファイルの2種類があります。Citrixローミングプロファイルは、ユーザーが日常業務でカスタマイズし、ログオフ時にユーザーストアに保存され、Profile Managementポリシーによって処理されるファイル、フォルダー、お

用語	定義
	よびレジストリ設定の標準コレクションです。Citrix強制プロファイルは、Profile Managementがそれらを処理する方法においてCitrixローミングプロファイルと似ています。ただし、ログオフ時にユーザーストアに変更は保存されません。ログオン時には、強制プロファイルの新しいコピーがロードされます。Citrixユーザープロファイルは、Microsoftローカルプロファイル、Microsoftローミングプロファイル、またはMicrosoft強制プロファイルとは異なります。
コンピューター	これらのProfile Managementトピックで使用される「コンピューター」という一般的な用語は、Citrix Profile Management Serviceがインストールされているあらゆるマシンを指すことができます。これは、ユーザーデバイス、仮想デスクトップ（Citrix Virtual Desktops™仮想マシンからプロビジョニングされた可能性のあるもの）、または公開アプリケーションをホストするCitrix Virtual Appsサーバーである可能性があります。
クロスプラットフォーム定義ファイル	このファイルは、クロスプラットフォーム設定機能を動作させるために必要な情報を含む、Profile Managementに付属の.xmlファイルです。サポートされているアプリケーションごとに1つのファイルがあります。
クロスプラットフォーム設定ストア	この場所はユーザー ストアとは別で、クロスプラットフォーム設定機能が構成されると、サポートされているアプリケーションの設定を保持します。どのプラットフォームのプロファイルデータを使用してクロスプラットフォーム設定ストアをシードするかを選択します。それがベースプラットフォームです。
フェッチ	キャッシュを参照してください。
レガシーアプリケーション	レガシーアプリケーションは、設定を非標準の場所に保存するため、動作が適切ではありません。これには、一時的なアプリケーショ

用語	定義
	ンデータをユーザープロファイルに保存し、それによってプロファイルの肥大化を引き起こすシステムが含まれます。
移行	移行とは、プロファイルをあるプラットフォームから別のプラットフォームへ（たとえば、Windows XPからWindows 7へ）計画的に一方向へ移動することです。
プロファイルの肥大化	一時ファイルが削除されない場合、Windowsユーザープロファイルのサイズが増加することがあります。これはログオンの遅延を引き起こし、「プロファイルの肥大化」と呼ばれます。
ローミング	ローミングとは、複数のコンピューターまたはセッションから異なるベースプロファイルを使用することです（たとえば、Windows 2008 R2を実行しているコンピューター用のベースプロファイルと、Windows 7用の別のベースプロファイル）。ユーザーは、異なるベースプロファイルを持つコンピューターまたはセッション間を行き来する際にローミングします。組織単位（OU）の構成方法によっては、ベースプロファイルをプラットフォーム間で共有できます。たとえば、Windows 2008 R2とWindows 7の両方のOUで同じプロファイルを使用できます。この場合、同じベースプロファイルが共有されているため、ユーザーはローミングしません。ベースプロファイルは、同じプロファイルバージョン（バージョン1またはバージョン2のプロファイル）を持つオペレーティングシステムでのみ共有できます。バージョン1とバージョン2の両方のプロファイルがアクティブな場合、ユーザーは常にローミングします。
同期	キャッシュを参照してください。
ユーザー ストア	ユーザー ストアは、Citrix ユーザー プロファイルを保存するための中央ネットワーク ロ

用語	定義
	ケーションです。クロスプラットフォーム設定ストアも参照してください。
vディスク、パーソナル vディスク	vDisk は、Citrix Provisioning™ Services によってマスター イメージから作成される仮想ディスクです。Personal vDisk は、Citrix 仮想デスクトップがプロファイル、ユーザーがインストールしたアプリケーション、部門別アプリケーション、およびユーザー データを保存するために使用するディスクです。Personal vDisk は、オペレーティング システム、レジストリ、および基本アプリケーションに使用されるディスクとは別個のものです。
バージョン 1 プロファイル、バージョン 2 プロファイル	Microsoft Windows XP および Windows Server 2003 のプロファイルは、バージョン 1 プロファイルとして知られています。Windows Vista、Windows 7、Windows Server 2008、および Windows Server 2008 R2 のプロファイルは、バージョン 2 プロファイルとして知られています。バージョン 1 プロファイルとバージョン 2 プロファイルは異なる名前空間を持ち、その構成のいくつかの側面に影響を与えます。

プロファイルについて

Windowsユーザープロファイルは、ユーザーアカウントでログオンするユーザーの環境を定義する、フォルダー、ファイル、レジストリ、および構成設定の集合です。これらの設定は、管理構成に応じて、ユーザーがカスタマイズできます。カスタマイズできる設定の例は次のとおりです。

- 壁紙やスクリーンセーバーなどのデスクトップ設定
- ショートカットとスタートメニューの設定
- Internet Explorerのお気に入りおよびホームページ
- Microsoft Outlookの署名
- プリンタ

一部のユーザー設定とデータは、フォルダーリダイレクトによってリダイレクトできます。ただし、フォルダーリダイレクトが使用されていない場合、これらの設定はユーザープロファイル内に保存されます。

プロファイルの種類

Windowsには、いくつかの種類のプロファイルが含まれています。

プロファイルの種類	保存場所	構成場所	アプリケーション	変更を保存しますか？
ローカル	ローカルデバイス	ローカルデバイス	ローカルデバイスのみ	はい
ローミング	ネットワーク	アクティブディレクトリ	アクセスされた任意のデバイス	はい
強制 (強制ローミング)	ネットワーク	アクティブディレクトリ	アクセスされた任意のデバイス	いいえ
一時的	該当なし	該当なし	ローカルデバイスのみ	いいえ

一時プロファイルは、特定のプロファイルタイプを割り当てられない場合にのみ割り当てられます。強制プロファイルを除き、通常、ユーザーごとに異なるプロファイルが存在します。強制プロファイルでは、ユーザーはカスタマイズを保存できません。

Remote Desktop Services ユーザーの場合、Remote Desktop Services セッションとローカルセッションで同じプロファイルがユーザーに割り当てられた場合に発生する可能性のある問題を回避するために、特定の移動プロファイルまたは強制プロファイルを割り当てることができます。

プロファイルのバージョン

Microsoft Windows ユーザープロファイルのバージョンは次のとおりです。

- バージョン 6 — Windows 11、Windows 10 1607 以降のバージョン、Windows Server 2016、Windows Server 2019、および Windows Server 2022
- バージョン 5 – Windows 10 RTM
- バージョン 4 – Windows 8.1 および Windows Server 2012 R2
- バージョン 3 - Windows 8 および Windows Server 2012

- バージョン 2 - ウィンドウズ ビスタ、ウィンドウズ 7、ウィンドウズ サーバー 2008、およびウィンドウズ サーバー 2008 R2
- バージョン 1 – Windows Vista および Windows Server 2008 以前のオペレーティングシステム

Microsoft のバージョン 1 プロファイルのフォルダー構造 (または名前空間) は、ほとんど互換性があります。例えば、Windows XP および Windows Server 2003 のフォルダーはほとんど同じです。同様に、バージョン 2 プロファイルの構造もほとんど互換性があります。

しかし、バージョン 1 とそれ以降のプロファイルでは、名前空間が異なります。このフォルダー構造は、ユーザーおよびアプリケーションデータ用に分離されたユーザー固有のフォルダーを提供するために、後のオペレーティングシステムで変更されました。バージョン 1 プロファイルは、ルートフォルダーである **Documents and Settings** にデータを保存します。バージョン 2 プロファイルは、より直感的な名前のフォルダーである **Users** と呼ばれるフォルダーにデータを保存します。例えば、Windows Vista の **AppData\Local** のフォルダーの内容は、Windows XP の `Documents and Settings\<username>\Local Settings\Application Data` の内容と同じです。

バージョン 1 とそれ以降のプロファイルの違いに関する詳細については、Managing Roaming User Data Deployment Guide を参照してください。

インストールとセットアップ

この記事では、インストーラーを使用してProfile Managementをインストールするための一般的なワークフローについて説明します。また、Profile Managementをセットアップするためのベストプラクティスも提供します。

Profile Managementをインストールするための一般的なワークフローは次のとおりです。

1. インストールパッケージをダウンロードする(/ja-jp/profile-management/2311/install-and-set-up/files-in-download.html)
2. Profile Managementをインストールする(/ja-jp/profile-management/2311/install-and-set-up/install.html)

Profile Managementをセットアップする際は、以下のベストプラクティスを参照してください。

- ローカルGPOでProfile Managementをテストする(/ja-jp/profile-management/2311/install-and-set-up/test-with-local-gpo.html)
- ユーザーストアを作成する(/ja-jp/profile-management/2311/install-and-set-up/create-user-store.html)

ベストプラクティス

Windowsユーザープロファイルは、特定のユーザーアカウントでログオンするユーザーの環境を定義するフォルダー、ファイル、レジストリ、および構成設定のコレクションです。ユーザーは、管理構成に応じてこれらの設定をカスタマイズできます。

1つの場所からプロファイル管理を構成する

プロファイル管理を構成できる場所は3つあります。プロファイル管理を構成するには、次のいずれかの方法を使用します。

- アクティブ ディレクトリのGPO
- Citrix Studioのポリシー
- ワークスペース環境管理™

プロファイル管理を構成するには、3つの場所のうち1つだけを選択することをお勧めします。

このビデオを見て、詳細を確認してください**:**



Cookieの処理

プロファイル管理は、Internet Explorer 10およびInternet Explorer 11の古いCookieの削除をサポートしています。**ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する**ポリシーを使用して、古いCookieを削除し、Cookieフォルダーの肥大化を防ぐことができます。さらに、ミラーリングするフォルダーのリストに次のフォルダーを追加します。

- `AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCookies`
- `AppData\Local\Microsoft\Windows\WebCache`
- `AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies`

アウトルックとオフィス 365

Microsoftは、一貫したオンラインおよびオフラインのMicrosoft Outlookエクスペリエンスを可能にするために、キャッシュされたExchangeモードを推奨しています。キャッシュされたExchangeモードは、Microsoft Outlookクライアントから有効にできます。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/exchange/outlook/cached-exchange-mode>`を参照してください。

キャッシュされたExchangeモードを使用すると、ユーザーのExchangeメールボックスのコピーが常にオフラインOutlookデータファイル（*.ost）に存在します。このファイルは大きくなる可能性があります。

Microsoft Outlookデータをローカルまたは共有ドライブに保存することは避けることをお勧めします。代わりに、ネイティブOutlook検索エクスペリエンスを有効にする機能を使用してください。この機能を使用すると、オフラインOutlookデータファイル（*.ost）とユーザー固有のMicrosoft検索データベースがユーザープロファイルとともにローミングされます。この機能により、Microsoft Outlookでメールを検索する際のユーザーエクスペリエンスが向上します。この機能の使用方法の詳細については、ネイティブOutlook検索エクスペリエンスを有効にするを参照してください。

Microsoft資格情報ローミングが有効なプロファイルストリーミング

既定では、構成ファイルの次のフォルダーはプロファイルストリーミングから除外されます。

- `AppData\Local\Microsoft\Credentials`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\Credentials`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\Crypto`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\Protect`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\SystemCertificates`

プロファイルストリーミングの除外を手動で構成する場合は、上記のフォルダーを「プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ」に追加してください。

スタートメニューのローミング

スタートメニューにピン留めされたアプリケーションは、数回のログオン後に以下のオペレーティングシステムで消えることがあります。

- Windows 10 バージョン 1607 以降、32ビットおよび64ビット
- Windows Server 2016 Standard および `Datacenter` エディション
- Windows Server 2019 Standard および `Datacenter` エディション
- Windows 10 Enterprise 仮想デスクトップ用

> **注:**

> Windows 10 と Windows Server 2016/2019 の両方に同じポリシーを使用することはできません。VDI および共有デスクトッププラットフォームには個別のポリシーを構成するか、Profile Management 2103 以降を使用している場合は自動構成を使用してください。

スタートメニューのローミングを自動的に有効にする

Profile Management 2103 以降を使用している場合、**自動構成を無効にする**ポリシーを既定値（**無効**）のままにすると、*スタートメニューのローミング*が自動的に有効になります。

Profile Management 2106 以降を使用している場合は、**Profile Management \> ファイルシステム \> 同期**の下にある**フォルダーミラーリングの高速化**ポリシーを有効にすることをお勧めします。この設定により、フォルダーミラーリング機能のユーザーログオンおよびログオフエクスペリエンスが向上します。詳細については、「フォルダーミラーリングの高速化」を参照してください。

Windows 10 のスタートメニューのローミングを手動で有効にする

自動構成を無効にするポリシーが有効になっている場合、以下の手順を使用してWindows 10 の*スタートメニューのローミング*を手動で有効にできます。

1. **Profile Management \> ファイルシステム \> 同期**に移動します。
2. 「**ミラーするフォルダー**」ポリシーを「**有効**」に設定し、以下のフォルダーをミラーするフォルダーのリストに追加します。

   - `Appdata\Local\Packages`
   - `Appdata\Local\Microsoft\Windows\Caches`
   - `!ctx_localappdata!\TileDataLayer` (Windows 10 バージョン 1607 以前にのみ適用)

   > **注:**
   >
   > Citrix Profile Management 1912 以降では、「**デフォルトの除外リスト – ディレクトリ**」または「**除外リスト – ディレクトリ**」に追加されたフォルダーは、「**ミラーするフォルダー**」に追加しても同期できません。これらのフォルダー、またはその親フォルダーや祖先フォルダーが除外リストに含まれている場合は、「**同期するディレクトリ**」リストに追加してください。

3. 「**同期するファイル**」ポリシーを「**有効**」に設定し、以下のファイルを同期するファイルのリストに追加します。

   - `Appdata\Local\Microsoft\Windows\UsrClass.dat*`

Windows Server のスタートメニューローミングを手動で有効にする

「**自動構成を無効にする**」ポリシーが有効になっている場合、以下の手順で Windows Server の *スタートメニューローミング* を手動で有効にできます。

1. **Profile Management \> 詳細設定** に移動し、「**自動構成を無効にする**」ポリシーを「**有効**」に設定します。
2. **Profile Management \> ファイルシステム \> 同期** に移動します。
3. 「**ミラーするフォルダー**」ポリシーを「**有効**」に設定し、以下のフォルダーをミラーするフォルダーのリストに追加します。

   - `Appdata\Local\Packages`
   - `Appdata\Local\Microsoft\Windows\Caches`

   > **注:**
   >
   > Citrix Profile Management 1912 以降では、「**デフォルトの除外リスト – ディレクトリ**」または「**除外リスト – ディレクトリ**」に追加されたフォルダーは、「**ミラーするフォルダー**」に追加しても同期できません。これらのフォルダー、またはその親フォルダーや祖先フォルダーが除外リストに含まれている場合は、「**同期するディレクトリ**」リストに追加してください。

4. 「**同期するファイル**」ポリシーを「**有効**」に設定し、以下のファイルを同期するファイルのリストに追加します。

   - `Appdata\Local\Microsoft\Windows\UsrClass.dat*`

プロファイルを効率的に同期する

不十分に同期されたユーザープロファイルは、ログオンの遅延、ユーザー設定の損失、プロファイルの破損につながる可能性があります。また、過剰な管理作業が必要になることもあります。プロファイルを効率的に同期するには、この記事で説明されている推奨事項に従ってください。

フォルダーリダイレクト

フォルダーリダイレクトは、Profile Management とともに使用できる Microsoft Windows の機能です。フォルダーリダイレクトは、成功するプロファイルソリューションを提供する上で重要な役割を果たします。

フォルダーリダイレクトを使用するには、関連するユーザーが Profile Management が管理する OU に属していることを確認してください。Active Directory で GPO を使用してフォルダーリダイレクトを構成することをお勧めします。

例えば、**ユーザーの構成 \> 管理用テンプレート \> 従来の管理用テンプレート (ADM) \> Citrix \> Profile Management \> フォルダーのリダイレクト** の下にある対応するポリシーを有効にすることで、次のフォルダーをリダイレクトできます。

ドキュメント、ピクチャ、ミュージック、ビデオ、お気に入り、連絡先、ダウンロード、リンク、検索、保存したゲーム

注:

- フォルダーのリダイレクトにより、ユーザーがログオンするたびにこれらのフォルダー内のデータをコピーする必要がなくなり、ユーザーのログオンが高速化されます。
- **AppData (Roaming)** および **スタートメニュー** の **フォルダーのリダイレクト** を有効にしないことを強くお勧めします。アプリケーションやスタートメニューで問題が発生する可能性があるためです。
- **デスクトップ** フォルダーが大きすぎる場合は、リダイレクトしないでください。そうしないと、ユーザーがログオンしたときにブラックスクリーンが発生する可能性があります。

ファイルとフォルダーを含める/除外する

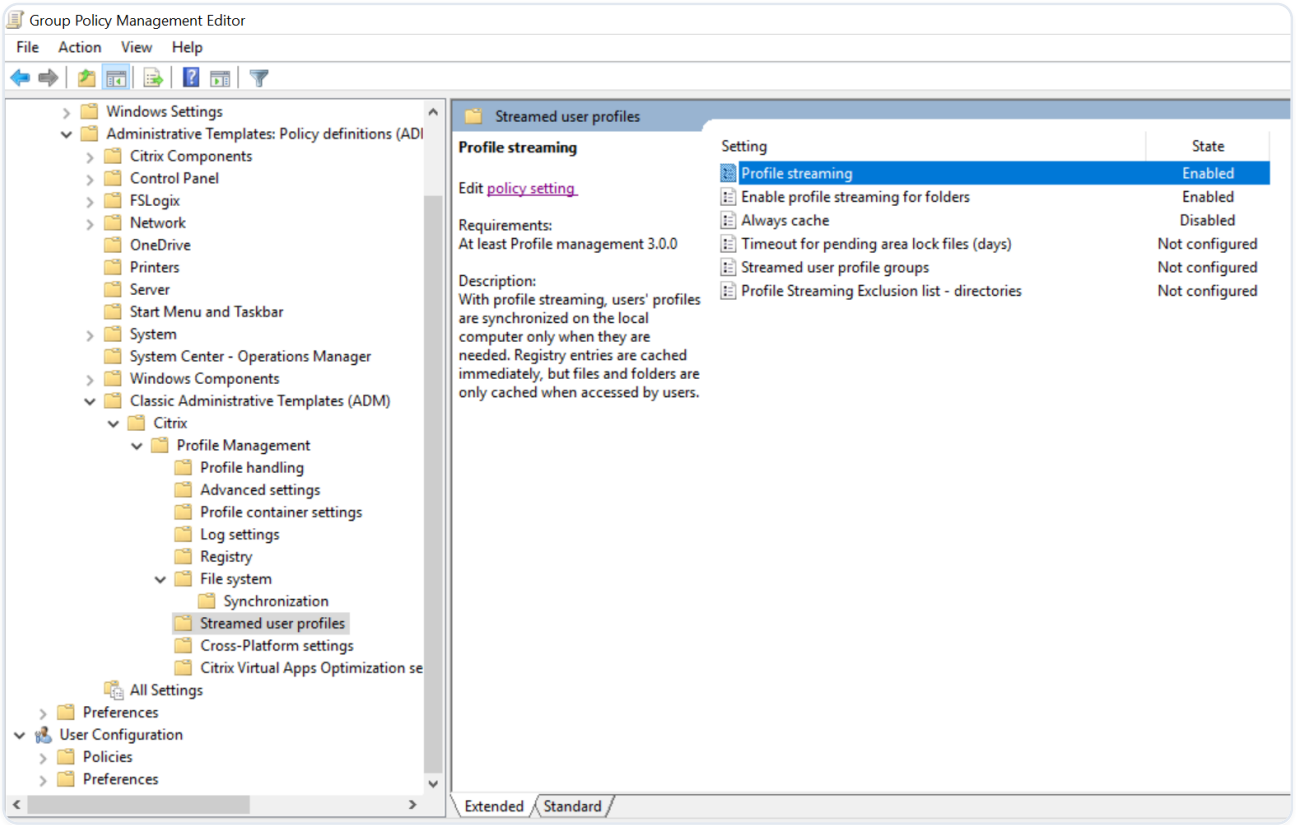
Profile Managementでは、包含リストと除外リストをカスタマイズすることで、同期したくないファイルとフォルダーを指定できます。プロファイルの肥大化を避けるため、サードパーティ製アプリケーションのキャッシュファイル（例: Appdata\Local\Google\Chrome\UserData\Default\Cache にあるChromeキャッシュファイル）を除外してください。詳しくは、「アイテムの包含と除外」を参照してください。

プロファイルストリーミング

Profile Managementは、ユーザーがログオン後にアクセスしたときにのみ、プロファイル内のファイルをユーザーストアからローカルコンピューターにフェッチします。これにより、ログオンプロセスが高速化され、プロファイルサイズが削減されます。たとえば、使用されていないファイルは、ローカルプロファイルフォルダーにコピーされることはありません。また、**常にキャッ**

シュ ポリシーを使用して、ストリーミングされるファイルのサイズに下限を設けることもできます。このサイズ以上のファイルは、ログオン後できるだけ早くローカルにキャッシュされます。

フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする と **プロファイルストリーミング** の両方のポリシーを有効にすることで、アクセスされていないフォルダーをフェッチする必要がなくなります。



アクティブライトバックとレジストリ

この機能は、特に変更されたファイルが多い場合に、プロファイルストリーミング機能と比較してログオフ時間を短縮します。この機能は、セッション中、ログオフ前に、変更されたファイルとフォルダー（レジストリエントリは除く）をユーザーストアに同期します。

Internet Explorer 10/11 Cookieのサポート

Profile Management 5.0以降では、Internet Explorer 10およびInternet Explorer 11を使用する際のCookieの処理が強化されています。Cookieフォルダーの肥大化を避けるため、ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理するポリシーを使用して、古いCookieを削除してください。ミラーリングするフォルダーのリストに次のフォルダーを追加できます。

- AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCookies
- AppData\Local\Microsoft\Windows\WebCache
- AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies

詳細については、ログオフ時にインターネットクッキーファイルを処理するを参照してください。

トラブルシューティングのベストプラクティス

潜在的な構成エラーを特定するために、常にProfile Management構成チェッカーツール (UPMConfigCheck) を使用してください。

Profile Managementが機能しない場合は、まず、構成されているユーザー ストアにアクセスできるかどうかを確認してください。

Windows 10のスタートメニューのカスタマイズ

部分的なロックダウンカスタマイズレイアウトを使用し、グループポリシーを介してカスタマイズを展開することをお勧めします。スタートメニューのレイアウトのカスタマイズに関する詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-hardware/customize/desktop/customize-start-layout>`を参照してください。

セキュリティ保護

このトピックでは、Profile Management をセキュリティ保護するための推奨されるベストプラクティスについて説明します。一般に、Citrix® ユーザープロファイルデータへの不要なアクセスを防ぐため、ユーザーストアが配置されているサーバーをセキュリティ保護してください。

安全なユーザーストアを作成するための推奨事項は、Microsoft TechNet Webサイトの「移動ユーザープロファイル用のファイル共有を作成する」という記事で入手できます。これらの最小限の推奨事項は、基本的な操作に対して高いレベルのセキュリティを保証します。また、ユーザーストアへのアクセスを構成する際には、Citrix ユーザープロファイルを変更または削除するために必要な Administrators グループを含めてください。

権限

Citrix は、ユーザーストアおよびクロスプラットフォーム設定ストアに対して、以下の権限をテストし、推奨しています。

- 共有権限: ユーザーストアのルートフォルダーに対するフルコントロール
- Microsoft が現在推奨する以下の NTFS 権限:

グループまたはユーザー名	権限	適用先
作成者/所有者	フルコントロール	サブフォルダーとファイルのみ

グループまたはユーザー名	権限	適用先
Profile Management の制御下にあるアカウントのグループ	フォルダーの一覧表示 / データ読み取りおよびフォルダー作成 / データ追加	このフォルダーのみ
ローカルシステム	フルコントロール	このフォルダー、サブフォルダー、およびファイル

継承が無効になっていない場合、これらの権限により、アカウントはストアにアクセスできます。また、アカウントはユーザープロファイル用のサブフォルダーを作成し、必要な読み取りおよび書き込み操作を実行できます。

この最小限の権限に加えて、サブフォルダーとファイルのみをフルコントロールできる管理者グループを作成することで、管理を簡素化することもできます。そうすれば、プロファイルの削除（一般的なトラブルシューティングタスク）がそのグループのメンバーにとって容易になります。

テンプレートプロファイルを使用する場合、ユーザーにはそのプロファイルへの読み取りアクセス権が必要です。

アクセス制御リスト (ACL)

クロスプラットフォーム設定機能を使用する場合は、定義ファイルを保存するフォルダーにACLを次のように設定します。認証済みユーザーには読み取りアクセス権、管理者には読み取り/書き込みアクセス権。

Windowsローミングプロファイルは、ネットワーク上のプロファイルデータを含むフォルダーから管理者権限を自動的に削除します。Profile Managementは、ユーザーストア内のフォルダーからこれらの権限を自動的に削除しません。組織のセキュリティポリシーに応じて、手動で削除できます。

注：アプリケーションがユーザープロファイル内のファイルのACLを変更しても、Profile Managementはそれらの変更をユーザーストアにレプリケートしません。これはWindowsローミングプロファイルの動作と一致しています。

プロファイルストリーミングとエンタープライズ向けウイルス対策製品

Citrix Profile Managementのストリーム配信ユーザープロファイル機能は、高度なNTFS機能を使用して、ユーザープロファイルから欠落しているファイルの存在をシミュレートします。この点において、この機能は階層型ストレージマネージャー (HSM) と呼ばれる製品群に似ています。HSMは通常、磁気テープや書き換え可能な光ストレージなどの低速な大容量ストレージデバイスに、

あまり使用されないファイルをアーカイブするために使用されます。そのようなファイルが必要になった場合、HSMドライバーは最初のファイル要求を傍受し、要求を行っているプロセスを一時停止し、アーカイブストレージからファイルをフェッチします。そして、ファイル要求の続行を許可します。この類似性から、ストリーム配信ユーザープロファイルドライバーであるupmjit.sysは、実際にはHSMドライバーとして定義されています。

このような環境では、ウイルス対策製品がHSMドライバーを認識するように構成する必要があり、ストリーム配信ユーザープロファイルドライバーも例外ではありません。最も高度な脅威から防御するために、ウイルス対策製品はその機能の一部をデバイスドライバーレベルで実行する必要があります。そして、HSMドライバーと同様に、ファイル要求を傍受し、元のプロセスを一時停止し、ファイルをスキャンして再開するという方法で動作します。

ウイルス対策プログラムを誤って構成し、ストリーム配信ユーザープロファイルドライバーのようなHSMを中断させ、ユーザーストアからファイルをフェッチできないようにして、ログオンがハングアップする原因となることは比較的容易です。

幸いなことに、エンタープライズ向けウイルス対策製品は、HSMのような高度なストレージ製品の可能性を念頭に置いて作成されています。そして、HSMがその作業を完了するまでスキャンを遅延するように構成できます。家庭用ウイルス対策製品はこの点において洗練されていません。そのため、家庭用およびSOHO（小規模オフィス/ホームオフィス）向けウイルス対策製品は、ストリーミングされたユーザープロファイルではサポートされていません。

ストリーミングされたユーザープロファイルで使用するためにウイルス対策製品を構成するには、以下の製品機能のいずれかを探してください。機能名はあくまで目安です。

- **信頼されたプロセスリスト**。ウイルス対策製品にHSMを識別させ、HSMがファイル取得プロセスを完了できるようにします。ウイルス対策製品は、信頼されていないプロセスによって初めてアクセスされたときにファイルをスキャンします。
- **開く操作またはステータスチェック操作ではスキャンしない**。ウイルス対策製品を、データがアクセスされたとき（たとえば、ファイルが実行されたり作成されたりしたとき）にのみファイルをスキャンするように構成します。その他の種類のファイルアクセス（たとえば、ファイルが開かれたり、そのステータスがチェックされたりしたとき）は、ウイルス対策製品によって無視されます。HSMは通常、ファイルを開く操作やファイルステータスチェック操作に応答してアクティブになるため、これらの操作でのウイルススキャンを無効にすると、潜在的な競合が解消されます。

Citrixは、主要なエンタープライズ向けウイルス対策製品のバージョンでストリーミングされたユーザープロファイルをテストし、Profile Managementとの互換性を確認しています。これらのバージョンには以下が含まれます。

- マカフィー ウイルススキャン エンタープライズ 8.7
- シマンテック エンドポイント プロテクション 11.0
- トレンドマイクロ オフィススキャン 10

これらの製品の以前のバージョンはテストされていません。

他のベンダーのエンタープライズ向けウイルス対策製品を使用している場合は、それがHSM対応であることを確認してください。スキャンを実行する前にHSM操作が完了するように構成できます。

一部のウイルス対策製品では、管理者が読み取り時にスキャンするか、書き込み時にスキャンするかを選択できます。この選択は、パフォーマンスとセキュリティのバランスを取るものです。ストリーミングされたユーザープロファイル機能は、この選択の影響を受けません。

ストリーミングおよびウイルス対策展開におけるProfile Managementのトラブルシューティング

ログオンがハングしたり、時間がかかったりするなどの問題が発生した場合、Profile Managementとエンタープライズ向けウイルス対策製品との間に構成ミスがある可能性があります。以下の手順をこの順序で試してください。

1. Profile Managementの最新バージョンを使用していることを確認してください。問題はすでに発見され、修正されている可能性があります。
2. Profile Managementサービス（UserProfileManager.exe）を、エンタープライズ向けウイルス対策製品の信頼されたプロセスリストに追加します。
3. HSM操作（オープン、作成、復元、ステータスチェックなど）でのウイルスチェックを無効にします。読み取りまたは書き込み操作でのみウイルスチェックを実行してください。
4. その他の高度なウイルスチェック機能を無効にします。たとえば、ウイルス対策製品は、実際のファイルタイプを特定するために、ファイルの最初の数ブロックをクイックスキャンする場合があります。これらのチェックは、ファイルの内容を宣言されたファイルタイプと照合しますが、HSM操作を妨げる可能性があります。
5. 少なくともプロファイルがローカルドライブに保存されているフォルダーについては、Windowsの検索インデックス作成サービスを無効にします。このサービスは不要なHSM取得を引き起こし、ストリーミングされたユーザープロファイルとエンタープライズウイルス対策製品との間で競合を引き起こすことが確認されています。

これらの手順のいずれも機能しない場合は、ストリーミングされたユーザープロファイルを無効にします（**Profile streaming**設定を無効にすることで）。それが機能する場合は、機能を再度有効にし、エンタープライズウイルス対策製品を無効にします。それも機能する場合は、機能しない

ケースのProfile Management診断情報を収集し、Citrixテクニカルサポートに連絡してください。彼らはエンタープライズウイルス対策製品の正確なバージョンを知る必要があります。

Profile Managementを引き続き使用するには、エンタープライズウイルス対策を再度有効にし、ストリーミングされたユーザープロファイルを無効にすることを忘れないでください。この構成では、Profile Managementの他の機能は引き続き機能します。プロファイルのストリーミングのみが無効になります。

システム要件

ソフトウェア要件

Profile Management を実行するシステムは、次のいずれかのオペレーティングシステムに基づいている必要があります。

- **デスクトップ** - Microsoft Windows 11、Windows 10、Windows 8.1、および Windows 7 Service Pack 1。

  Citrix virtual desktops™ 環境では、Windows ストアアプリケーション（UWPアプリとも呼ばれます）がサポートされています。

- **サーバー** - Windows Server 2022、Windows Server 2019、Windows Server 2016、Windows Server 2012 R2、Windows Server 2012、および Windows Server 2008 R2 サービスパック 1 のスタンダードおよびデータセンターエディション。

> **注:**

> Citrix Profile Management は、製造元によってサポートされているオペレーティングシステムのバージョンでのみサポートされます。オペレーティングシステムの製造元から拡張サポートを購入する必要がある場合があります。

> 拡張保護モード (EPM) では、Microsoft Internet Explorer 10 以降のクッキーは Windows 7 以降ではサポートされません。EPM が有効になっている場合、Profile Management はクッキーを処理または操作しません。

すべてのユーザーは、プロファイルが一元的に保存されるネットワークフォルダーであるユーザーストアにアクセスできる必要があります。または、必要に応じて、プロファイルをユーザーのホームドライブに保存することもできます。詳細については、「Profile Management のアーキテクチャ」を参照してください。

XenDesktop 7 を使用しない限り、Profile Management は Citrix Studio に統合されているため、構成には Active Directory (AD) グループポリシーオブジェクト (GPO) が必要です。Windows Server 2008 および Windows Server 2012 ネイティブモードの AD フォレスト機能レベルおよびドメイン機能レベルがサポートされています。詳細については、「Profile Management でのドメインとフォレストのサポート」を参照してください。または、構成設定にローカルの .ini ファイルを使用することもできますが、一般的に .ini ファイルはテスト目的でのみ使用されます。.ini ファイルの設定は、GPO で構成されていない設定、つまり「未構成」状態のままになっているグループポリシー設定に適用されます。

Profile Management とともに使用する Citrix 製品またはコンポーネントで短いファイル名（8.3 形式のファイル名とも呼ばれます）が必須である場合、Profile Management の展開で短いファイル名のサポートを無効にしないでください。無効にすると、ユーザー ストアとの間でファイルをコピーする際に問題が発生する可能性があります。

Profile Management Service を実行しているコンピューターでは、プロファイルをドライブ文字でマウントされた単一のディスクに保存します。ディスクがユーザープロファイルを保存するために使用されるフォルダー（一般的な例は `C:\Users` です）にマウントされている場合、サービスからマスクされ、処理されない可能性があります。

Citrix 製品の互換性

Profile Management は、以下の Citrix 製品で使用できます。

- シトリックス バーチャルデスクトップ
- シトリックス バーチャルアプリ™
- シトリックス バーチャルアプリおよびデスクトップ™
- Citrix DaaS™ (旧 Citrix バーチャルアプリおよびデスクトップ サービス)

Profile Management と Citrix Virtual Apps and Desktops の互換性マトリックスについては、「Citrix Profile Management の追加のライフサイクル情報」を参照してください。

このCurrent Release (CR)をLong Term Service (LTSR)環境で使用する方法やその他のFAQについては、Knowledge Centerの記事を参照してください。

ダウンロード

Profile Management をダウンロードするには

1. Citrixダウンロードページに移動します。

2. マイアカウントにログオンします。アカウントは、展開したCitrix製品のライセンス資格に関連付けられている必要があります。アカウントがライセンス資格に関連付けられていない場合は、Citrixカスタマーサービスにお問い合わせください。
3. で、製品を選択し、ダウンロードの種類として を選択します。
4. Profile Managementの最新バージョンをダウンロードします。

診断機能

Citrix Diagnostic Facilityを使用してトレースログをキャプチャする前に、監視したいプロファイルを持つデバイス、仮想デスクトップ、またはCitrixサーバーで使用されているCitrix製品またはコンポーネントでそれが利用可能であることを確認してください。

クロスプラットフォーム設定

このリリースでクロスプラットフォーム設定機能を使用するには、Profile Management Serviceを実行しているすべてのコンピューターにMicrosoft Core XML Services (MSXML) 6.0 Service Pack 1以降をインストールしてください。このコンポーネントはMicrosoft .NET Framework 3.5の一部であり、定義ファイルを処理するために必要です。

この機能は、サポートされているオペレーティングシステムとアプリケーションのセットでのみ使用してください。詳細については、「クロスプラットフォーム設定でサポートされているオペレーティングシステムとアプリケーション」を参照してください。

既存のプロファイルをCitrixユーザープロファイルに移行する

次のプロファイルタイプからCitrixユーザープロファイルへの移行がサポートされています。

- Windowsローミングプロファイル
- 次のいずれかのオペレーティングシステムに基づくローカルプロファイル:
    - ウィンドウズ 11
    - ウィンドウズ 10
    - ウィンドウズ 8
    - ウィンドウズ 7
    - ウィンドウズ ビスタ
    - ウィンドウズ XP
    - ウィンドウズ サーバー 2022
    - Windows サーバー 2019

  - Windows サーバー 2016
  - ウィンドウズ サーバー 2012 R2
  - Windows サーバー 2012
  - Windows サーバー 2008 R2
  - ウィンドウズ サーバー 2008
  - ウィンドウズ サーバー 2003
- User Profile Manager 2.0で作成されたCitrixユーザープロファイル

次のプロファイルの種類からCitrixユーザープロファイルへの移行はサポートされていません。

- Microsoft強制プロファイル。 ヒント: Profile Managementのテンプレートプロファイル機能を使用すると、Microsoft強制プロファイルをCitrix強制プロファイルとして構成できます。Citrix強制プロファイルはすべてのログオンで使用され、ユーザーの変更が保存されないことを除けば、通常のCitrixユーザープロファイルとまったく同じように機能します。詳しくは、以下を参照してください。 テンプレートプロファイルまたは強制プロファイルを指定する。
- Citrix強制プロファイル。
- User Profile Managerのテクニカルプレビューリリースまたはベータリリースで作成されたCitrixユーザープロファイル。
- サードパーティプロファイル（sepagoPROFILEを含む）。

32ビットのCitrixユーザープロファイルから64ビットのプロファイルにアップグレードすることはできません。

トラブルシューティング

このセクションでは、Profile Management のトラブルシューティング方法について説明します。

一般的なトラブルシューティングのワークフローは次のとおりです。

1. Profile Management の設定を確認する(/ja-jp/profile-management/2311/troubleshoot/self-troubleshoot.html)。
2. Profile Management のログファイルを確認する(/ja-jp/profile-management/2311/troubleshoot/log-file-checklist.html)。
3. Profile Management によってログに記録された Windows イベントを確認する(/ja-jp/profile-management/2311/troubleshoot/events.html)。

4. 一般的な問題をトラブルシューティングする(/ja-jp/profile-management/2311/troubleshoot/common-issues.html)。
5. 高度なトラブルシューティングを実行する(/ja-jp/profile-management/2311/troubleshoot/advanced-checklist.html)。
6. 上記の手順を試しても問題が解決しない場合は、できるだけ多くの診断情報を収集し、Citrixテクニカルサポートに連絡してください(/ja-jp/profile-management/2311/troubleshoot/collect-diagnostics.html)。

アップグレードと移行

このセクションでは、Profile Managementソフトウェアをアップグレードする手順と、既存のWindowsユーザープロファイルをCitrixユーザープロファイルに移行するための情報について説明します。たとえば、これらの手順を使用して、バージョン3.xからバージョン5.xに簡単にアップグレードできます。

アップグレードする前に、アップグレード元およびアップグレード先のリリースで利用可能なProfile Managementの機能と設定を理解してください。この情報を確認するには、Profile Managementポリシーを参照してください。.iniファイルからグループポリシーへのアップグレードを容易にするため、このトピックでは.iniファイルの設定を.admおよび.admxファイルの設定にマッピングしています。

アップグレード中にProfile Managementを構成しないでください（グループポリシーまたは.iniファイルのいずれでも）。まず展開をアップグレードし、次に必要に応じて設定を構成することで、これら2つのタスクを分離してください。理想的には、構成の決定の質問に答えることで行います。

ヒント: Profile Management 2.1.1以降の展開は、最新バージョンにアップグレードすることでホットフィックスできます。アップグレード後、必要に応じて以降の機能を有効にできます。

混在展開

異なるバージョンのProfile Managementが共存する展開では、次の操作を行います。

- 混在展開が存在する時間を最小限に抑えます。
- 最新バージョンの.admまたは.admxファイルを、すべてのドメインコントローラー上の各グループポリシーオブジェクトに追加します。すべての新機能が無効になっていることを確認し、新しいポリシーが伝播する時間を確保してください。
- いずれかのポリシーを有効にする前に、すべてのコンピューターを最新バージョンのProfile Managementにアップグレードしてください。

バージョン5.xと3.2を含む混在展開はサポートされています。ただし、このような展開は、以前のバージョンから新しいバージョンへの移行中に存在する一時的な状態として扱ってください。

重要: バージョン5.xとバージョン2.1.1またはそれ以前のバージョン（Citrix Technical Previewやベータリリースを含む）を含む展開はサポートされていません。ただし、アップグレードできず、これらのバージョンが展開内で共存する必要がある場合は、このトピックの残りの部分が役立つかもしれません。

Profile Management 2.1.1以前を含む混在展開

このトピックの残りの部分では、Profile Management 2.1.1以前とProfile Management 3.xまたは5.xの共存に関する情報が含まれています。あるバージョンから別のバージョンへの移行方法について説明します。このトピックでは、これらのバージョンの略語としてバージョン2とバージョン5という用語を使用しています。

各バージョンを別々のOUに分離し、各バージョンを実行しているコンピューター用に別々のユーザーストアを維持します。あるいは、単一のユーザーストアが両方のバージョンを実行しているコンピューターにサービスを提供する場合、すべてのコンピューターがバージョン5にアップグレードされるまで、すべてのバージョン5の設定が無効になっていることを確認してください。「混在」ユーザーストアでバージョン4の設定を有効にした後でも、ユーザーはバージョン2を実行しているコンピューターにログオンできます。しかし、彼らは一時的なWindowsユーザープロファイル（ネットワークのCitrix®ユーザープロファイルではない）を受け取り、そのプロファイルに行った変更は保存されません。混在展開は一時的なものと見なし、アップグレードを完了する前にその存在期間を最小限に抑える必要があります。

別々のOUとユーザー ストアを使用すると、不便な場合があります。これらの制約を回避するには、次の2つの戦略のいずれかを使用できます。Profile Managementの適切なバージョンで、「処理済みグループ」設定を使用して各グループを構成します。戦略2は戦略1よりも手間がかかります。前者の場合、バージョン5の処理済みユーザーグループを更新し続けることになります。また、2つのアプリケーションとデスクトップのセットを維持します（ただし、Citrix Virtual Apps™からアプリケーション定義をエクスポートすることで自動化できます）。利点は、移行に時間をかけることができる点です。

注: 次の戦略の代替として、Windows Server 2008 Active Directoryでは、WMIフィルタリングを使用してOU内のコンピューターのサブセットにGPOを適用し、インストールされているProfile Managementのバージョンを特定できます。これにより、適用されるポリシーをバージョンに合わせて自動的に調整できます。

戦略1: 一括移行

このシナリオでは、ある程度のダウンタイムが許容されることを前提としています。すべてのコンピューターが同時に移行されます。

移行戦略は次のとおりです。

1. バージョン2のADMファイルをバージョン5のファイルに置き換えます。後者は以前のバージョンと互換性があるため、バージョン2のコンピューターは引き続き正常に動作します。
2. すべてのバージョン5の設定が無効になっていることを確認します。デフォルトの**無効**に依存しないでください。
3. すべてのコンピューターをバージョン2からバージョン5にアップグレードし始めます。これは通常のメンテナンスおよび更新スケジュールに合わせて実施してください。1つの例外を除き、バージョン5は、バージョン5の設定を有効にするまでバージョン2として機能します。例外は次のとおりです。これはまれですが、このアップグレード手順が長期間にわたって段階的に実行される場合に発生する可能性が高くなります。ユーザーが複数のサーバーからCitrixユーザープロファイルにアクセスすると、複数のバージョン4セッションが作成されます。たとえば、最初にワークステーションを使用してあるサーバー上の仮想デスクトップにアクセスし、次にラップトップを使用して別のサーバー上の公開アプリケーションにアクセスする場合です。Profile Managementは、2番目のラップトップセッションに保留領域を使用する必要があります。この時点で、OU全体がバージョン5の展開として扱われます（ただし、構成されたバージョン5の機能は何もありません）。そして、PmCompatibility.iniがこの変更を反映するように更新されます。
4. オプションで、バージョン5の処理済みユーザーグループに、小規模なパイロットグループのメンバーのみを含めるように設定します。ADグループポリシーの変更がネットワーク全体に伝播するのを待ちます（たとえば、週末を挟んで）。この変更が行われている間、他のユーザーのアクセスを妨げる必要はありません。パイロットグループのプロファイルをバックアップします。その後、パイロットグループにProfile Managementをテストさせます。
5. パイロットグループの結果に満足したら、他のユーザーのプロファイルをバックアップしていることを確認してください。
6. 次の予定されたメンテナンス期間を使用して、残りのユーザーをバージョン5の処理済みユーザーグループに追加します。ADグループポリシーの変更が伝播するのに十分な時間を確保し、残りのユーザーがログオンできるようにします。

戦略2: 段階的な移行

このシナリオでは、すべてのマシンまたはユーザーを一度に新しいバージョンに移行できないことを前提としているため、ユーザーのサブセットをバッチで移行します。これは、複数のデータセンターや地理的に分散したユーザーがいる展開に適しています。

移行戦略は次のとおりです。

1. バージョン2のADMファイルをバージョン5のファイルに置き換えます。後者は以前のバージョンと互換性があるため、バージョン2のコンピューターは引き続き正常に動作します。
2. すべてのVersion 5設定が無効になっていることを確認します。デフォルトの「無効」に依存しないでください。
3. いくつかのコンピューター（最初のバッチ）をVersion 5にアップグレードします。または、新しいコンピューターにVersion 5をインストールします。デフォルトでは、Version 5で処理されるユーザーグループは空のグループであるため、どのユーザーもVersion 5ユーザーとして処理されません。フェーズ移行でコンピューターをアップグレードする場合にも適用される可能性がある、戦略1で説明されている例外に注意してください。
4. Version 5コンピューターから新しいアプリケーション（Citrix Virtual Appsを使用）または仮想デスクトップ（Citrix Virtual AppsまたはCitrix Virtual Desktops™を使用）を公開します。これらのアプリケーションとデスクトップは、名前を除いて、以前にVersion 2コンピューターから公開されたものと同一です。これらの名前は、Version 5ユーザーが使用するためのものであることを示します。
5. このバッチで選択されたユーザーは、アプリケーションまたはデスクトップにログオンします（たとえば、Web Interfaceを使用）。彼らは新しいアプリケーションを選択します。（ユーザー名またはグループメンバーシップに基づいて、Web Interfaceを使用してこの手順を強制します）。その結果、彼らのセッションはVersion 4コンピューターで実行されますが、Version 2設定で処理されます。
6. すべてのユーザープロファイルをバックアップしたことを確認してください。
7. ユーザーをVersion 2処理済みユーザーグループからVersion 4グループに移動します。ADグループポリシーの変更がVersion 5コンピューターに伝播するのを待ちます。次回ログオンするとき、ユーザーのセッションはVersion 5設定で処理されます。
8. 前述のとおり、次のバッチのコンピューターをアップグレードし、次のバッチのユーザーを移行します。

ユーザープロファイルを移行する

この記事では、次の2つの移行ワークフローについて説明します。

- Citrix®コンテナベースのプロファイルソリューションへの移行
- Windowsローミングプロファイルソリューションへの移行

移行戦略の詳細については、「アップグレードと移行」を参照してください。

Citrixコンテナベースのプロファイルソリューションへの移行

Profile Managementインストールパッケージに含まれる移行ツールを使用して、以下のプロファイルソリューションからCitrixコンテナベースのプロファイルソリューションにユーザープロファイルを移行できます。

- Windowsローカルプロファイルソリューション
- Citrixファイルベースのプロファイルソリューション
- FSLogix プロファイルコンテナ

移行ワークフロー

現在のプロファイルソリューションをCitrixコンテナベースのプロファイルソリューションに移行するには、次の手順に従います。

1. ストレージサーバー上にCitrixユーザーストアを設定し、そのWindowsアクセス制御リスト（ACL）を構成します。

   詳細については、「ユーザーストアの作成」を参照してください。

2. Profile Managementに付属の移行ツールを使用してユーザープロファイルを移行します。

   詳細については、「例：FSLogix Profile Containerのユーザープロファイルを移行する」を参照してください。

3. マシンにProfile Managementをインストールします。

   詳細については、「インストールとセットアップ」を参照してください。

4. 特定のProfile Managementポリシーを構成して、コンテナベースのプロファイルソリューションをセットアップします。基本的なワークフローは次のとおりです。

   a. Profile Managementを有効にする
   b. ユーザーストアへのパスを指定します（ユーザーストアへのパス）。
   c. ユーザープロファイル全体に対してプロファイルコンテナを有効にします（プロファイルコンテナ）。

   プロファイルコンテナの詳細設定については、「Citrix Profile Managementプロファイルコンテナ」を参照してください。

5. （FSLogix Profile Containerの場合）マシンでFSLogix Profile Containerを無効にします。そうしないと、Citrixコンテナベースのソリューションが正常に機能しません。詳細な手順は次のとおりです。

   a. **レジストリエディター**で、`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\FSLogix\Profiles`に移動します。

   b. **Enabled**を**0**に設定します。

例：FSLogix Profile Containerのユーザープロファイルを移行する

このセクションでは、VHDXベースのFSLogix Profile ContainerからCitrixコンテナベースのプロファイルソリューションにユーザープロファイルを移行する方法について詳しく説明します。

開始する前に、次の要件を満たしていることを確認してください。

- ストレージサーバーにCitrixユーザーストアをセットアップし、そのWindowsアクセス制御リスト（ACL）を構成していること。
- FSLogix Profile ContainerのVHDXの場所を把握していること。
- ドメイン管理者の資格情報を持っていること。

詳細な手順は次のとおりです。

1. ドメイン管理者アカウントを使用してマシンにログオンします。
2. **Windows PowerShell ISE** を管理者として実行します。
3. PowerShell コンソールで、Profile Management インストールパッケージ内の **\tool** フォルダーにアクセスし、**CPM_ProfileContainer_Migration_Tool.ps1** を実行します。
4. プロンプトが表示されたら、移行タイプ **3** を選択します。これは、FSLogix Profile Container (VHDX) から Citrix コンテナベースのプロファイルソリューションへのユーザープロファイルの移行を表します。
5. 移行するユーザーとグループをコンマで区切って入力します。例: `<DOMAIN NAME>\<USER NAME1>,<DOMAIN NAME>\<GROUP NAME1>`
6. FSLogix Profile Container の VHDX の場所を入力します。
7. Citrix VHDX ストアへのパスを入力します。

> **注:**

- Citrix VHDX ストアとして、Citrix ユーザー ストアまたは別のネットワーク ストレージを使用できます。
- すべての変数の中で、`%USERNAME%` のみがサポートされています。

8. マシンの Windows OS バージョンを短縮名で指定します。Windows OS バージョンの短縮名については、「Profile Management policies」を参照してください。

注:

指定された OS タイプを持つユーザープロファイルのみが移行されます。

完了すると、移行結果が画面に表示されます。

Windows ローミングプロファイルへの移行

Citrix ユーザープロファイルをいつでも Windows ローミングプロファイルに移行できます。プロファイルデータを、ローミングプロファイルが保存されているネットワークの場所に移動します。移行後、Profile Management はユーザーログオンやアプリケーション設定の処理に関与しません。

1. すべてのユーザーがログオフしていることを確認してください。
2. ソフトウェアが管理するすべてのコンピューターからプロファイル管理サービスを削除します。
3. ユーザー ストアで、`\UPM_Profile` の内容をローミング プロファイルの場所に移動します。クロスプラットフォーム設定ストアの内容を移動する必要はありません。
4. (バージョン 1 プロファイルのみ) `\UPM_Profile` のすべてのサブフォルダーから _upm_var サフィックスを削除します。 注: スクリプトを使用すると、この手順が簡素化される場合があります。

新機能

2311の新機能

このリリースには、以下の新機能と機能強化が含まれています。また、全体的なパフォーマンスと安定性の向上に役立ついくつかの問題も解決されています。

ユーザーストア選択の改善

デフォルトでは、複数のユーザーストアが利用可能な場合、Profile Managementは最新のプロファイルデータを持つストアを選択します。複数のストアが最新のプロファイルを持っている場合、Profile Managementは最も早く構成されたストアを選択します。

新しいポリシー「**ユーザーストア選択方法**」を使用すると、Profile Managementが最適なアクセスパフォーマンスを持つストアを選択するように設定できます。詳細については、「ユーザーストア選択方法の変更」を参照してください。

プロファイルコンテナへのファイル重複排除サポートの拡張

ファイルの重複排除がプロファイルコンテナに拡張され、プロファイルコンテナのストレージコストを効率的に削減できるようになりました。デフォルトでは、Profile Managementは、ファイルが256 MBを超える場合にのみ、プロファイルコンテナからファイルを重複排除します。必要に応じて、新しいポリシー「**プロファイルコンテナから重複排除するファイルの最小サイズ**」を使用して、このしきい値サイズを増やすことができます。詳細については、「ファイル重複排除の有効化」を参照してください。

ログオン時にプロファイルコンテナが利用できない場合のユーザーの強制ログオフのサポート

デフォルトでは、ユーザーログオン時にプロファイルコンテナが利用できない場合、ユーザーは一時プロファイルを使用してログオンします。しかし、この動作はセッション中に加えられた変更のデータ損失につながります。新しいポリシー「**ログオン時にプロファイルコンテナが利用できない場合にユーザーをログオフする**」を使用すると、このような場合にユーザーを強制的にログオフさせることができます。詳細については、「プロファイルコンテナのセットアップ」を参照してください。

プロファイルコンテナへの読み取りアクセスを有効にするサポート

デフォルトでは、プロファイルコンテナはその所有者のみがアクセスできます。新しいポリシー「**プロファイルコンテナにアクセスするユーザーとグループ**」を使用すると、他のユーザーがプロファイルコンテナへの読み取りアクセスを持つことを有効にできます。このポリシーにより、プロファイルコンテナへのアクセスをより正確かつ安全に制御できるようになります。詳細については、「ADユーザーにプロファイルコンテナへの読み取りアクセスを許可する」を参照してください。

プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックとローカルキャッシュの両方を有効にするサポート

コンテナベースのプロファイルソリューションでは、「**プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする**」ポリシーと「**プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする**」ポリシーの両方を有効にできるようになりました。この機能強化は、両方のポリシーの利点を組み合わせることでユーザーエクスペリエンスを向上させます。これには以下が含まれます。

- 同時セッション間でのデータの一貫性（マルチセッションライトバックによる）
- ログオンとログオフ時間の高速化、およびネットワーク負荷の軽減 (ローカルキャッシュによる)

詳細については、「プロファイルコンテナのセットアップ」を参照してください。

OneDriveファイルに対するマルチセッションランタイム同期のサポート

OneDriveコンテナが有効になっている場合、ユーザーがセッションでOneDriveファイルに加えた変更は、その同時セッションで即座に表示されるようになりました。この改善により、同期の競合が減少し、データの整合性が確保されます。詳細については、「OneDriveコンテナを有効にする」を参照してください。

OneDriveコンテナのシングルサインオン (SSO) 同期サポート

この機能強化により、ユーザーは以降のログオン時にOneDriveの資格情報を再入力する必要がなくなり、ユーザーの利便性が向上します。詳細については、「OneDriveコンテナを有効にする」を参照してください。

新しいMicrosoft Teamsのサポート

UWPアプリのローミングポリシーが有効になっている場合、新しいMicrosoft Teamsアプリはユーザーとともにローミングできるようになりました。これにより、ユーザーは異なるデバイスから、パーソナライズされた設定とデータで同じMicrosoft Teamsアプリにアクセスできます。

ヘルスチェックの機能強化

プロファイル管理のヘルスチェックツールを強化し、より包括的なヘルスチェックを提供するようになりました。既存のステータスチェックに加えて、ログオン時間の評価などの追加チェックも提供できるようになり、ユーザーエクスペリエンスに影響を与える可能性のある問題を迅速に特定して解決できます。

プロファイル管理ログの強化

プロファイル管理ログを強化し、ユーザーのログオンおよびログオフプロセスに関する詳細情報を提供するようになりました。この改善により、ログオンまたはログオフが遅い根本的な原因を迅速に特定できます。詳細については、「プロファイル管理ログファイルを確認する」を参照してください。

保留中の領域のサイズ変更と同期プロセス期間を監視するための新しいWindowsイベント

保留中の領域のサイズ変更と同期プロセス期間の両方を追跡するために、監視ツール用のWindowsイベントを追加しました。この機能強化により、関連する問題をより効率的に特定して解決するための貴重なデータが提供されます。詳細については、「Windowsイベントを確認する」を参照してください。

Profile Managementのドキュメント履歴

次の表に、Profile Management 2311のドキュメントに対する重要な変更点を示します。これらの更新に関する通知を受け取るには、RSSフィードを購読してください。

日付	変更	説明
20 Dec 2023	Profile Management 2311の初期リリース	Profile Management 2311の初期リリース。詳しくは、「新機能」を参照してください。